

高齢者の生活実態に対応した住宅防火対策の
あり方に関する検討部会
報告書
(案)

令和3年〇月

高齢者の生活実態に対応した住宅防火対策のあり方に関する検討部会

はじめに

高齢者の生活実態に対応した住宅防火対策のあり方に関する検討部会
部会長 松山 賢

目次

第1章 検討の目的等

- 1 目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 検討項目等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 検討の実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 高齢者の死者が発生した住宅火災の実態

- 1 住宅火災による死者数の推移と高齢者の占める割合・・・・・・・・ 3
- 2 高齢化の推計と高齢者の死者数の割合・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 3 人口10万人あたりの死者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 4 住宅火災による高齢者の死者の実態について・・・・・・・・・・・・ 6

第3章 高齢者の生活実態等アンケート調査について

- 1 アンケート調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 2 アンケート調査の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

第4章 高齢者の生活実態等を踏まえた住宅防火対策について

- 1 出火防止対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- 2 早期覚知対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- 3 延焼拡大防止対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 4 初期消火対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
- 5 早期避難対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
- 6 地域の助け合い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

第5章 高齢者の生活実態に対応した住宅防火対策の今後の進め方（まとめ）

- 1 高齢者の生活における火災危険性の低減等のための方策・・・・・・・・ 26
- 2 高齢者の生活実態等を踏まえた現行の住宅防火対策のあり方について・・・・ 27
- 3 まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

巻末資料

- 1 住宅火災の実態データ集
- 2 高齢者の生活実態等アンケート調査票
- 3 高齢者の生活実態等アンケート調査結果―調査報告書（株式会社日本能率協会総合研究所）

第1章 検討の目的等

1 目的

近年の住宅火災による年齢階層別死者数（放火自殺者等を除く。）を見ると、65歳以上の高齢者（以下「高齢者」という。）の占める割合が約7割と高水準で推移している状況であり、さらなる高齢化の進展が見込まれる中で、住宅火災による高齢者の死者数の割合は今後増加していくことが予想される。

このことから、住宅火災による高齢者の死者数の低減を図ることを目的に、高齢者の生活実態等に対応した、効果的な防火対策について検討を行う。

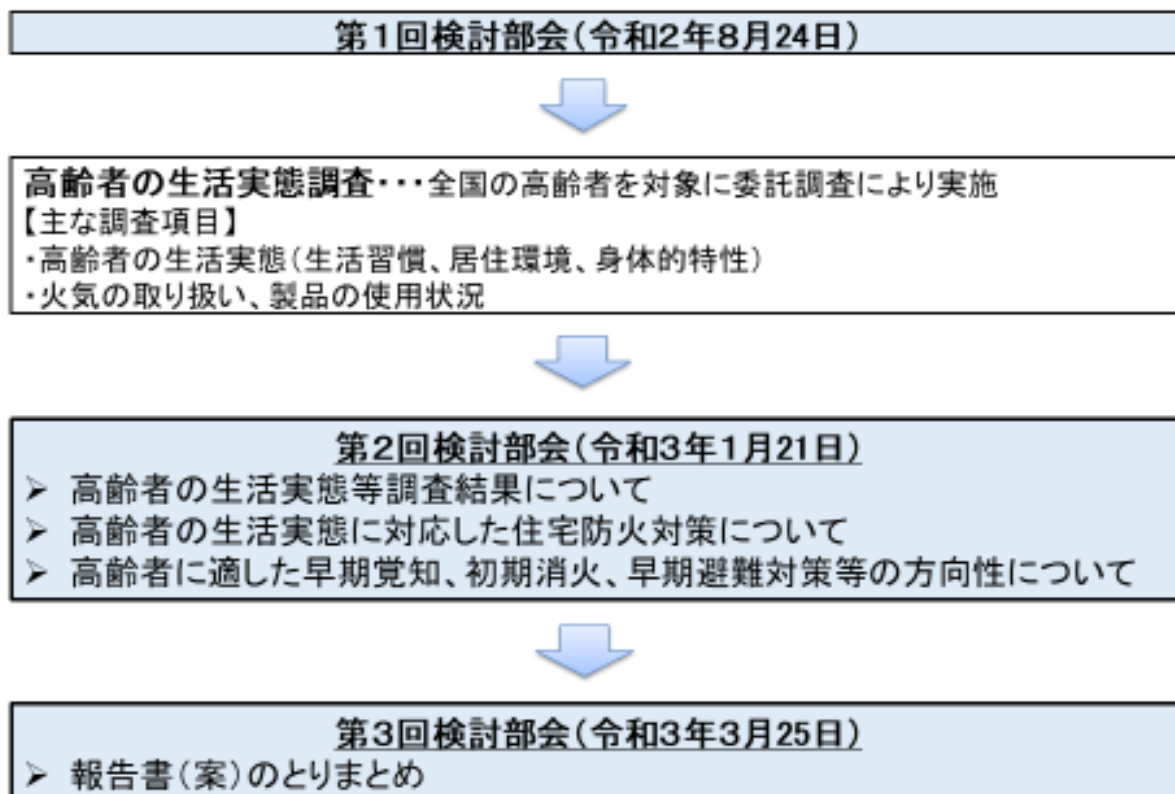
2 検討項目等

(1) 検討項目

- ア 高齢者の死者が発生した住宅火災の実態について
- イ 高齢者の生活実態調査について
- ウ 高齢者の生活実態等を踏まえた防火対策について

(2) 検討の進め方とスケジュールについて

検討の進め方とスケジュールについては次のとおり。



3 検討の実施体制

検討部会の構成員は次のとおり。

<学識経験者>

◎松山 賢 東京理科大学理工学研究科国際火災科学専攻教授
村井 裕樹 日本福祉大学健康科学部福祉工学科建築バリアフリー専修准教授

<関係団体>

梅原 直 一般財団法人日本防火・危機管理促進協会参与兼事務局長
遠藤 辰基 一般社団法人日本消火装置工業会住宅防火対応 WG 主査
河野 敦子 公益財団法人全国老人クラブ連合会参事
小林 美穂 社会福祉法人全国社会福祉協議会
全国地域包括・在宅介護支援センター協議会常任協議員
猪股 匡順 一般社団法人日本ガス石油機器工業会専務理事
宮崎 勝美 一般社団法人日本消火器工業会常務理事・事務局長

<消防機関>

浅見 匡哉 東京消防庁防災部副参事
田村 公夫 千葉県消防局予防部予防課長
橋本 仁司 大阪市消防局予防部予防課長

<消防庁>

鈴木 恵子 消防大学校消防研究センター技術研究部主幹研究官

<オブザーバー>

岩本 博 厚生労働省老健局高齢者支援課長補佐
関根 友里 経済産業省製品事故対策室長補佐

(◎：部会長)

3 検討の実施体制

検討部会の構成員は次のとおり。

<学識経験者>

◎松山 賢 東京理科大学理工学研究科国際火災科学専攻教授
村井 裕樹 日本福祉大学健康科学部福祉工学科建築バリアフリー専修准教授

<関係団体>

梅原 直 一般財団法人日本防火・危機管理促進協会参与兼事務局長
遠藤 辰基 一般社団法人日本消火装置工業会住宅防火対応 WG 主査
河野 敦子 公益財団法人全国老人クラブ連合会参事
小林 美穂 社会福祉法人全国社会福祉協議会
全国地域包括・在宅介護支援センター協議会常任協議員
佐々木 定雄 一般社団法人日本ガス石油機器工業会専務理事
宮崎 勝美 一般社団法人日本消火器工業会常務理事・事務局長

<消防機関>

浅見 匡哉 東京消防庁防災部副参事
田村 公夫 千葉県消防局予防部予防課長
橋本 仁司 大阪市消防局予防部予防課長

<消防庁>

鈴木 恵子 消防大学校消防研究センター技術研究部主幹研究官

<オブザーバー>

岩本 博 厚生労働省老健局高齢者支援課長補佐
関根 友里 経済産業省製品事故対策室長補佐

(◎：部会長)

第2章 高齢者の死者が発生した住宅火災の実態

本章では、高齢者の死者が発生した住宅火災の実態を把握するため、我が国における高齢者の状況と住宅火災による高齢者の死者数の相関関係を確認するとともに、死者の発生した住宅火災における出火原因及び死者の発生した経過を死者の年齢階層別に比較検討を行うことにより、高齢者世帯特有の火災リスクの抽出を試みた（本章に掲げたデータの詳細については、巻末資料1「住宅火災の実態データ集」を参照）。

1 住宅火災による死者数の推移と高齢者の占める割合

住宅火災による死者数のうち、データの存在する昭和54年以降、最多を記録した平成17年の1,220人から令和元年までの推移を見てみると、死者数は減少傾向にあるが、65歳以上の高齢者の占める割合は上昇傾向にあり、ここ数年では約7割前後を推移している（図2-1参照）。

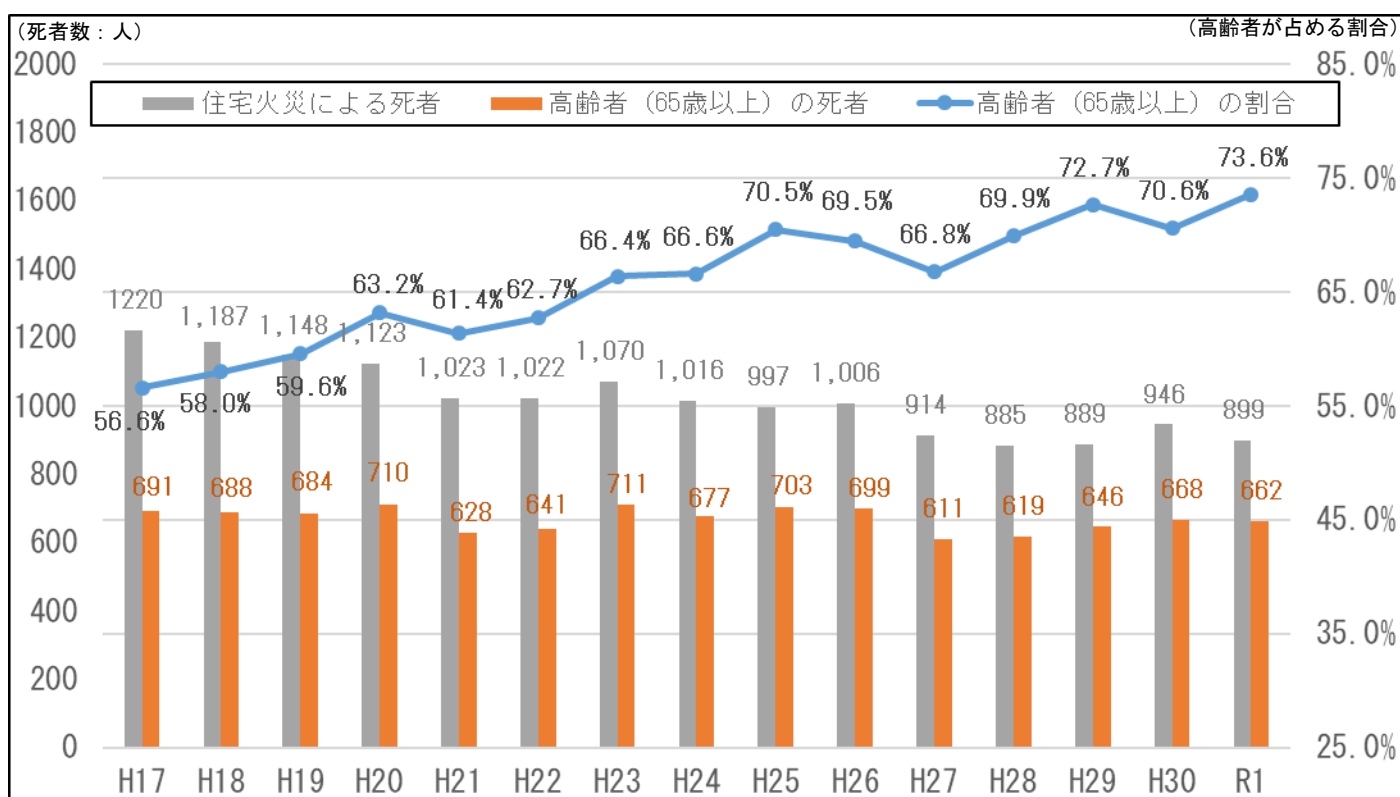


図2-1 住宅火災による死者数の推移

2 高齢化の推計と高齢者の死者数の割合

我が国における高齢者人口が総人口に占める割合の高齢化率と住宅火災による高齢者の死者数の割合を比較すると、両者は相関関係にある。また、高齢化率の将来推計値を踏まえると、今後、さらなる高齢化の進展と共に、高齢者死者数の割合も増加していくものと推測される（図2-2及び図2-3参照）。

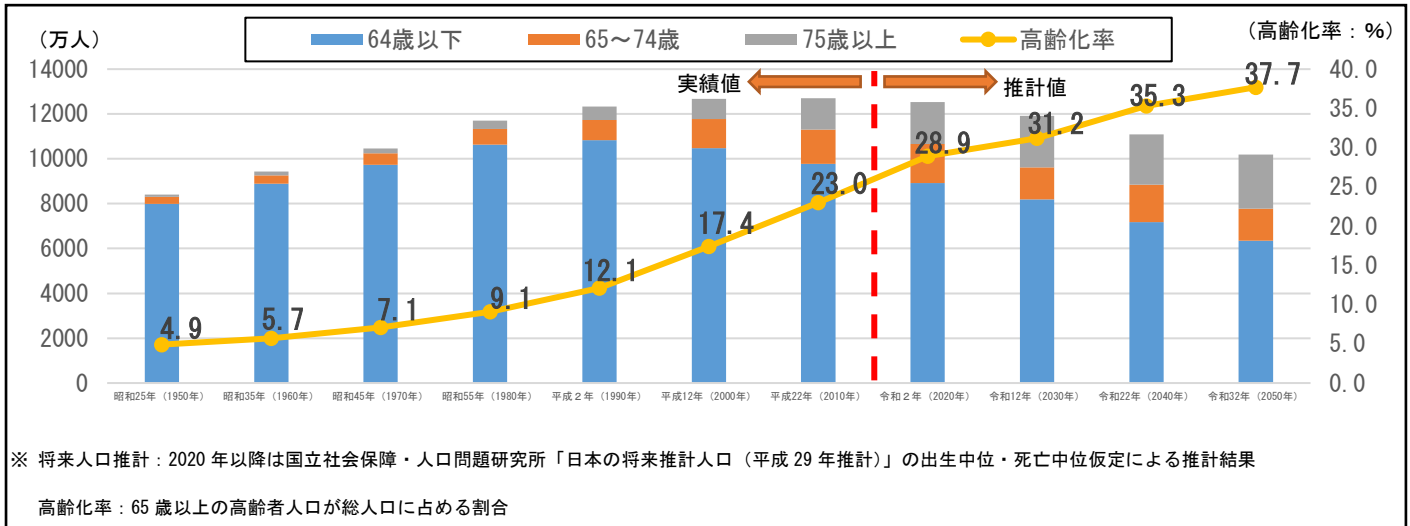


図2-2 高齢化の推移と将来推計

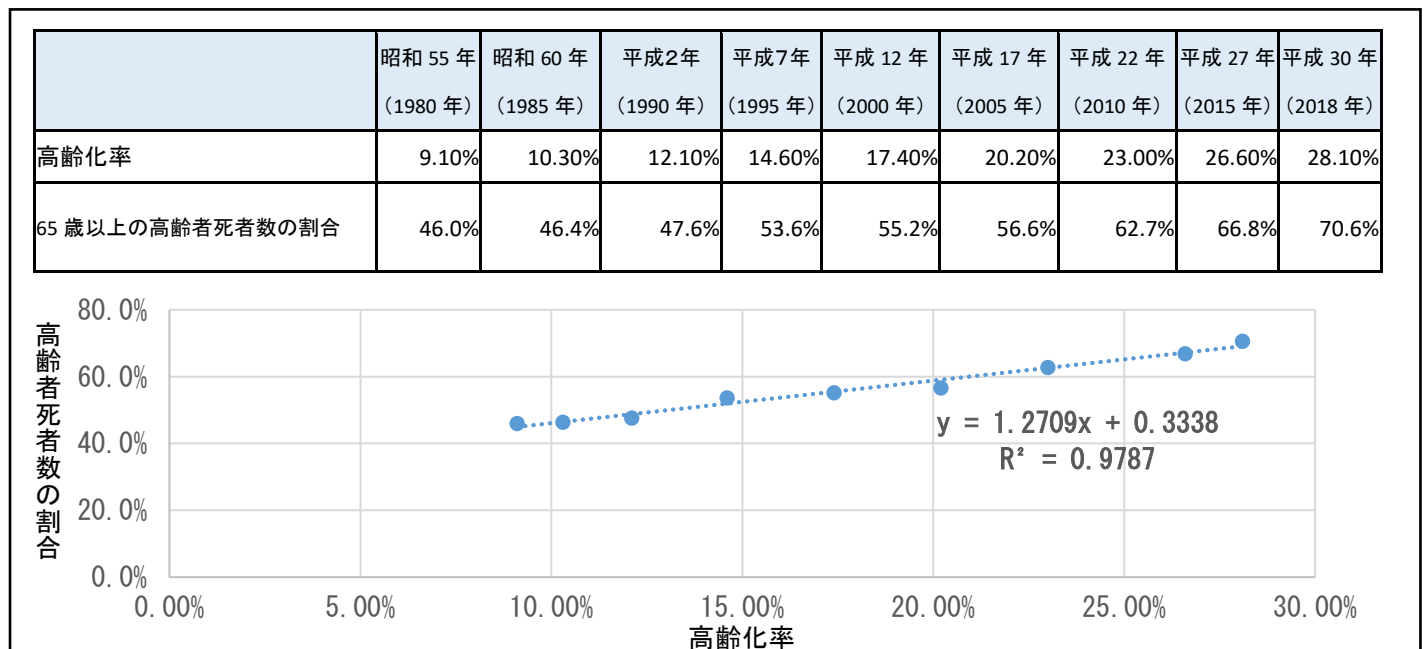


図2-3 高齢化率と住宅火災による高齢者死者数の割合

3 人口10万人あたりの死者数

平成30年の各年齢層別の人口10万人あたりの住宅火災による死者数をみると、65歳以上の高齢者では人口10万人あたりの死者数が他の年齢層に比べ多い傾向にあり、特に81歳以上では3.14人と最も多い（図2-4参照）。

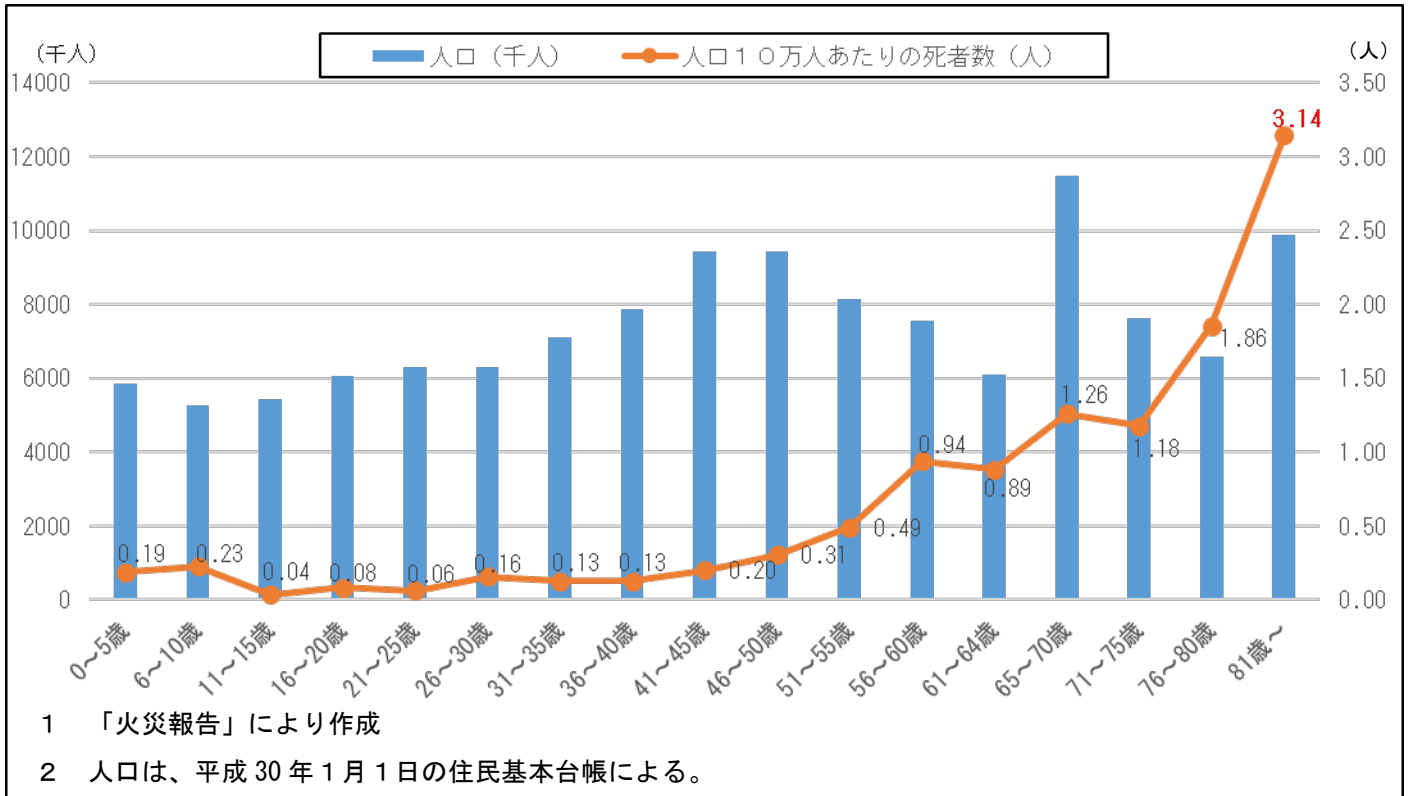


図2-4 人口10万人あたりの死者数

4 住宅火災による高齢者の死者の実態について

平成26年（2014年）から平成30年（2018年）の5年間の住宅火災による死者について、死者の年齢ごとに区分し、それぞれの性別、出火原因及び死者の発生した経過について比較を行い、住宅火災による高齢者の死者の発生要因等について実態を分析した。

(1) 住宅火災による男女別死者数について（表2-1参照）

住宅火災による男女別死者数を見ると、全体的に男性の死者数は女性の死者数と比べ、6割ほど多いが、81歳以上の年齢区分では男性の死者数より女性の死者数が多い。

表2-1 住宅火災による男女別死者数

年齢区分	死者数	男性（割合）	女性（割合）
～64歳	1,385	953	432
65～70歳	628	446	182
71～75歳	525	351	174
76～80歳	616	366	250
81歳～	1,474	718	756
うち高齢者	3,243	1,881	1,362
小計		2,834	1,794
合計		4628	

(2) 死者の発生した住宅火災における出火原因について

ア 各年齢区分の主な出火原因別死者数の割合（表2-2参照）

各年齢区分の死者数のうち、出火原因別の割合をみると、いずれの年齢区分においても、たばこ、ストーブの割合が多いが、81歳以上の年齢区分では特にストーブの占める割合が多い。

また、81歳以上の年齢区分ではこんろ、灯火、配線器具（コンセント等）等の割合も他の年齢層よりも高い傾向が見られる。

表2-2 各年齢層の主な出火原因別死者数の割合

出火原因	年齢区分 (%)		
	0～64歳	65～80歳	81歳～
たばこ	34.5	34.7	14.1
ストーブ	13.7	22.4	30.9
こんろ	7.2	9	10.2
電灯電話等の配線	7.4	5.6	7.4
配線器具	5.6	5.1	8.3
灯火（灯明）	2.4	2.8	8.2
こたつ	0.7	1.8	2.5
マッチ・ライター	2.1	2.2	2.9

イ 死者の発生した住宅火災における出火原因について

アで示した死者の発生した住宅火災のうち、高齢者にその割合が多く見られた「たばこ」「ストーブ」「こんろ」「電気関係」について、年齢区分及び男女別の死者数について、それぞれ抽出した。

(ア) たばこ

たばこが出火原因の住宅火災による死者数を男女別にみると、全体として男性が女性の3倍以上になる。65歳以上の年齢区分別に注目すると、男性が65～69歳がピークであるのに比べて、女性は明確なピークが見られなかった。

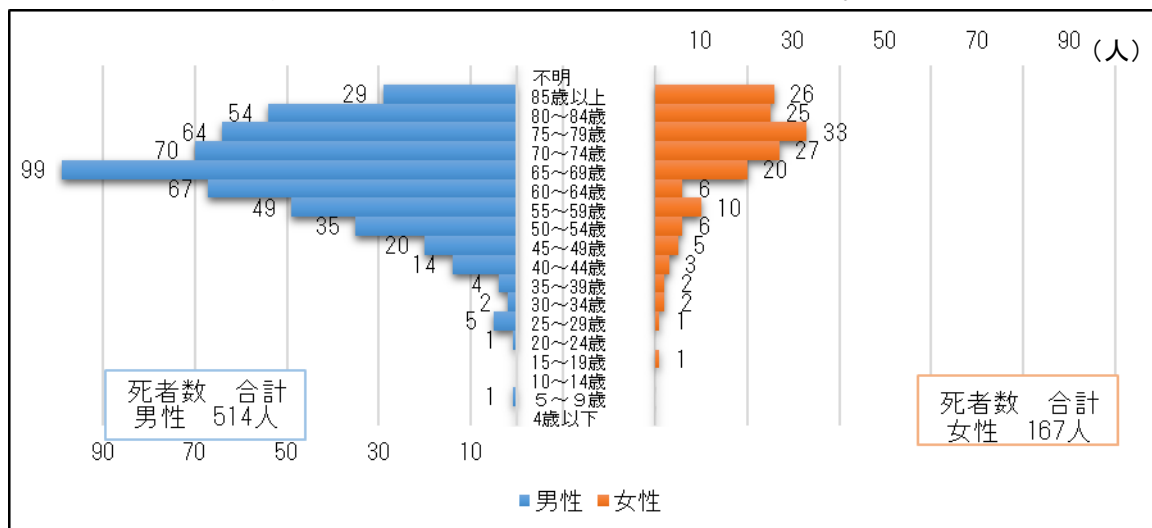


図2-5 たばこが出火原因の住宅火災における年齢区分及び男女別死者数

(イ) ストーブ

ストーブが出火原因の住宅火災による死者数は、年齢区分が高齢になるに従い増加する傾向がある。死者数が大きく増加する年齢は、男性の方が女性よりも若いことが分かる。

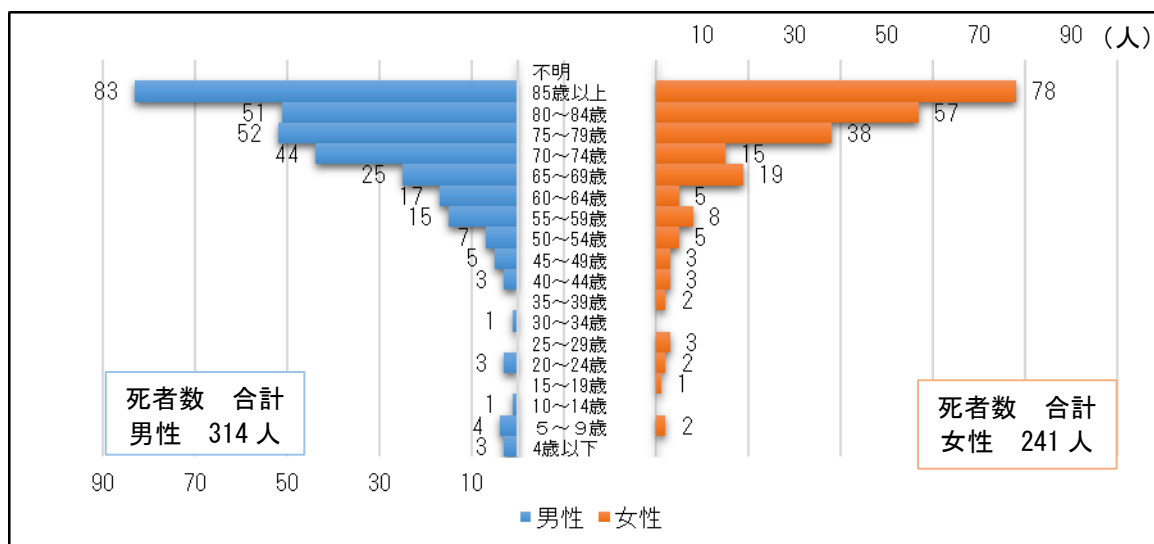


図2-6 ストーブが出火原因の住宅火災における年齢区分及び男女別死者数

(ウ) こんろ

こんろが出火原因の住宅火災による死者数は、男性では65～69歳で大きく増加してから減少に転じるのに比べて、女性では、高齢化に従って増加する傾向にある。

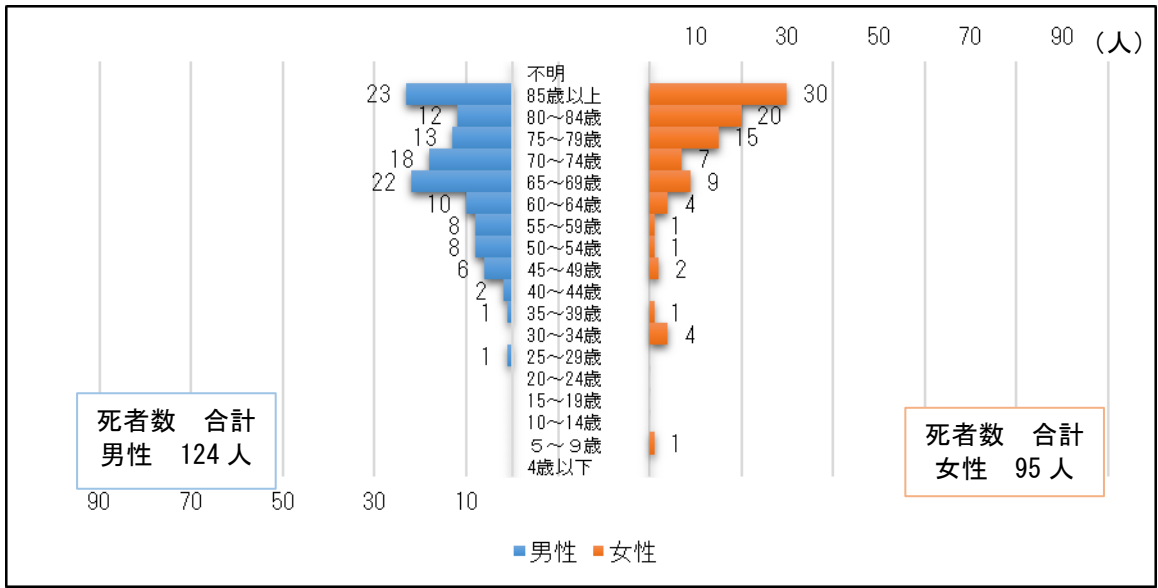


図 2 - 7 こんろが出火原因の住宅火災における年齢区分及び男女別死者数

(エ) 電気関係

電気関係（出火原因が「電灯・電話等の配線」「配線器具（テーブルタップ等）」「電気機器」「電気装置（コンデンサ等）」）が出火原因の住宅火災による死者数は、男性では60～64歳で大きく増加し、以降同程度で推移しているのに比べて、女性では、高齢化に従って増加する傾向にある。

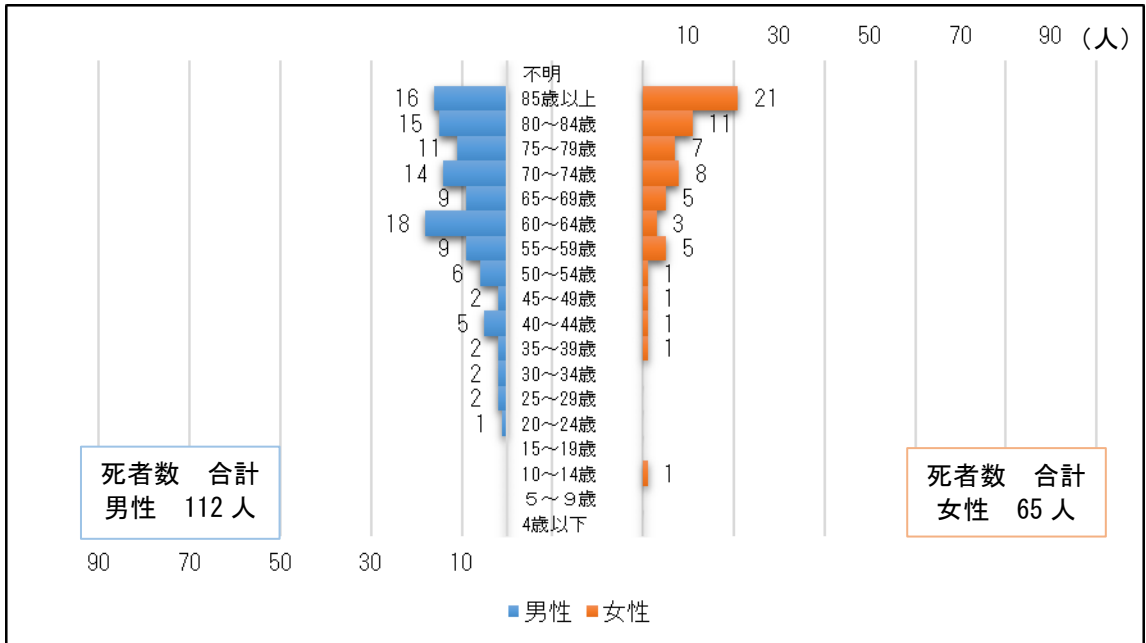


図 2 - 8 電気関係が出火原因の住宅火災における年齢区分及び男女別死者数

(オ) 灯火

灯火が出火原因の住宅火災による死者数は、65 歳以上の年齢区分で顕著に見られるが、男性よりも女性の方が死者数が多く、また、高齢化に従って男性と女性の差異が大きくなる傾向にある。

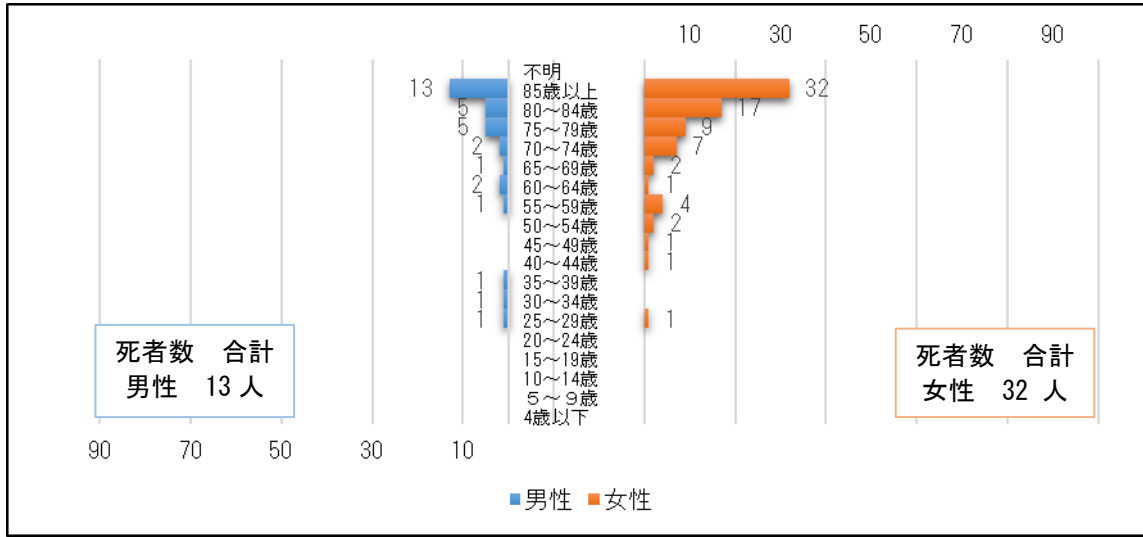


図 2-9 灯火が出火原因の住宅火災における年齢区分及び男女別死者数

(3) 住宅火災による死者の発生した経過別死者数

ア 住宅火災による死者の発生した経過別死者数及び割合

いずれの年齢層においても、逃げ遅れによる死者数の割合は8割以上を占めているが、高齢になるにつれ、着衣着火による割合は増加する傾向にある（図 2-10、表 2-3 参照）。

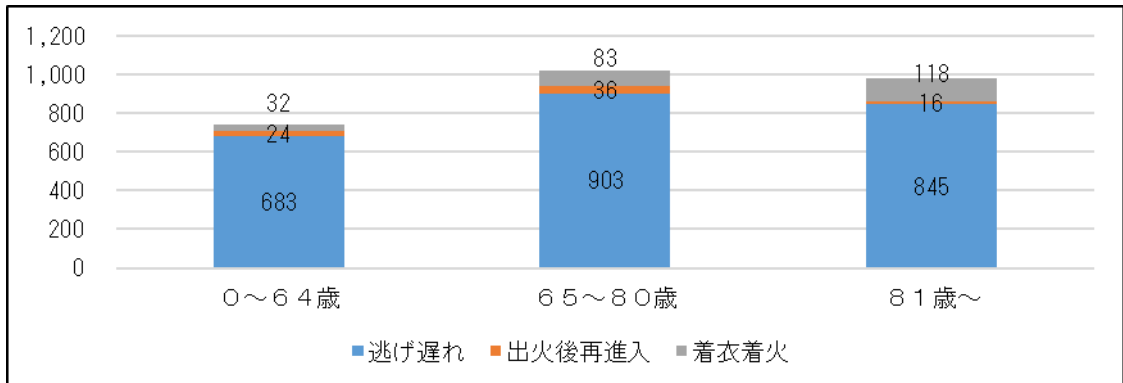


図 2-10 住宅火災による死者の発生した経過別死者数

表 2-3 住宅火災による死者の発生した経過別死者数の割合

経過別	0～64歳	65～80歳	81歳～
逃げ遅れによるもの	92.4%	88.4%	86.3%
出火後再進入したもの	3.2%	3.5%	1.6%
着衣着火によるもの	4.3%	8.1%	12.1%

イ 逃げ遅れの理由別死者数及び割合

逃げ遅れの理由についてさらに分類すると、81歳以上の年齢層では、火災の発見の遅れによる割合よりも、避難行動を起こしているものの、体力的条件、逃げる機会を失う、逃げ切れ無かったといった何らかの理由により、逃げ遅れたものの割合が多い（図2-11、表2-4参照）

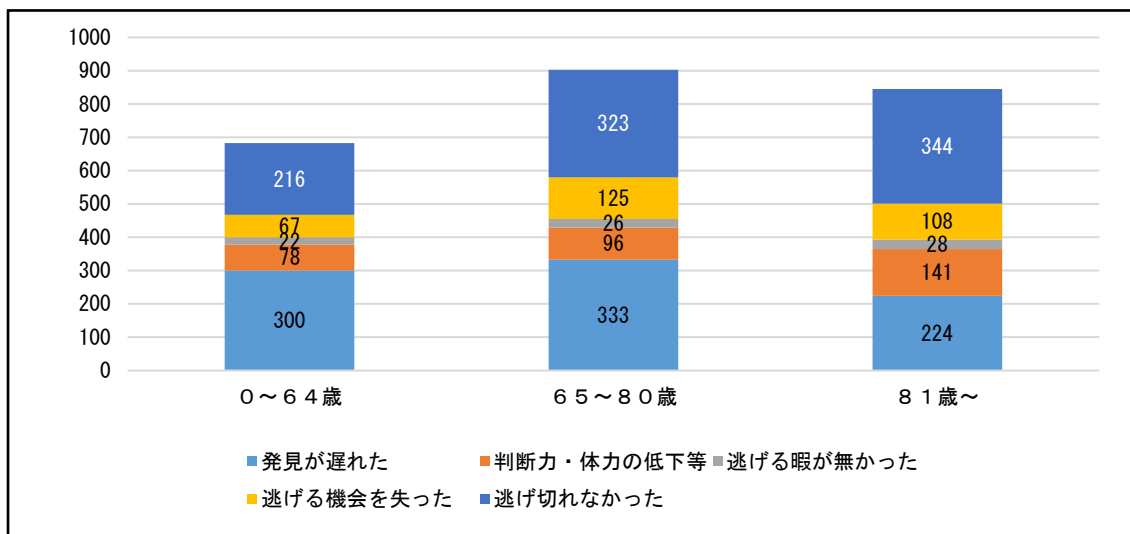


図2-11 逃げ遅れの理由別死者数

表2-4 逃げ遅れの理由別死者数の割合

逃げ遅れの理由	0～64歳	65～80歳	81歳～
発見が遅れた （発見が遅れ、気づいた時は、火煙が回り、すでに逃げ道がなかったものと思われるもの（全く気づかなかった場合を含む））	43.9%	36.9%	26.5%
判断力・体力の低下等 （判断力に欠け、あるいは体力的条件が悪く、ほとんど避難できなかったと思われるもの）	11.4%	10.6%	16.7%
逃げる暇が無かった （ガス爆発等炎症拡大が早かったためほとんど避難できなかったと思われるもの）	3.2%	2.9%	3.3%
逃げる機会を失った （逃げれば逃げられたが、逃げる機会を失ったと思われるもの）	9.8%	13.8%	12.8%
逃げ切れなかった （避難行動を起こしているが、逃げ切れなかったと思われるもの（一応自力避難したが、避難中火傷、ガス吸引し病院等で死亡した場合を含む））	31.6%	35.8%	40.7%

第3章 高齢者の生活実態等アンケート調査について

本章では、高齢者の生活実態等を把握するために株式会社日本能率協会総合研究所に調査委託し実施したアンケート調査の概要と実施結果について言及する。

1 アンケート調査の概要

(1) 調査目的

全国の高齢者に対しアンケート調査を行い、高齢者の生活特性、住環境、防火意識に関する実態を明らかにし、高齢者に必要とされる防火対策の検討に資する基礎資料を得ることを目的とする。

(2) 調査対象

全国 65 歳以上の高齢者に対し実施。なお、調査人数構成については以下のとおり。

世帯構成	65～70 歳	71～75 歳	76～80 歳	81 歳以上
一人暮らし世帯	50 人	50 人	50 人	150 人
高齢者のみ世帯	50 人	50 人	50 人	150 人
高齢者以外と同居世帯	50 人	50 人	50 人	150 人

(3) 調査方法

質問用紙による自記入式アンケート調査（郵送によるもの）

(4) 実施期間

令和2年11月13日から11月25日まで

(5) アンケート調査項目

巻末資料2「高齢者の生活実態等アンケート調査票」のとおり、平素の火気使用、防火対策等の観点から、高齢者の日常生活、生活習慣、居住環境、防火意識等の項目について調査を実施した。

2 アンケート調査結果

アンケート調査の回答を火災の原因となる器具等の使用状況、その際に感じた危険の有無等の火災リスク等に関すること及び日常における火災予防対策の実施状況、防火意識に関することに取りまとめた結果は次のとおりである（詳細については表3-1及び表3-2を参照。全体の調査結果については、巻末資料3 「高齢者の生活実態等アンケート調査結果報告書」を参照）。

(1) 火災リスク等について（表3-1参照）

- ア 様々な火災のリスクに対しては、全体的に「危険を感じたことがない」が多い。火災の危険を感じた割合は、喫煙、調理用の加熱器具、灯明、暖房器具の順で多く、最も多い喫煙でも23%（本人もしくは同居家族が喫煙者に対する割合）であり、火災に直結するような火の不始末はあまり経験していないといえる。
- イ 年齢別に特徴的な火災リスクをみると、前期高齢者は暖房器具、喫煙、コンセントの清掃、生活用品の多さ、後期高齢者は灯明、身体の衰えによる電化製品の操作ミスや消し忘れが高く、危険性が高いといえる。
- ウ 世帯構成別でみると、一人暮らし世帯は、調理用の加熱器具（安全装置のついていないガスコンロを使用している割合が高い）、高齢者以外と同居世帯は、喫煙、電化製品の長期使用、生活用品の多さが主なリスクといえる。高齢者のみ世帯は、全体と比較し突出したリスク項目はみられなかった。

(2) 火災予防対策・防火意識について（表3-2参照）

- ア 消火器具については5割強が設置しており、火災警報器については約7割が設置している。前期高齢者については、消火器・警報器・火災報知設備の設置率が低い。
- イ 火災発生時避難を行う自信については6割以上があると回答。自信がある/ないともに、理由としては自身の健康状態によるものが大きい。年齢が上がり健康への自信がなくなるにつれ、自信がある割合は減少していく。
- ウ 住宅防火診断については、受けた事がある割合は13.3%に留まったが、アドバイスを受けたい意向は低くないことから、受けた事がない理由は認知度の低さによるものであることが考えられる。

表3-1 火災リスク等に関する取りまとめ

		全体	年齢別	世帯構成別
調理用の加熱器具	使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日使用者が9割超 ・燃料はガスが約7割、電気が約3割 ・平均使用年数は8.8年 ・ガスこんろ使用者のうち安全装置がついている割合は8割超 	<ul style="list-style-type: none"> ・76～80歳は調理用加熱器具の平均使用年数が全体より0.5年長く、10年以上使用率も3.5ポイント程度高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし世帯は、ガスこんろの使用率が5ポイント以上高く、かつ安全装置がついていない割合が全体より5ポイント以上高い ・高齢者以外と同居世帯は、電気の使用率が全体より5ポイント以上高い ・高齢者のみ世帯は、安全装置のついたガスこんろの使用率が全体より5ポイント以上高い
	危険を感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・「危険を感じたことがある」割合は約16% ・「火元から離れて油等を加熱しすぎた」が10.9%と最多 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢が上がるにつれ「危険を感じたことはない」割合が上昇する 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者以外と同居世帯は「危険を感じたことがある」割合が全体より5ポイント以上高い
暖房器具	使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日使用者が75.2% ・燃料は石油が47.4%、電気が37.1% ・最も使用している暖房器具の平均使用年数は8.9年 	<ul style="list-style-type: none"> ・65歳～70歳は石油の割合が全体より3.4ポイント程度高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者以外と同居世帯は石油の使用率が全体より10ポイント以上高い ・一人暮らし世帯は、石油の割合が全体より約15ポイント少なく、半数以上が電気燃料の暖房器具を使用
	危険を感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・「危険を感じたことがある」割合は約9% ・「消したつもりが完全に消火していなかった」が6.8%で最多 	<ul style="list-style-type: none"> ・65歳～70歳は「消し忘れて外出した」割合が約5ポイント高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・世帯構成別では大きな差異はみられなかった
喫煙	使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・本人もしくは同居家族が喫煙者の割合は全体の1割程度 ・喫煙場所はその他を除くと「居間」が最多 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢が上がるごとに喫煙率（本人もしくは同居家族）は減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者以外と同居世帯が最も喫煙率（本人もしくは同居家族）が高い
	危険を感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・「危険を感じたことがある」割合は約23% ・「消したつもりが完全に消火していなかった」と「絨毯等に火種が落下した」がそれぞれ10%程度 	※	※
灯明	使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・灯明を定期的（毎日～週1日）に使用している方は全体の約半数 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢が高いほど、灯明の平均使用日数、定期的な使用率ともに高くなる傾向 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のみ世帯は灯明を使っていない割合が全体より5ポイント以上高く、毎日使用者も5ポイント以上少ない
	危険を感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・「危険を感じたことがある」割合は約10% ・具体的な危険については、「ろうそくや線香が倒れた」が最も多く約10% 	<ul style="list-style-type: none"> ・71歳～75歳は「危険を感じたことがない」が93.5%と全体より5ポイント以上高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者以外と同居世帯は具体的な危険として、「ろうそくや線香が倒れた」が全体より約5ポイント高い
コンセント	<ul style="list-style-type: none"> ・「清掃していない」が全体の約半数 ・コンセントの危険な使用状況としては、「たこ足配線となっている箇所がある」が全体の半数と最も多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・65～75歳は「使用しないときはコンセントから抜いている」の割合が低い、76歳以上は高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし世帯は清掃をしている割合が全体と比べて5ポイント近く高い 	
電化製品	<ul style="list-style-type: none"> ・電化製品を故障するまで使用している割合は全体の約80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・「細かな操作が難しくなった」「操作方法を忘れる事がよくある」「電源の消し忘れが多くなった」は年齢が上がるにつれ増加していき、特に76～80歳で大きく増加する 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者以外と同居世帯は、電化製品を故障するまで使用している割合が全体より5ポイント以上高い 	
居住の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活用品が多い」が全体の61.3%と多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活用品が多い」は年齢が上がるにつれ、あてはまる方が減少していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者以外と同居世帯は「生活用品が多い」「洗濯物や衣類が収納されていない」ともに全体より7ポイント以上高い 	

※回答数が僅少のため、記載なし

表 3 - 2 火災予防対策・防火意識に関する取りまとめ

	全体	年齢別	世帯構成別
防災品	・「防災品を使用しておらず、今後も購入の予定は無い」が全体の約1/3	・76歳～80歳が防災品現使用・今後使用意向ともに最も高い	・世帯別では大きな差異は見られなかった
住まいの状況	・住居の形態は「戸建て」が全体の77.7% ・築年数は「31年以上」が最も多く全体の約6割 ・生活場所の状況として「居間と寝室が別」が85%	・年齢が上がるにつれ、「居間と寝室が一緒」の割合が高くなる傾向がある	・一人暮らし世帯では「戸建て」は全体より20ポイント程度少なく「マンション・アパート」居住者が4割超 ・高齢者のみ世帯では「居間と寝室が別」が全体より7ポイント程度高い
火災発生時 避難を行う自信	・自信がある 計が61.1%と自信がある方が多い。 ・自信がある理由としては「二方向以上の避難経路があるため」と「健康に自信があるため」がともに約半数 ・自信がない理由としては「健康に自信がないため」が46.3%で最多	・年齢が上がるにつれ、自信がある 計は減少していく ・自信がある理由として、71歳～75歳では「健康に自信があるため」が63.2%と全体より10ポイント以上高い ・自信がない理由として、81歳以上は「健康に自信がないため」が63.4%と全体より10ポイント以上高い	・高齢者以外と同居世帯が最も自信がある 計が少なく、全体より7ポイント程度少ない ・自信がある理由として、高齢者以外と同居世帯では「常に家族等の助けがあるため」が全体より25ポイント以上高い ・自信がない理由として、高齢者のみ世帯では「火災発生時の対応を決めていないため」が40.4%と全体より10ポイント以上高い
消火器具	・（例示したような）消火器具を設置している方は5割強 ・消火器具の使用方法について、わからない方は8.8%と少ない ・自宅で最も古い消火器具の平均経過年数は8.0年	・65歳～75歳は消火器具を設置していない割合が半数以上にのぼる	・高齢者のみ世帯は、半数が住宅用消火器具を設置している
警報器・ 報知設備	・約7割は住宅用火災警報器を設置しており、設置場所は台所が72.2%で最も多い ・住宅用火災警報器設置からの年数は、全体では平均9.0年	・65歳～70歳は住宅用火災警報器も自動火災報知設備のどちらも設置していない方が28.7%と全体より5ポイント以上高い	・一人暮らし世帯は住宅用火災警報器を設置している割合が61.7%と全体より5ポイント以上少ない ・一人暮らし世帯は火災警報器設置からの平均年数が8.5年と平均より0.5年短く、高齢者以外と同居世帯は9.4年と0.4年長い
防火意識	・災害時に協力できるような日常的な近所づきあいについて、「近所づきあいがある」が66.1% ・住宅火災から身を守る上で不安については、不安がある 計が54.7% ・住宅火災から身を守る上で不安な事項は、「火災発生時の初期消火方法について」が49.9%で最も多い	・76歳以上は近所づきあいがある割合が高い ・年齢が上がるにつれ、不安がある 計は増加していく	・高齢者のみ世帯は、近所づきあいがある割合が全体より4ポイント程度高い
防火対策	・住宅防火診断を受けた事がある方は13.3% ・住宅防火診断を受けた事がない理由は、「実施しているのを知らなかった」が73.2%と大半を占める ・防災のアドバイスを受けたい相手は消防職員・団員が73.3%で最多	・年齢が上がるにつれ、住宅防火診断を受けた事がある割合は増加する ・防災のアドバイスを受けたい相手は、65歳～70歳では家族・親族が6.8%と全体より10ポイント以上低い、反対に81歳以上では23.1%と全体より5ポイント以上高い	・防災のアドバイスを受けたい相手は、高齢者のみ世帯では消防職員・団員が全体より5ポイント以上高いが、高齢者以外と同居世帯は家族・親族が全体より5ポイント以上高い

第4章 高齢者の生活実態等を踏まえた住宅防火対策について

本章では、今後の高齢者の住宅火災による死者数の低減を図るため、住宅火災の発生における様々な段階において必要とされる対策を「住宅火災による死者を防ぐための考え方」(図4-1)として、出火防止対策、早期覚知対策、延焼拡大防止対策、早期・初期消火対策、早期避難対策、隣近所との協力体制の構築といった観点から整理を行い、高齢者の死者が発生した住宅火災の実態調査、高齢者の生活実態等に係るアンケート調査の結果を踏まえた住宅火災による高齢者の死者数を低減させるための具体的な対策と方向性について述べる。

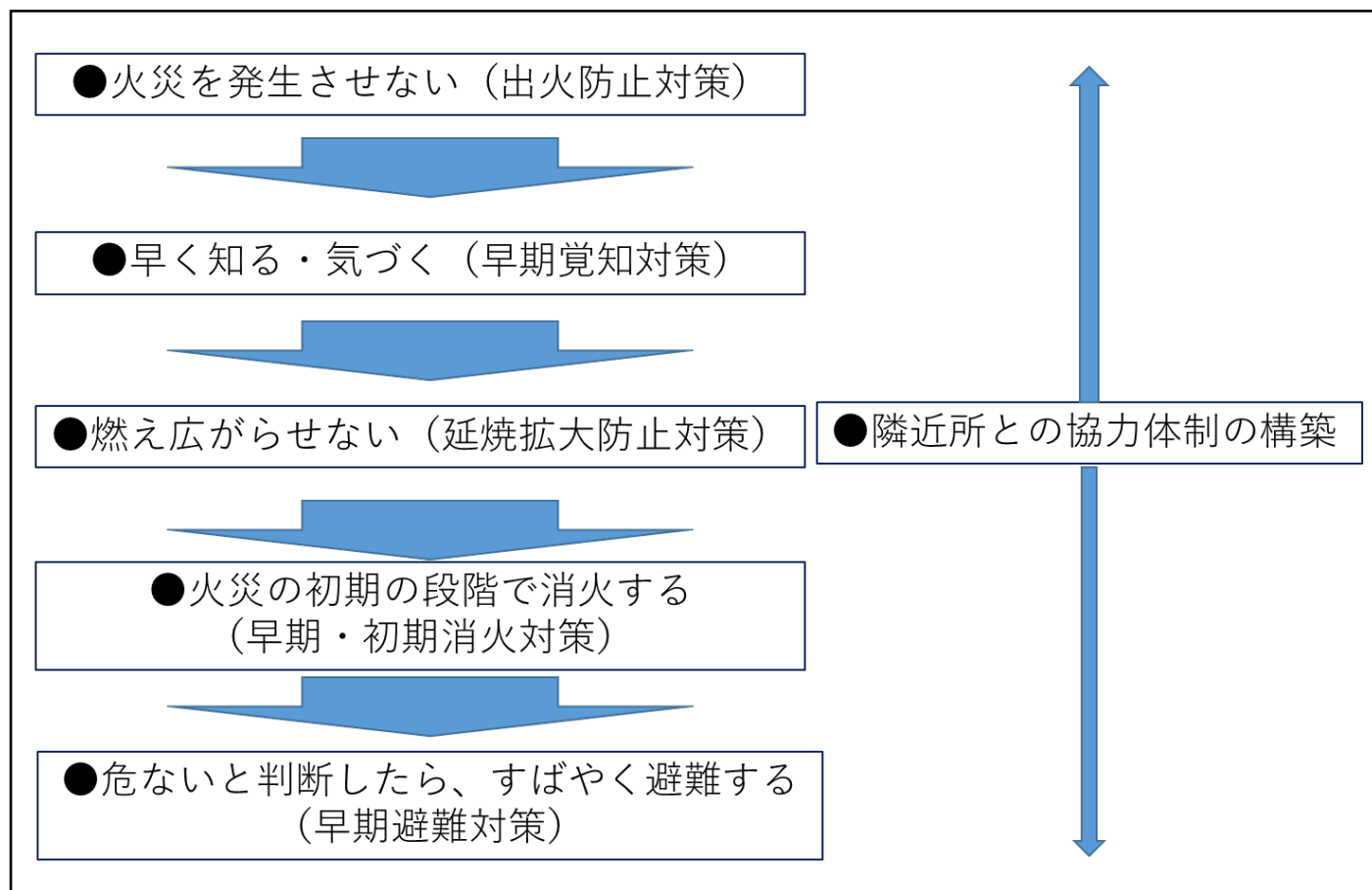


図4-1 住宅火災による死者を防ぐための考え方

1 出火防止対策

(1) 高齢者の死者が発生した住宅火災の実態調査、高齢者の生活実態等に係るアンケート調査を踏まえた現状分析等

高齢者の死者が発生した住宅火災の出火原因では、たばこ、ストーブ、こんろ、電気関係（「電灯・電話等の配線」「配線器具（テーブルタップ等）」「電気機器」「電気装置（コンデンサ等）」）と生活に身近な機器等からの出火が多くを占めており、また、特に高齢者の死者が多い出火原因としては、灯火（線香・ローソク等）が挙げられる。それぞれの出火原因に対する考察は次のとおりである。

ア たばこ

- たばこが出火原因の住宅火災における死者数は、性別についてみると、全体として男性は女性の3倍以上の死者が発生しており、年齢層についてみると、65歳～69歳の男性において一番死者数が多いなど、性別や年齢層によって傾向が大きく異なる。たばこによる死者数の傾向は、年代別の喫煙率とその年代が高齢化したときにどのように喫煙傾向が変わるかによるものであり、必ずしも高齢化に伴って死者数が増加するものではないと思われる。
- 一方で、現在死者数の多い65歳～69歳の男性が高齢化することにより、高齢者の死者数が増加する可能性もあるなど、高齢化により死者が減少するとも限らないものである。このため、現時点の傾向だけでなく人口や喫煙率が今後どのように推移していくかを注視する必要がある。

イ ストーブ

- ストーブによる死者数は、近年では全体としての死者数は減少しているため、引き続き安全装置付きの機器の利用促進などの対策を進めることが重要である。
- 高齢化に従い、男女ともに死者が増加しているため、特に高齢者におけるストーブの利用方法や、ストーブの周りの整理整頓などを重点的に点検することで、死者をより減少させることが出来ると考えられる。
- また、電気ストーブと石油ストーブに着目すると、その所持割合に比べて電気ストーブによる火災の死者の割合が高い傾向にあるため、特に電気ストーブの所持割合の高い地域においては重点的に注意喚起を行うことが必要である。

ウ コンロ

- コンロによる死者数は、女性は高齢化に従って増加するのに比べて、男性では65～69歳で急に増加するなど、男女で傾向が異なる。これは、定年退職などで家庭にいる時間が増えるなど、男性の生活習慣が変わることに起因するものと考えられる。
- このため、安全装置付きのコンロへの交換促進や高齢者のコンロの使用法の点検の他、生活習慣が変わった方への注意喚起の方法についての検討を行うことが必要である。

エ 電気関係（「電灯・電話等の配線」「配線器具（テーブルタップ等）」「電気機器」「電気装置（コンデンサ等）」）

- 電気関係による死者数は、他の要因と異なり近年増加傾向にある。
- 男性では60～64歳で急に死者数が増加しており、「コンロ」と同様に男性の生活習慣が定年等を契機に変化することに起因するものと考えられる。また、女性では高齢化に伴い死者が増加する傾向があるため、配線、電気機の使用法の他、生活習慣が変わった方への注意喚起の方法についての検討を行うことが必要である。

オ 灯火

- 灯火による死者数は、男性よりも女性の方が多く、高齢化に従ってその差は大きくなる。これは、男性よりも女性の平均寿命が長いため、配偶者を亡くした後、仏壇でのろうそくの利用が増えることなどに起因するものと考えられる。

(2) 対策の方向性

出火原因別に次の点に留意することが重要であるが、いずれも、日常で使用する上での習慣付けや機器自体の安全性を高めていくという観点から対策を講じていく必要がある。

＜具体的な対策例＞

ア たばこ

- 確実な消火や、寝たばこをしない、させない事への周知・習慣付け
- 紙巻きたばこと比較し、火災発生危険性の低い加熱式たばこ（安全性が確認されたものに限る）への切替

イ ストーブ

- 周囲に可燃物を置かない、就寝時に使用しないなどの適切な取扱方法の遵守
- 消し忘れ、操作の誤りなどを防ぐための安全装置付きの製品の使用を促進
- 電気ストーブ、石油ストーブそれぞれの危険性についての周知

ウ こんろ

- 消し忘れや周囲に可燃物を置かないといった適切な使用方法の周知・習慣付け
- 過熱防止装置など安全装置付きの製品の使用（交換）や防災品（エプロン等）の使用促進

エ 電気関係

- コンセント周囲の定期的な清掃や、テーブルタップ等のたこ足配線の防止
- トラッキング防止機能やブレーカー機能の付いたコンセント等への交換

オ 灯火

- 日常的に使用するろうそく等の危険性の周知とともに確実な消火を徹底
- 着衣着火や延焼防止のための防災品の使用を推奨
- 安全性の高い、LED ろうそくなどの普及促進

(3) その他

出火原因とその対策について、具体的な火災危険を示し、周知啓発を進めて行くことが重要であると考えられる。

また、キャンペーン等の機会を捉え、安全性の高い製品への交換を促進していくことも出火防止上望ましい物といえる。

2 早期覚知対策

(1) 高齢者の死者が発生した住宅火災の実態調査、高齢者の生活実態等に係るアンケート調査を踏まえた現状分析等

火災の覚知については住宅用火災警報器が有効であり、設置の義務化以降、火災件数及び死者数の減少に加え火災による被害が低減するなどの効果が見られている。一方で、既存住宅への設置義務化から10年が経過し、全国的に住警器が交換期限を迎えるなか、適切な維持管理が行われないことによる電池切れや故障が懸念されている。

アンケート調査結果から、住警器の設置から10年以上経過しているものは全体19.3%ではあるものの、住宅用火災警報器の点検を年1回以上実施しているのは34.4%、本体等の交換を実施している高齢者は24.7%とその数は低い状況にある。

(2) 対策の方向性

今後、多くの住警器が交換期限を迎えるなか、住警器の設置・維持管理対策については、令和2年度に改正した「住宅用火災警報器設置・維持管理対策基本方針」に基づき、全国的に推進していくべき課題である。特に、高齢者世帯に対しては、よりきめ細やかな取組を講じていくことが重要である。

(3) 具体的な対策例

- 普段から高齢者宅に出入りする、ケアマネージャー等と連携した広報活動
- 交換の際の付加的機能を併せ持つ機器（連動型住警器・屋外警報装置等）の推奨
- 住警器の交換の際の取付支援
- 町会・自治会等の地域のネットワークを活用した共同購入等の推進

「住宅用火災警報器設置対策基本方針」の策定の経緯

消防庁では、住警器の設置を推進するため、平成20年に、国、地方及び関係業界（団体）等からなる「住宅用火災警報器設置推進会議」を設置し、平成23年には、同会議の名称を「住宅用火災警報器設置対策会議」と改め、「住宅用火災警報器設置対策基本方針」を定め、地域社会における働きかけの強化、奏功事例等への積極的な周知、設置の定着のための適切な維持管理の広報等の取組を進めてきた。平成27年には、住警器の新築住宅への設置義務化から10年近く経過し、火災時に住警器が適正に作動するように、適切な維持管理（点検・交換）の広報を推進する必要があることから、基本方針の一部改正を行い、具体的な維持管理の方法等について改正したところ。

住警器設置の完全義務化から10年近くが経過し、今後、多くの世帯が住警器の交換期限を迎えるなか、適切な維持管理が行われない場合は、住宅火災の死者数が再び増加に転じることが懸念される状況である。

名称を「住宅用火災警報器設置・維持管理対策基本方針」と改め、従来の取組に加え、住警器の維持管理（点検・交換）に関する広報及び支援体制等を強化するように新たに定める。

改正概要

(1) 住警器の維持管理に関する広報の推進

本体交換の際には、連動型住警器などの付加的な機能を併せ持つ機器等の設置など、各世帯が住宅の構造や世帯構成に応じて適切な機器を選択できるように、これらの機器について周知

(2) 消防機関における住警器の維持管理に関する支援体制の構築

維持管理等に係る地域住民のニーズに適切に対応できるように、連動型住警器等の共同購入の推奨、相談窓口の設置、交換の際の住警器の取り付け支援等、消防機関の支援体制の構築

(3) 民間事業者・団体等との連携強化

住警器の販売事業者や住宅へ訪問する機会の多い事業者・団体等（家電小売店、ホームセンター、電気事業者、ガス事業者、住宅産業・不動産関係者等）に対し、住警器の維持管理等について、正確な情報を共有すると共に、周知等への協力を依頼する等の連携体制の構築

(参考) 住宅用火災警報器設置・維持管理対策基本方針の改正

3 延焼拡大防止対策

(1) 高齢者の死者が発生した住宅火災の実態調査、高齢者の生活実態等に係るアンケート調査を踏まえた現状分析等

火災による高齢者の死者発生の際の経緯として、こんろの火や灯明による着衣着火によるものが多い。防災品を使用していると回答したのは15.7%であり、防災品を知らなかったと回答した割合は13.7%。全体の32.1%が防災品について「使用しておらず、今後も購入の予定は無い」と回答している。生活用品が多い又は散乱している世帯については、火災に対して

の不安も高い状況にある。

(2) 対策の方向性

ストーブ、こんろ、灯明等の裸火を扱う際には、安全装置の付いた機器を設置するなど、機器自体の安全性を高めていくだけでなく、周囲の可燃物の整理整頓による可燃物料の抑制や、防災化を図ることが効果的であると考えられる。

また、高齢になるにつれ、健康上の理由等から行動範囲が狭くなり、結果的に生活空間に物品が多くなり、延焼拡大の危険性も高まっていくことが予想される。

こうした火災危険の高い生活環境について見直しできるように、周知やアドバイス等の機会を設けていくなどの取組も有効である。

(3) 具体的な対策例

- カーテン、座布団、エプロン等について防災品の使用を推奨する。
- 暖房器具や調理器具の周りは整理整頓し、居室内には物を散乱させない。
- 暖房器具や調理器具は安全装置の付いた製品を使用する。

(4) その他

防災品の普及についてこれまでの取り組みに加え、関係団体等と連携し防災品効果等の周知を行うとともに、キャンペーン等の機会を活用し、安全装置付き製品への交換とともに推奨する。

4 初期消火対策

(1) 高齢者の死者が発生した住宅火災の実態調査、高齢者の生活実態等に係るアンケート調査を踏まえた現状分析等

住宅火災による死者の発生した経過を年齢区分で比較すると、高齢世帯は特に初期消火しようとして逃げ遅れたケースが多くみられる。

アンケート調査結果では、住宅用消火器等の設置世帯は58.6%という結果が得られたものの、住宅用消火器等を設置していない世帯では、決まった初期消火方法を定めていないことも多く、初期消火に課題がある状況である。

また、全体的に火災発生時の初期消火方法についてその必要性は理解されつつも、初期消火に不安を持っている割合は49.9%となっており、初期消火の方法について、更なる周知が求められる状況である。

(2) 対策の方向性

高齢になるにつれて、認知・身体機能の低下による初期消火への支障が考えられることから、消火器の適切な使用要領や使用限界（避難行動を起こすタイミング）を習得するため、定期的な防火防災訓練等の参加を促すことが重要である。

また、住宅用消火器等の設置だけでなく、住宅用自動消火装置や住宅用スプリンクラーの設置により、延焼防止や避難時間の確保などが期待できることから、これらの機器の周知普及を図ることも有効である。

(3) 具体的な対策例

- 定期的な防火防災訓練等への参加促進
- 住宅用消火器やエアゾール簡易消火具などの設置促進
- 自動消火装置や住宅用スプリンクラーの有効性について工業会等と連携した周知促進

(4) その他

防災訓練だけではなく、高齢者が参加する様々な行事での幅広い周知や、高齢者と直接接する機会が多い団体等と連携したプッシュ型の広報活動についても今後検討を行う。


	住宅用消火器		エアゾール式簡易消火具	【参考】消火器
外観等	 約40cm		 約25cm	 約50cm
方式	蓄圧式（使用時に破裂のおそれがない。レバー又はボタンを操作している場合のみ放射。）			加圧式／蓄圧式
充填薬剤	粉末 粉末：1.2～1.5kg 総質量：2～3kg	強化液 強化液：1.0～1.5L 総質量：2～3kg	強化液／水（浸潤剤入） 薬剤量：400、480g 総質量：約600g	粉末／強化液／泡等 薬剤量：3.0kg、3.5kg 総質量：約5～6kg（鉄製）
適応火災	 すべてに適応していること。		 どれか一つに適応していればよい。（複数可）	 普通火災 油火災 電気火災
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ●消火薬剤量が消火器の1/2程度と少なく、火炎高さが小さい場合に有効 ●軽量で扱いやすい。●インテリアに配慮したデザイン ●再充填はできない。 		<ul style="list-style-type: none"> ●消火薬剤量が住宅用消火器の1/2程度と少なく、より初期の火災に有効。 ●市販されている製品の多くは、「小規模普通火災」、「天ぷら油火災」に適応している。 （消火器と比較して） <ul style="list-style-type: none"> ●軽量で扱いやすい。 ●安価である。 ●消火性能が劣る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●火災時の初期消火用に事業所も含めて広く設置されている。 ●炎が天井に到達する前の火災に有効とされている。 ●主流の製品 粉末（ABC）3.0kg、3.5kg 総質量：約5～6kg 放射時間：約15秒 放射距離：3～8m

画像出典：各企業HP

(参考) 住宅向け消火器・消火用具

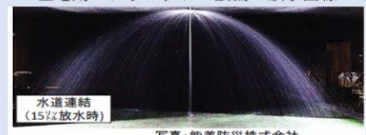
<住宅用下方放出型自動消火装置・天ぷら油消火用簡易装置>

- 消火薬剤を貯蔵したボンベと加圧用のガスボンベで自動的に消火
- ポンプや水源が不要
- 装置単体で作動するため、既存の住宅にも設置が容易
- 様々な形状の製品があり、寝室や台所等にに応じて選択できる。



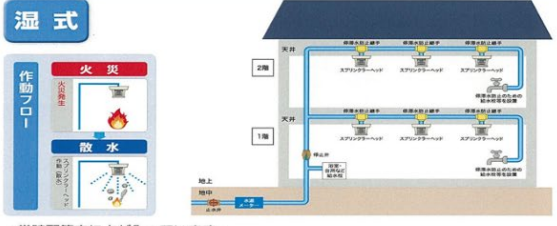
<住宅用スプリンクラー>

住宅用スプリンクラー設備の放水曲線



水道連結（15%放水時）
写真：能美防災株式会社

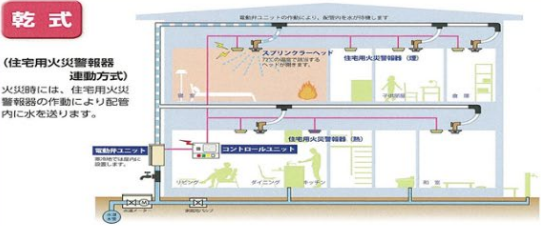
湿式



・常時配管内に水が入っています。
・電気工事は不要です。
・火災時には、熱を感知するだけでスプリンクラーヘッドから散水します。

乾式

（住宅用火災警報器連動方式）
運動方式
火災時には、住宅用火災警報器の作動により配管内に水を送ります。



・常時配管内には水が入っていません。
・スプリンクラーヘッド、配管が破損しても水漏れの心配はありません。
・乾式部分の配管は、凍結の心配がありません。

⇒ 住宅用スプリンクラーは、火災初期の段階で消火を行うため、火災抑制、延焼防止、避難時間の確保等に有効

画像出典：各企業HP

(参考) 住宅用自動消火装置

5 早期避難対策

- (1) 高齢者の死者が発生した住宅火災の実態調査、高齢者の生活実態等に係るアンケート調査を踏まえた現状分析等

高齢者に多く発生する逃げ遅れの理由として、「病気・身体不自由」によるものが多い。また、高齢者では出火再進入した割合が他の年齢区分に比べ多い傾向にある。

アンケート調査結果では、生活用品が多いと感じている世帯は全体の61.3%であり、世帯別で見ると高齢者以外との同居世帯が70.3%と最も多い。また、71歳～75歳においては、健康に自信があるため、火災発生時避難を行う自信があると回答した割合が平均よりも10%以上高いという結果が出ている。

- (2) 対策の方向性

高齢者については、加齢による身体機能の低下等による逃げ遅れを防ぐため、いち早く避難行動に取りかかることが重要である。

また、行動範囲が狭まることにより、生活空間に物品が多くなり、避難の支障になりがちであることから、普段から火災時を意識した行動につながるような意識づけや、物品の整理整頓といった習慣づけを促して行く必要がある。

- (3) 具体的な対策例

- 住宅の間取りや出火危険場所、居住者の健康状態等、居住実態等に応じ、避難が適切に行えるかといった、消防機関などによる適切なアドバイスの実施
- ICT機器等を活用し、疑似体験等の行える訓練の実施

- (4) その他

高齢者については、初期消火の重要性を周知するとともに、早期避難、避難後の再進入の防止の重要性についても周知を行うことが重要である。

6 地域の助け合い

- (1) 高齢者の死者が発生した住宅火災の実態調査、高齢者の生活実態等に係るアンケート調査を踏まえた現状分析等

アンケート調査結果では、普段から近所付き合いのある割合は66.1%であり、普段から近所付き合いのある場合は、無い場合と比べ、火災に対する不安が低い結果が出ている。

火災予防対策についてアドバイスを受ける機会は、「自治体などの公的機関」から受ける機会が最も多く、次いで「町会や自治体単位での集会など」で受けることが多い。年齢が上がるにつれアドバイスを受ける機会は増加傾向にある。

また、消防職団員からのアドバイスを希望している高齢者が73.3%と最も多い一方で、実施されていることを知らなかった高齢者が大半を占めるなど、ミスマッチが生じている状況にある。この他、自宅で直接アドバイスを受けたい割合が51.3%となっている。

- (2) 対策の方向性

町会、自治会、自主防災組織の実施する防火防災訓練やイベント等を通じて、対応力の向上や地域住民のつながりの強化が期待できることから、積極的な参加を促していくことが重要である。また、これらの取り組みが実施されていることを知らなかった高齢者も多いため、取り組みの積極的な周知も必要となる。

一方で、近所付き合いや訓練の機会が少ない場合については、個人の対応力を高めていく必要があることから、高齢者本人だけでなく、高齢者家族、ケアマネージャーを通じたアドバイス等を行えるような方策を講じていく必要がある。

(3) 具体的な対策

- 地域の実情や特性に応じた防火防災訓練等の推進及び住民の参加促進
- チェックポイントをまとめたリーフレットや ICT 技術等を活用するなど、高齢者自らや家族等が火災危険要因を容易に把握できる手段や仕組みの構築

(4) その他

各地域における優良事例の周知や、高齢者向け行事や取り組みへの積極的な参画も重要である。

また、リーフレットの作成・周知や ICT 技術等の活用などにより、日常生活における火災危険性を誰もが同じレベルで把握できる仕組みの構築を行う必要がある。

第5章 高齢者の生活実態に対応した住宅防火対策の今後の進め方（まとめ）

第4章において、住宅火災による高齢者の死者を防ぐための考え方として、改めて整理を行い、講じていくべき住宅防火対策について、現状を踏まえた方向性等を示したところである。本章においては、今後の住宅防火対策の推進に向けて、各種取組の更なる充実強化を図るため、次のように提言を行う。

1 高齢者の生活における火災危険性の低減等のための方策

高齢者の生活実態に対応した住宅防火対策を踏まえ、高齢者の日常生活における火災危険性の低減のためには、各種住宅防火対策に対応するために、次の三点の方策を推進することが適切なものと考えられる。

(1) 火災危険性を誰もが同じレベルで把握できる仕組等の構築

【出火防止・延焼拡大防止・早期避難・地域の助け合いの各対策に対応】

従前より、消防機関の実施する住宅防火診断等において、住民に対して注意喚起を促すなどの取組を実施しているところであるが、実施時期等の機会やマンパワーの観点から、全ての世帯に対し実施することは困難である。

一方で、アンケート調査結果では、約7割の回答者から、防火についてのアドバイスや危険箇所の診断を受けたいといった回答が得られており、消防機関による住宅防火診断等だけでなく、日常生活における火災危険性を、高齢者本人やその家族等が容易に把握できるようなツールの作成や仕組の構築に対して一定のニーズがあるものと考えられる。具体的には、住宅に潜む火災危険性のチェックリストを示すことや、スマートフォンなどで手軽に確認できるアプリケーション等を開発することなどが効果的である。

(2) 火災危険性を低減するための習慣化を目的とした広報の実施

【全ての火災予防対策に対応】

住宅火災の実態分析等を踏まえると、住宅における火災危険については、日常における喫煙や火気の取扱い、電気機器等の維持管理による部分が多くを占めており、住民の火災予防に対する意識付けや、火災危険性を低減するための習慣を身につけることは有効である。

住宅火災予防のための広報については、火災予防運動等の時期にあわせ、各消防機関において推進しているところであるが、高齢者やその家族に対しての訴求力を高めていくためにも、メッセージ内容やアプローチ方法等に工夫して取り組んでいくことが求められる。具体的には、多くの高齢者が訪れる行事等への参加や、高齢者と接する機会が多い団体等との連携など、適切な広報手段について検討することが必要である。

(3) 火災安全性の向上のため、住宅用防災機器等に加え、安全装置付きの機器などの普及促進

【出火防止・早期覚知・延焼拡大防止・初期消火の各対策に対応】

高齢者世帯においては、安全装置等の設置されていない火気機器等の使用も火災リスクを高めている要因と考えられることから、安全装置付きの機器等への買換えなどについて推奨していくことが望ましい。また、付加的機能を併せ持つ住宅火災警報器、住宅用消火器、住宅用スプリンクラー、防災品等の住宅用防災機器等の設置の推進も必要である。

これらの機器等の設置促進に際しては、設置による効果とコストについて丁寧な説明を行うことが求められるため、各機器等の業界団体と連携を図ることが重要である。

2 高齢者の生活実態等を踏まえた現行の住宅防火対策のあり方について

高齢者の生活における火災危険性の低減等のための方策を推進していくために、現在、消防庁が実施している「住宅防火・防災キャンペーン」及び「住宅防火 いのちを守る 7つのポイント」についても、火災実態やアンケート調査結果を踏まえ、より実効性が高められるように、以下の通り見直しを図ることが望ましい。

(1) 住宅防火・防災キャンペーンの充実強化

平成24年度から実施している「住宅防火・防災キャンペーン」については、高齢世帯に向けた全国的な防火PR事業であり、敬老の日を中心にした実施時期ということもあり、高齢世帯やその家族への訴求力を高めていく上で、重要なものと考えられる。

現在は、消防機関をはじめとした行政による高齢世帯に対する火災予防への注意喚起のほか、協力企業・団体による住宅用火災警報器の点検や交換の働きかけと合わせた「住宅火災警報器」「住宅用消火器」「防災品」等のプレゼント等を行い、高齢者やその家族による生活の見直しを呼びかけているが、今後、より効果的なものとするため、実施内容の充実強化を図ることが必要である。

具体的には、生活における火災危険をわかりやすく示したチェックリスト等を活用し、行政機関や高齢者の家族による、よりきめ細かい防火チェックを実施することが望ましい。また、協力企業・団体から高齢者へのプレゼント対象とする品目に、現状の住宅用防災機器等のほか、安全装置の搭載されたストーブやガスこんろなどの機器を追加するとともに、広く協力団体を募るなど、より強力でキャンペーン活動展開していくことが望ましい。

(2) 「住宅防火 いのちを守る 7つのポイント」の改正

「住宅防火 いのちを守る 7つのポイント」については、平成12年に作成されて以降、各消防本部及び関係団体等において使用されてきた。平易な言葉で端的に住宅防火の留意点をまとめることにより、地域住民への周知に際し、一定の成果が得られたところである。ただし、作成当時と比べると、住宅火災を取り巻く状況も変化していることから、今般、実施した高齢者の生活実態等の調査結果を踏まえた内容へと改正する時機であると考えられる。

なお、本検討部会において検討した結果、具体的には、出火件数の多い電気火災対策や安全装置の設置された機器への交換、高齢者への早期避難の呼びかけ等の追加を行った、以下の改正案が採用された。

「住宅防火 いのちを守る 10のポイント」

4つの習慣

1. 寝たばこは絶対にしない、させない。
2. ストーブは燃えやすいものに近づけない。
3. ガスコンロを使うときは火のそばを離れない。
4. コンセントはほこりを清掃し、たこ足配線はしない。

6つの対策

1. 火災の発生を防ぐために、安全装置の付いた機器を使用する。
2. 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する。
3. 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防災品を使用する。
4. 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置し、使い方を覚える。
5. お年寄りや身体の不自由な人は、火災が拡大したらすぐに避難する事を心がける。
6. 地域ぐるみの防火対策のために、防火防災訓練に参加する。

3 まとめ

近年の火災の実態分析や高齢者の生活実態アンケート調査を通し、高齢者にあっては、これまでの取組に加え、安全性の高い機器の使用を促進し、出火危険を低減させる事が必要であり、その周知についても、高齢者が参加しやすい行事への参加や高齢者と接する機会の多い事業者など、さまざまな関係団体等との連携強化が重要であることが明らかとなった。

また、早期覚知、初期消火及び早期避難対策についても、検討結果の周知を実施や住宅における火災危険の排除を、高齢者や高齢者家族が自ら行えるような新たな仕組みの構築を今後実施する必要がある。

住宅火災の実態 データ集

高齢者の生活実態に対応した住宅防火対策のあり方に関する検討部会

データ集の概要

本火災データは、高齢者世帯特有の火災リスクの抽出を目的に、過去5年間※1及び1999年を起点とした10年ごと※2の火災報告データをもとに、以下の分類により抽出・集計を行ったもの

- 1 原因別・性別・年齢区分別・死者数の推移
各年齢区分毎の死者数を年代別に国勢調査の人口構成比と比較したもの
- 2 住宅火災における各年齢層の主な出火原因別死者
過去5年間及び10年ごとの、住宅火災による死者について、死者の年齢ごとに区分し、それぞれの性別、出火原因及び死者の発生した経過について比較を行い、住宅火災による高齢者の死者の発生要因等について実態を分析したもの
- 3 独居・非独居別死者数
一人暮らしと一人暮らし以外の世帯における死者数の比較を行ったもの
- 4 出火時間帯別死者
時間帯別に死者数の割合と人口比率を集計したもの
- 5 死者が発生した住宅火災における住警器の設置状況
住警器の設置状況別死者数を集計したもの

※1 2014年（平成26年）～2018年（平成30年）

※2 1999年（平成11年）、2009年（平成21年）及び2019年（令和元年）


1. 原因別・性別・年齢区分別・死者数の推移

性別・年齢区分別 死者数（人）

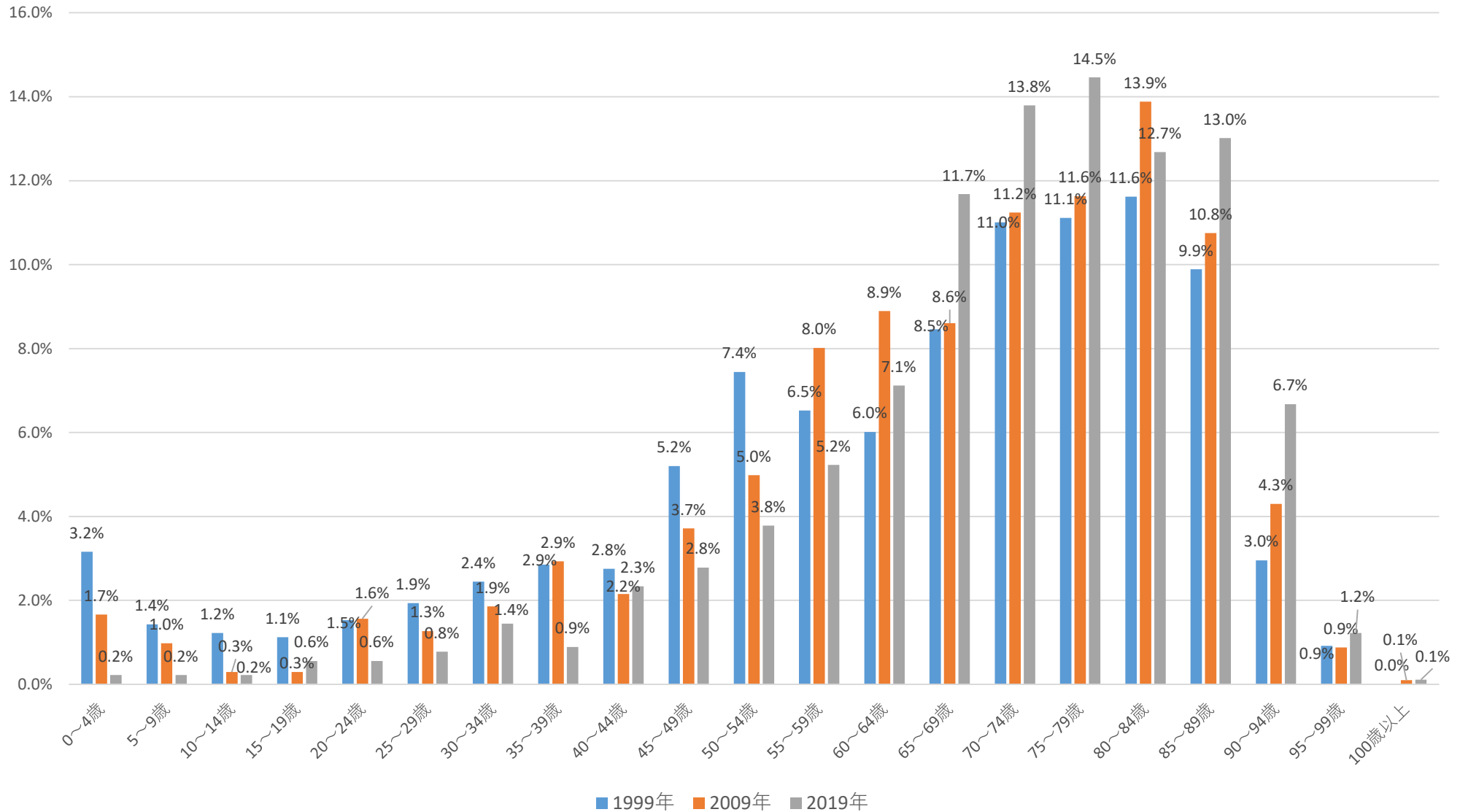
【区分1】火災統計で使用	男性	女性
～64歳	953	432
65～70歳	446	182
71～75歳	351	174
76～80歳	366	250
81歳～	718	756
小計	2834	1794
合計	4628	

【区分2】国政調査で使用	男性	女性
～64歳	953	432
65～69歳	368	149
70～74歳	356	170
75～79歳	375	229
80歳～	782	814
小計	2834	1794
合計	4628	

※2014年～2018年の火災報告をもとに算出（年齢不明の12人を除く）

 人口構成比等と比較するため、原則として、【区分2】の区分を用いて分析を行う。

年齢区分別（国勢調査ベース）住宅火災死者構成比

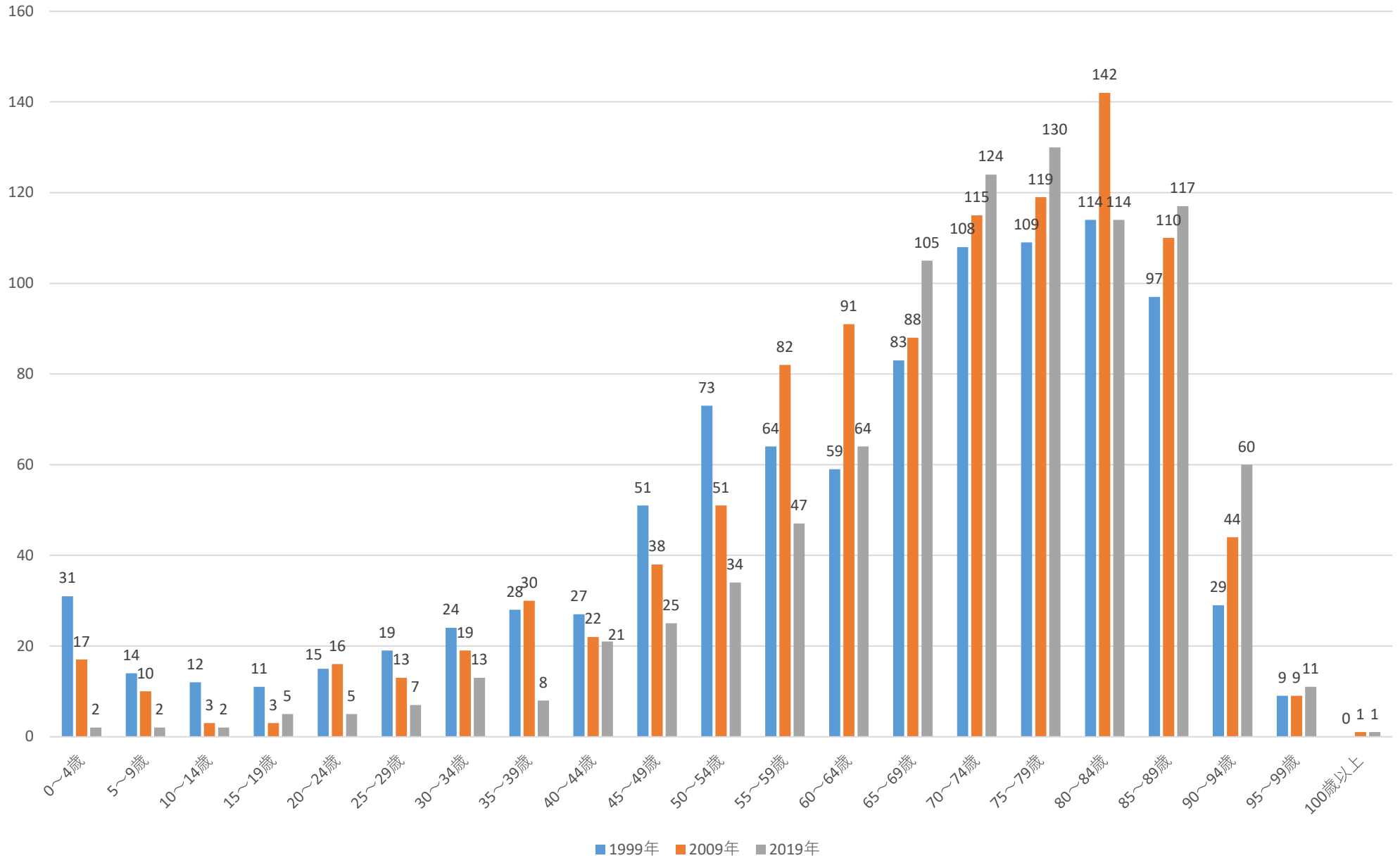


○いずれの時期でも高齢者の方が割合が高い傾向にある。

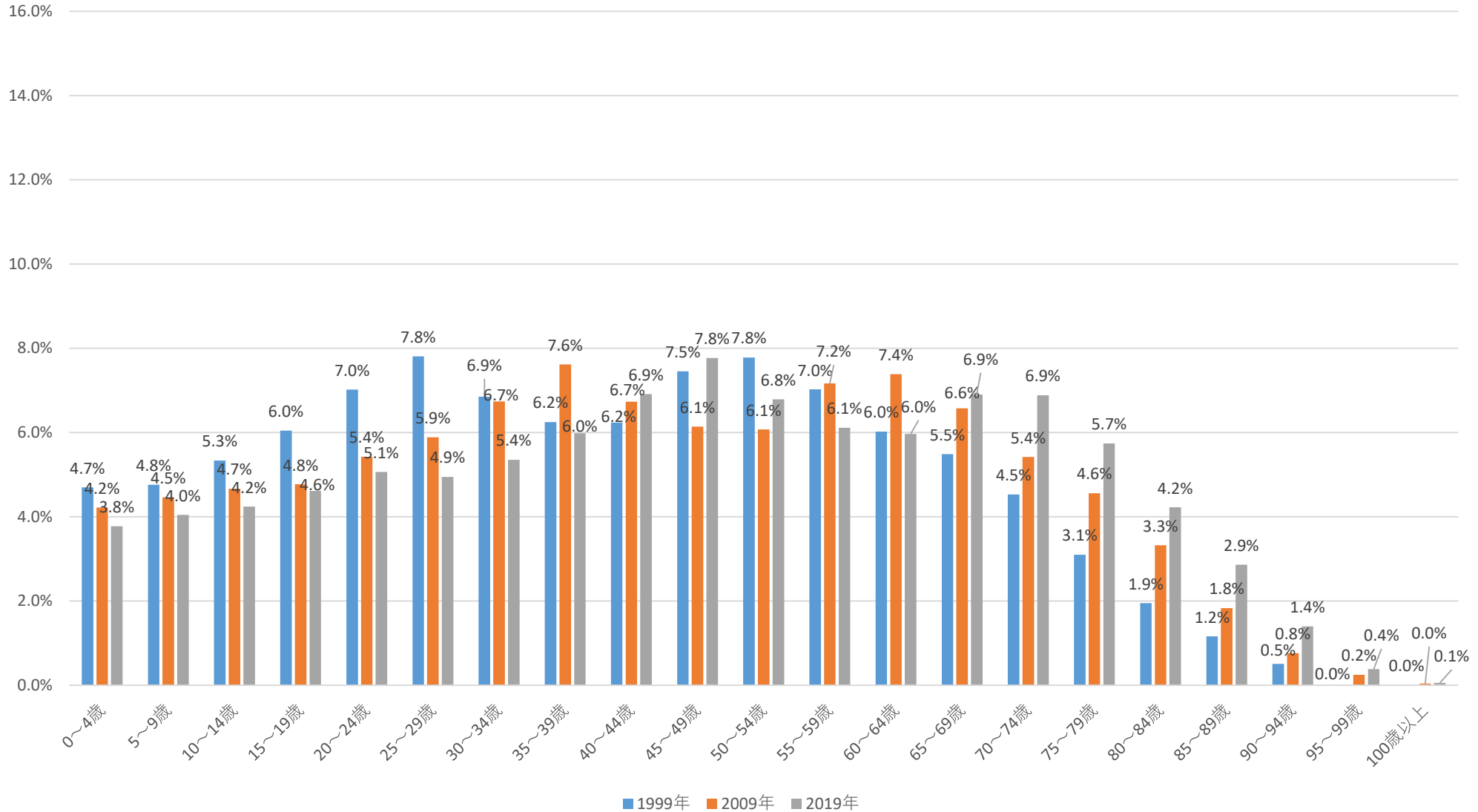
○2019年では1999年に比べ高齢者の死者の割合が高いが、P3の人口構成比の傾向よりも顕著であるため、人口比以外の要因があると考えられる。

年齢区分別（国政調査ベース）住宅火災死者数

(人)



【参考】年齢区分別（国勢調査ベース）人口構成比

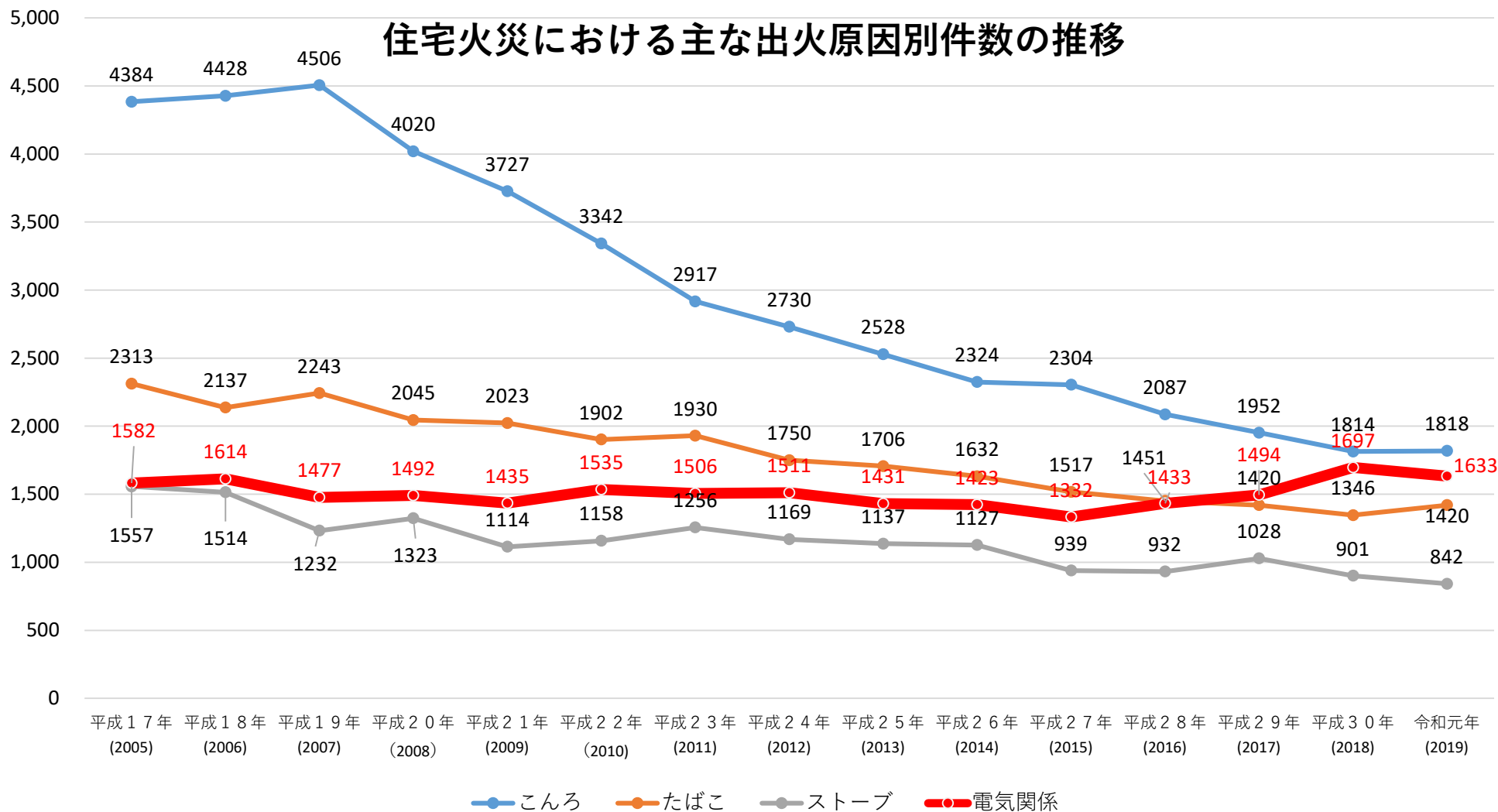


※1999年については90歳以上の合計値を90～99歳の区分に計上

1999年からの20年間で高齢化が進展していることが分かる。

2 住宅火災における各年齢層の主な出火原因別死者

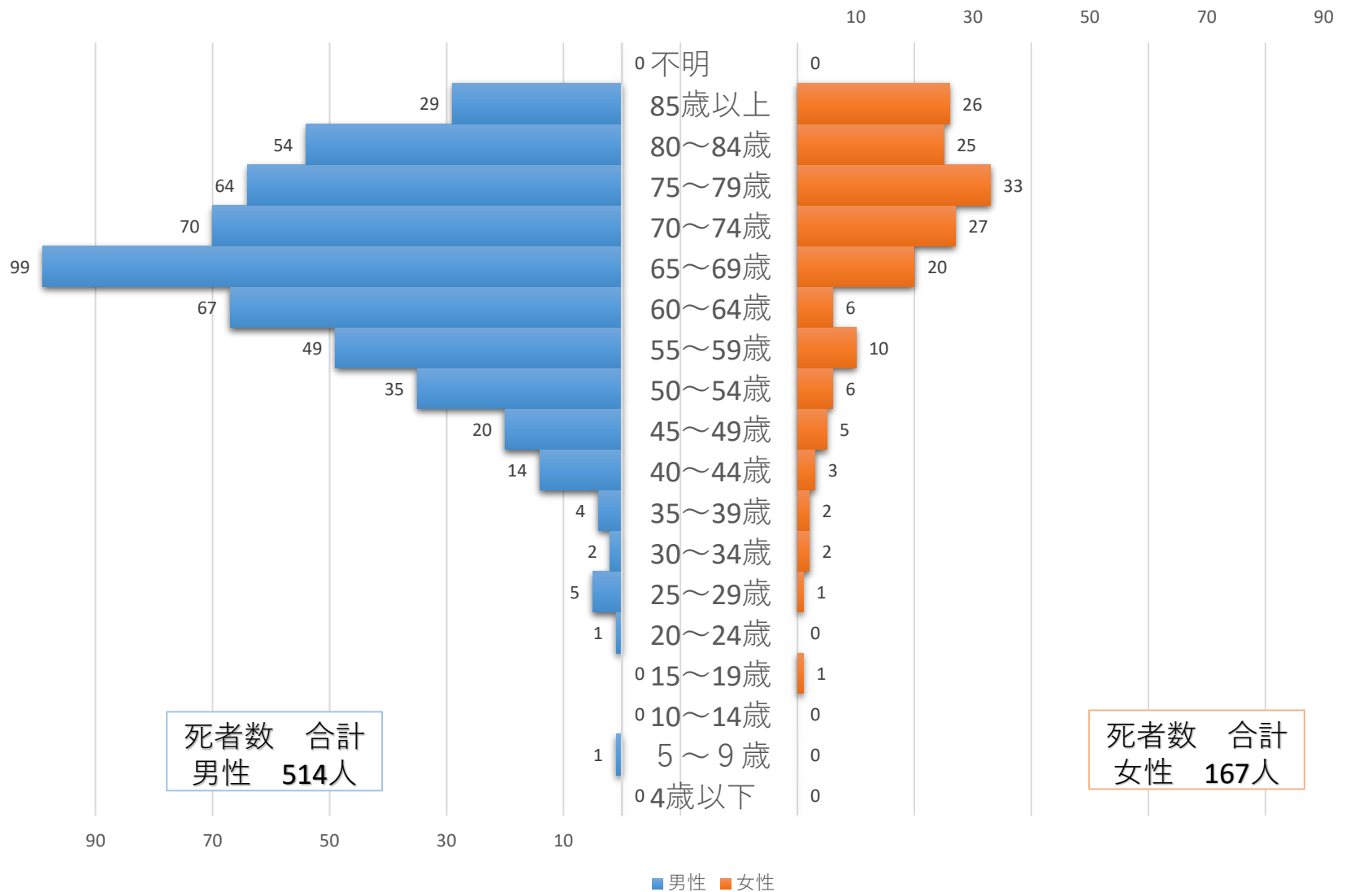
住宅火災における主な出火原因別件数の推移



※電気関係：出火原因が「電灯・電話等の配線」「配線器具（テーブルタップ等）」「電気機器」「電気装置（コンデンサ等）」の合計

平成17年と比較すると、こんろ、たばこ及びストーブが原因の火災件数は減少しているのに対して、電気関係の火災件数のみ横ばいで推移しており、近年では増加傾向にある。

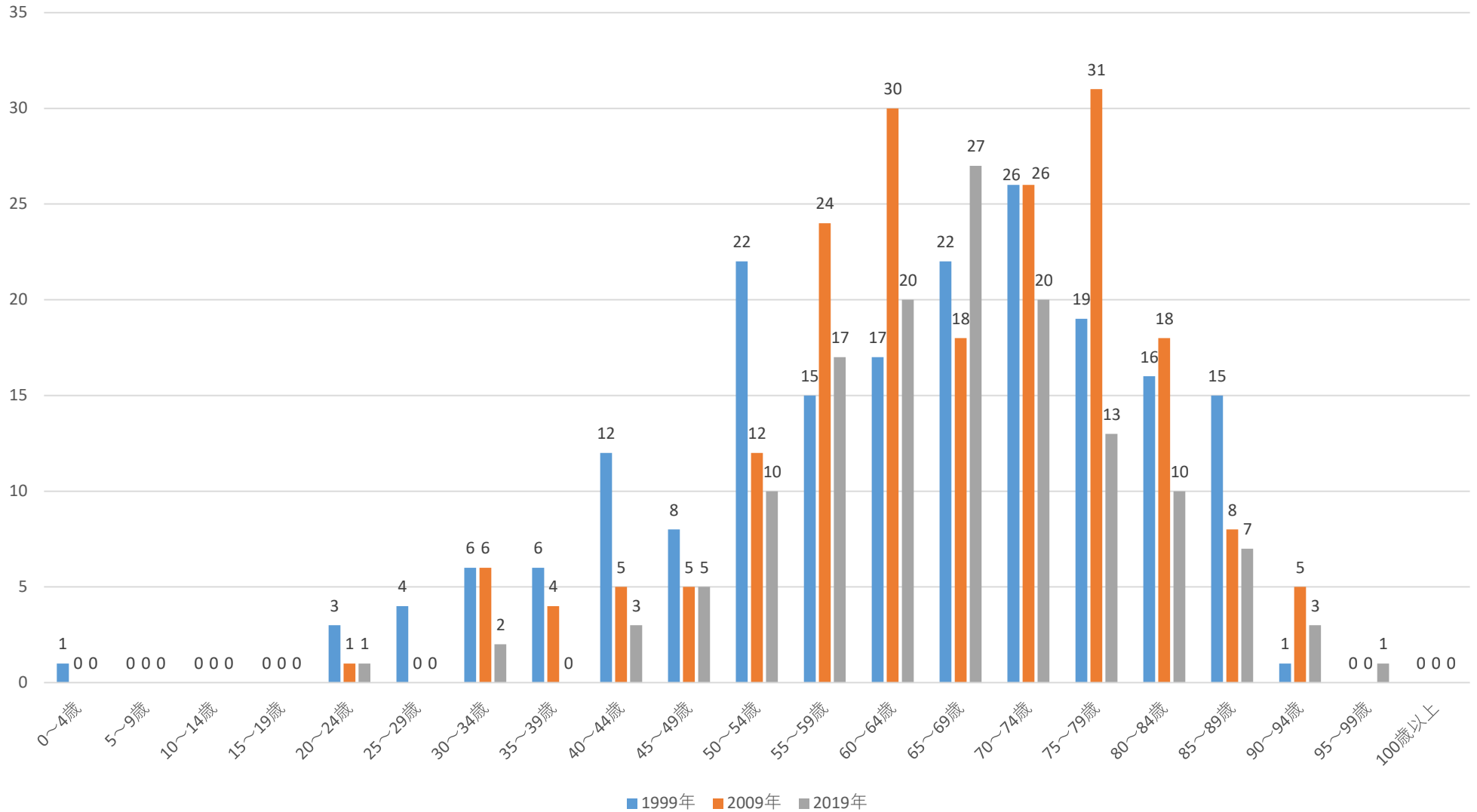
出火原因別死者数 「たばこ」 2014～2018年合計



- たばこによる火災における死者数では、男性が女性の3倍以上になる。
- 男性の死者数のピークが65～69歳であるのに比べて、女性は明確なピークが見られない。

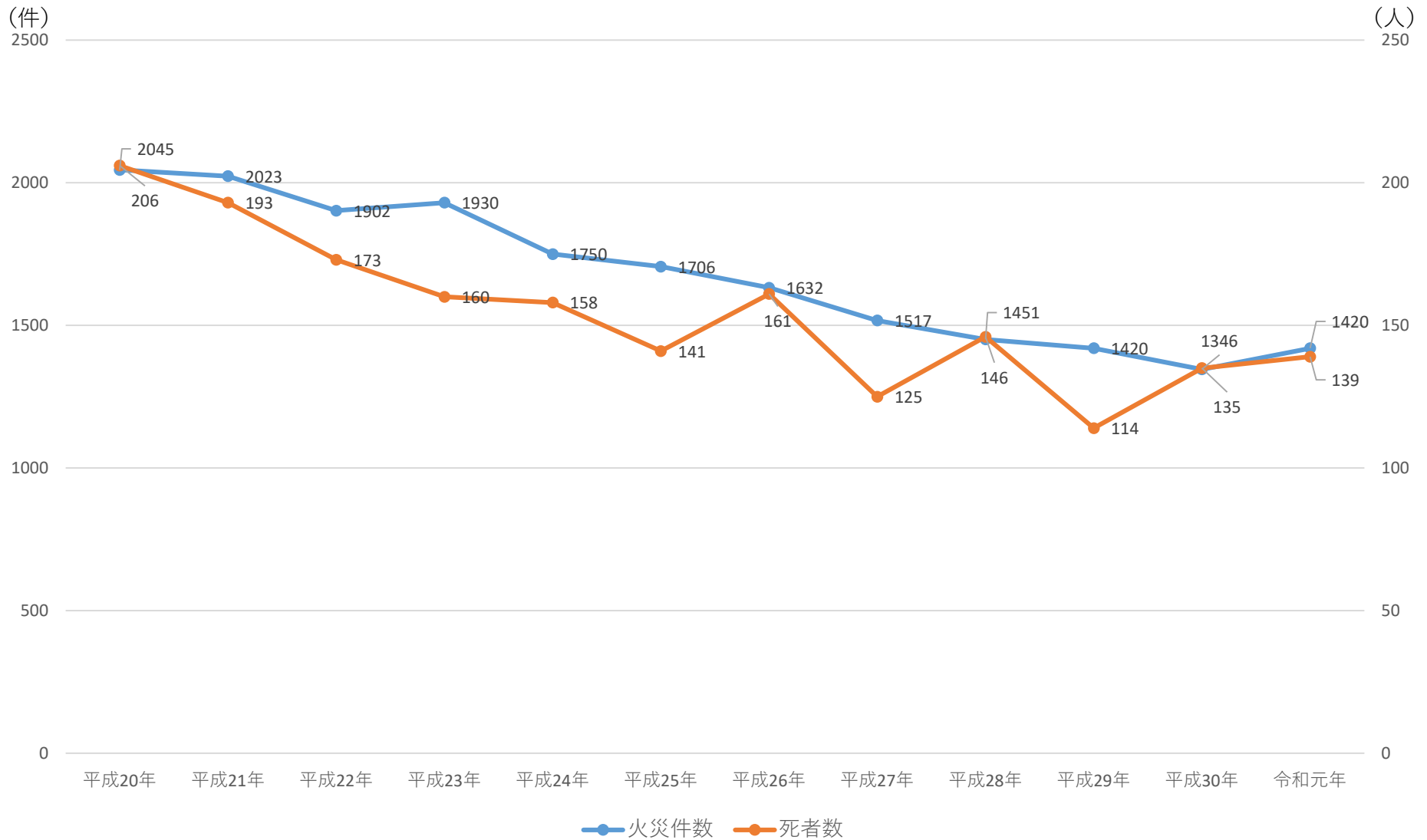
出火原因別死者数「たばこ」

(人)



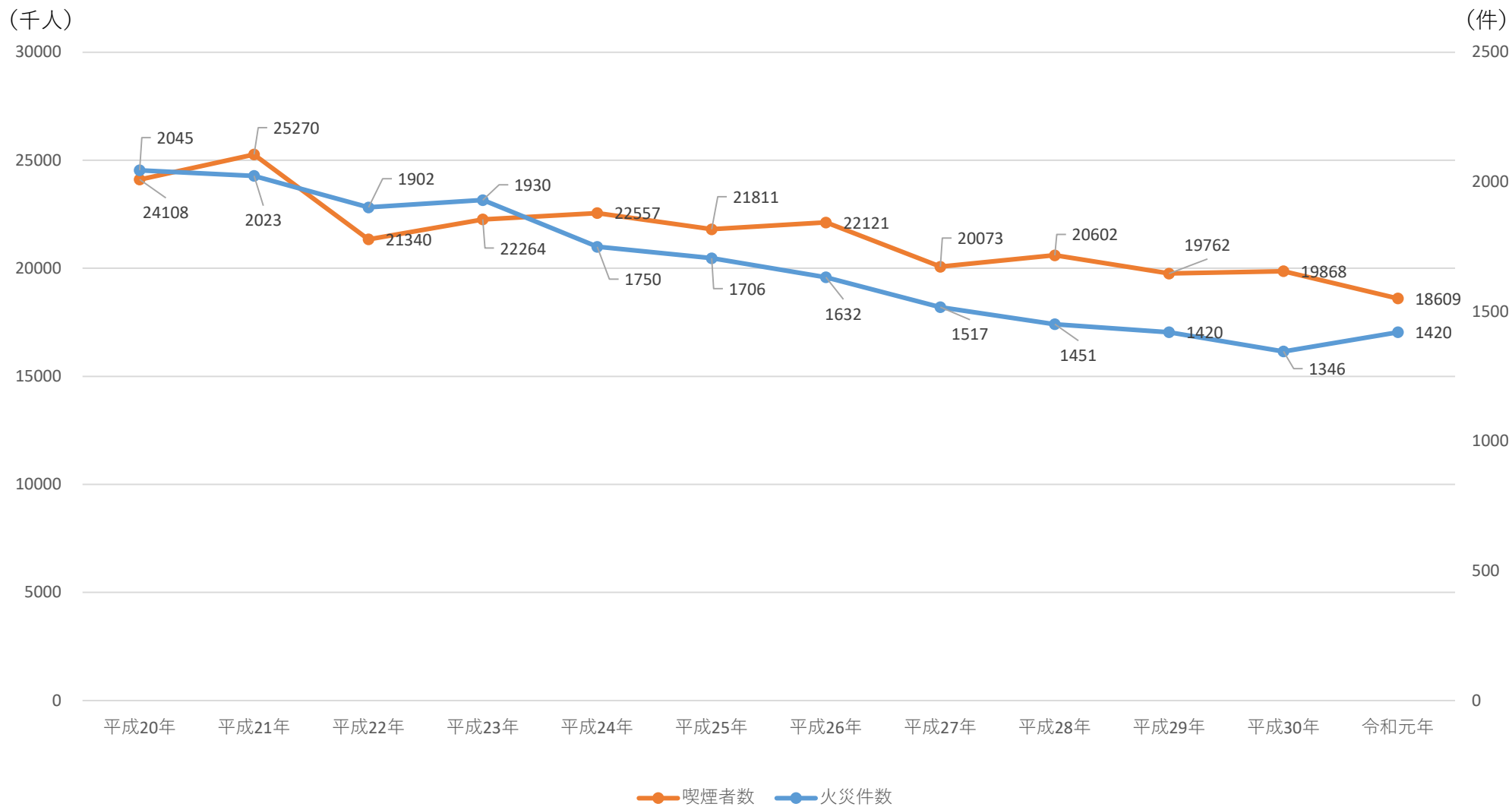
○1999年、2009年が比較的幅広い年齢層で死者が発生しているのに比べ、2019年ではピークが65～69歳で顕著であり、それ以降は全体的にたばこによる死者数は減少する傾向がある。

住宅におけるたばこ火災の件数と死者数の推移

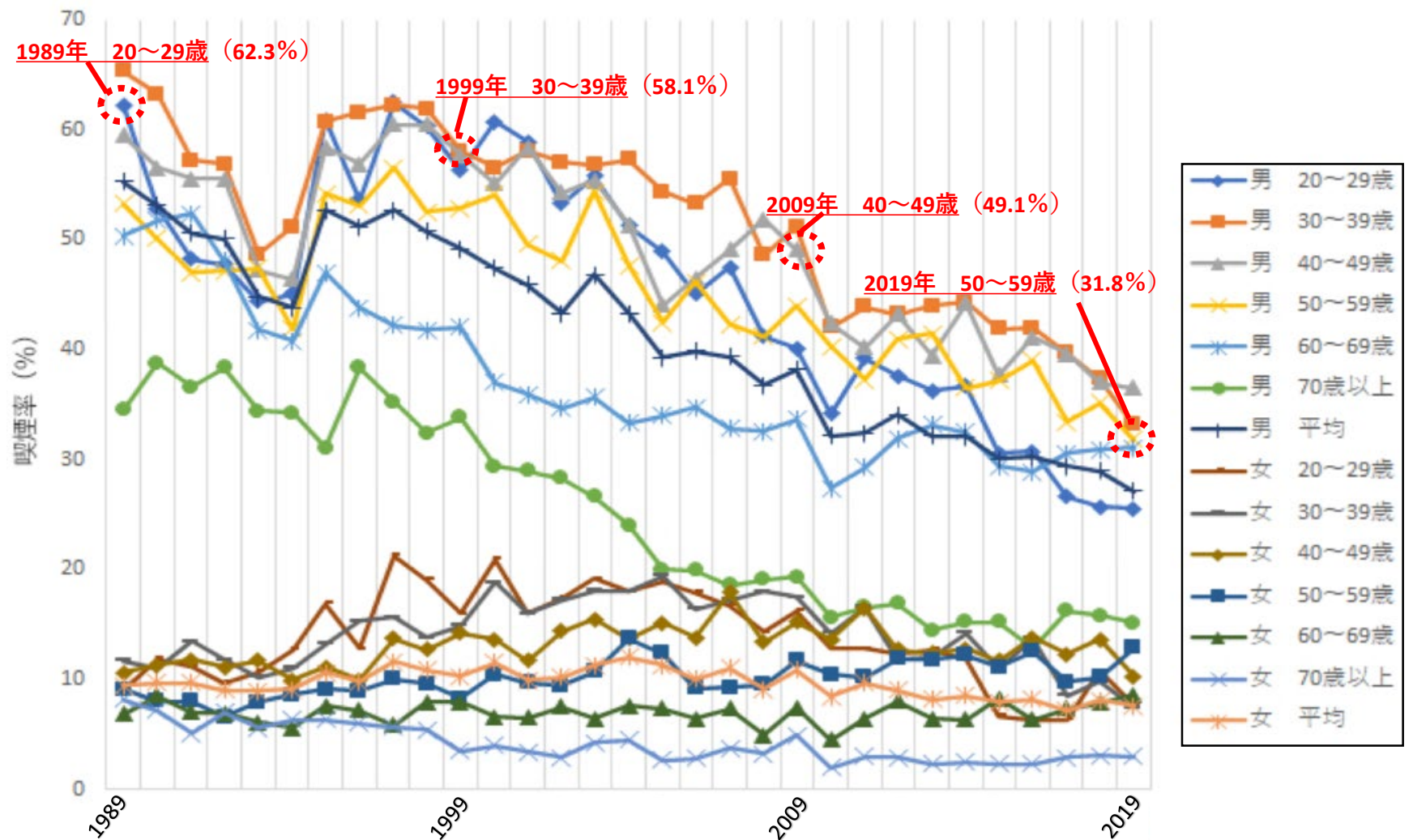


たばこ火災の件数及び死者数ともに10年前と比較し減少している。

住宅におけるたばこ火災の件数と喫煙者数の推移



【参考】性別・年代別喫煙率の推移

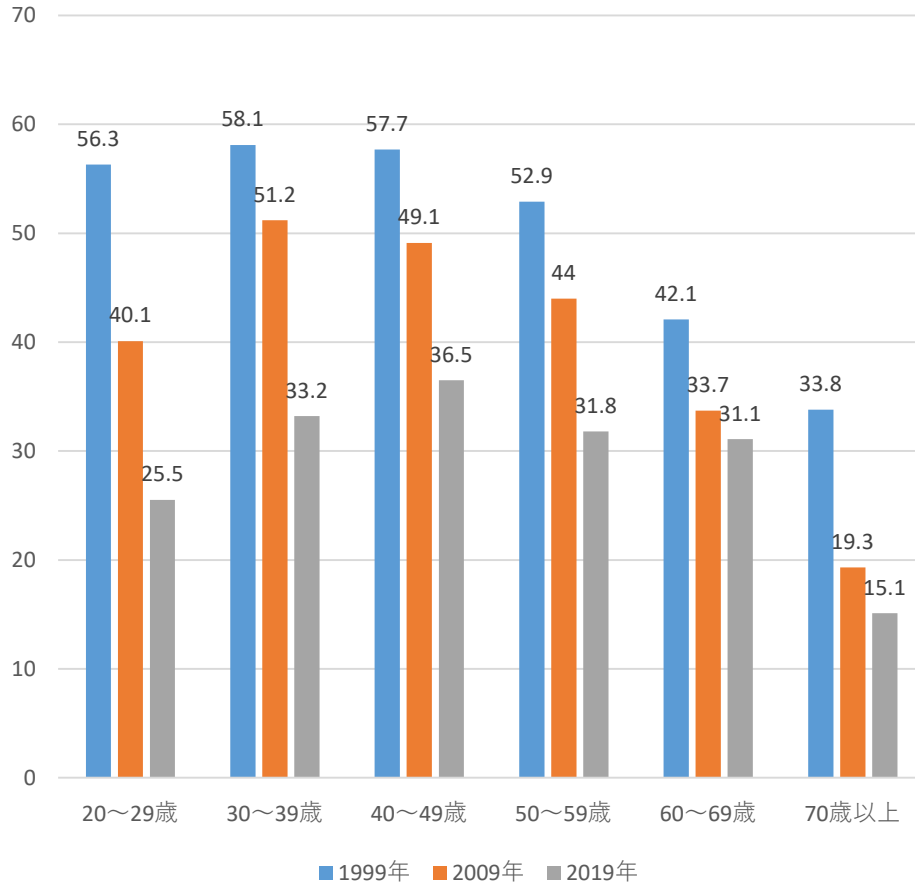


厚生労働省国民健康・栄養調査より

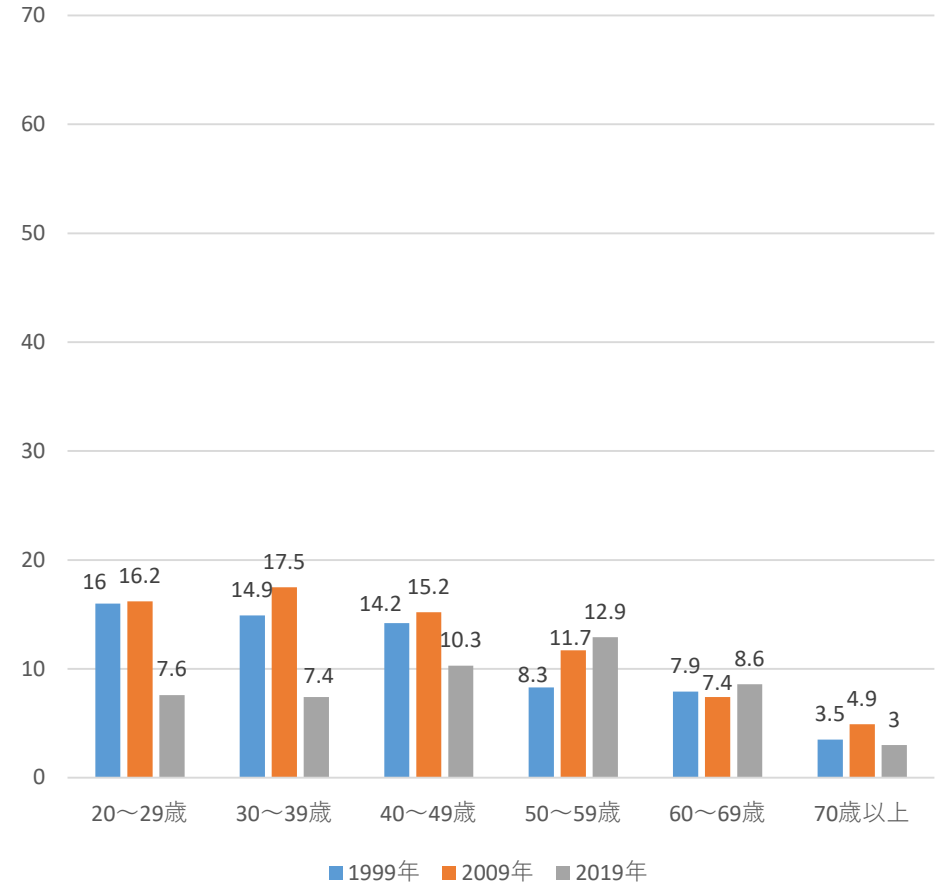
- 近年では、若年層の喫煙率は他の年代に比べて低くなっている。
- 同一の母体（1989年に20~29歳）と比較してもこの30年で喫煙率は半減している。

【参考】現在習慣的に喫煙している者の割合 (1999年、2009年、2019年の比較)

【男性】



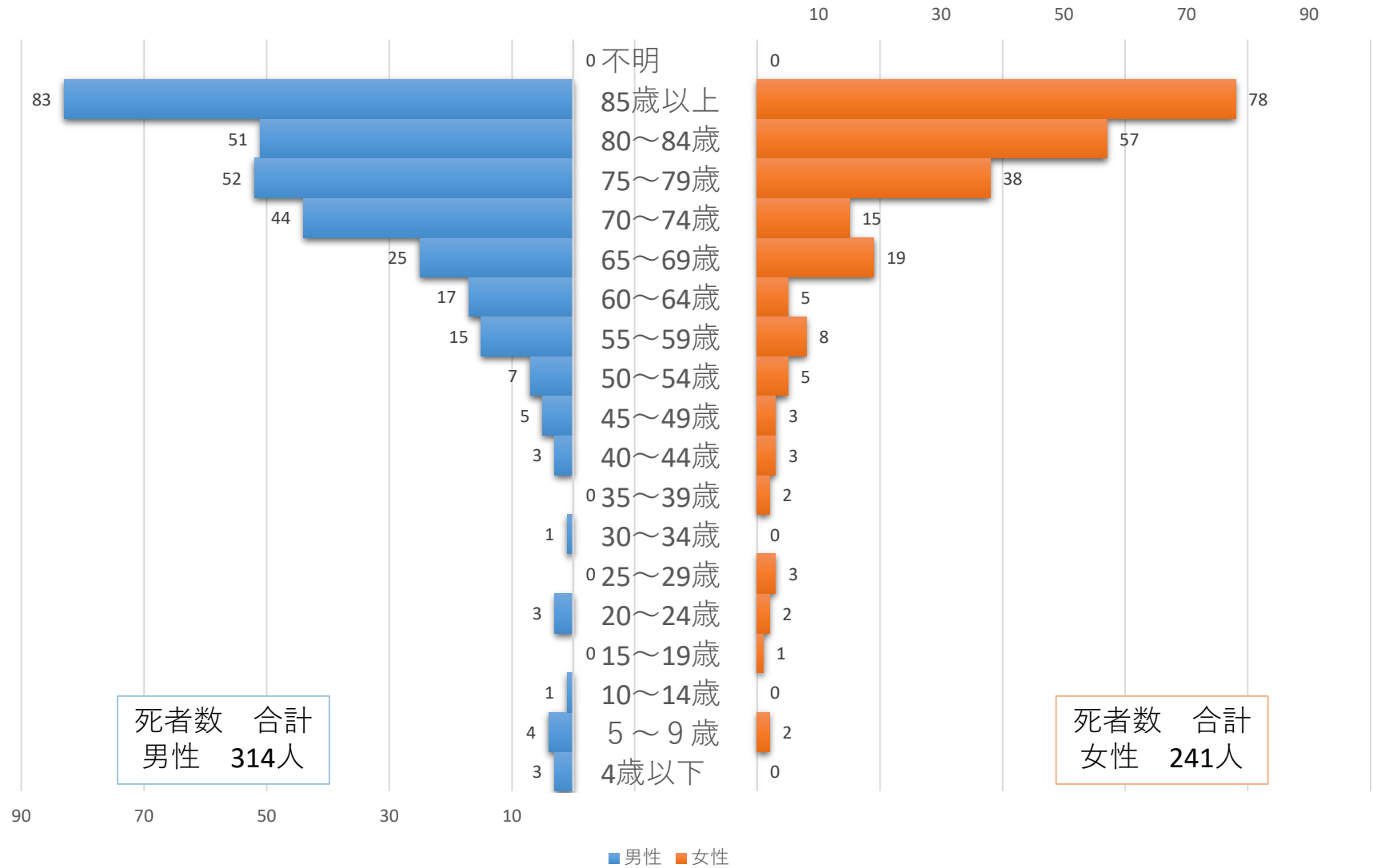
【女性】



厚生労働省国民健康・栄養調査より

○男性はどの年代でも大きく減少している一方で、女性は50歳以上で喫煙率は増加しているがいずれもピークも移動していることから、特定の年齢での喫煙率が高いということではなく、特定の年代（1999年で30～39歳の年代）での喫煙率が高いと考えられる。

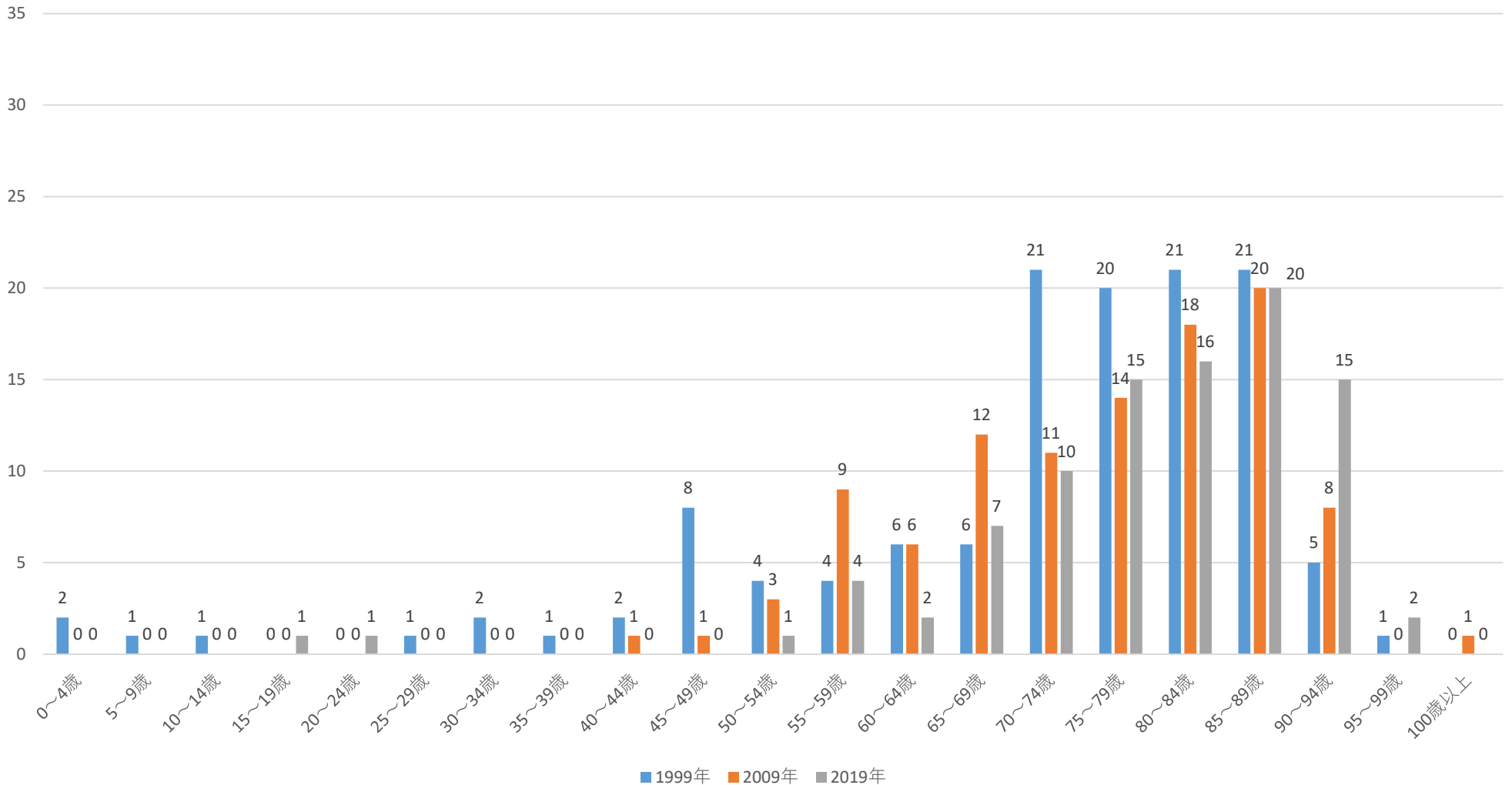
出火原因別死者数 「ストーブ」 2014～2018年合計



- ストーブによる火災における死者数は、高齢化に従い増加する傾向がある。
- 死者数が大きく増加する年齢は、男性の方が女性よりも若いことが分かる。

(人)

出火原因別死者数「ストーブ」

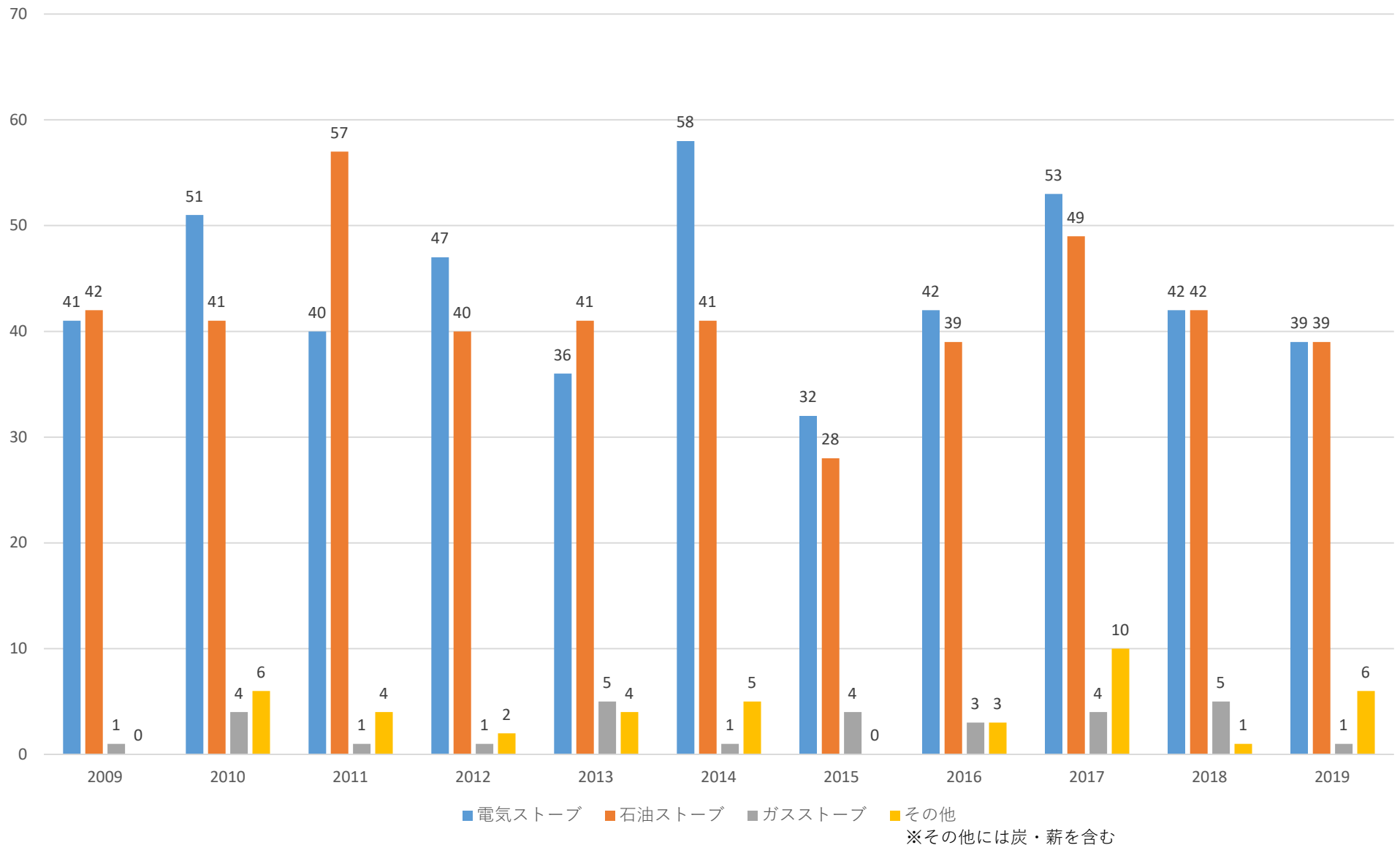


○ストーブによる火災においては、特に2019年では高齢化に伴い、人口自体は減少しているにも関わらず死者が大きく増加している。

住宅火災における高齢者の出火原因別死者数（出火原因「ストーブ」）

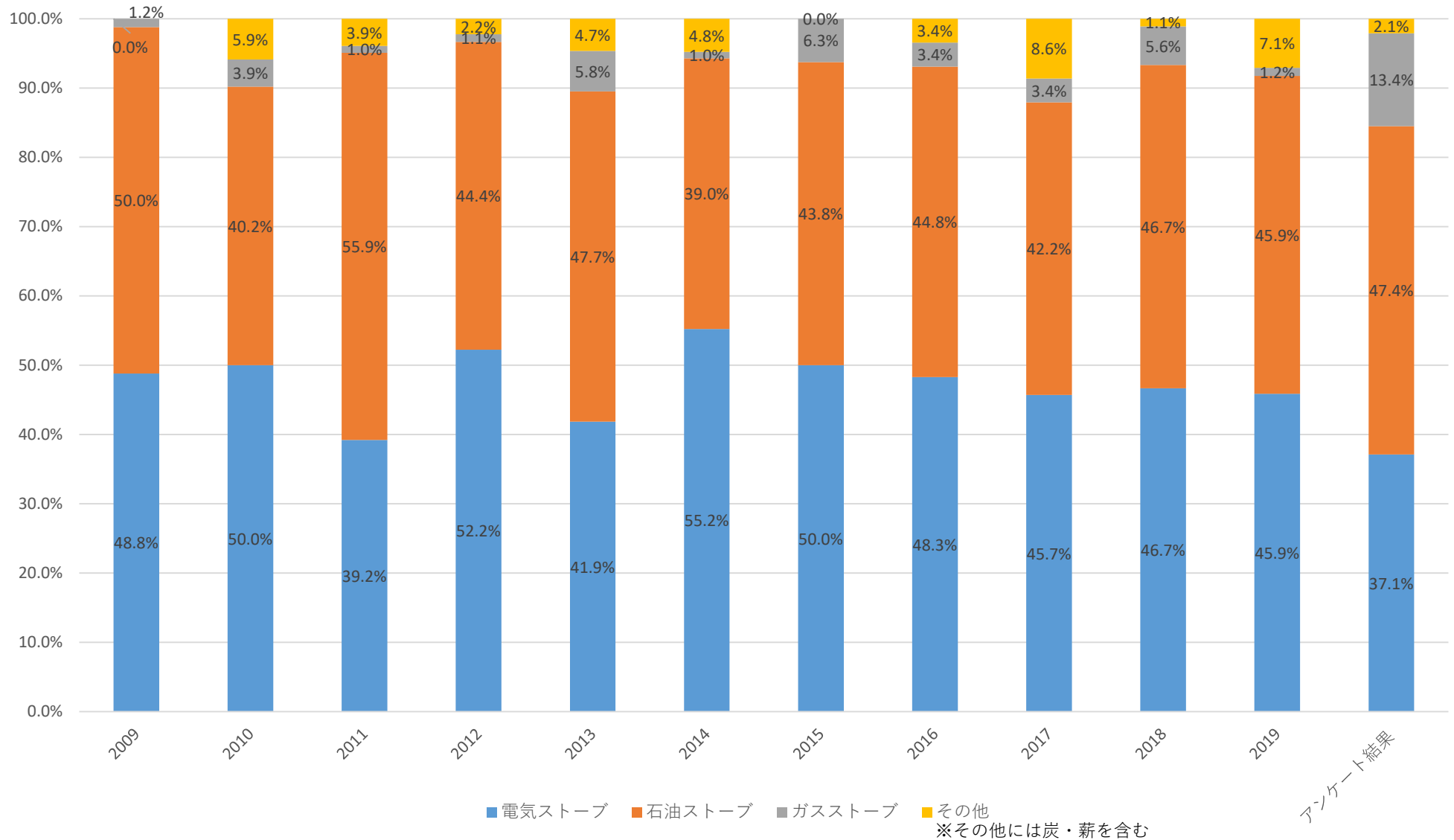
※燃料別

2009～2019年の死者数



○ 電気ストーブ、石油ストーブが原因の死者が大半を占めており、また、概ね同程度の割合となっている。

住宅火災における高齢者の出火原因別死者構成比（出火原因「ストーブ」） ※燃料別



アンケート結果の所持割合※と比べて、電気ストーブによる火災の死者の割合が高い傾向にある

※電気ストーブよりも石油ストーブの方が所持割合が高い。18

住宅火災における高齢者の出火原因別死者構成比（出火原因「ストーブ」） ※都道府県・燃料別

2009～2019年合計値

	電気ストーブ	石油ストーブ	ガスストーブ	その他		電気ストーブ	石油ストーブ	ガスストーブ	その他
1 北海道	14.9%	61.7%	2.1%	21.3%	25 滋賀	70.6%	29.4%	0.0%	0.0%
2 青森	10.7%	71.4%	0.0%	17.9%	26 京都	72.0%	24.0%	4.0%	0.0%
3 岩手	8.7%	34.8%	0.0%	56.5%	27 大阪	79.2%	13.2%	7.5%	0.0%
4 宮城	26.1%	69.6%	0.0%	4.3%	28 兵庫	69.8%	28.3%	1.9%	0.0%
5 秋田	25.0%	70.8%	0.0%	4.2%	29 奈良	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
6 山形	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	30 和歌山	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%
7 福島	35.7%	64.3%	0.0%	0.0%	31 鳥取	60.0%	20.0%	0.0%	20.0%
8 茨城	27.8%	72.2%	0.0%	0.0%	32 島根	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%
9 栃木	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	33 岡山	47.8%	52.2%	0.0%	0.0%
10 群馬	50.0%	43.8%	0.0%	6.3%	34 広島	50.0%	46.4%	0.0%	3.6%
11 埼玉	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	35 山口	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%
12 千葉	51.1%	44.7%	2.1%	2.1%	36 徳島	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
13 東京	68.8%	20.8%	10.4%	0.0%	37 香川	56.3%	43.8%	0.0%	0.0%
14 神奈川	71.7%	22.6%	5.7%	0.0%	38 愛媛	55.0%	40.0%	5.0%	0.0%
15 新潟	18.2%	75.0%	0.0%	6.8%	39 高知	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%
16 富山	8.3%	91.7%	0.0%	0.0%	40 福岡	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
17 石川	26.7%	73.3%	0.0%	0.0%	41 佐賀	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
18 福井	11.1%	66.7%	0.0%	22.2%	42 長崎	63.6%	27.3%	9.1%	0.0%
19 山梨	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	43 熊本	36.4%	54.5%	9.1%	0.0%
20 長野	26.9%	65.4%	7.7%	0.0%	44 大分	12.5%	75.0%	12.5%	0.0%
21 岐阜	37.5%	56.3%	6.3%	0.0%	45 宮崎	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
22 静岡	59.1%	27.3%	13.6%	0.0%	46 鹿児島	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%
23 愛知	58.9%	34.2%	5.5%	1.4%	47 沖縄	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
24 三重	46.7%	46.7%	0.0%	6.7%	合計	47.6%	45.4%	3.0%	4.1%

寒冷地は石油ストーブ、それ以外の地域は電気ストーブによるものの割合が高く、地域差が見られる。

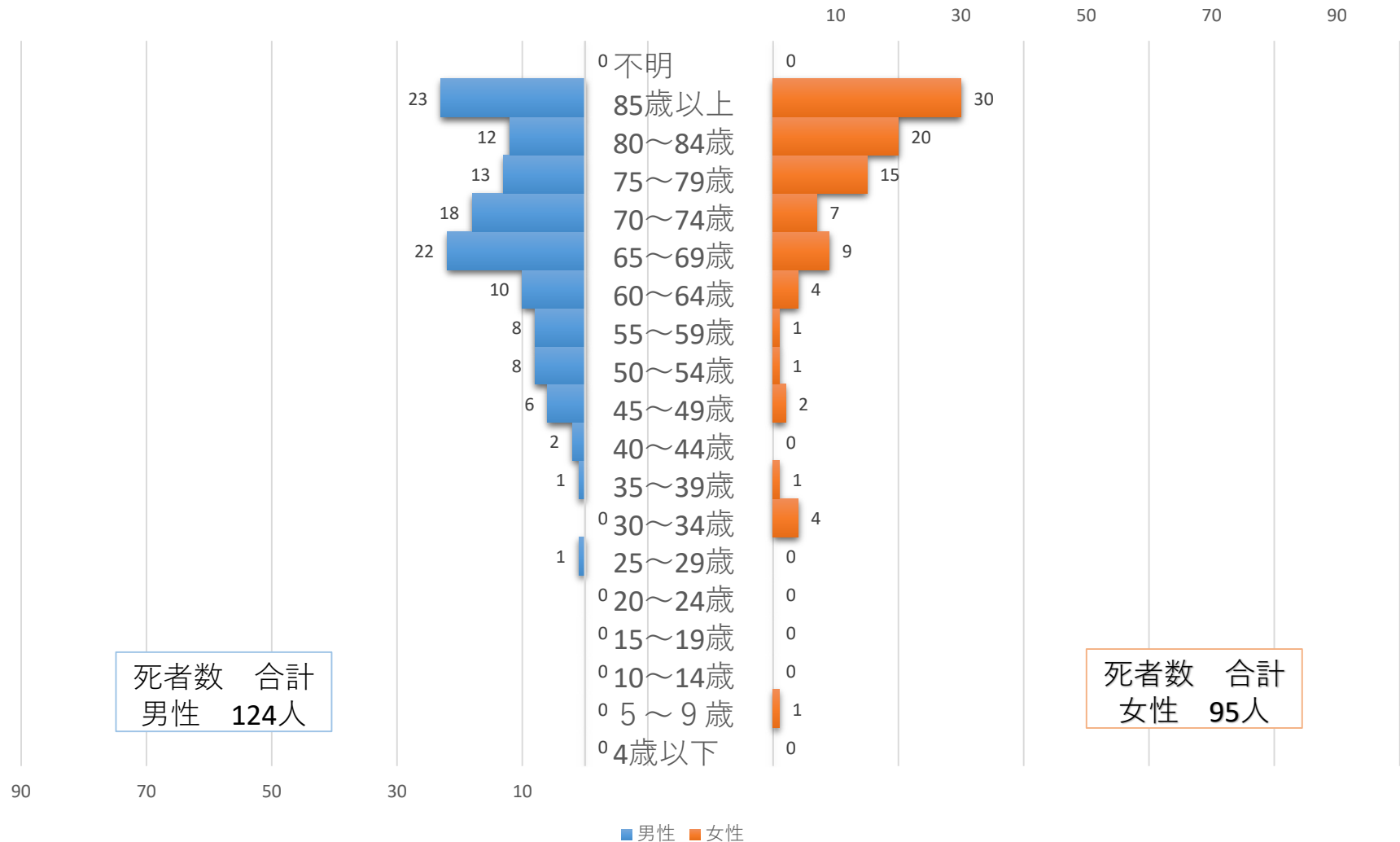
*ただし、死者の少ない地域では個別事案の影響が大きいため、必ずしも死者の発生しやすさを示してはいないことに注意（P20参照）

<参考>住宅火災における高齢者の出火原因別死者数（出火原因「ストーブ」） ※都道府県・燃料別

2009～2019年合計値

	電気ストーブ	石油ストーブ	ガスストーブ	その他	計		電気ストーブ	石油ストーブ	ガスストーブ	その他	計
1 北海道	7	29	1	10	47	25 滋 賀	12	5	0	0	17
2 青 森	3	20	0	5	28	26 京 都	18	6	1	0	25
3 岩 手	2	8	0	13	23	27 大 阪	42	7	4	0	53
4 宮 城	6	16	0	1	23	28 兵 庫	37	15	1	0	53
5 秋 田	6	17	0	1	24	29 奈 良	5	5	0	0	10
6 山 形	0	5	0	0	5	30 和歌山	2	6	0	0	8
7 福 島	5	9	0	0	14	31 鳥 取	3	1	0	1	5
8 茨 城	5	13	0	0	18	32 島 根	1	4	0	0	5
9 栃 木	6	8	0	0	14	33 岡 山	11	12	0	0	23
10 群 馬	8	7	0	1	16	34 広 島	14	13	0	1	28
11 埼 玉	24	18	0	0	42	35 山 口	9	8	0	0	17
12 千 葉	24	21	1	1	47	36 徳 島	2	0	0	0	2
13 東 京	33	10	5	0	48	37 香 川	9	7	0	0	16
14 神奈川	38	12	3	0	53	38 愛 媛	11	8	1	0	20
15 新 潟	8	33	0	3	44	39 高 知	8	2	0	0	10
16 富 山	1	11	0	0	12	40 福 岡	12	6	0	0	18
17 石 川	4	11	0	0	15	41 佐 賀	2	4	0	0	6
18 福 井	1	6	0	2	9	42 長 崎	7	3	1	0	11
19 山 梨	1	3	0	0	4	43 熊 本	4	6	1	0	11
20 長 野	7	17	2	0	26	44 大 分	1	6	1	0	8
21 岐 阜	6	9	1	0	16	45 宮 崎	1	2	0	0	3
22 静 岡	13	6	3	0	22	46 鹿 児 島	8	12	0	0	20
23 愛 知	43	25	4	1	73	47 沖 縄	4	0	0	0	4
24 三 重	7	7	0	1	15	合計	481	459	30	41	1,011

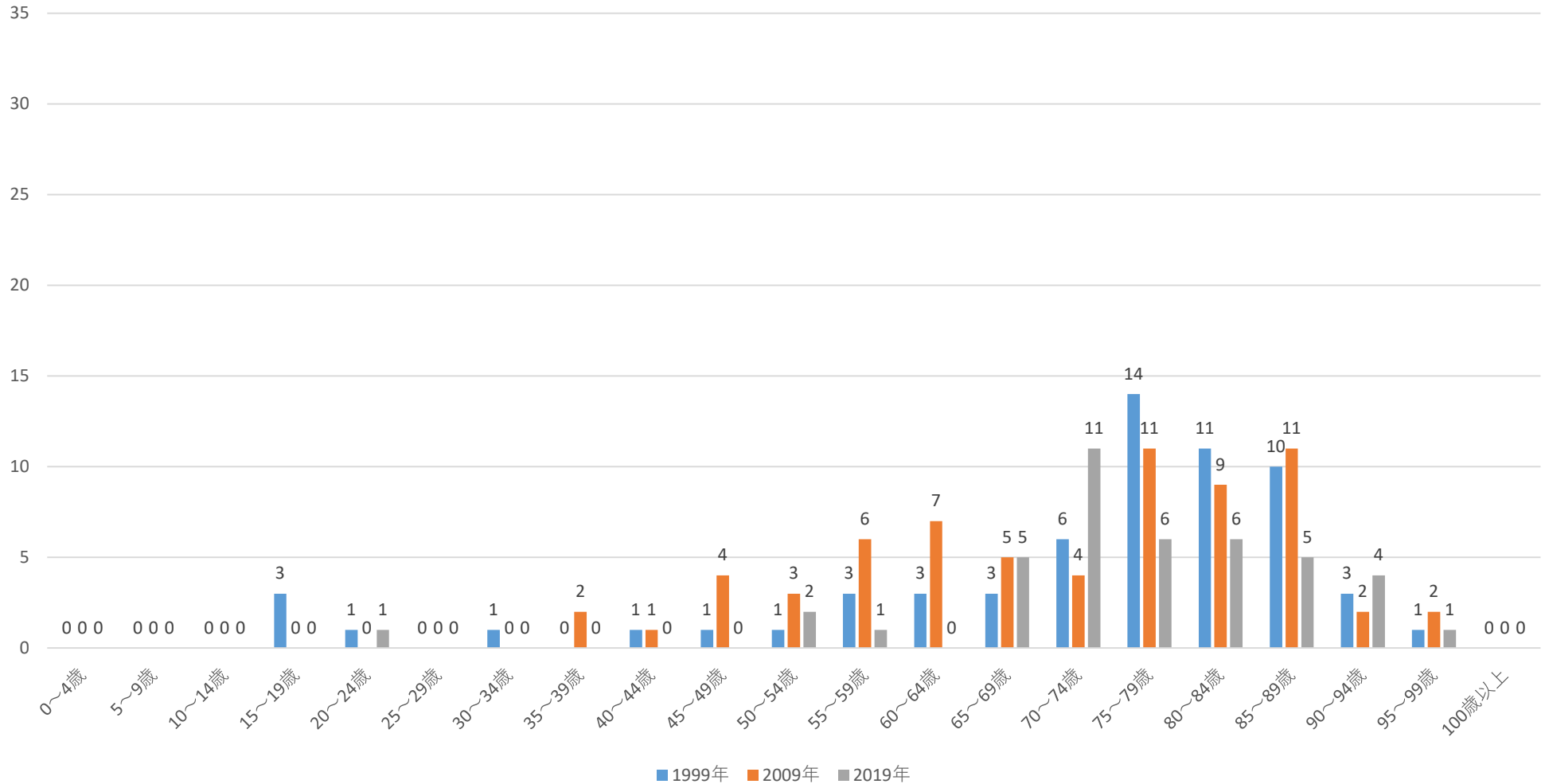
出火原因別死者数 「こんろ」 2014～2018年合計



○こんろによる火災における死者数は、男性では65～69歳で大きく増加してから減少に転じるのに比べて、女性では、高齢化に従って増加する傾向がある。

(人)

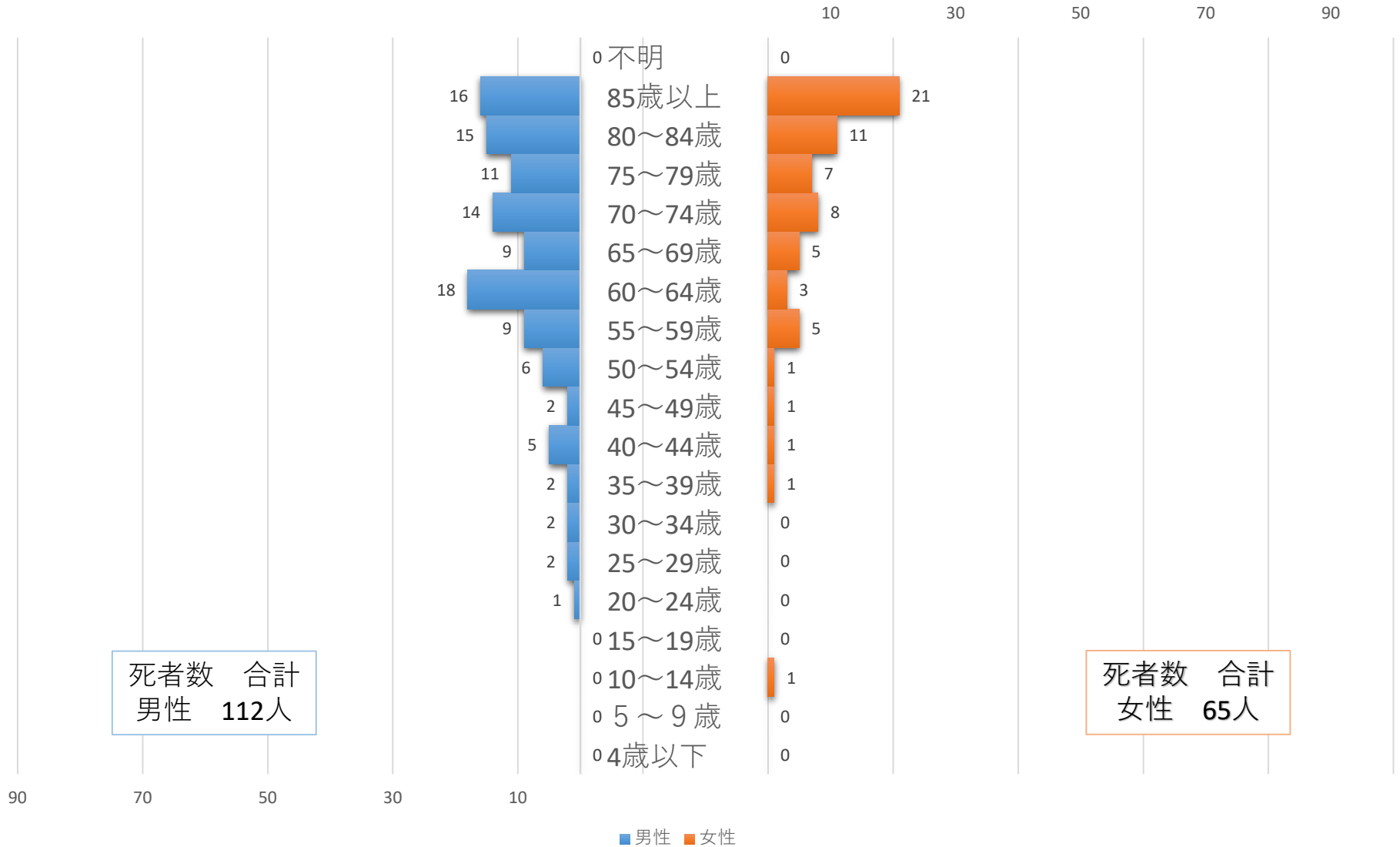
出火原因別死者数「こんろ」



○こんろによる火災においては、特に2019年では70～74歳での死者が一番多く、高齢化すると減少に転じる傾向がある。

出火原因別死者数 「電気関係」 2014～2018年合計

※電気関係：出火原因が「電灯・電話等の配線」「配線器具（テーブルタップ等）」「電気機器」「電気装置（コンデンサ等）」の合計

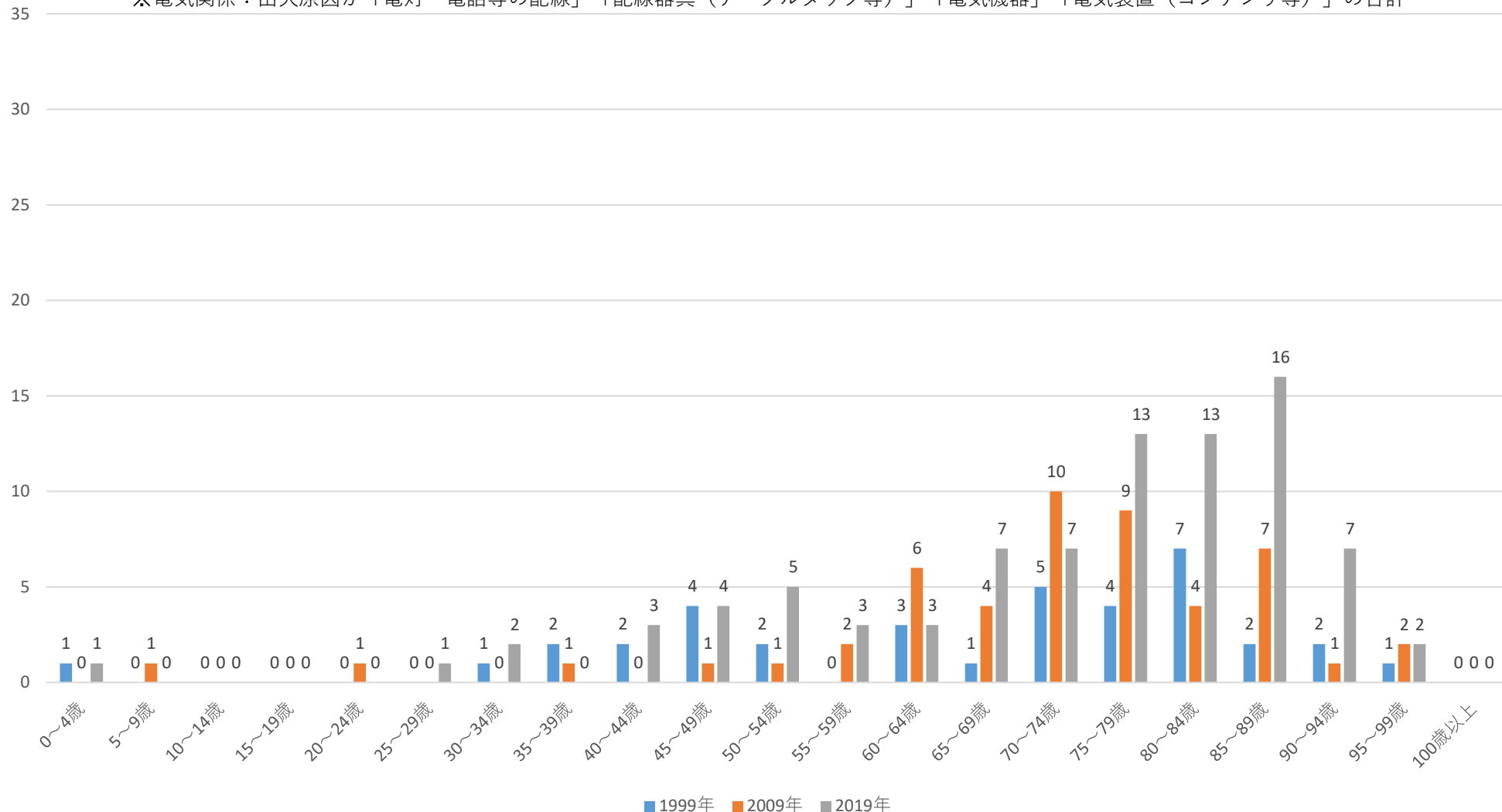


○電気関係による火災における死者数は、男性では60～64歳で大きく増加してから減少に転じるのに比べて、女性では、高齢化に従って増加する傾向がある。

(人)

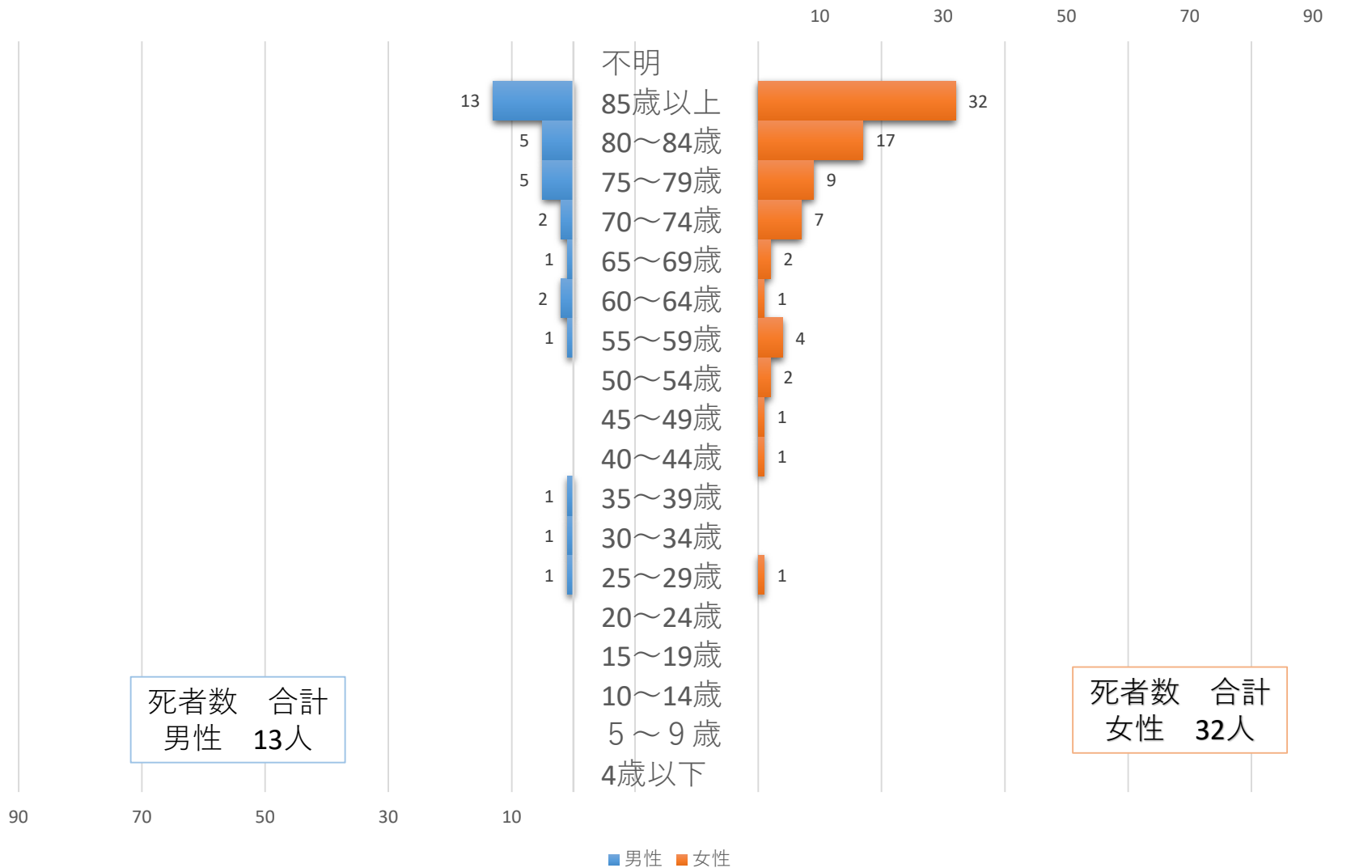
出火原因別死者数「電気関係」

※電気関係：出火原因が「電灯・電話等の配線」「配線器具（テーブルタップ等）」「電気機器」「電気装置（コンデンサ等）」の合計



- 電気関係による火災においては、近年死者数が増加していることが分かる。
- また、以前よりも死者数のピークが高齢化している。

出火原因別死者数 「灯火」 2014～2018年合計



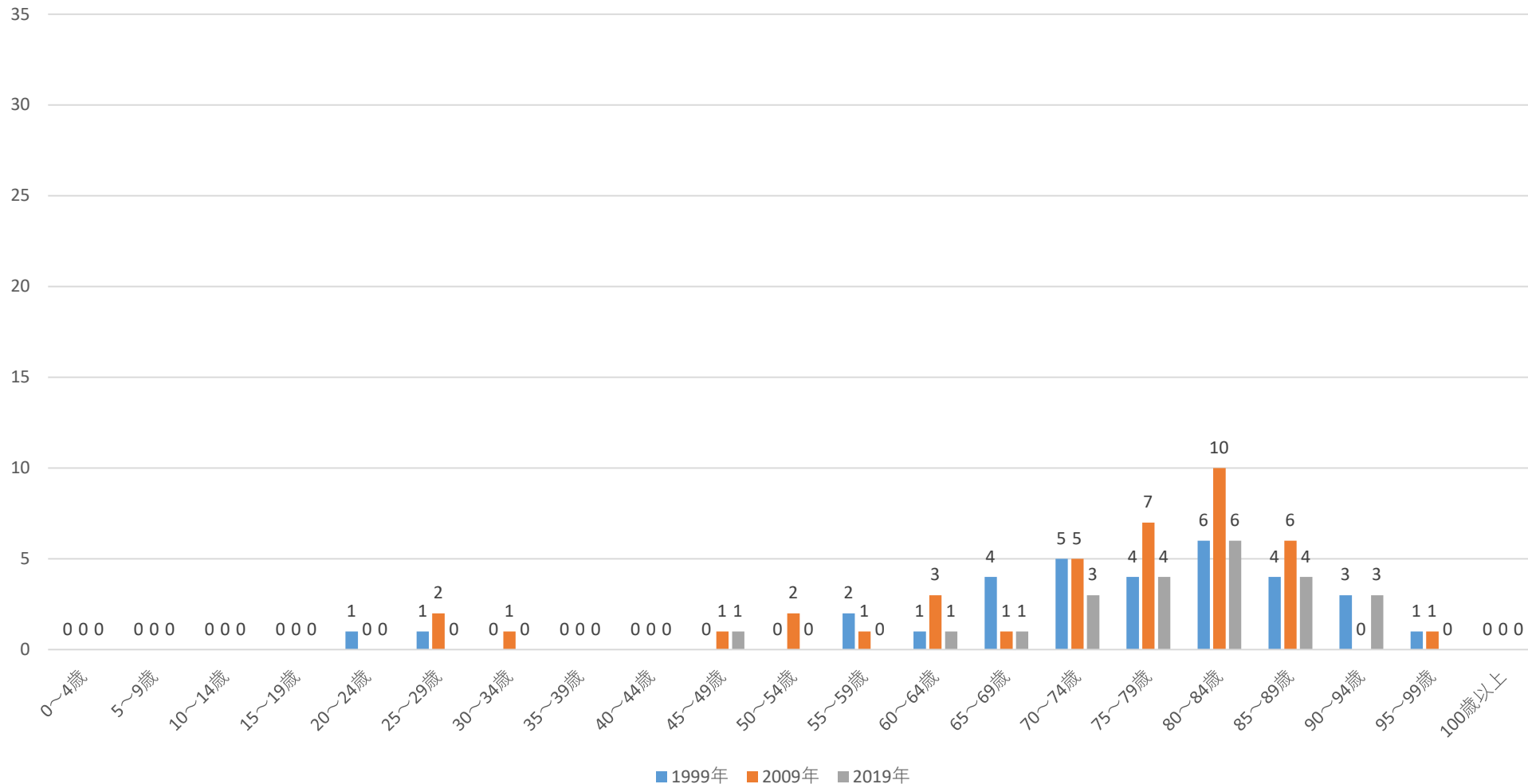
死者数 合計
男性 13人

死者数 合計
女性 32人

- 灯火による火災における死者数は、男性よりも女性の方が多い。
- 高齢化するに従い、男性と女性の差異が大きくなる傾向がある。

(人)

出火原因別死者数「灯火」



○灯火による火災については、1999年と2019年を比べても大きな違いは見受けられない。

出火原因別住宅火災死者数（2014～2018年合計）

出火原因	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	54～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳以上	合計
たばこ	0	1	0	1	1	6	4	6	17	25	41	59	73	119	97	97	79	33	19	3	0	681
ストーブ	3	6	1	1	5	3	1	2	6	8	12	23	22	44	59	90	108	97	48	16	0	555
こんろ	0	1	0	0	0	1	3	2	2	8	9	9	14	31	25	27	32	37	13	3	0	217
電気関係	1	1	4	1	4	3	2	5	8	5	19	15	25	26	30	45	57	53	26	5	0	336
灯火	0	0	0	0	0	2	1	1	1	1	2	5	3	3	8	14	22	24	19	2	0	108
こたつ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	4	6	6	5	8	7	1	0	42
マッチ・ライター	0	0	0	0	3	0	1	0	1	1	3	3	2	3	9	8	11	8	1	4	0	58

出火原因別死者についての集計結果総括

たばこ

- たばこの喫煙率は年齢層だけではなく、性別や世代によっても異なるため、現時点の年齢別の死者数のみではなく、それがどのように推移していくかを分析する必要がある。
- 現在の死者数は65歳～69歳の男性が多いが、今後この年代が高齢化することにより、死者数が増加する可能性もあるが、この世代の喫煙率を下げることや、火災になりにくいたばこに切り替えることで大幅に減少する可能性もある。

ストーブ

- ストーブによる死者数は、近年では全体としての死者数は減少しているため、引き続き安全装置付きの機器の利用促進などの対策を進めることが重要。
- 高齢化に従い、男女ともに死者が増加しているため、特に高齢者におけるストーブの利用方法や、ストーブの周りの整理整頓などを重点的に点検することで、死者をより減少させることが出来ると考えられる。

こんろ

- こんろによる死者数は、男女で傾向が異なる。女性は高齢化に従って死者数が増加するのに比べて、男性では65～69歳で急に死者数が増加する。
- これは、定年退職などで料理をするようになるなど、生活習慣が変わることに起因しているのではないかとと思われる。

電気関係

- 電気関係による死者数は、他の要因と異なり近年増加傾向にあり、高齢化するに従い大幅に増加している。
- また、男性では60～64歳で急に死者数が増加しており、「こんろ」と同様に男性の生活習慣が定年等を契機に変化することに起因しているのではないかとと思われる。

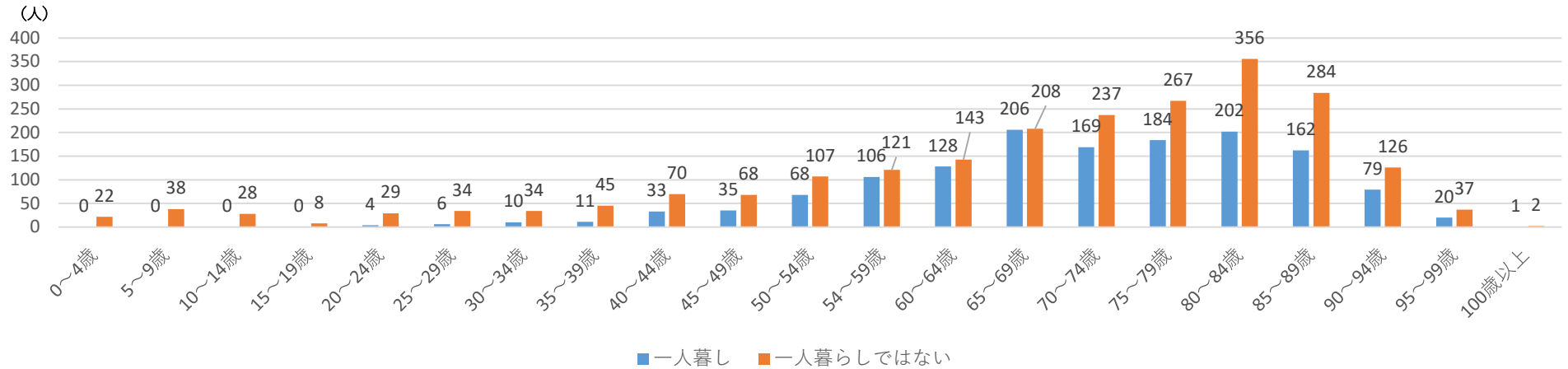
灯火

- 灯火による死者数は、男性よりも女性の方が多く、高齢化に従ってその差は大きくなる。
- これは、男性よりも女性の方が平均寿命が長いため、配偶者を亡くした後、仏壇でのろうそくの利用が増えることなどに起因しているのではないかとと思われる。

3 独居・非独居別死者数

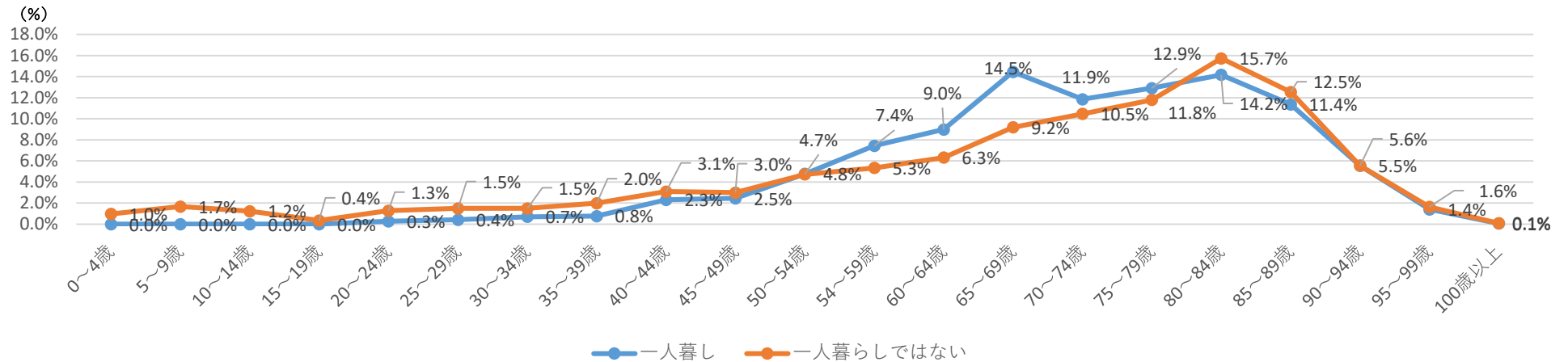
独居・非独居別死者数(2014～2018年合計)

住宅火災の死者数 (寝たきりではない)



※一人暮らしではない…家族別棟、家族留守 含む

年齢階層別構成比



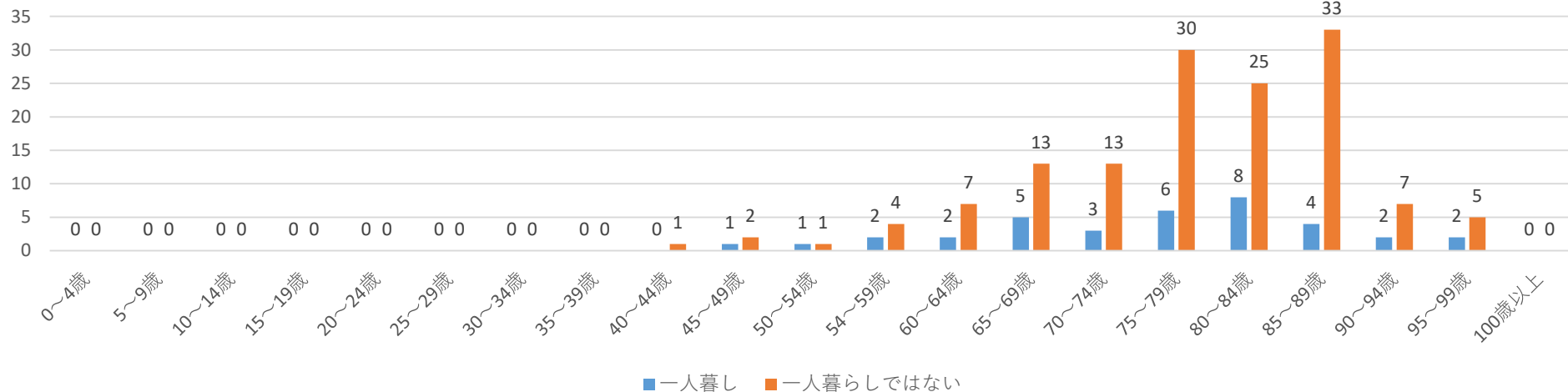
○全年齢層で一人暮らしではない死者が、一人暮らしの死者数を上回り、70歳以降その差は大きくなる。(ただし、それぞれの母数が異なるため、単純な比較は出来ない)

○比率で見た場合、65～69歳の一人暮らしの死者の割合が特に高い傾向がある。

(参考) 独居・非独居別死者数(2014～2018年合計)

住宅火災の死者数(寝たきり)

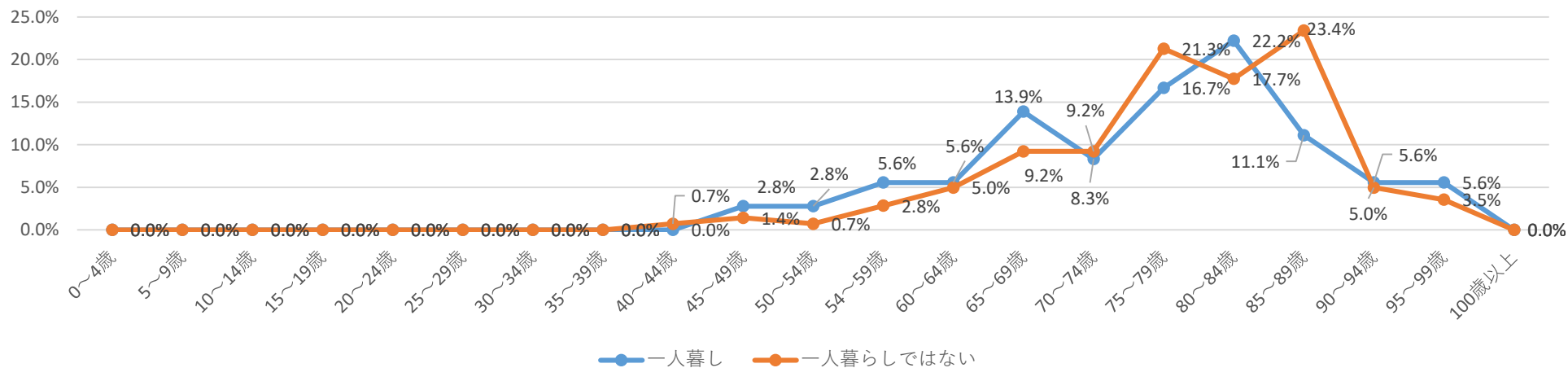
(人)



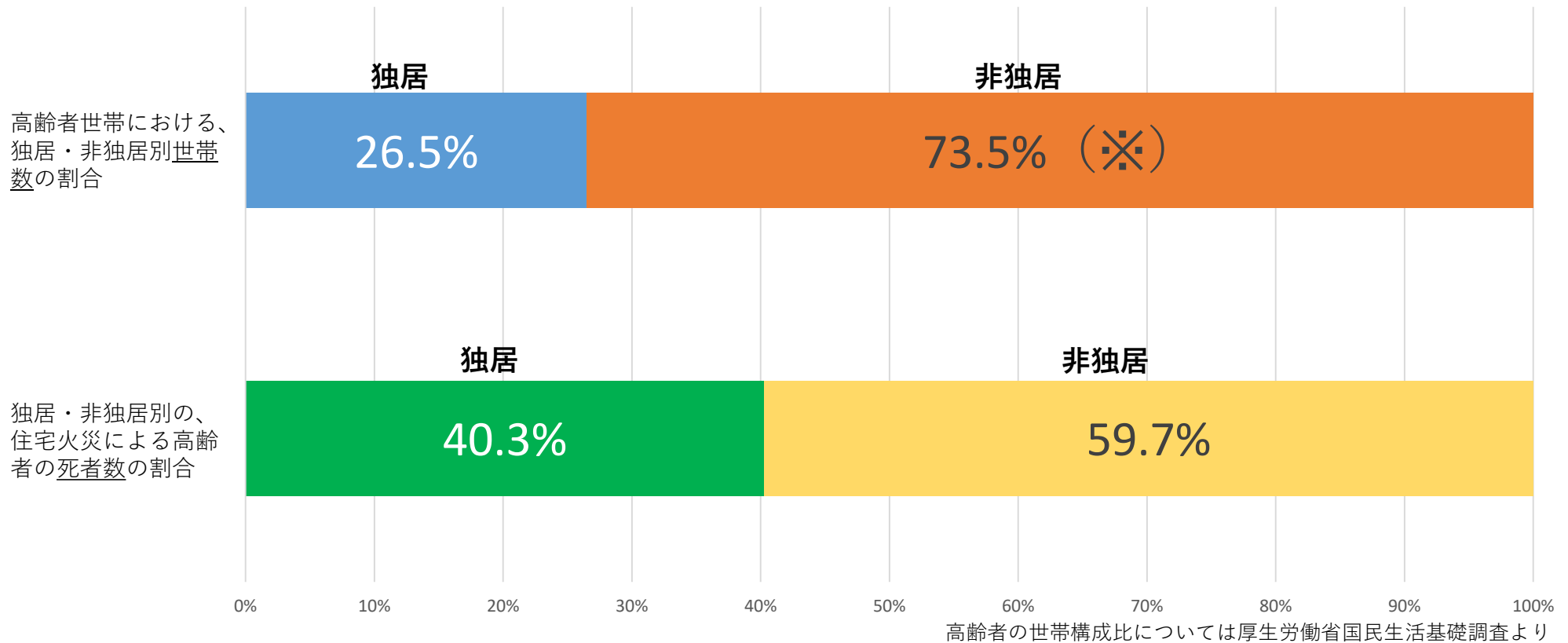
※一人暮らしではない…家族別棟、家族留守 含む

年齢階層別構成比

(%)



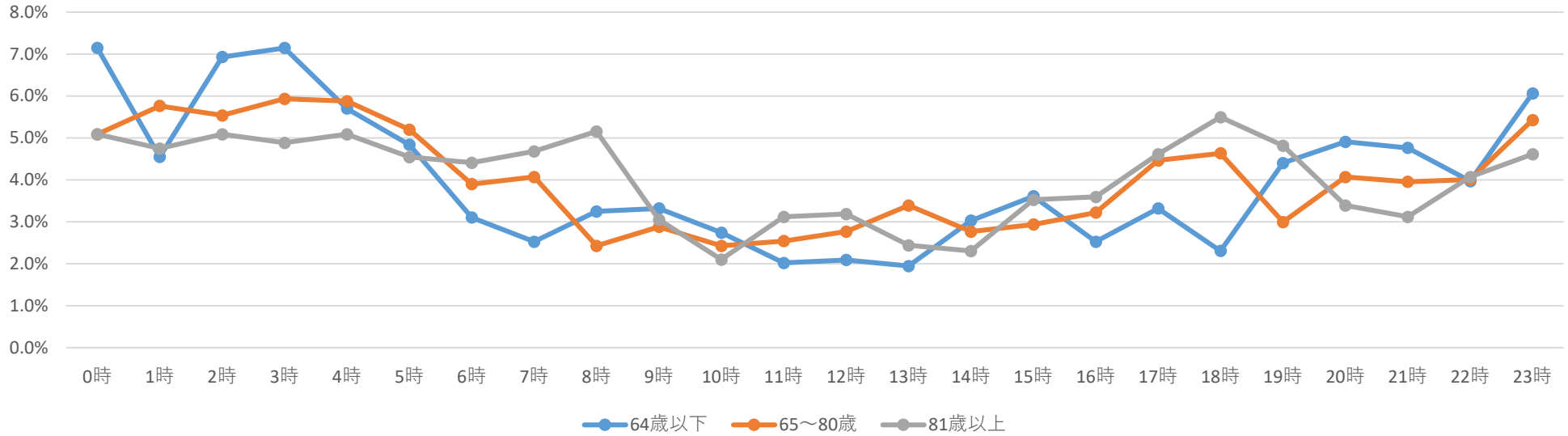
高齢者の世帯状況（独居・非独居）と、住宅火災による高齢者の死者の世帯状況（2014～2018年合計）



- 高齢者の世帯構成比に比べ、高齢者の死者数比では、独居世帯が高くなっている。
- なお、非独居世帯（※）には高齢者のみ世帯、高齢者以外と居住する世帯が含まれるため、人数で比較した場合、独居の割合は更に少ないと想定される。
- このため、独居の高齢者が火災により死亡する可能性は、非独居の高齢者に比べて高いと考えられる。

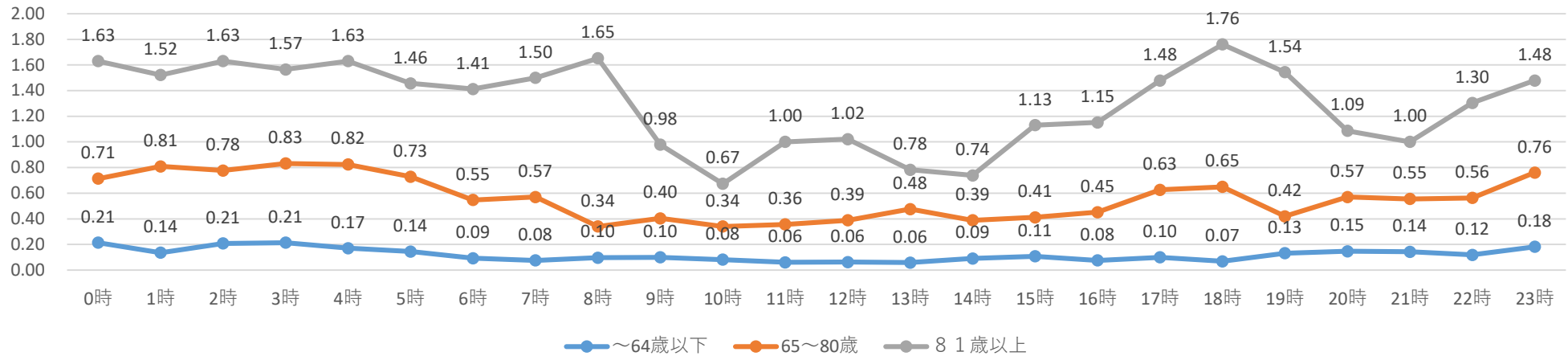
4 出火時間帯別死者

出火時間帯別死者数割合（各年齢層別）



出火時間帯別死者数人口比率

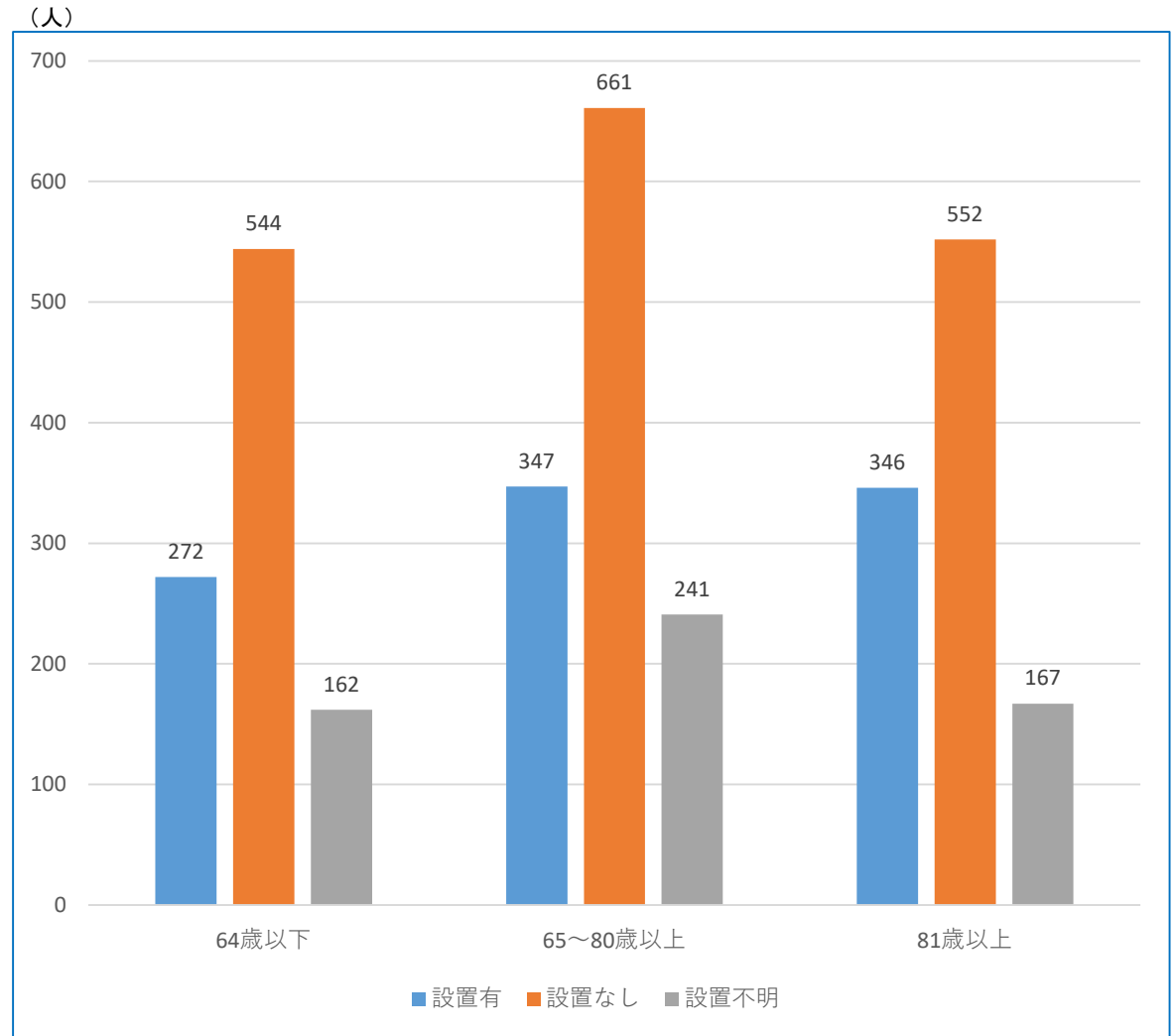
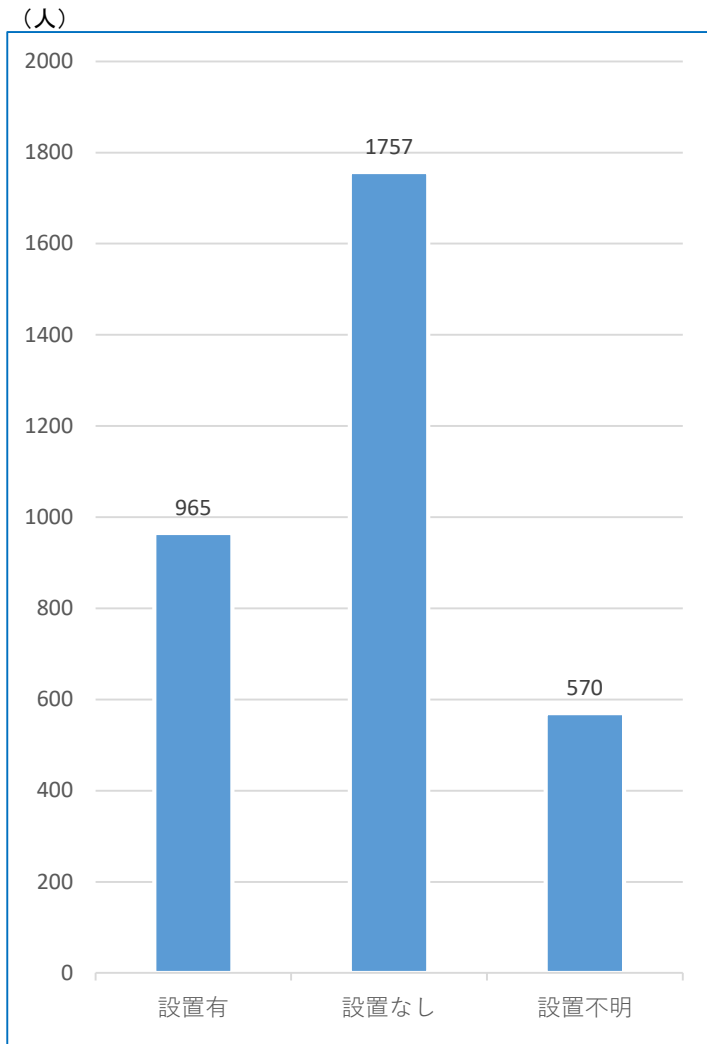
(人口1万人あたりの死者数)



- 高齢者の方がいずれの時間帯でも死者数が多い。
- いずれの年齢でも夜間・早朝の死者数割合が大きく、81歳以上では特に18時頃の死者数割合が大きい。

5 死者が発生した住宅火災における住警器の設置状況

死者が発生した住宅火災における住警器の設置状況別死者数



○住宅用火災警報器の設置率が8割超であることを踏まえると、設置されていない場合の死者数が非常に大きいことが分かる。(設置されていない2割弱の世帯における死者数が、設置されている8割強の世帯の約2倍に達している。)

○年齢層による傾向の違いは見られない。

【参考】第1号被保険者数と要支援・要介護認定者数の割合

介護保険事業

●第1号被保険者数（2月末現在）

第1号被保険者（65歳以上の高齢者）数は、3,522万人

●要介護（要支援）認定者数（2月末現在）

要介護（要支援）認定者数は656.5万人（男性 206.2万人、女性 450.3万人）
第1号被保険者に対する65歳以上の認定者数の割合は、**約18.3%**

※厚生労働省HP 介護保険事業状況報告（暫定） 平成31年2月分

高齢者の生活実態等アンケート調査票

I 年齢及び家族構成について

- F 1 あなたの年齢をお答えください。(○はひとつ)**
1. 65歳～70歳 3. 76歳～80歳
2. 71歳～75歳 4. 81歳以上
- F 2 あなたの性別をお答えください。(○はひとつ)**
1. 男性 2. 女性
- F 3 あなたの世帯の世帯構成は以下のどれにあてはまりますか。(○はひとつ)**
1. 一人暮らし
2. 2人以上の世帯で、あなた自身を含め全員が65歳以上の世帯
3. 2人以上の世帯で、65歳以上と以下の方が同居している世帯

II 普段の生活について

1 日常生活について

問 1 ご自宅でのあなたの歩行や身体の状況について、最もあてはまるものをお選びください。(○はひとつ)

1. 補助等が無くても支障なく歩ける
2. 補助器具(杖・歩行器・シルバーカー)を使っている
3. 車椅子を使っている
4. ひとりで起き上がるのは難しい
5. その他

問 2 現在、健康上の問題で日常生活に支障がありますか。(○はひとつ)

1. ある 2. ない

問 3 あなたは、どのくらいの頻度で外出をしますか。(○はひとつ)

1. ほぼ毎日 4. 週1日
2. 週4～5日 5. それ以下
3. 週2～3日 6. 外出はしない

2 生活習慣や居住環境におけるアドバイスを受ける機会について

問 4 普段、生活習慣や居住環境についてアドバイスを受ける機会がありますか。(○はひとつ)

1. ある
2. ない →問7に進んでください

問 5 生活習慣や居住環境についてのアドバイスは誰から受けていますか。(あてはまるものすべて○)

1. ケアマネージャー 5. 自治体などの公的機関
2. ホームヘルパー 6. 地域のボランティア・町内会
3. 介護士・介護施設職員 7. その他 ()
4. 家族・親族

問 6 どのような方法でアドバイスを受けていますか。(あてはまるものすべて○)

1. 戸別訪問 5. 電話
2. 普段の会話 6. スマートフォンなどを利用したテレビ電話
3. 町会や自治体単位での集会など 7. インターネット
4. 手紙やお知らせ 8. その他 ()

問 7 普段、消防職員・消防団員以外から、
火災予防対策についてアドバイスを受ける機会がありますか。(〇はひとつ)

1. ある
2. ない →問 1 0 に進んでください

問 8 火災予防対策についてのアドバイスは誰から受けていますか。(あてはまるものすべて〇)

1. ケアマネージャー
2. ホームヘルパー
3. 介護士・介護施設職員
4. 家族・親族
5. 自治体などの公的機関
6. 地域のボランティア・町内会
7. その他 ()

問 9 どのような方法でアドバイスを受けていますか。(あてはまるものすべて〇)

1. 戸別訪問
2. 普段の会話
3. 町会や自治体単位での集会など
4. 手紙やお知らせ
5. 電話
6. スマートフォンなどを利用したテレビ電話
7. インターネット
8. その他 ()

Ⅲ	生活習慣について
---	----------

1 調理用の加熱器具について

問 10 あなたのご家庭では、調理用の加熱器具(こんろなど、お湯を沸かしたり煮炊きをする際に使う器具)をどれくらいの頻度で使用しますか。(〇はひとつ)

1. 毎日
2. 週に4～5日
3. 週に2～3日
4. 週に1日
5. それ以下
6. 使っていない →問 1 7 に進んでください

問 11 あなたのご家庭において最もよく使っている調理用の加熱器具の燃料は以下のどれですか。(〇はひとつ)

1. ガス(カセットこんろを除く)
2. 電気(IH含む) →問 1 4 に進んでください
3. カセットこんろのみ →問 1 4 に進んでください
4. その他 () →問 1 4 に進んでください

問 12 使用しているガスこんろに安全装置(S i センサーなど)はついていますか。(〇はひとつ)

※ S i センサー…調理油過熱防止装置、立ち消え安全装置、消し忘れ消火機能等の安全機能を有したものの。

※片側だけでも安全装置があれば、「1.ついている」をお選びください。

1. ついている →問 1 4 に進んでください
2. ついていない
3. わからない →問 1 4 に進んでください

問 13 安全装置のついているガスこんろに交換していない理由がありますか。(あてはまるものすべて〇)

1. 値段が高い
2. 使い勝手が悪い
3. 交換がめんどう
4. まだ使用が可能なため
5. その他

問 14 あなたのご家庭において最もよく使っている調理用の加熱器具は、何年くらい使用していますか。(〇はひとつ)

1. 1年以内
2. 5年以内
3. 10年以内
4. 10年超
5. わからない

問 15 あなたのご家庭で最もよく使用している調理用の加熱器具の周囲はどのような状況ですか。
(○はひとつ)

1. 何も置かれていない
2. 可燃物はあるが整理整頓されている
3. 周囲に可燃物が多く置かれている

問 16 調理用の加熱器具を使用していて火災の危険を感じたことはありますか。(あてはまるものすべて○)

1. 火元から離れてしまい油等を加熱しすぎた
2. 火元の近くに置いた可燃物が焦げた
3. 衣類に着火した
4. 操作方法を誤り、火災の危険を感じた
5. 器具が故障しており、火災の危険を感じた
6. 危険を感じたことはない

2 暖房器具について

問 17 あなたのご家庭では、冬の間、暖房器具を使用する頻度はどれくらいですか。(○はひとつ)

1. 毎日
2. 週に4～5日
3. 週に2～3日
4. 週に1日
5. それ以下
6. 使っていない →問23に進んでください

問 18 冬の間、暖房器具を使用する時間帯を以下からすべてお選びください。(あてはまるものすべて○)

1. 明方
2. 朝
3. 日中
4. 夕方
5. 晩
6. 夜中

問 19 あなたのご家庭で冬の間最も使用している暖房器具の燃料は以下のどれですか。(○はひとつ)

1. 石油
2. ガス
3. 電気
4. 炭・薪

問 20 あなたのご家庭で冬の間最も使用している暖房器具について、何年くらい使用していますか。
(○はひとつ)

1. 1年以内
2. 5年以内
3. 10年以内
4. 10年超
5. わからない

問 21 あなたのご家庭で冬の間最も使用している暖房器具の周囲の状況について、
以下の中で最もあてはまるものをお選びください。(○はひとつ)

1. 何も置かれていない
2. 整理整頓されている
3. 近くに衣類などがかけられている
4. 周囲に可燃物が多く置かれている

問 22 暖房器具を使用していて火災の危険を感じたことはありますか。(あてはまるものすべて○)

1. 暖房器具の近くに置いていた可燃物に着火した
2. 消し忘れて外出した
3. 衣類や寝具が接触し着火した
4. 近くに干していた洗濯物が落下し着火した
5. 操作方法を誤り、火災の危険を感じた
6. 使用する燃料を誤った
7. 器具が故障しており、火災の危険を感じた
8. 危険を感じたことはない

3 喫煙状況について

問 23 あなたおよび同居する家族の喫煙状況について、最もあてはまるものをお選びください。
(○はひとつ)

1. 自身が喫煙者である
2. 自身は喫煙者ではないが、同居家族が喫煙者である
3. 自身は喫煙者ではなく、同居家族にも喫煙者はいない →問 2 6 に進んでください

問 24 喫煙している場所は主にどこですか。(○はひとつ)

※あなたご自身が喫煙者ではない場合、同居家族が最も喫煙している場所をお答えください。

1. 居間
2. 寝室
3. 台所
4. トイレ
5. ベランダ
6. その他

問 25 喫煙していて火災の危険を感じたことはありますか。(あてはまるものすべて○)

※あなたご自身が喫煙者ではない場合、同居家族が喫煙している際にあったことをお考え下さい。

1. 消し忘れていた
2. 消したつもりが完全に消火していなかった
3. 衣類に着火した
4. 室内で喫煙していたところ絨毯等に火種が落下した
5. 寝転びながら喫煙していたところ寝具等に火種が落下した
6. 危険を感じたことはない

4 灯明について

問 26 あなたのご家庭では、神棚や仏壇に灯明(ろうそくや線香など)を使っていますか。(○はひとつ)

1. 毎日
2. 週に4～5日
3. 週に2～3日
4. 週に1日
5. それ以下
6. 使っていない →問 2 8 に進んでください

問 27 灯明を使用していて火災の危険を感じたことはありますか。(あてはまるものすべて○)

1. ろうそくや線香が倒れた
2. 消し忘れて外出した
3. 衣類が接触し着火した
4. 神棚の装飾等に着火した
5. 危険を感じたことはない

5 コンセントについて

問 28 コンセントの清掃はしていますか。(○はひとつ)

1. 定期的に清掃している
2. 半年に1回程度清掃している
3. 年に1回程度清掃している
4. 清掃していない

問 29 コンセントの使用状況について、あてはまるものをすべてお選びください。(あてはまるものすべて○)

1. 常にすべての差し込み口が埋まっている
2. 過電流(たこ足配線)となっている
3. 配線が家具等の下敷きになっている箇所がある
4. コンセント周囲が変色、変形している
5. 電気器具等を使用しない時はコンセントから抜いている
6. あてはまるものはない

6 電化製品の使用について

問 30 あなたの家庭で使用している電化製品の買い換えの時期として、最もあてはまるものをお選びください。(〇はひとつ)

1. 定期的に買い換えている
2. より使いやすく便利な製品が開発されると買い換えている
3. より安全性の高い製品（安全装置付き等）が開発されると買い換えている
4. 故障するまで使用している

問 31 10年前と比較して、電化製品の各器具の取り扱いについて以下のようなことがありますか。(あてはまるものすべて〇)

1. 操作方法を忘れる事がよくある
2. 細かい操作が難しくなった
3. 電源の消し忘れが多くなった
4. コードや機器の扱いが乱雑になった
5. あてはまるものはない

IV	居住環境について
-----------	-----------------

1 居室の環境について

居室内の生活用品等の量及び散乱の有無や、衣類及び寝具等の状況について、それぞれあてはまるものをお選びください。

		あ と て は ま る	あ や は ま る	あ ま り は ま ら な い	あ ま つ は た ま ら な い
		1	2	3	4
(〇はよこに1ずつ) →					
問32	生活用品が散らかっている	1	2	3	4
問33	生活用品が多い	1	2	3	4
問34	洗濯物や衣類が常に室内にいくつも掛けられている (収納されていない)	1	2	3	4
問35	洗濯物を乾かす際に表面が高温になるような暖房器具を使用している	1	2	3	4
問36	就寝時にストーブ※を使用している	1	2	3	4

※機器の表面が高温になるものや、発熱体が露出しているもの

問 37 あなたは防災品※を使用していますか。(〇はひとつ)

1. 防災品（寝具・カーテン等）を使用している
2. 防災品を使用していないが、今後購入を検討している
3. 防災品を使用しておらず、今後も購入の予定は無い
4. 防災品かどうかわからない
5. 防災品を知らなかった

※防災品・・・防災性能を有する物品及び製品で以下のラベルなどが付されているもの



2 住居について

問 38 あなたのお住まいは以下のどれにあてはまりますか。(○はひとつ)

1. 戸建て
2. マンション・アパート
3. その他

問 39 お住まいの居住階について、戸建ての場合は建築階数を、
マンション・アパートの場合は居住している階数を記載してください。(数字を記入)

() 階

問 40 あなたのお住まいの所有形態は以下のどれにあてはまりますか。(○はひとつ)

1. 自己または家族等所有 (持ち家)
2. 賃貸
3. 公営

問 41 あなたが主に生活している場所は、以下のどちらですか。(○はひとつ)

1. 居間と寝室が一緒である
2. 居間と寝室が別である




問 42 あなたのお住まいの築年数をお答えください。(○はひとつ)

- | | |
|------------|-----------|
| 1. 0～10 年 | 4. 31 年以上 |
| 2. 11～20 年 | 5. わからない |
| 3. 21～30 年 | |

3 住宅用消火器等の設置状況について

問 46 ご自宅に以下のような消火器等はありますか。
以下のイラストをご覧ください、設置しているものをお選びください。（あてはまるものすべて○）

- 1. 設置している（住宅用消火器）
 - 2. 設置している（業務用消火器）
 - 3. 設置している（エアゾール式簡易消火具）
 - 4. 1～3の消火器等は設置していない →問 5 0 に進んでください
- } 問 4 7 に進んでください

1.住宅用消火器	2.業務用消火器	3.エアゾール式簡易消火具
 <p>住宅用 消火器</p> <p>絵で表示 適応火災の 種別が</p>	 <p>業務用 消火器</p> <p>A B C で表示 適応火災が、</p>	 <p>※スプレー缶タイプの消火具、写真は一例</p>

問 47 消火器具をどこに設置していますか。（あてはまるものすべて○）

- 1. 居室
- 2. 寝室
- 3. 台所
- 4. その他（)
- 5. わからない

問 48 あなたの自宅にある最も古い消火器具は設置してからどれくらい経っていますか。（○はひとつ）

- 1. 1年以内
- 2. 5年以内
- 3. 10年以内
- 4. 10年超
- 5. わからない

問 49 消火器具の使用方法はご存知ですか。（○はひとつ）

- 1. 適切な使用方法を知っている
 - 2. だいたいの使用方法は知っている
 - 3. 使用方法がわからない
- } 問 5 1 に進んでください

問 50 【問46で「4.設置していない」とお答えの方にお伺いします】
ご自宅で火災が起きた際、初期消火の方法は決めていますか。
決めている場合は、初期消火の方法をお選びください。（○はひとつ）

- 1. 風呂の水
- 2. 台所・洗面所の水道水
- 3. くみ置きバケツなど
- 4. 飲料水など
- 5. 特に決めていないため、その場にあるものを使用する

4 住宅用火災警報器の設置状況等について

問 51 ご自宅に住宅用火災警報器はありますか。

以下の写真・説明文をご覧ください、お答えください。(○はひとつ)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. 住宅用火災警報器が設置されている | →問 5 2 に進んでください |
| 2. 自動火災報知設備が設置されている | } 問 5 6 に進んでください |
| 3. 設置していない | |
| 4. わからない | |

<p>1. 住宅用火災警報器の例</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>煙式の例</p>  <p>表示灯</p> <p>警報停止ボタン (点検ボタン)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>熱式の例</p>  <p>警報停止ボタン(点検ボタン) 表示灯を兼ねている</p> </div> </div> <p>一般的に自動試験機能を有し、機器の電池切れや故障を自己判断し警報を鳴らす機能がある。</p>	<p>2. 自動火災報知設備とは</p> <p>感知器に引き紐や点検ボタンがないものや、廊下等に発信器が設置されている場合は自動火災報知設備の可能性が考えられます。</p> 
---	---

問 52 住宅用火災警報器はどこに設置されていますか。(あてはまるものすべて○)

1. 寝室
2. 寝室のある階の階段(1階の階段は除く。)
3. 台所
4. 上記以外の居室
5. その他

※住宅用火災警報器は、寝室と寝室がある階の階段上部(1階の階段は除く。)に設置することが必要です。
また、市町村の火災予防条例により、台所やその他の居室にも設置が必要な地域があります。
詳しくは管轄の消防本部・消防署へお尋ね下さい。

問 53 住宅用火災警報器の点検はどれくらいの頻度で実施していますか。(○はひとつ)

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. 月1回以上実施している | 4. 点検方法がわからない |
| 2. 半年に1回以上実施している | 5. 実施していない |
| 3. 年に1回以上実施している | |

問 54 ご自宅の住宅用火災警報器について、設置してからどれくらい経っていますか。(○はひとつ)

- | | |
|----------|------------------|
| 1. 1年以内 | } 問 5 6 に進んでください |
| 2. 5年以内 | |
| 3. 10年以内 | |
| 4. 10年以上 | } 問 5 6 に進んでください |
| 5. わからない | |

問 55 【問54で「4.10年以上」とお答えの方にお伺いします】
住宅用火災警報器の交換は実施していますか。(○はひとつ)

1. 本体の交換を実施した
2. 電池を交換した
3. 交換していない

V	防火意識について
---	----------

1 住宅火災に対する防火意識について

問 56 災害時に協力できるような日常的な近所づきあいがありますか。(○はひとつ)

1. 近所づきあいがある
2. あまり近所づきあいはない
3. 近所づきあいはない

問 57 住宅火災から身を守る上で不安を感じていますか。(○はひとつ)

1. とても不安がある
2. やや不安がある
3. あまり不安はない
4. 全く不安はない →問59に進んでください

問 58 住宅火災から身を守る上で不安な事項を以下からお選びください。(あてはまるものすべて○)

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 暖房器具の取り扱い | 6. 喫煙の状況 |
| 2. 調理器具の取り扱い | 7. 避難の方法 |
| 3. 仏壇等のろうそくや線香 | 8. 火災発生時の初期消火方法について |
| 4. 電気コードや配線類の取り扱い | 9. 災害時に協力できる近所づきあいがないため |
| 5. 部屋に散乱する衣類等 | 10. その他 () |

2 今後の防火対策について

問 59 もしあなたが防火についてのアドバイスや危険箇所の診断などを受けるとしたら、どのような方法で受けたいですか。(○はひとつ)

1. 自宅で実際に具体的な場所を見てもらいアドバイスを受けたい
2. スマートフォンやタブレットなどを利用して遠隔でアドバイスを受けたい
3. ソフトウェア等を活用して自らチェックしたい
4. その他の方法 ()
5. 受けたくない →問 6 2 に進んでください

問 60 上記のようなアドバイスや診断は、誰から受けたいと思いますか。(あてはまるものすべて○)

1. ケアマネージャー
2. ホームヘルパー
3. 介護士・介護施設職員
4. 家族・親族
5. 自治体などの公的機関
6. 消防職員・消防団員
7. 地域のボランティア・町内会
8. その他 ()

問 61 上記のようなアドバイスや診断をどのくらい受けたいと思いますか。(○はひとつ)

1. 積極的に受けたい
2. 受けたい
3. どちらかといえば受けたい

問 62 あなたは消防機関が行う住宅防火診断を受けたことがありますか。(○はひとつ)

1. 受けた事がある →問 6 4 に進んでください
2. 受けた事がない

問 63 先ほどの質問で、消防機関が行う住宅防火診断を受けた事がないとお答えいただきましたが、受けた事がない理由はなぜですか。(あてはまるものすべて○)

1. 時間帯が合わない
2. 外部の者を入れたくない
3. いつ行っているかわからない
4. 実施しているのを知らなかった
5. その他 ()

問 64 その他、具体的に住宅火災予防について消防機関や自治体に求めることがあればご自由にご記入ください。(自由記載)

Report

高齢者の生活実態等に関するアンケート調査 － 調査報告書 －

目次

Contents	Page
調査概要	3
回答者プロフィール	4
調査結果詳細	6
- 1. 普段の生活について	7
- 2. 生活習慣について	11
- 3. 居住環境について	33
- 4. 防火意識について	55
まとめ	64
調査票	67

調査概要

調査方法

質問用紙による自記入式アンケート調査

調査対象者

全国65歳以上の方

※日本能率協会総合研究所が保有する「高齢者6090リサーチモニター」を活用

標本回収数

900標本（回収率69.0%）

調査人数構成	65～70歳	71～75歳	76～80歳	81歳以上
一人暮らし	50	50	50	150
高齢者のみ世帯	50	50	50	150
高齢者以外と同居世帯	50	50	50	150

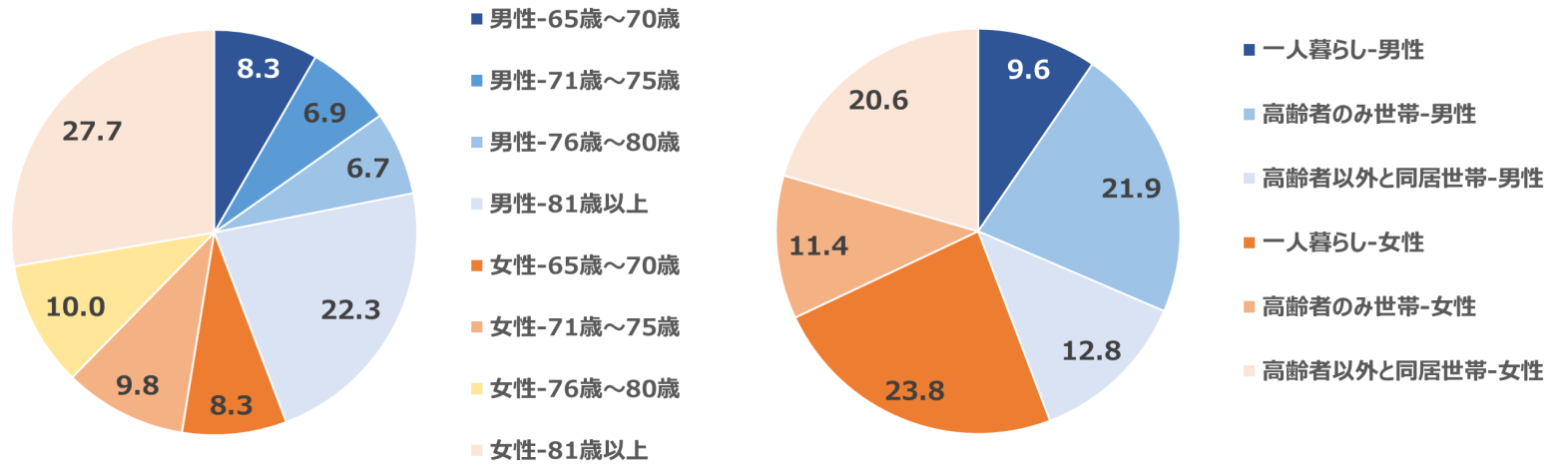
※65歳以上の方を高齢者と定義する

調査実施期間

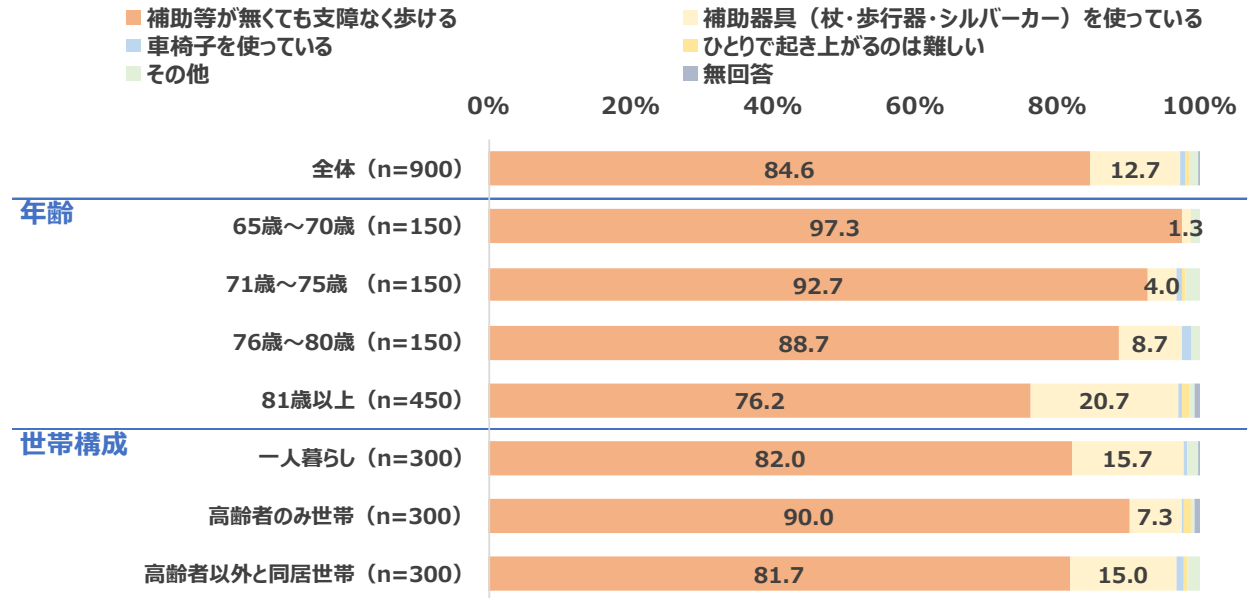
2020年11月13日（金）～11月25日（水）

回答者プロフィール

性別

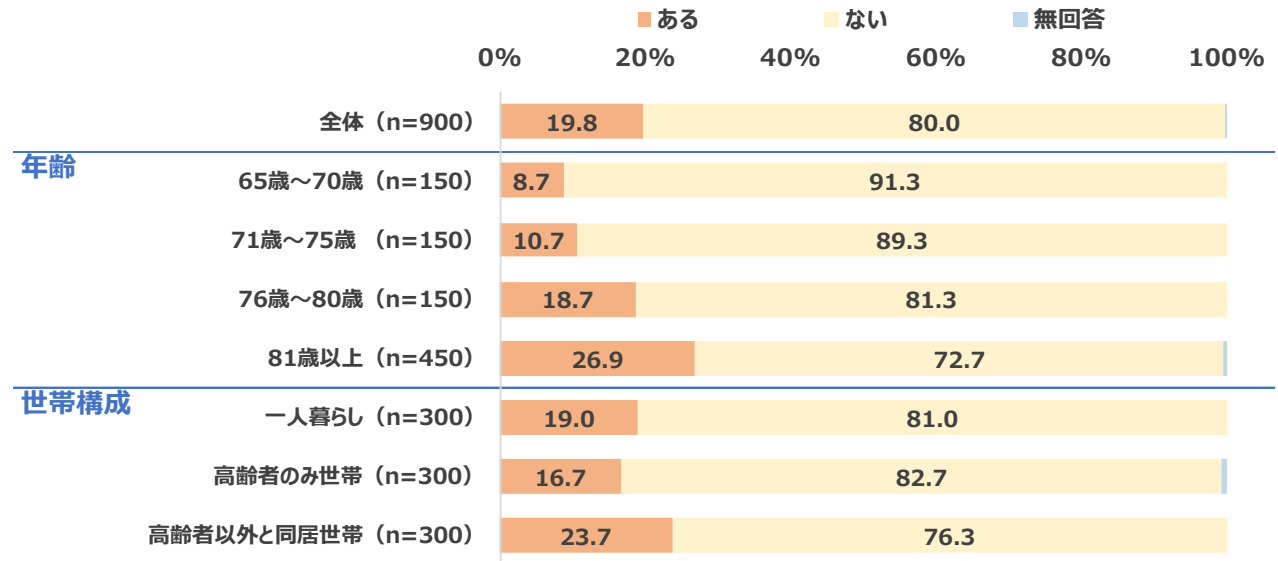


自宅での歩行や身体の状態

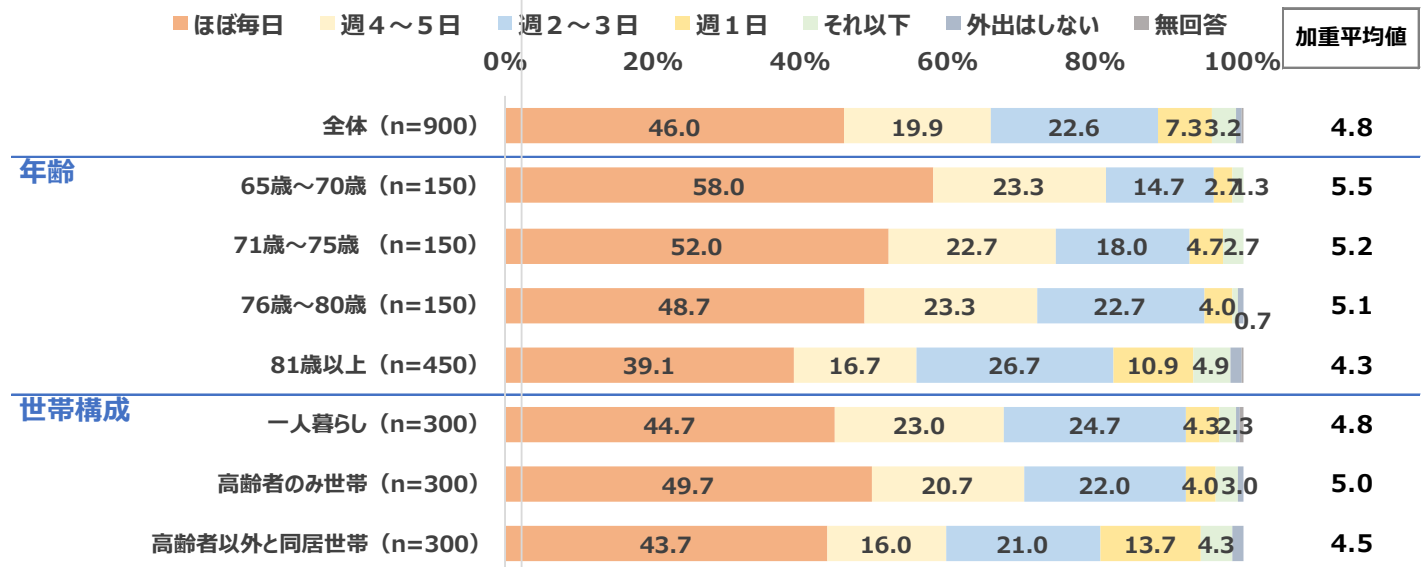


回答者プロフィール

健康状態による日常生活への支障の有無



外出頻度



【加重平均値算出のための階級値設定】

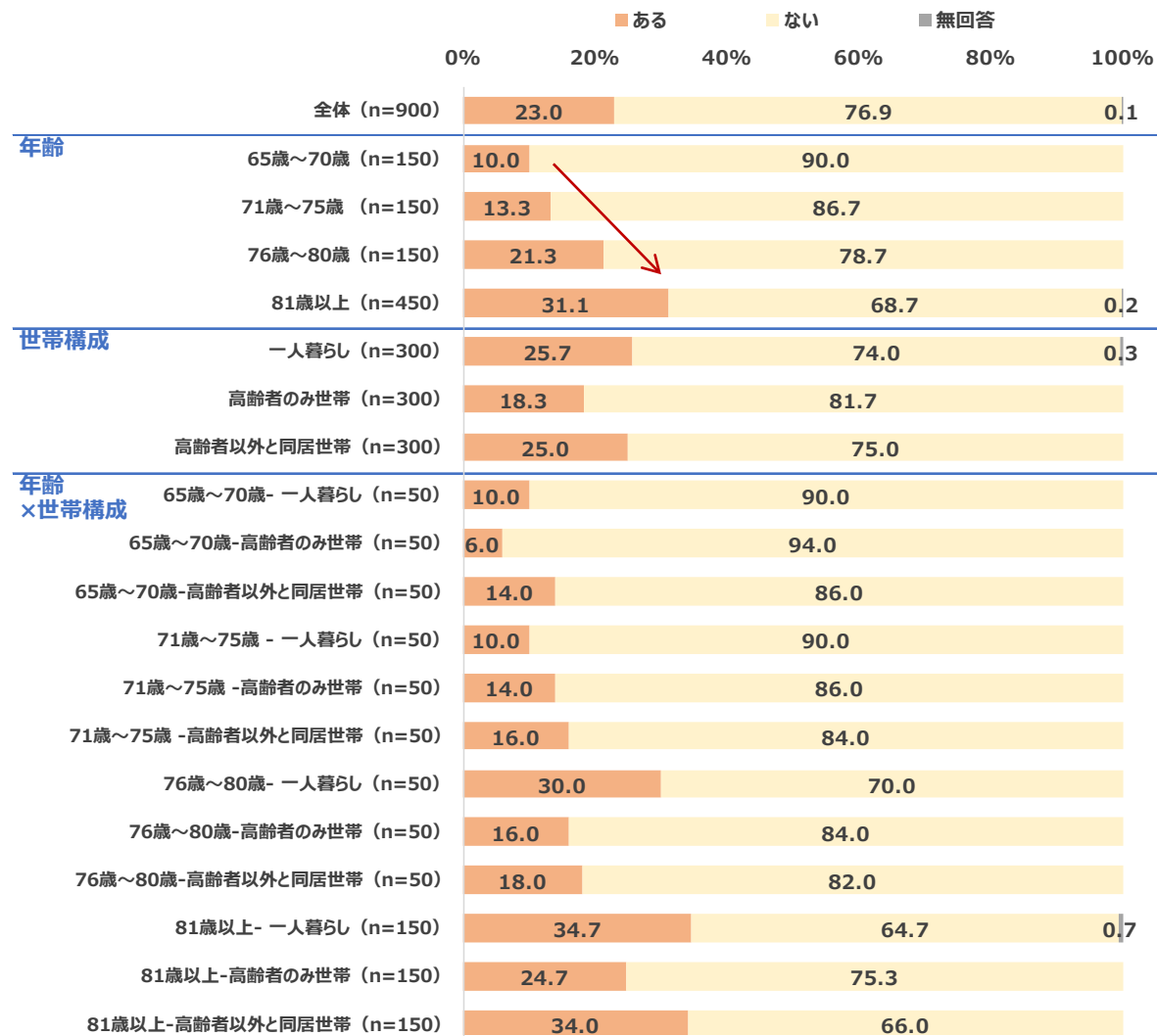
ほぼ毎日	: 7
週4～5日	: 4.5
週2～3日	: 2.5
週1日	: 1
それ以下	: 0.5
外出はしない	: 0

調査結果詳細

Point

- 生活習慣や居住環境についてアドバイスを受ける機会がある方は全体の23.0%。
- 年齢が上がるにつれ、アドバイスを受ける機会がある割合は増加していく。

問4. 普段、生活習慣や居住環境についてアドバイスを
受ける機会がありますか。(〇はひとつ)

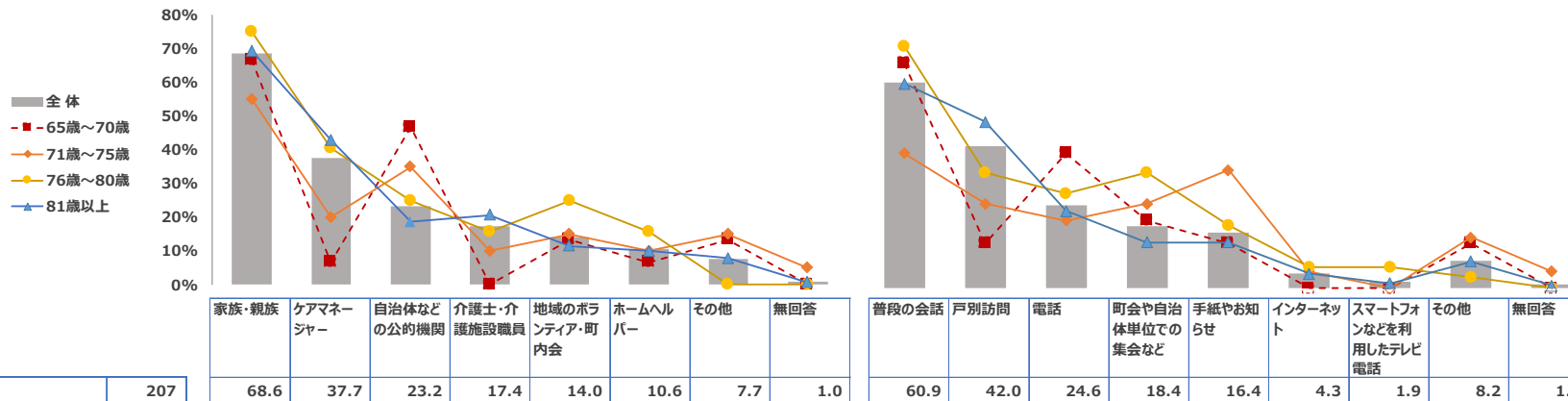


Point

- アドバイスを受ける相手は「家族・親族」、方法は「普段の会話」が最も多い。
- 70代後半で、「ケアマネージャー」からアドバイスを受ける割合が高くなる。また、高齢者以外と同居世帯は、「普段の会話」で、一人暮らし世帯は「電話」でアドバイスを受ける割合が高い。

問5. 生活習慣や居住環境についてのアドバイスは誰から受けていますか。(あてはまるものすべて○)

問6. どのような方法でアドバイスを受けていますか。(あてはまるものすべて○)



※n=30未満は参考値として記載
※全体結果で降順ソート

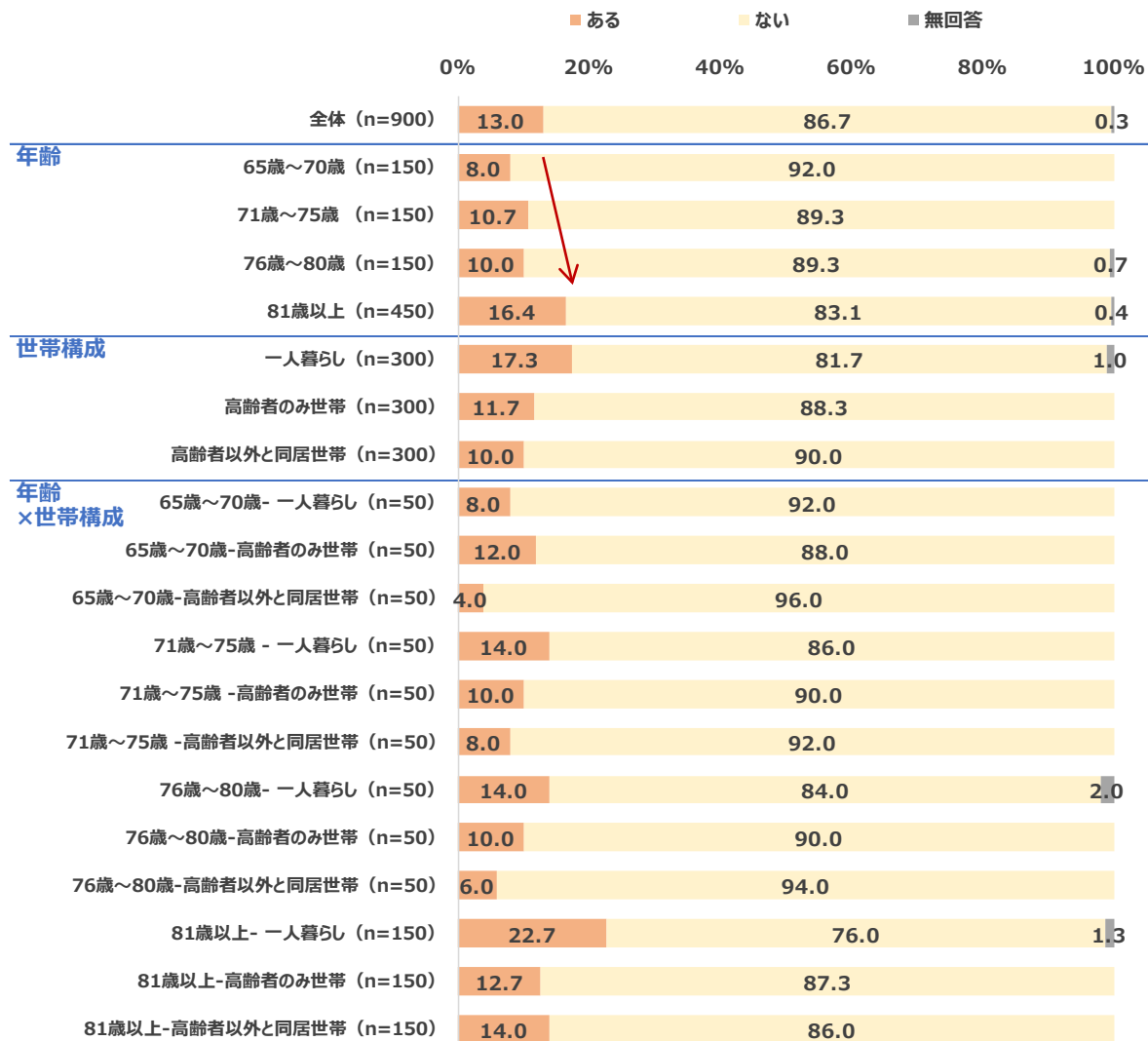
全体			207	家族・親族	ケアマネージャー	自治体などの公的機関	介護士・介護施設職員	地域のボランティア・町内会	ホームヘルパー	その他	無回答	1.0	普段の会話	戸別訪問	電話	町会や自治体単位での集会など	手紙やお知らせ	インターネット	スマートフォンなどを利用したテレビ電話	その他	無回答	1.0	
年齢	65歳～70歳	15	66.7	6.7	46.7	0.0	13.3	6.7	13.3	0.0	0.0	66.7	13.3	40.0	20.0	13.3	0.0	0.0	0.0	13.3	0.0	0.0	
	71歳～75歳	20	55.0	20.0	35.0	10.0	15.0	10.0	15.0	5.0	5.0	40.0	25.0	20.0	25.0	35.0	5.0	0.0	0.0	15.0	5.0	5.0	
	76歳～80歳	32	75.0	40.6	25.0	15.6	25.0	15.6	0.0	0.0	0.0	71.9	34.4	28.1	34.4	18.8	6.3	6.3	3.1	0.0	0.0	0.0	
	81歳以上	140	69.3	42.9	18.6	20.7	11.4	10.0	7.9	0.7	0.7	60.7	49.3	22.9	13.6	13.6	4.3	1.4	7.9	0.7	0.7	0.7	
世帯構成	一人暮らし	77	61.0	35.1	20.8	16.9	7.8	19.5	5.2	1.3	1.3	46.8	45.5	35.1	15.6	14.3	3.9	2.6	10.4	1.3	1.3	1.3	
	高齢者のみ世帯	55	69.1	30.9	23.6	10.9	14.5	5.5	12.7	1.8	1.8	60.0	30.9	18.2	20.0	14.5	5.5	1.8	5.5	1.8	1.8	1.8	
	高齢者以外と同居世帯	75	76.0	45.3	25.3	22.7	20.0	5.3	6.7	0.0	0.0	76.0	46.7	18.7	20.0	20.0	4.0	1.3	8.0	0.0	0.0	0.0	
年齢×世帯構成	65歳～70歳-一人暮らし	5	60.0	20.0	60.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	65歳～70歳-高齢者のみ世帯	3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	65歳～70歳-高齢者以外と同居世帯	7	85.7	0.0	42.9	0.0	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	85.7	14.3	28.6	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	71歳～75歳-一人暮らし	5	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	40.0	20.0	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0
	71歳～75歳-高齢者のみ世帯	7	71.4	14.3	28.6	0.0	28.6	0.0	28.6	0.0	0.0	42.9	14.3	28.6	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0
	71歳～75歳-高齢者以外と同居世帯	8	62.5	12.5	50.0	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	62.5	25.0	12.5	25.0	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	76歳～80歳-一人暮らし	15	53.3	33.3	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	73.3	26.7	26.7	33.3	6.7	0.0	6.7	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0
	76歳～80歳-高齢者のみ世帯	8	87.5	37.5	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	62.5	37.5	25.0	37.5	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	76歳～80歳-高齢者以外と同居世帯	9	100.0	55.6	33.3	22.2	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	77.8	44.4	33.3	33.3	33.3	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	81歳以上-一人暮らし	52	67.3	36.5	17.3	17.3	5.8	19.2	5.8	0.0	0.0	44.2	53.8	36.5	11.5	11.5	5.8	1.9	9.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	81歳以上-高齢者のみ世帯	37	67.6	35.1	21.6	16.2	10.8	2.7	10.8	2.7	2.7	62.2	35.1	13.5	16.2	13.5	2.7	2.7	0.0	0.0	2.7	2.7	
	81歳以上-高齢者以外と同居世帯	51	72.5	54.9	17.6	27.5	17.6	5.9	7.8	0.0	0.0	76.5	54.9	15.7	13.7	15.7	3.9	0.0	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0

全体傾向よりも10ポイント以上高い (黄緑色) : 全体傾向よりも5ポイント以上高い (黄色) : 全体傾向よりも10ポイント以上低い (灰色)

Point

- 消防職員・団員以外から火災予防対策についてアドバイスを受ける機会がある方は全体の13.0%。
- 生活習慣や居住環境についてのアドバイスを受ける機会の有無と同様、年齢が上がるにつれアドバイスを受ける割合は増加傾向にある。

問7. 普段、消防職員・消防団員以外から、火災予防対策についてアドバイスを受ける機会がありますか。(〇はひとつ)



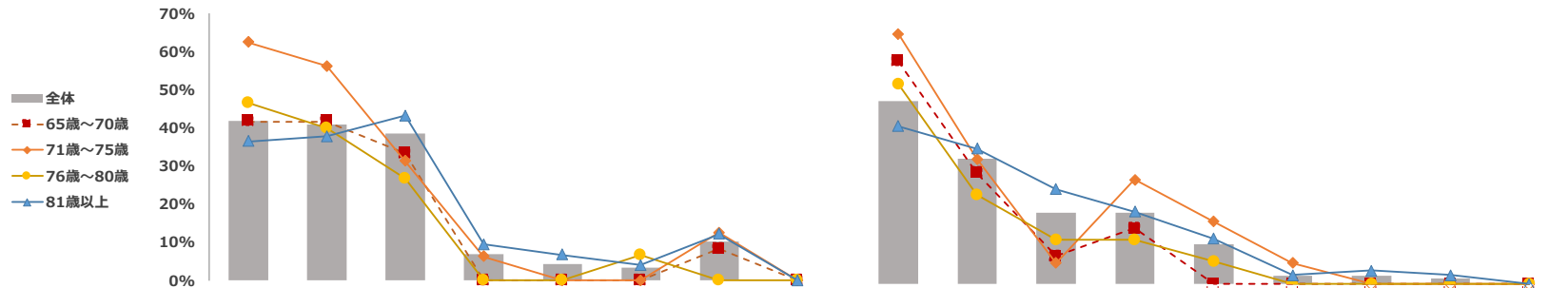
火災予防対策についてアドバイスを受ける相手・方法

Point

- アドバイスを受ける相手は「自治体などの公的機関」「地域のボランティアや町内会」「家族・親族」が4割前後で並ぶ。方法は「町会や自治体単位での集会など」が54.7%と最も高い。

問8. 火災予防対策についてのアドバイスは誰から受けていますか。(あてはまるものすべて○)

問9. どのような方法でアドバイスを受けていますか。(あてはまるものすべて○)



※n=30未満は参考値として記載
※全体結果で降順ソート

全体		117	自治体などの公的機関	地域のボランティアや町内会	家族・親族	ケアマネジャー	介護士・介護施設職員	ホームヘルパー	その他	無回答	町会や自治体単位での集会など	普段の会話	戸別訪問	手紙やお知らせ	電話	スマートフォンなどを利用したテレビ電話	インターネット	その他	無回答
全体	117		41.9	41.0	38.5	6.8	4.3	3.4	10.3	0.0	54.7	37.6	21.4	21.4	12.0	2.6	2.6	1.7	0.0
年齢	65歳~70歳	12	41.7	41.7	33.3	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	66.7	33.3	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	71歳~75歳	16	62.5	56.3	31.3	6.3	0.0	0.0	12.5	0.0	75.0	37.5	6.3	31.3	18.8	6.3	0.0	0.0	0.0
	76歳~80歳	15	46.7	40.0	26.7	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	60.0	26.7	13.3	13.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	81歳以上	74	36.5	37.8	43.2	9.5	6.8	4.1	12.2	0.0	47.3	40.5	28.4	21.6	13.5	2.7	4.1	2.7	0.0
世帯構成	一人暮らし	52	36.5	36.5	30.8	7.7	5.8	5.8	13.5	0.0	55.8	21.2	26.9	13.5	13.5	1.9	1.9	1.9	0.0
	高齢者のみ世帯	35	42.9	48.6	37.1	2.9	0.0	0.0	2.9	0.0	54.3	48.6	14.3	17.1	11.4	5.7	0.0	0.0	0.0
	高齢者以外と同居世帯	30	50.0	40.0	53.3	10.0	6.7	3.3	13.3	0.0	53.3	53.3	20.0	40.0	10.0	0.0	6.7	3.3	0.0
年齢×世帯構成	65歳~70歳-一人暮らし	4	50.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳~70歳-高齢者のみ世帯	6	16.7	16.7	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	33.3	50.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳~70歳-高齢者以外と同居世帯	2	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	71歳~75歳-一人暮らし	7	42.9	42.9	28.6	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	71.4	28.6	14.3	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0
	71歳~75歳-高齢者のみ世帯	5	60.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	40.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	71歳~75歳-高齢者以外と同居世帯	4	100.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	50.0	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	76歳~80歳-一人暮らし	7	42.9	42.9	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	71.4	0.0	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	76歳~80歳-高齢者のみ世帯	5	60.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	76歳~80歳-高齢者以外と同居世帯	3	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	81歳以上-一人暮らし	34	32.4	29.4	41.2	8.8	8.8	5.9	14.7	0.0	44.1	26.5	32.4	17.6	11.8	0.0	2.9	2.9	0.0
	81歳以上-高齢者のみ世帯	19	42.1	52.6	31.6	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	52.6	52.6	26.3	10.5	15.8	10.5	0.0	0.0	0.0
	81歳以上-高齢者以外と同居世帯	21	38.1	38.1	57.1	14.3	9.5	4.8	19.0	0.0	47.6	52.4	23.8	38.1	14.3	0.0	9.5	4.8	0.0

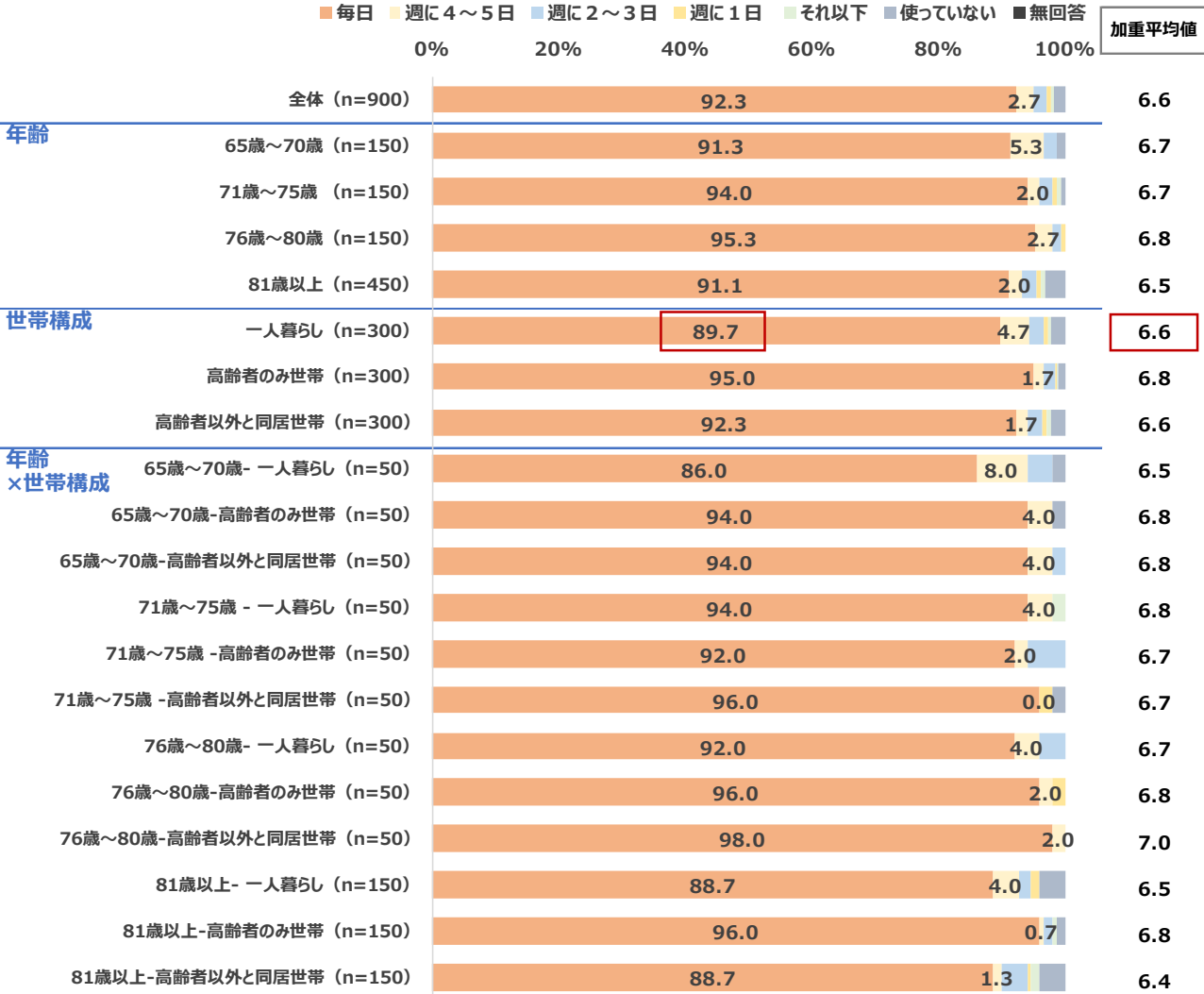
■ : 全体傾向よりも10ポイント以上高い ■ : 全体傾向よりも5ポイント以上高い ■ : 全体傾向よりも10ポイント以上低い

調理用の加熱器具の使用頻度

Point

- 調理用加熱機器の利用頻度は、毎日使用する者が92.3%。
- 加重平均値で見ても6.6日と、ほとんどの人が調理用加熱器具を使用している。

問10.あなたのご家庭では、調理用の加熱器具（コンロなど、お湯を沸かしたり煮炊きをする際に使う器具）をどれくらいの頻度で使いますか。（〇はひとつ）



【加重平均値算出のための階級値設定】

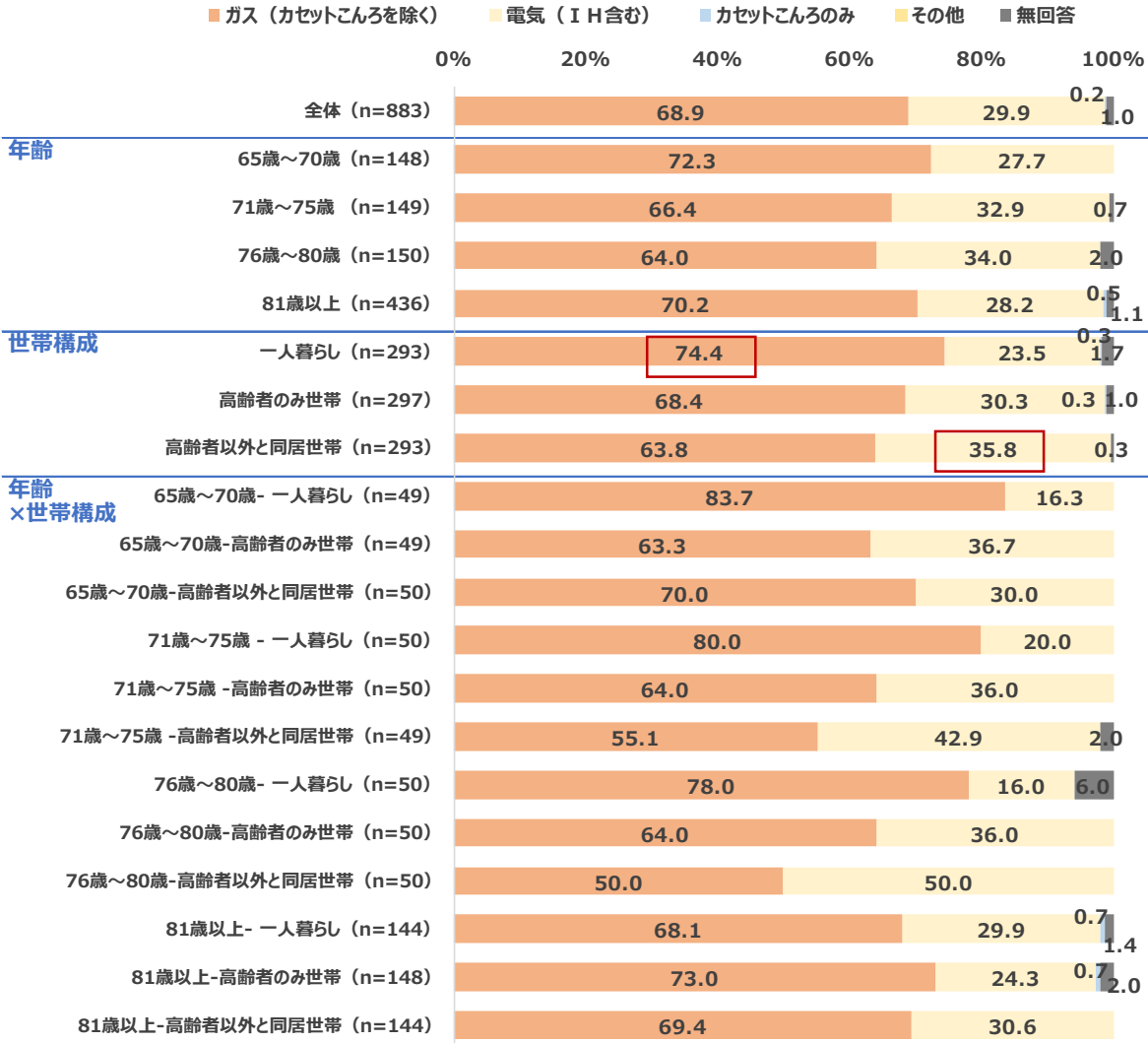
- ほぼ毎日 : 7
- 週4~5日 : 4.5
- 週2~3日 : 2.5
- 週1日 : 1
- それ以下 : 0.5
- 使っていない : 0

最もよく使っている調理用の加熱器具の燃料

Point

- 全体ではガスこんろが7割弱と最も多く、次いで電気（IH含む）が3割弱であり、この2つでほぼ全てを占める。
- 世帯別で見ると、一人暮らし世帯ではガスこんろの使用割合が高いが、高齢者以外と同居世帯では電気（IH含む）の割合が高くなっている。

問11.あなたのご家庭において最もよく使っている調理用の加熱器具の燃料は以下のどれですか。（〇はひとつ）



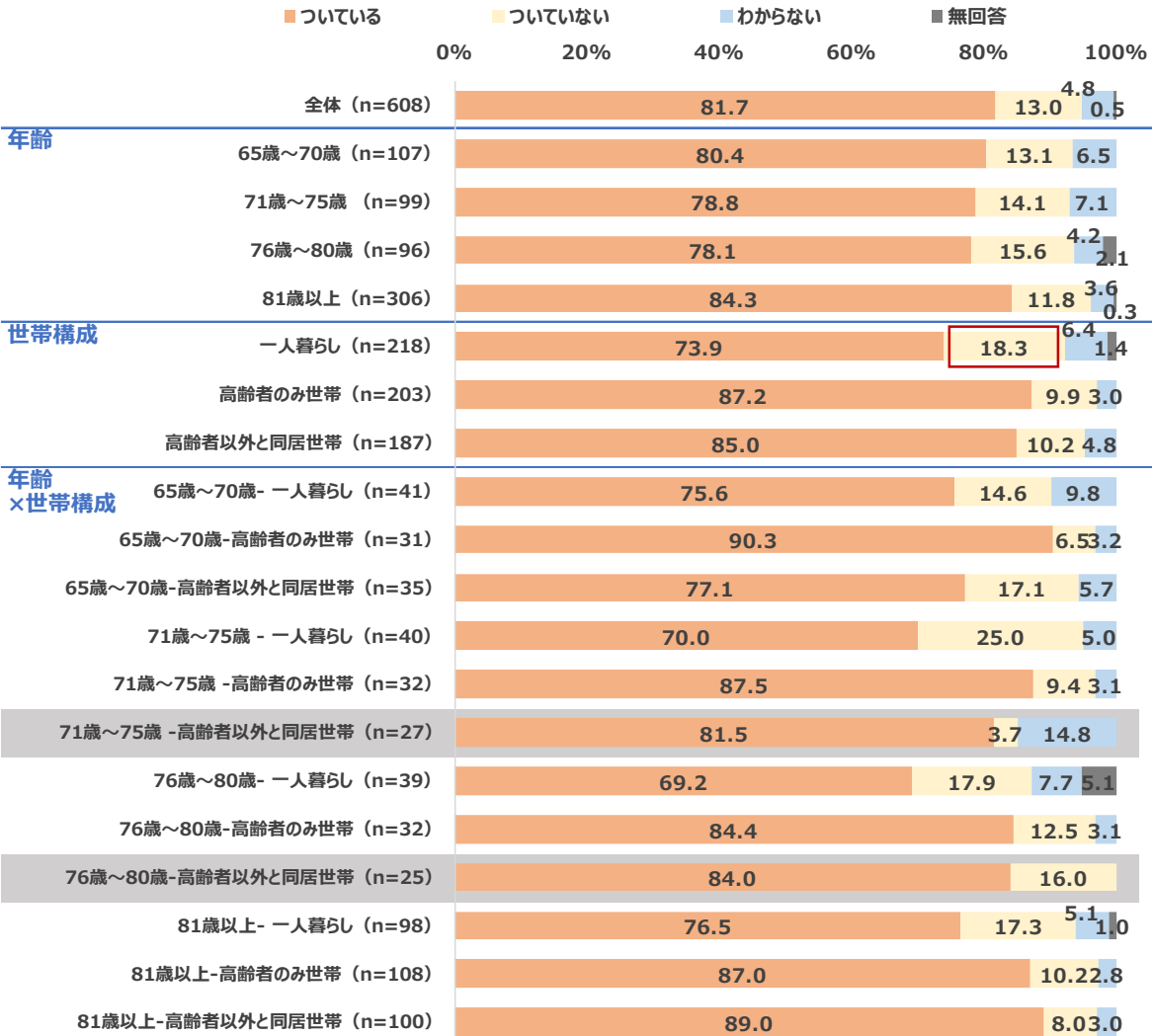
使用しているガスこんろの安全装置の有無

Point

- 全体では8割以上が使用しているガスこんろには安全装置がついていると回答。
- 世帯別で見ると、一人暮らし世帯は安全装置がついていない割合が2割弱と他の世帯類型より高い。

問12.使用しているガスこんろに安全装置（S i センサーなど）はついていますか。（〇はひとつ）

'※ S i センサー・・・調理油過熱防止装置、立ち消え安全装置、消し忘れ消火機能等の安全機能を有したもの。
 ※安全装置がついていないこんろがひとつでもあれば、「2.ついていない」をお選びください。



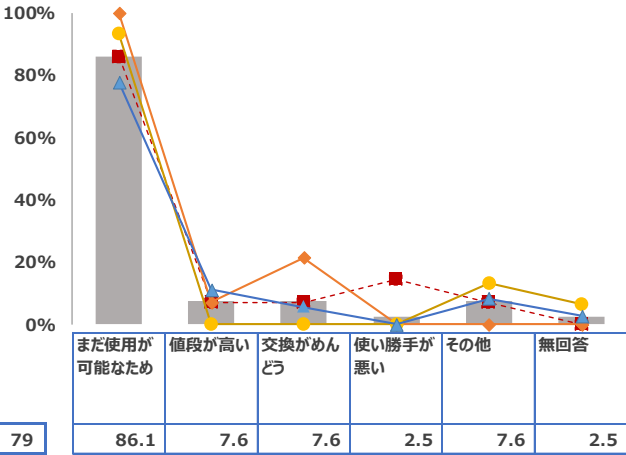
※n=30未満は参考値として記載

安全装置のついているガスこんろに交換していない理由

Point

- 安全装置のついているガスこんろに交換していない理由は「まだ使用が可能なため」が圧倒的に高く、86.1%。

問13.安全装置のついているガスこんろに交換していない理由
はありますか。(あてはまるものすべて○)



全体	79
----	----

年齢	65歳～70歳	14
	71歳～75歳	14
	76歳～80歳	15
	81歳以上	36

世帯構成	一人暮らし	40
	高齢者のみ世帯	20
	高齢者以外と同居世帯	19

年齢×世帯構成	65歳～70歳-一人暮らし	6
	65歳～70歳-高齢者のみ世帯	2
	65歳～70歳-高齢者以外と同居世帯	6
	71歳～75歳-一人暮らし	10
	71歳～75歳-高齢者のみ世帯	3
	71歳～75歳-高齢者以外と同居世帯	1
	76歳～80歳-一人暮らし	7
	76歳～80歳-高齢者のみ世帯	4
	76歳～80歳-高齢者以外と同居世帯	4
	81歳以上-一人暮らし	17
	81歳以上-高齢者のみ世帯	11
	81歳以上-高齢者以外と同居世帯	8

理由	全体	65歳～70歳	71歳～75歳	76歳～80歳	81歳以上
まだ使用が可能なため	86.1	85.7	100.0	93.3	77.8
値段が高い	7.6	7.1	7.1	0.0	11.1
交換がめんどろ	7.6	7.1	21.4	0.0	5.6
使い勝手が悪い	2.5	14.3	0.0	0.0	0.0
その他	7.6	7.1	0.0	13.3	8.3
無回答	2.5	0.0	0.0	6.7	2.8

※n=30未満は参考値として記載
※全体結果で降順ソート

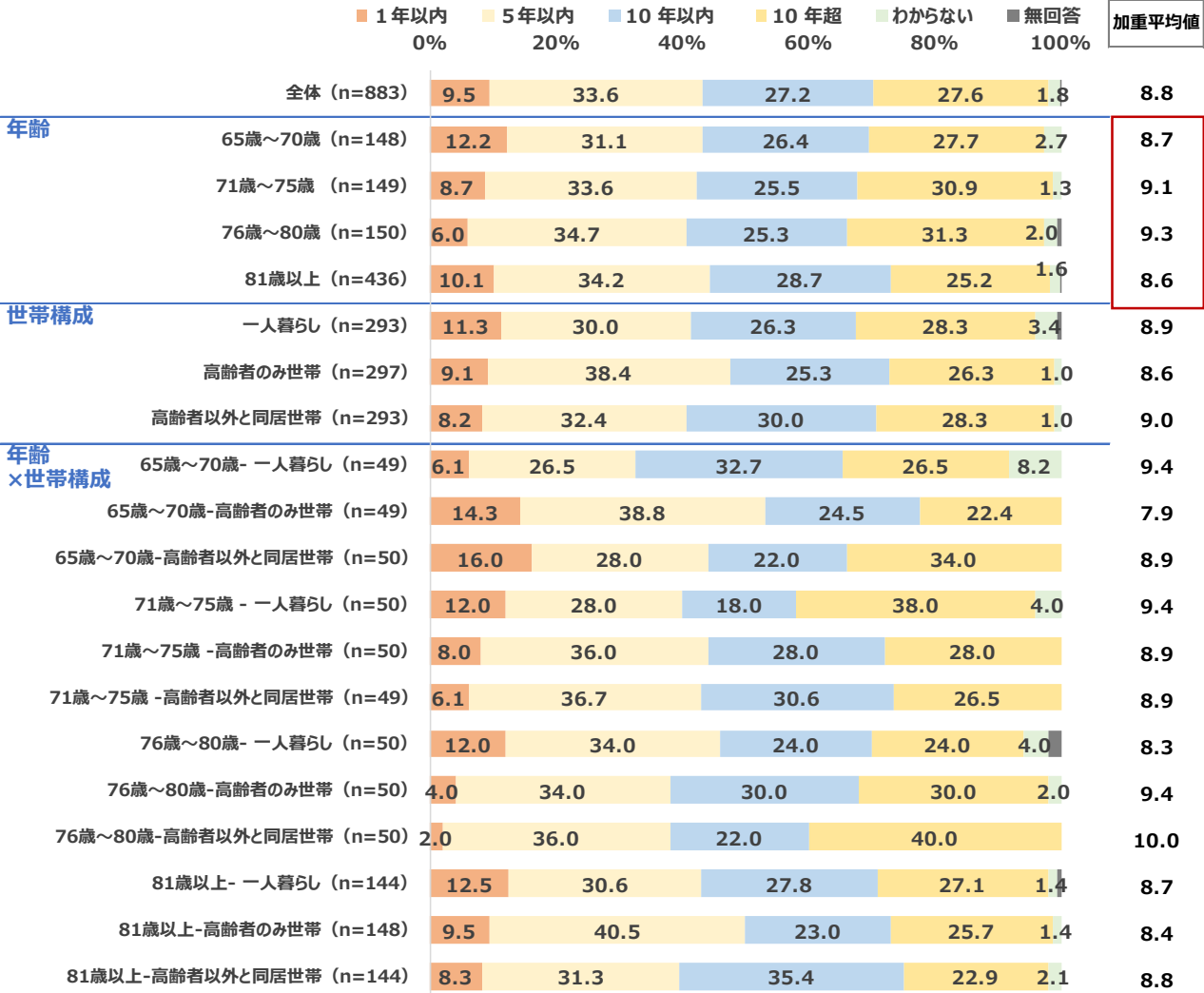
■ : 全体傾向よりも10ポイント以上高い
■ : 全体傾向よりも5ポイント以上高い
■ : 全体傾向よりも10ポイント以上低い

最もよく使用している調理用加熱器具の使用年数

Point

- 最もよく使用している調理用加熱器具の使用年数は平均8.8年。
- 76歳～80歳までは年齢が上がるごとに平均使用年数も長くなるが、81歳以上になると平均年数は短くなる。

問14.あなたのご家庭において最もよく使っている調理用の加熱器具は、何年くらい使用していますか。(〇はひとつ)



【加重平均値算出のための階級値設定】
 1年以内 : 1.0
 5年以内 : 5.0
 10年以内 : 10.0
 10年超 : 15.0
 わからない : -

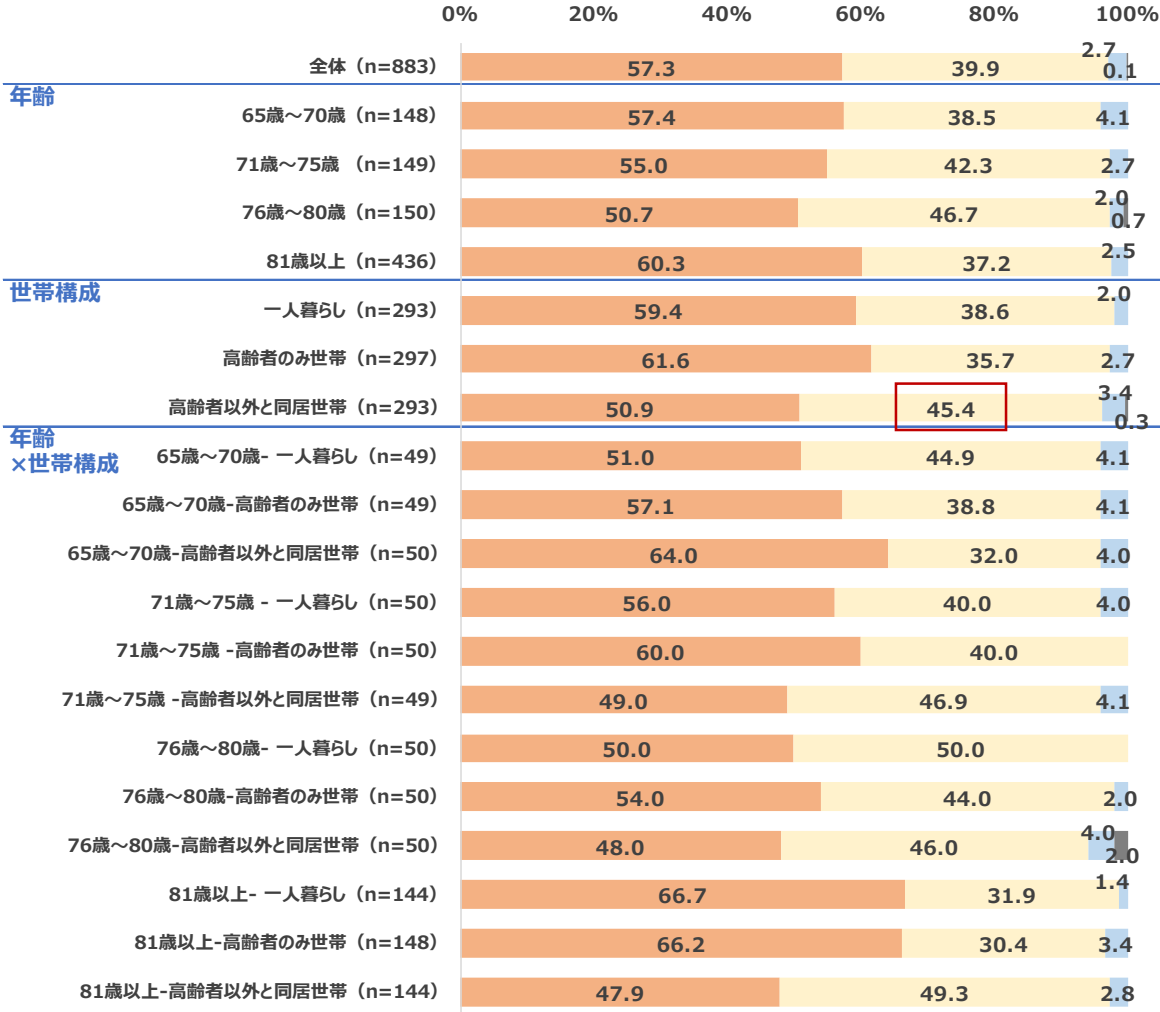
最もよく使用している調理用加熱器具の周囲の状況

Point

- 調理用加熱器具の周囲の状況は、「何も置かれていない」が57.3%と最多。
- 世帯別で見ると、高齢者以外と同居世帯は「可燃物はあるが整理整頓されている」割合が全体より5ポイント以上高い。

■何も置かれていない ■可燃物はあるが整理整頓されている ■周囲に可燃物が多く置かれている ■無回答

問15.あなたのご家庭で最もよく使用している調理用の加熱器具の周囲はどのような状況ですか。(〇はひとつ)

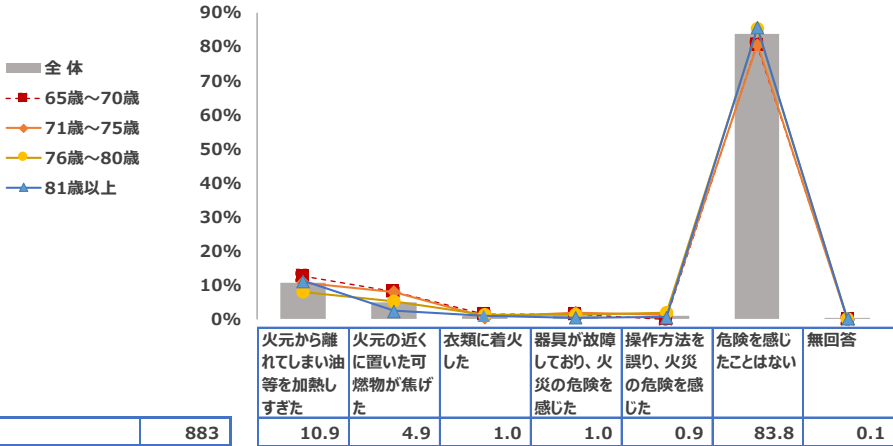


調理用加熱器具使用中に火災の危険を感じたこと

Point

- 「危険を感じたことはない」が8割以上と最も多く、危険を感じたことがある方は全体の15%程度にとどまる。
- 感じた危険は「火元から離れてしまい油等を加熱しすぎた」が10.9%で最も多い。

問16. 調理用の加熱器具を使用して火災の危険を感じたことはありますか。(あてはまるものすべて○)



全体		883	10.9	4.9	1.0	1.0	0.9	83.8	0.1
年齢	65歳～70歳	148	12.8	8.1	1.4	1.4	0.0	80.4	0.0
	71歳～75歳	149	10.7	8.1	0.7	2.0	1.3	80.5	0.0
	76歳～80歳	150	8.0	5.3	1.3	1.3	2.0	85.3	0.0
	81歳以上	436	11.2	2.5	0.9	0.5	0.7	85.6	0.2
世帯構成	一人暮らし	293	7.8	5.5	0.3	0.3	0.7	85.7	0.3
	高齢者のみ世帯	297	7.7	4.0	1.0	1.0	0.7	87.2	0.0
	高齢者以外と同居世帯	293	17.1	5.1	1.7	1.7	1.4	78.5	0.0
年齢×世帯構成	65歳～70歳-一人暮らし	49	10.2	10.2	0.0	0.0	0.0	81.6	0.0
	65歳～70歳-高齢者のみ世帯	49	12.2	8.2	2.0	2.0	0.0	79.6	0.0
	65歳～70歳-高齢者以外と同居世帯	50	16.0	6.0	2.0	2.0	0.0	80.0	0.0
	71歳～75歳-一人暮らし	50	6.0	10.0	0.0	0.0	0.0	84.0	0.0
	71歳～75歳-高齢者のみ世帯	50	10.0	8.0	0.0	4.0	0.0	82.0	0.0
	71歳～75歳-高齢者以外と同居世帯	49	16.3	6.1	2.0	2.0	4.1	75.5	0.0
	76歳～80歳-一人暮らし	50	8.0	6.0	0.0	0.0	2.0	86.0	0.0
	76歳～80歳-高齢者のみ世帯	50	2.0	2.0	2.0	0.0	4.0	90.0	0.0
	76歳～80歳-高齢者以外と同居世帯	50	14.0	8.0	2.0	4.0	0.0	80.0	0.0
	81歳以上-一人暮らし	144	7.6	2.1	0.7	0.7	0.7	87.5	0.7
	81歳以上-高齢者のみ世帯	148	7.4	2.0	0.7	0.0	0.0	90.5	0.0
	81歳以上-高齢者以外と同居世帯	144	18.8	3.5	1.4	0.7	1.4	78.5	0.0

※n=30未満は参考値として記載

※全体結果で降順ソート

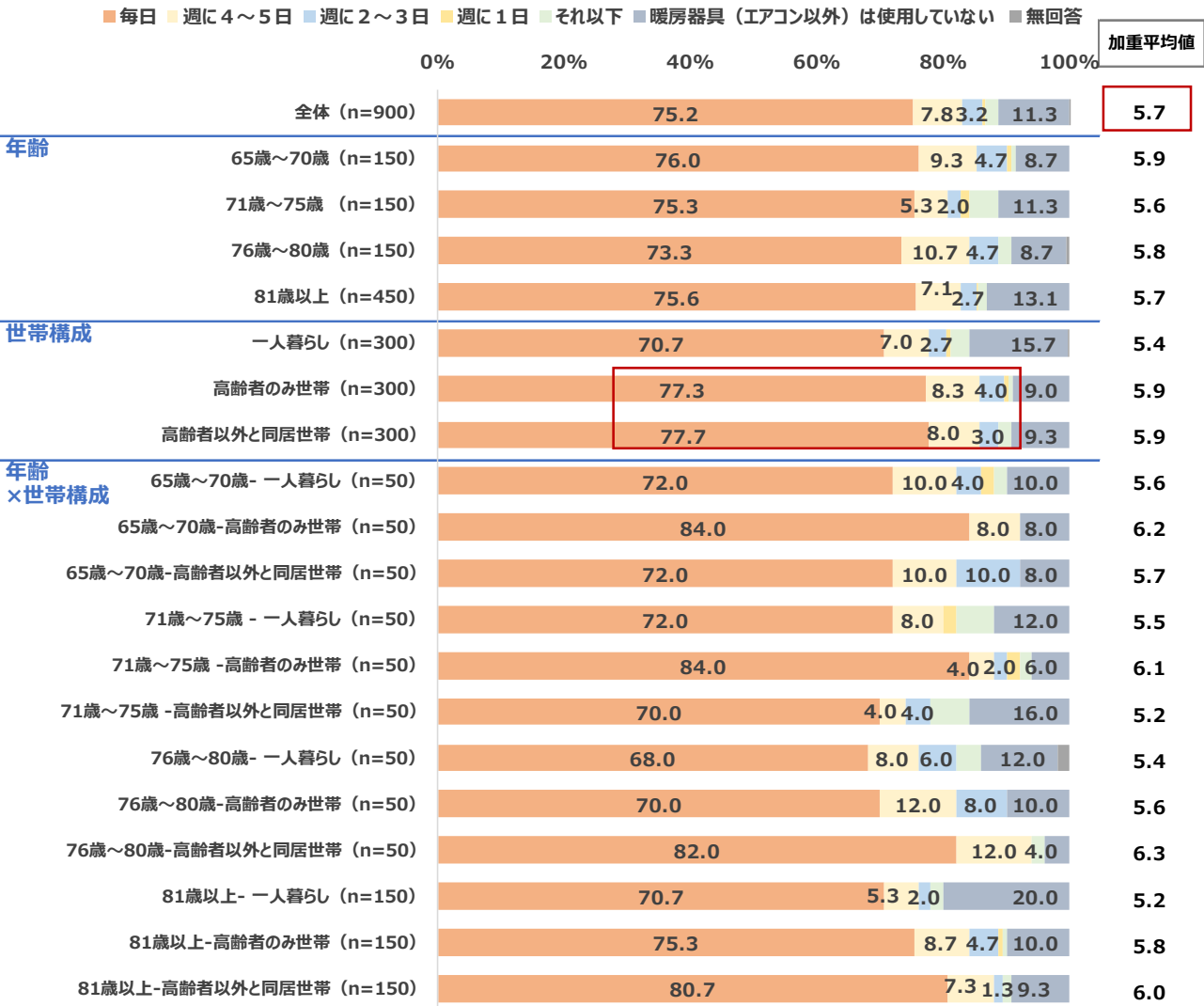
■ : 全体傾向よりも10ポイント以上高い ■ : 全体傾向よりも5ポイント以上高い ■ : 全体傾向よりも10ポイント以上低い

暖房器具を使用する頻度

Point

- 冬の間、暖房器具（エアコン以外）の使用頻度は平均で週あたり5.7日。
- エアコン以外の暖房器具の使用率は、高齢者のみ世帯と高齢者以外と同居世帯の方が一人暮らし世帯と比較して高い。

問17.あなたのご家庭では、冬の間、暖房器具（エアコン以外）を使用する頻度はどれくらいですか。（〇はひとつ）



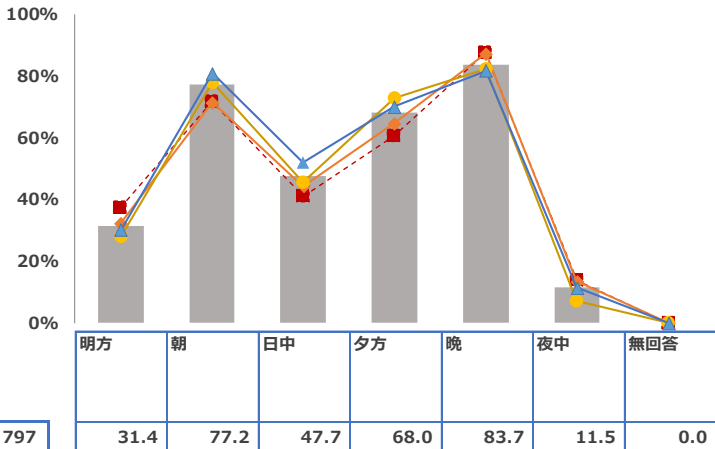
【加重平均値算出のための階級値設定】
 毎日 : 7
 週に4~5日 : 4.5
 週に2~3日 : 2.5
 週に1日 : 1
 それ以下 : 0.5
 使用していない : -

暖房器具を使用する時間帯

Point

- 全体の83.7%は暖房器具を晩に使用。ただし夜中に使用する方は11.5%と少ない。
- 年齢や世帯による顕著な差異は見られない。

問18.冬の間、暖房器具（エアコン以外）を使用する時間帯を以下からすべてお選びください。（あてはまるものすべて○）



全体		797	31.4	77.2	47.7	68.0	83.7	11.5	0.0
年齢	65歳~70歳	137	37.2	71.5	40.9	60.6	87.6	13.9	0.0
	71歳~75歳	133	32.3	71.4	44.4	64.7	87.2	13.5	0.0
	76歳~80歳	136	27.9	77.9	45.6	72.8	82.4	7.4	0.0
	81歳以上	391	30.2	80.8	51.9	70.1	81.6	11.5	0.0
世帯構成	一人暮らし	252	22.6	75.0	50.0	66.3	80.6	10.3	0.0
	高齢者のみ世帯	273	30.0	80.2	47.6	69.2	83.9	10.3	0.0
	高齢者以外と同居世帯	272	40.8	76.1	45.6	68.4	86.4	14.0	0.0
年齢×世帯構成	65歳~70歳-一人暮らし	45	33.3	73.3	37.8	64.4	93.3	20.0	0.0
	65歳~70歳-高齢者のみ世帯	46	34.8	80.4	47.8	60.9	84.8	8.7	0.0
	65歳~70歳-高齢者以外と同居世帯	46	43.5	60.9	37.0	56.5	84.8	13.0	0.0
	71歳~75歳-一人暮らし	44	25.0	65.9	43.2	56.8	84.1	15.9	0.0
	71歳~75歳-高齢者のみ世帯	47	29.8	76.6	48.9	76.6	87.2	8.5	0.0
	71歳~75歳-高齢者以外と同居世帯	42	42.9	71.4	40.5	59.5	90.5	16.7	0.0
	76歳~80歳-一人暮らし	43	18.6	74.4	48.8	69.8	74.4	-	0.0
	76歳~80歳-高齢者のみ世帯	45	24.4	80.0	48.9	82.2	86.7	8.9	0.0
	76歳~80歳-高齢者以外と同居世帯	48	39.6	79.2	39.6	66.7	85.4	12.5	0.0
	81歳以上-一人暮らし	120	19.2	79.2	57.5	69.2	76.7	8.3	0.0
	81歳以上-高齢者のみ世帯	135	30.4	81.5	46.7	65.2	81.5	11.9	0.0
	81歳以上-高齢者以外と同居世帯	136	39.7	81.6	52.2	75.7	86.0	14.0	0.0

※全体結果で降順ソート

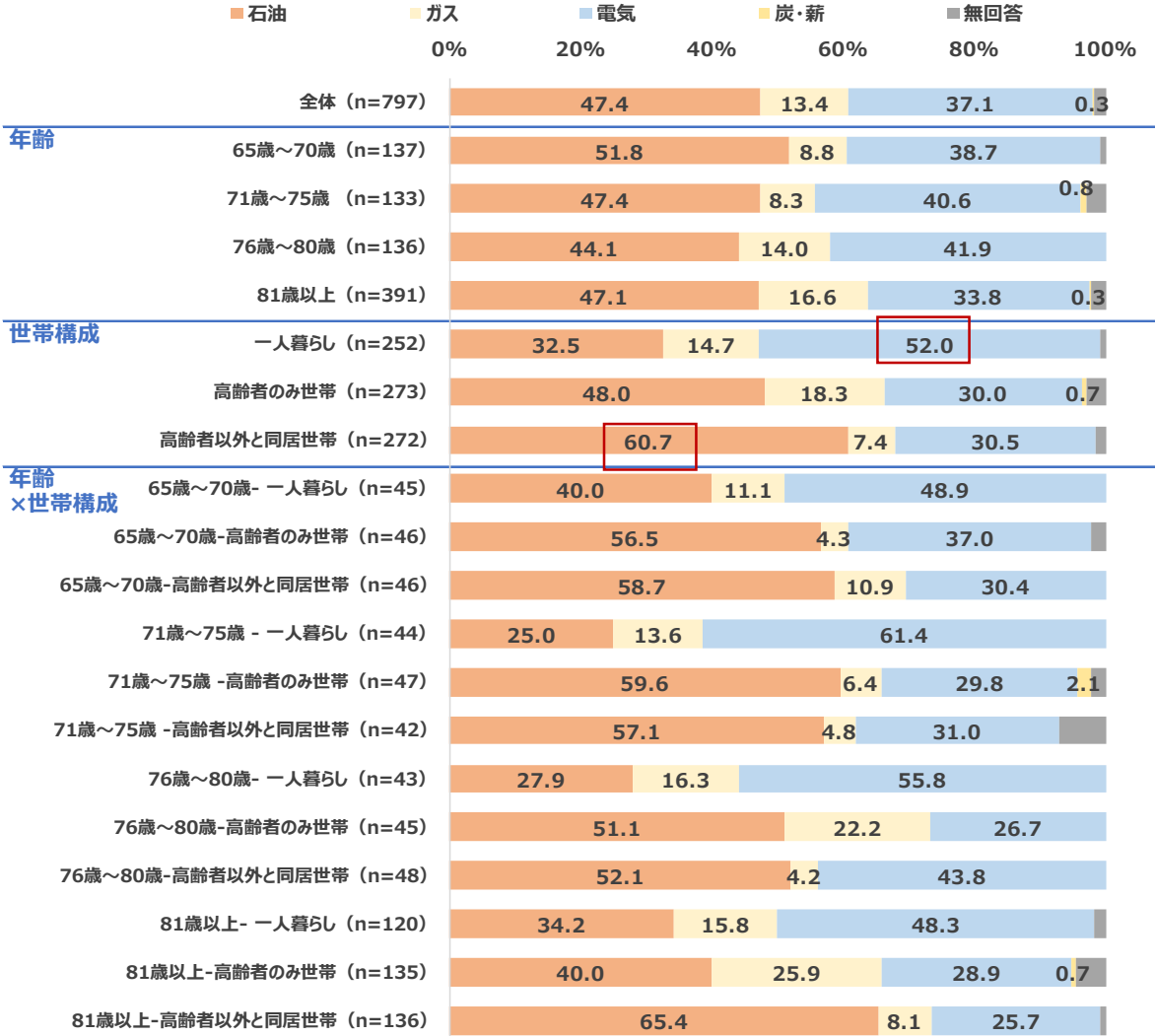
■ : 全体傾向よりも10ポイント以上高い ■ : 全体傾向よりも5ポイント以上高い ■ : 全体傾向よりも10ポイント以上低い

最も使用している暖房器具の燃料

Point

- 最も使用している暖房器具の燃料は、全体でみると石油が最多である。
- 高齢者以外と同居世帯は石油の使用率が高い。対して一人暮らし世帯は、石油の割合が全体より15ポイントほど少なく、半数以上が電気燃料の暖房器具を使用している。

問19.あなたのご家庭で冬の間最も使用している暖房器具(エアコン以外)の燃料は以下のどれですか。(〇はひとつ)

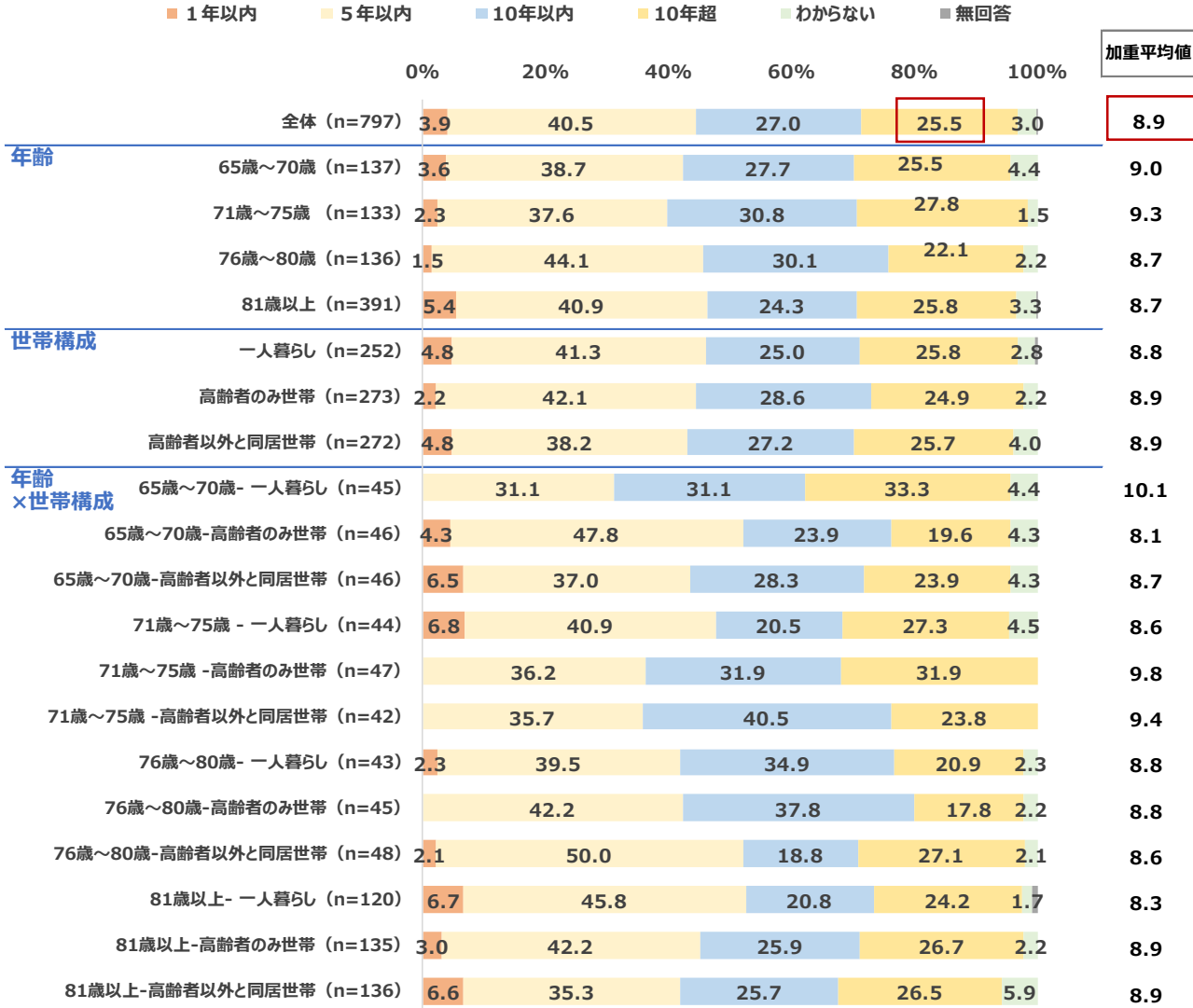


最も使用している暖房器具の使用年数

Point

- 暖房器具の使用年数の全体平均は8.9年。また、全体の約4分の1は10年以上継続して使用。
- 年齢や世帯による顕著な差異は見られない。

問20.あなたのご家庭で冬の間に最も使用している暖房器具（エアコン以外）について、何年くらい使用していますか。（〇はひとつ）



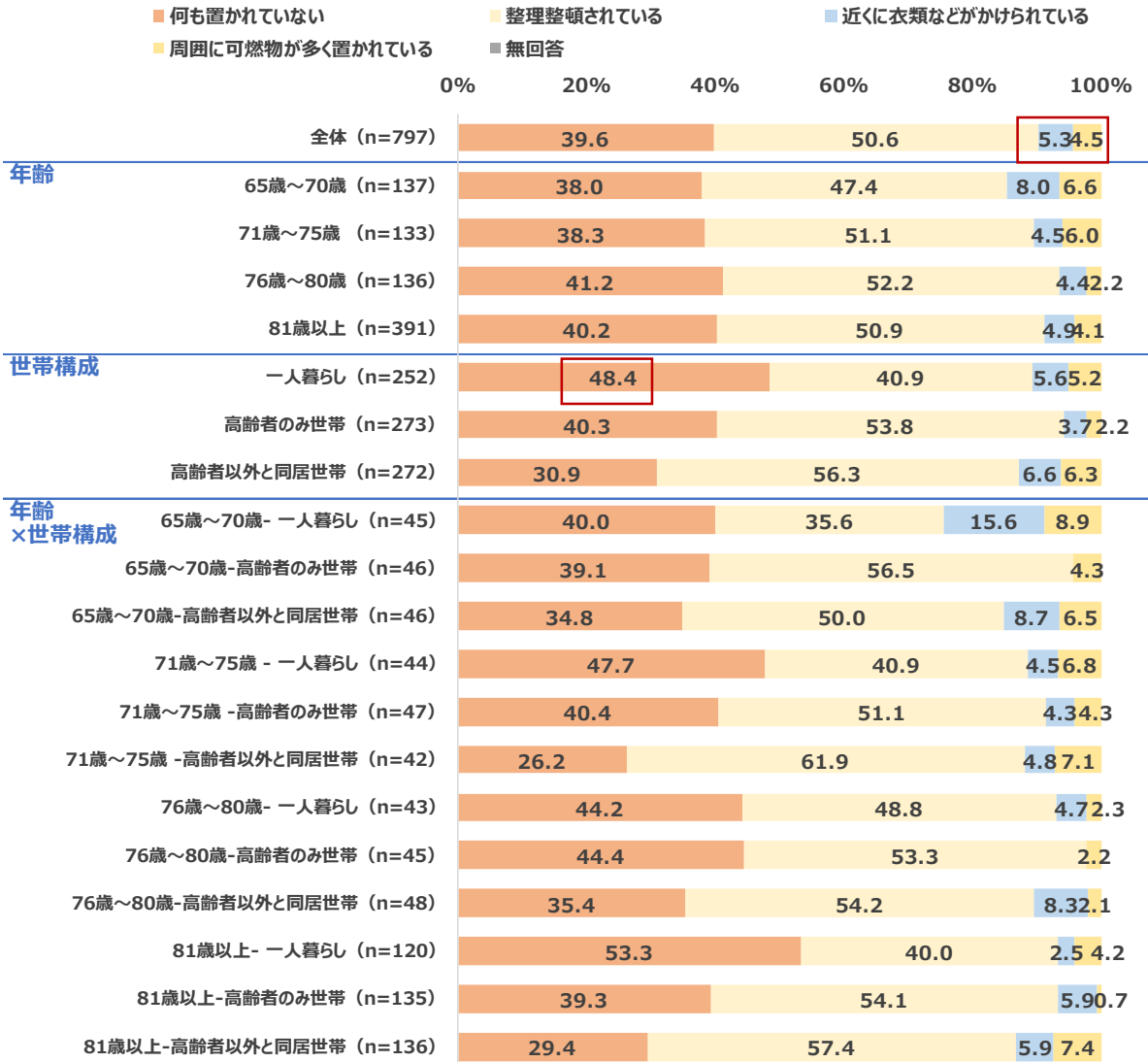
【加重平均値算出のための階級値設定】
 1年以内 : 1.0
 5年以内 : 5.0
 10年以内 : 10
 10年超 : 15
 わからない : -

最も使用している暖房器具の周囲の状況

Point

- 「近くに衣類がかけられている」「周囲に可燃物が多く置かれている」といった火災の危険が高い状況は、全体では10%未満と多くはない。
- 一人暮らし世帯は約半数が「何も置かれていない」と回答。

問21.あなたのご家庭で冬の間にも最も使用している暖房器具（エアコン以外）の周囲の状況について、以下の中で最もあてはまるものをお選びください。（〇はひとつ）

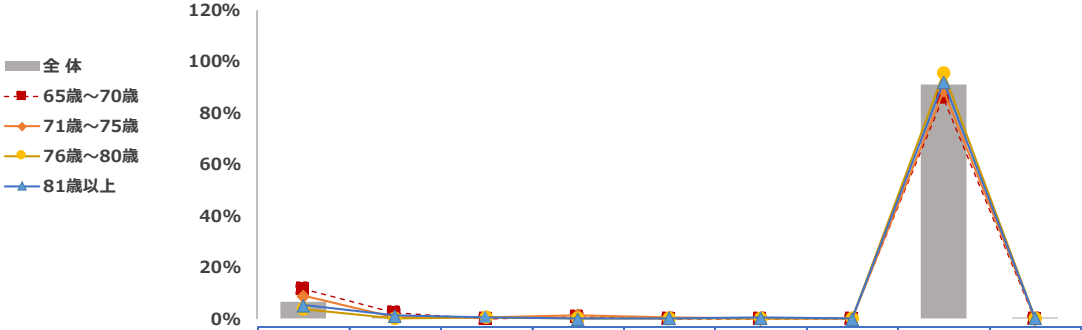


暖房器具を使用して火災の危険を感じた経験

Point

- 火災の危険を感じたことはない方が全体の9割以上。
- 65歳～70歳は「消し忘れて外出した」割合が高く、特に一人暮らし世帯の65～70歳に多い。

問22.暖房器具（エアコン以外）を使用して火災の危険を感じたことはありませんか。(あてはまるものすべて○)



		全体	797	消し忘れて外出した	器具が故障しており、火災の危険を感じた	操作方法を誤り、火災の危険を感じた	衣類や寝具が接触し着火した	暖房器具の近くに置いていた可燃物に着火した	近くに干していた洗濯物が落下し着火した	使用する燃料を誤った	危険を感じたことはない	無回答
全体		797	6.8	1.1	0.6	0.4	0.3	0.3	0.0	91.1	0.1	
年齢	65歳～70歳	137	11.7	2.2	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	86.1	0.0	
	71歳～75歳	133	9.0	0.8	0.8	1.5	0.8	0.0	0.0	88.7	0.0	
	76歳～80歳	136	3.7	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	95.6	0.0	
	81歳以上	391	5.4	1.3	0.8	0.0	0.3	0.5	0.0	92.1	0.3	
世帯構成	一人暮らし	252	8.3	0.8	0.8	0.8	0.4	0.0	0.0	90.1	0.0	
	高齢者のみ世帯	273	5.1	1.5	0.0	0.4	0.4	0.4	0.0	92.3	0.4	
	高齢者以外と同居世帯	272	7.0	1.1	1.1	0.0	0.0	0.4	0.0	90.8	0.0	
年齢×世帯構成	65歳～70歳-一人暮らし	45	15.6	2.2	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	82.2	0.0	
	65歳～70歳-高齢者のみ世帯	46	10.9	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	84.8	0.0	
	65歳～70歳-高齢者以外と同居世帯	46	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	91.3	0.0	
	71歳～75歳-一人暮らし	44	9.1	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	88.6	0.0	
	71歳～75歳-高齢者のみ世帯	47	8.5	2.1	0.0	2.1	2.1	0.0	0.0	87.2	0.0	
	71歳～75歳-高齢者以外と同居世帯	42	9.5	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	90.5	0.0	
	76歳～80歳-一人暮らし	43	4.7	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	93.0	0.0	
	76歳～80歳-高齢者のみ世帯	45	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	95.6	0.0	
	76歳～80歳-高齢者以外と同居世帯	48	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	97.9	0.0	
	81歳以上-一人暮らし	120	6.7	0.8	0.8	0.0	0.8	0.0	0.0	92.5	0.0	
	81歳以上-高齢者のみ世帯	135	2.2	0.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	95.6	0.7	
	81歳以上-高齢者以外と同居世帯	136	7.4	2.2	1.5	0.0	0.0	0.7	0.0	88.2	0.0	

※全体結果で降順ソート

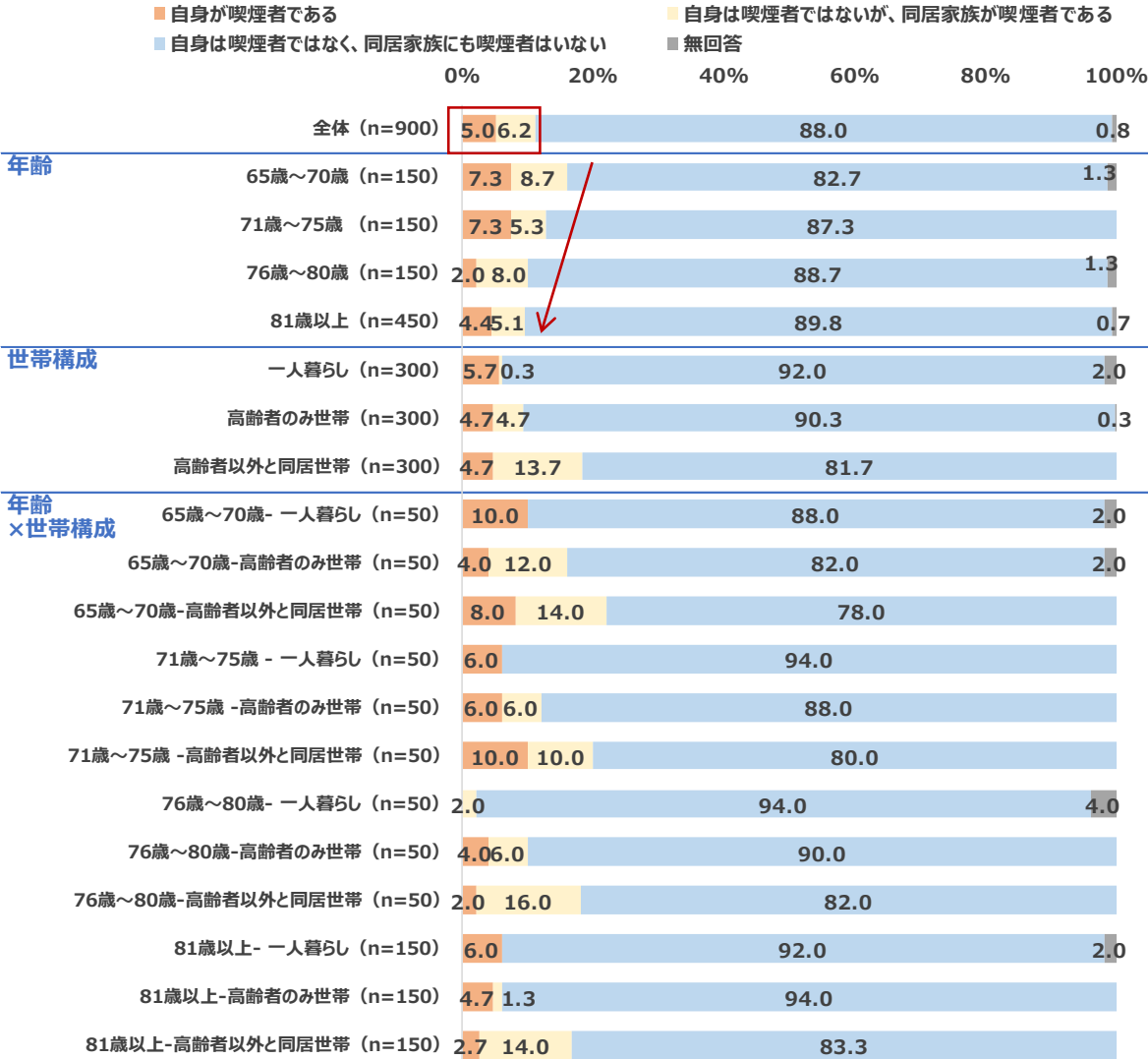
■ : 全体傾向よりも10ポイント以上高い ■ : 全体傾向よりも5ポイント以上高い ■ : 全体傾向よりも10ポイント以上低い

自身および同居家族の喫煙状況

Point

- 本人もしくは同居家族が喫煙者の割合は全体の1割程度。また、年齢が上がるごとに割合は減少する。

問23.あなたおよび同居する家族の喫煙状況について、最もあてはまるものをお選びください。(〇はひとつ)

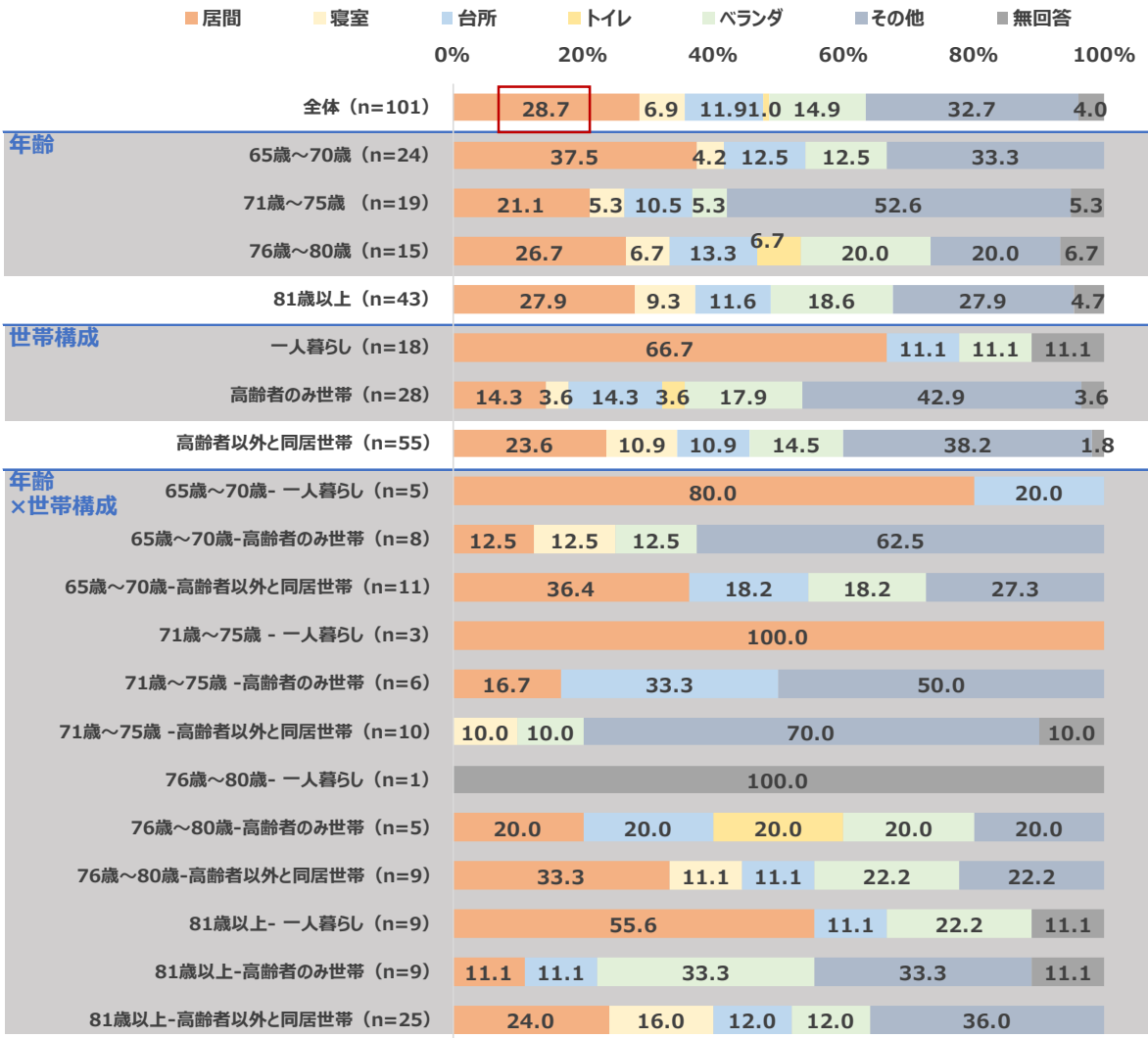


主な喫煙場所

Point

- その他を除くと、喫煙場所は「居間」が最も多い。

問24.喫煙している場所は主にどこですか。(〇はひとつ)
 ※あなたご自身が喫煙者ではない場合、同居家族が最も喫煙している場所をお答えください。



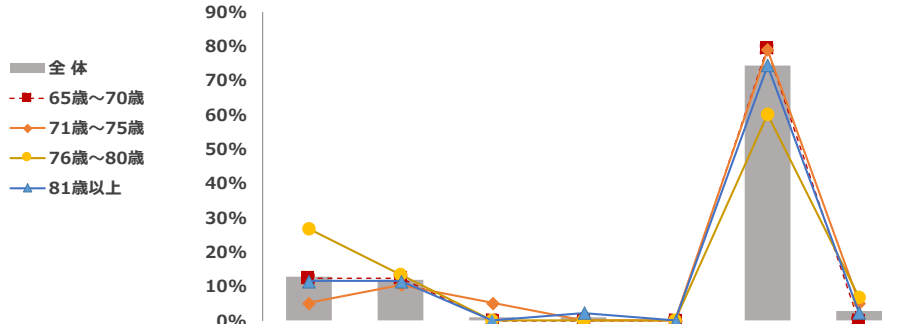
※n=30未満は参考値として記載

喫煙していて火災の危険を感じた経験

Point

- 危険を感じたことはない方が全体の74.3%。
- 具体的な危険については、「消したつもりが完全に消化していなかった」と「絨毯等に火種が落下した」がそれぞれ1割強。

問25.喫煙していて火災の危険を感じたことはありますか。(あてはまるものすべて○)
 ※あなたご自身が喫煙者ではない場合、同居家族が喫煙している際にあったことをお考え下さい。



全体		101	消したつもりが完全に消化していなかった	室内で喫煙していたところ絨毯等に火種が落下した	衣類に着火した	寝転びながら喫煙していたところ寝具等に火種が落下した	消し忘れていた	危険を感じたことはない	無回答
年齢	全体	101	12.9	11.9	1.0	1.0	0.0	74.3	3.0
	65歳~70歳	24	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	79.2	0.0
	71歳~75歳	19	5.3	10.5	5.3	0.0	0.0	78.9	5.3
	76歳~80歳	15	26.7	13.3	0.0	0.0	0.0	60.0	6.7
	81歳以上	43	11.6	11.6	0.0	2.3	0.0	74.4	2.3
世帯構成	一人暮らし	18	11.1	16.7	5.6	0.0	0.0	61.1	5.6
	高齢者のみ世帯	28	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	78.6	3.6
	高齢者以外と同居世帯	55	12.7	12.7	0.0	1.8	0.0	76.4	1.8
年齢×世帯構成	65歳~70歳-一人暮らし	5	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
	65歳~70歳-高齢者のみ世帯	8	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	87.5	0.0
	65歳~70歳-高齢者以外と同居世帯	11	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	81.8	0.0
	71歳~75歳-一人暮らし	3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
	71歳~75歳-高齢者のみ世帯	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	71歳~75歳-高齢者以外と同居世帯	10	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	80.0	10.0
	76歳~80歳-一人暮らし	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	76歳~80歳-高齢者のみ世帯	5	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
	76歳~80歳-高齢者以外と同居世帯	9	22.2	22.2	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
	81歳以上-一人暮らし	9	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	77.8	0.0
	81歳以上-高齢者のみ世帯	9	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	66.7	11.1
81歳以上-高齢者以外と同居世帯	25	12.0	12.0	0.0	4.0	0.0	76.0	0.0	

※全体結果で降順ソート
 ※n=30未満は参考値として記載

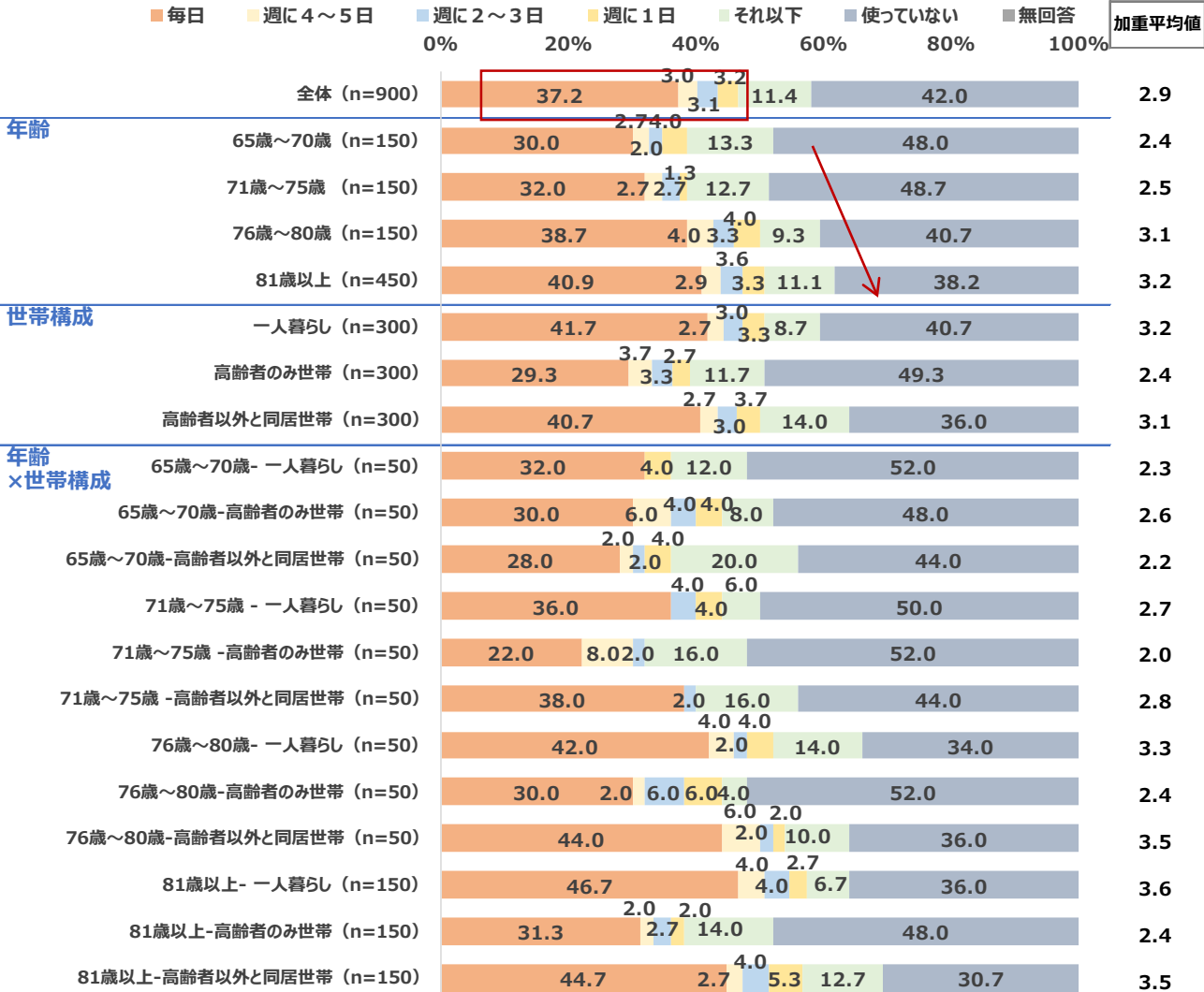
黄色背景: 全体傾向よりも10ポイント以上高い
 薄い黄色背景: 全体傾向よりも5ポイント以上高い
 薄い青背景: 全体傾向よりも10ポイント以上低い

灯明の使用状況

Point

- 灯明を定期的（毎日～週1日）に使用している方は全体の約半数。
- 年齢が高いほど、灯明の平均使用日数、定期的な使用率ともに高くなる傾向がある。

問26.あなたのご家庭では、神棚や仏壇に灯明（ろうそくや線香など）を使っていますか。（〇はひとつ）



【加重平均値算出のための階級値設定】

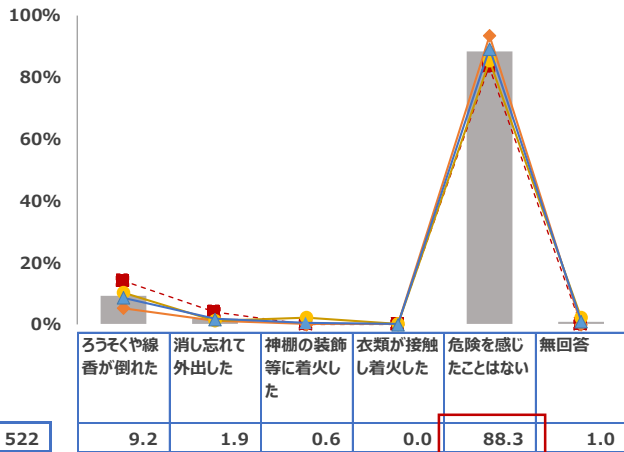
毎日	: 7.0
週に4～5日	: 4.5
週に2～3日	: 2.5
週に1日	: 1.0
それ以下	: 0.5
使っていない	: 0

灯明を使用していて火災の危険を感じた経験

Point

- 危険を感じたことはない方が全体の9割弱。
- 具体的な危険については、「ろうそくや線香が倒れた」が最も高く1割弱。

問27.灯明を使用していて火災の危険を感じたことはありませんか。(あてはまるものすべて○)



全体	522
----	-----

年齢	65歳~70歳	78
	71歳~75歳	77
	76歳~80歳	89
	81歳以上	278

世帯構成	一人暮らし	178
	高齢者のみ世帯	152
	高齢者以外と同居世帯	192

年齢×世帯構成	65歳~70歳-一人暮らし	24
	65歳~70歳-高齢者のみ世帯	26
	65歳~70歳-高齢者以外と同居世帯	28
	71歳~75歳-一人暮らし	25
	71歳~75歳-高齢者のみ世帯	24
	71歳~75歳-高齢者以外と同居世帯	28
	76歳~80歳-一人暮らし	33
	76歳~80歳-高齢者のみ世帯	24
	76歳~80歳-高齢者以外と同居世帯	32
	81歳以上-一人暮らし	96
	81歳以上-高齢者のみ世帯	78
	81歳以上-高齢者以外と同居世帯	104

ろうそくや線香が倒れた	14.1	3.8	0.0	0.0	83.3	0.0
消し忘れて外出した	5.2	1.3	0.0	0.0	93.5	0.0
神棚の装飾等に着火した	10.1	1.1	2.2	0.0	85.4	2.2
衣類が接触し着火した	8.6	1.8	0.4	0.0	89.2	1.1
危険を感じたことはない	83.3	93.5	85.4	89.2	93.3	1.1
無回答	0.0	0.0	2.2	1.1	90.1	1.3
65歳~70歳-一人暮らし	16.7	4.2	0.0	0.0	83.3	0.0
65歳~70歳-高齢者のみ世帯	11.5	3.8	0.0	0.0	84.6	0.0
65歳~70歳-高齢者以外と同居世帯	14.3	3.6	0.0	0.0	82.1	0.0
71歳~75歳-一人暮らし	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
71歳~75歳-高齢者のみ世帯	8.3	4.2	0.0	0.0	87.5	0.0
71歳~75歳-高齢者以外と同居世帯	7.1	0.0	0.0	0.0	92.9	0.0
76歳~80歳-一人暮らし	3.0	0.0	3.0	0.0	90.9	3.0
76歳~80歳-高齢者のみ世帯	12.5	4.2	0.0	0.0	87.5	0.0
76歳~80歳-高齢者以外と同居世帯	15.6	0.0	3.1	0.0	78.1	3.1
81歳以上-一人暮らし	3.1	0.0	1.0	0.0	94.8	1.0
81歳以上-高齢者のみ世帯	3.8	0.0	0.0	0.0	93.6	2.6
81歳以上-高齢者以外と同居世帯	17.3	4.8	0.0	0.0	80.8	0.0

※全体結果で降順ソート
 ※n=30未満は参考値として記載

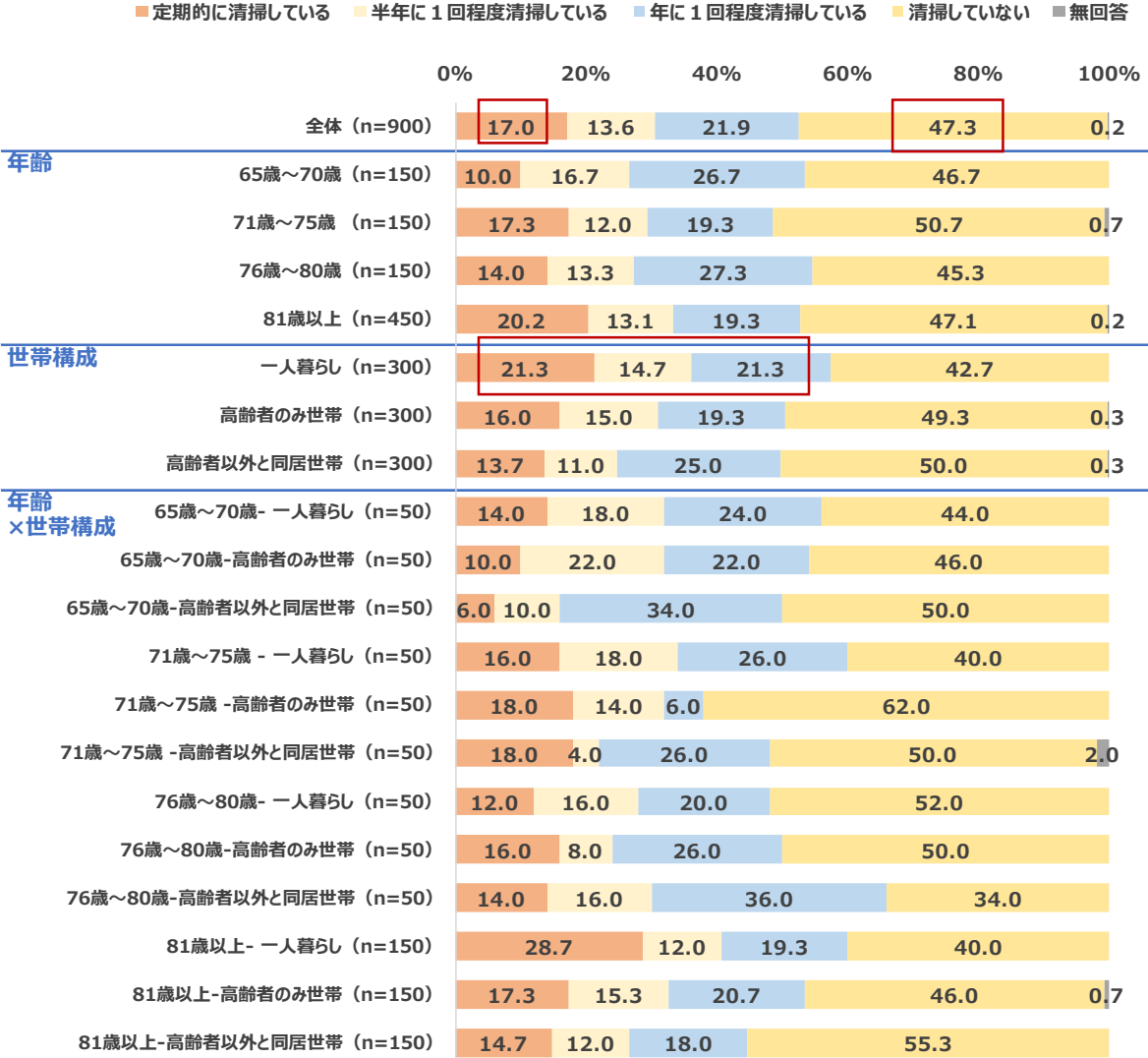
■ : 全体傾向よりも10ポイント以上高い ■ : 全体傾向よりも5ポイント以上高い ■ : 全体傾向よりも10ポイント以上低い

コンセンとの清掃状況

Point

- 「清掃していない」が全体の約半数、定期的に清掃している方は2割に満たない。
- 世帯構成別で見ると、一人暮らし世帯は清掃をしている割合が他の世帯構成と比べて高い。

問28.コンセンとの清掃はしていますか。
(〇はひとつ)

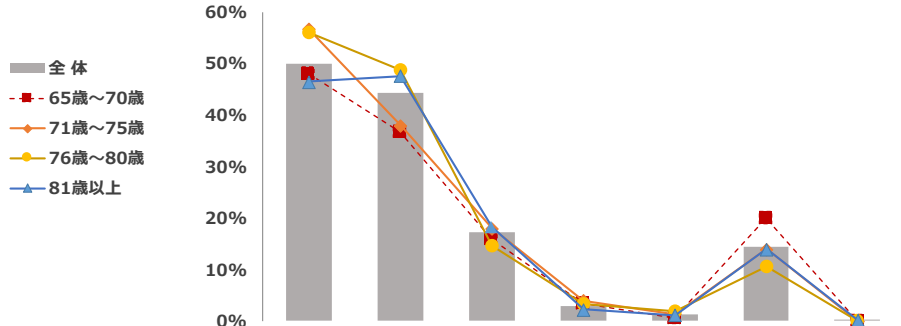


コンセントの使用状況

Point

- コンセントの危険な使用状況としては、「たこ足配線となっている箇所がある」が全体の半数と最も多い。

問29.コンセントの使用状況について、あてはまるものをすべてお選びください。
(あてはまるものすべて○)



全体		900	50.0	44.3	17.2	2.9	1.2	14.4	0.1
年齢	65歳~70歳	150	48.0	36.7	16.0	3.3	0.7	20.0	0.0
	71歳~75歳	150	56.7	38.0	18.0	4.0	1.3	14.0	0.0
	76歳~80歳	150	56.0	48.7	14.7	3.3	2.0	10.7	0.0
	81歳以上	450	46.4	47.6	18.2	2.2	1.1	14.0	0.2
世帯構成	一人暮らし	300	38.7	45.0	17.7	1.3	0.0	18.0	0.3
	高齢者のみ世帯	300	52.3	50.3	16.7	3.3	0.7	11.7	0.0
	高齢者以外と同居世帯	300	59.0	37.7	17.3	4.0	3.0	13.7	0.0
年齢×世帯構成	65歳~70歳-一人暮らし	50	50.0	30.0	14.0	4.0	0.0	20.0	0.0
	65歳~70歳-高齢者のみ世帯	50	46.0	42.0	18.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	65歳~70歳-高齢者以外と同居世帯	50	48.0	38.0	16.0	6.0	2.0	20.0	0.0
	71歳~75歳-一人暮らし	50	48.0	42.0	18.0	0.0	0.0	16.0	0.0
	71歳~75歳-高齢者のみ世帯	50	64.0	42.0	16.0	4.0	0.0	8.0	0.0
	71歳~75歳-高齢者以外と同居世帯	50	58.0	30.0	20.0	8.0	4.0	18.0	0.0
	76歳~80歳-一人暮らし	50	46.0	50.0	14.0	4.0	0.0	16.0	0.0
	76歳~80歳-高齢者のみ世帯	50	54.0	54.0	14.0	4.0	2.0	8.0	0.0
	76歳~80歳-高齢者以外と同居世帯	50	68.0	42.0	16.0	2.0	4.0	8.0	0.0
	81歳以上-一人暮らし	150	29.3	49.3	20.0	0.0	0.0	18.7	0.7
	81歳以上-高齢者のみ世帯	150	50.0	54.7	17.3	4.0	0.7	11.3	0.0
	81歳以上-高齢者以外と同居世帯	150	60.0	38.7	17.3	2.7	2.7	12.0	0.0

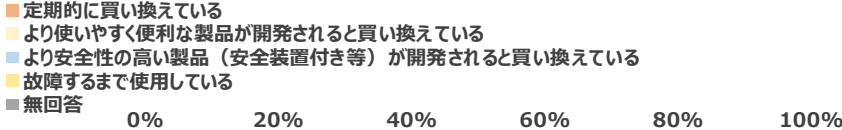
※全体結果で降順ソート

 : 全体傾向よりも10ポイント以上高い
 : 全体傾向よりも5ポイント以上高い
 : 全体傾向よりも10ポイント以上低い

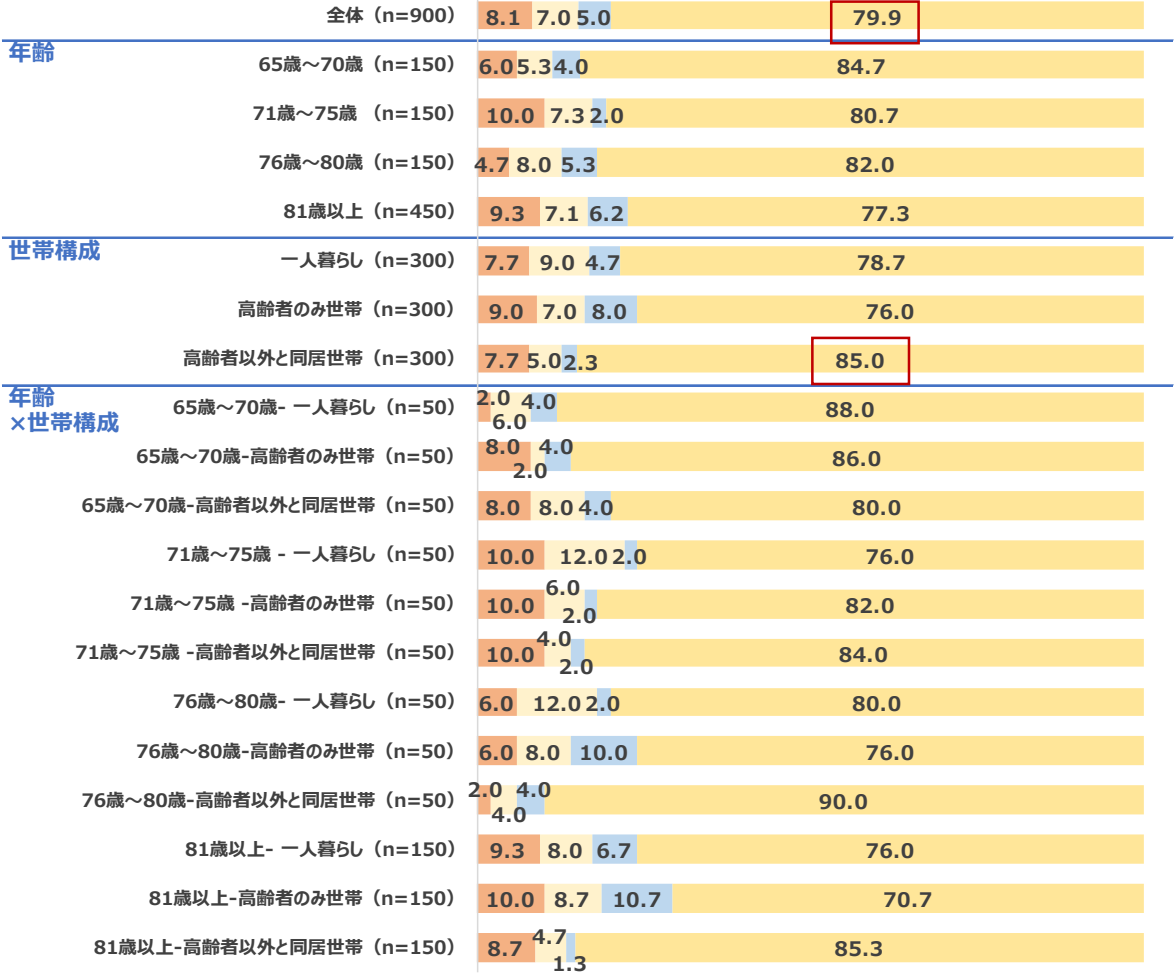
電化製品の買い換えの時期

Point

- 全体の約80%が電化製品を故障するまで使用していると回答。
- 特に、高齢者以外と同居世帯はその割合は85%に達する。



問30.あなたの家庭で使用している電化製品の買い換えの時期として、最もあてはまるものをお選びください。(〇はひとつ)

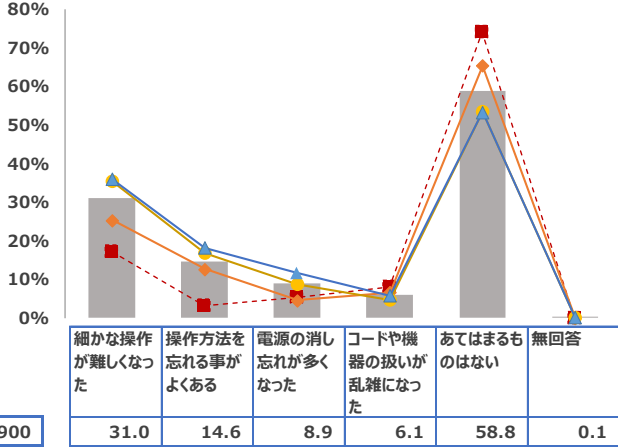


10年前と比較した電化製品の取り扱いの変化

Point

- 「細かな操作が難しくなった」「操作方法を忘れる事がよくある」「電源の消し忘れが多くなった」は年齢が上がるにつれ増加していくが、特に76～80歳で大きく増加に転じる。

問31. 10年前と比較して、電化製品の各器具の取り扱いについて以下のようなことがありますか。(あてはまるものすべて○)



全体		900	31.0	14.6	8.9	6.1	58.8	0.1
年齢	65歳～70歳	150	17.3	3.3	5.3	8.0	74.0	0.0
	71歳～75歳	150	25.3	12.7	4.7	6.7	65.3	0.0
	76歳～80歳	150	35.3	16.7	8.7	4.7	53.3	0.0
	81歳以上	450	36.0	18.2	11.6	5.8	53.3	0.2
世帯構成	一人暮らし	300	24.7	10.3	7.0	4.3	66.7	0.3
	高齢者のみ世帯	300	28.3	14.3	6.7	6.3	60.7	0.0
	高齢者以外と同居世帯	300	40.0	19.0	13.0	7.7	49.0	0.0
年齢×世帯構成	65歳～70歳-一人暮らし	50	14.0	6.0	8.0	8.0	76.0	0.0
	65歳～70歳-高齢者のみ世帯	50	14.0	0.0	2.0	8.0	80.0	0.0
	65歳～70歳-高齢者以外と同居世帯	50	24.0	4.0	6.0	8.0	66.0	0.0
	71歳～75歳-一人暮らし	50	20.0	4.0	2.0	6.0	74.0	0.0
	71歳～75歳-高齢者のみ世帯	50	32.0	14.0	6.0	8.0	58.0	0.0
	71歳～75歳-高齢者以外と同居世帯	50	24.0	20.0	6.0	6.0	64.0	0.0
	76歳～80歳-一人暮らし	50	36.0	18.0	10.0	2.0	54.0	0.0
	76歳～80歳-高齢者のみ世帯	50	34.0	22.0	8.0	6.0	52.0	0.0
	76歳～80歳-高齢者以外と同居世帯	50	36.0	10.0	8.0	6.0	54.0	0.0
	81歳以上-一人暮らし	150	26.0	11.3	7.3	3.3	65.3	0.7
	81歳以上-高齢者のみ世帯	150	30.0	16.7	8.0	5.3	58.0	0.0
	81歳以上-高齢者以外と同居世帯	150	52.0	26.7	19.3	8.7	36.7	0.0

※全体結果で降順ソート

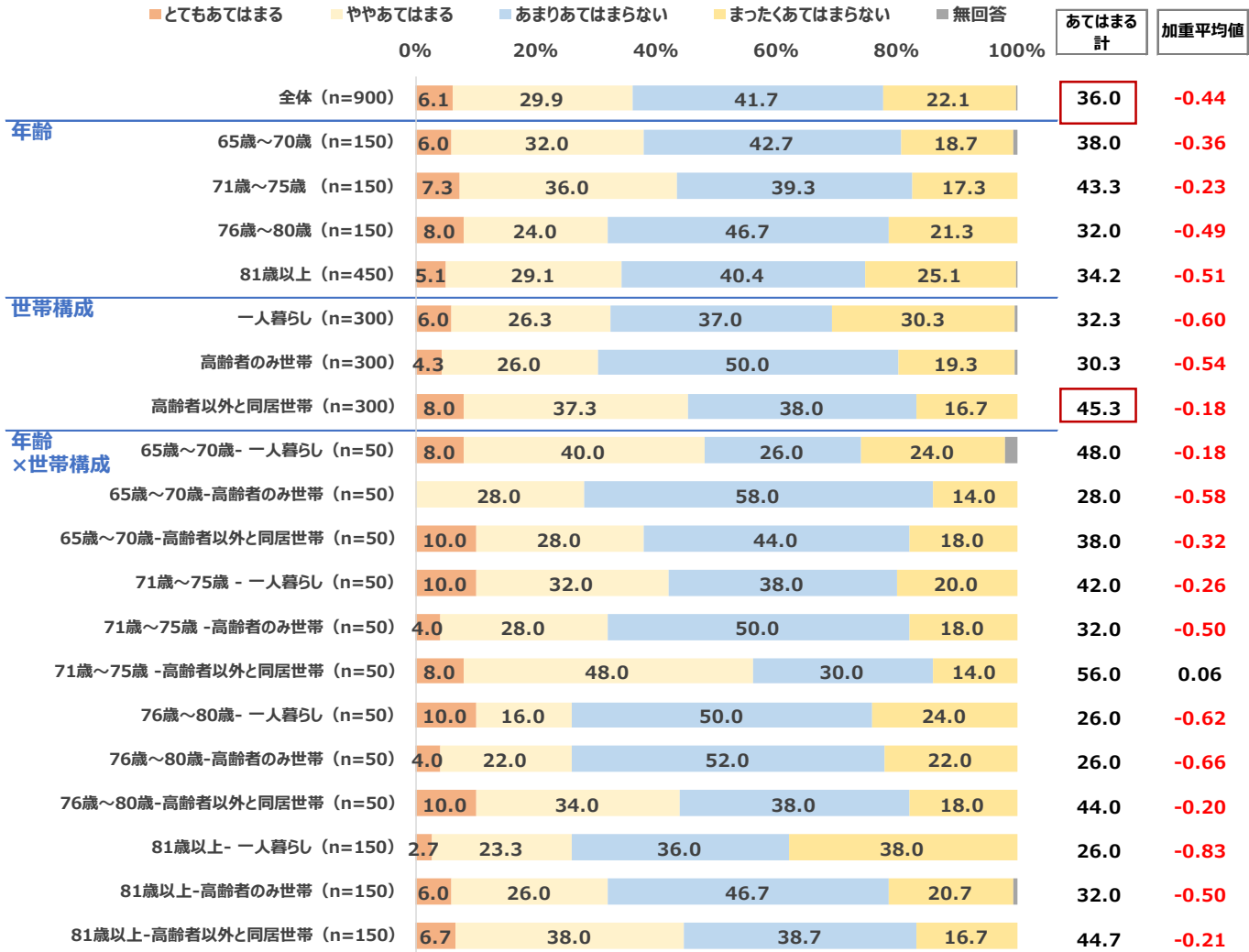
: 全体傾向よりも10ポイント以上高い
 : 全体傾向よりも5ポイント以上高い
 : 全体傾向よりも10ポイント以上低い

生活用品、衣類及び寝具等の状況_生活用品が散らかっている

Point

- あてはまる 計は全体の36.0%。
- 世帯構成別でみると、高齢者以外と同居世帯はあてはまる計が45.3%と、全体と比べ約10ポイント高い。

居室内の生活用品等の量及び散乱の有無や、衣類及び寝具等の状況について、それぞれあてはまるものをお選びください。
 (〇はひとつ)
 問32. 生活用品が散らかっている



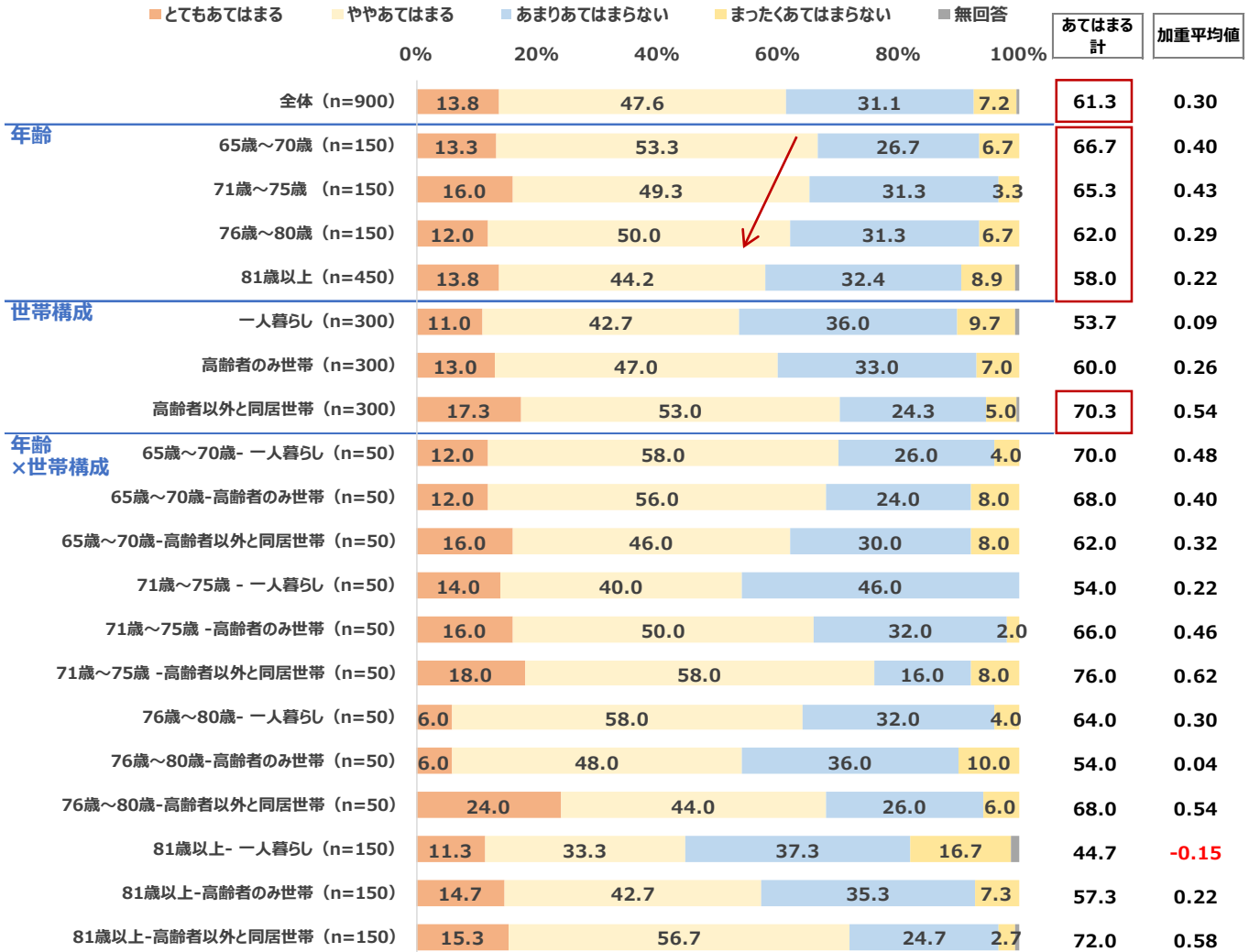
【加重平均値算出のための階級値設定】
 とてもあてはまる : 2
 ややあてはまる : 1
 あまりあてはまらない : -1
 まったくあてはまらない : -2

生活用品、衣類及び寝具等の状況_生活用品が多い

Point

- あてはまる 計は全体の61.3%。
- 年齢別でみると、年齢が上がるにつれ、あてはまる方が減少していく。
- 世帯構成別でみると、高齢者以外と同居世帯はあてはまる計が70.3%と、全体と比べ約10ポイント高い。

居室内の生活用品等の量及び散乱の有無や、衣類及び寝具等の状況について、それぞれあてはまるものをお選びください。
 (〇はひとつ)
問33. 生活用品が多い



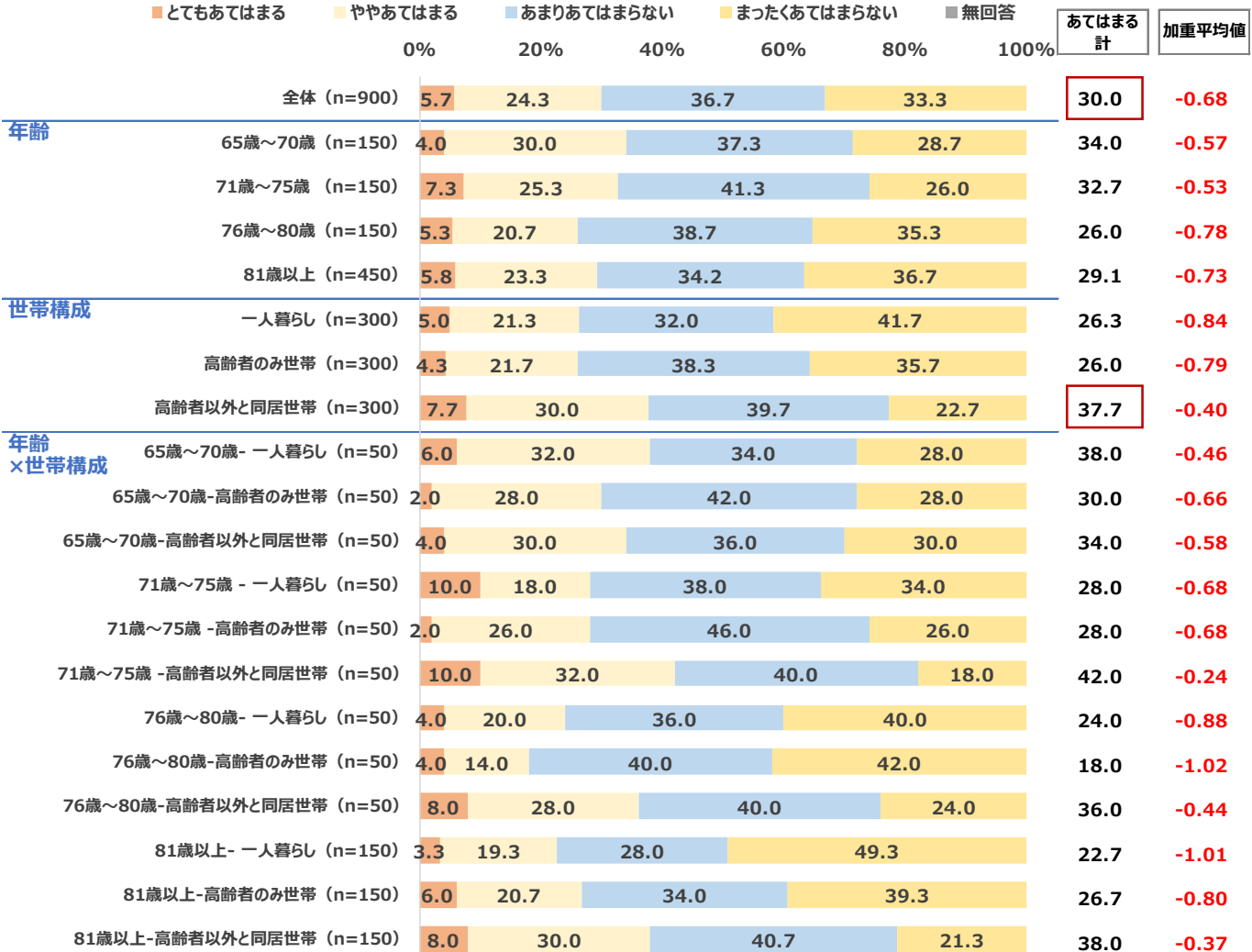
【加重平均値算出のための階級値設定】
 とてもあてはまる : 2
 ややあてはまる : 1
 あまりあてはまらない : -1
 まったくあてはまらない : -2

生活用品、衣類及び寝具等の状況_洗濯物や衣類が収納されていない

Point

- あてはまる 計は全体の30.0%。
- 世帯構成別でみると、高齢者以外と同居世帯はあてはまる計が37.7%と、全体と比べ約7.7ポイント高い。

居室内の生活用品等の量及び散乱の有無や、衣類及び寝具等の状況について、それぞれあてはまるものをお選びください。
 (〇はひとつ)
 問34. 洗濯物や衣類が常に室内にいくつも掛けられている
 (収納されていない)



【加重平均値算出のための階級値設定】
 とてまあてはまる : 2
 ややあてはまる : 1
 あまりあてはまらない : -1
 まったくあてはまらない : -2

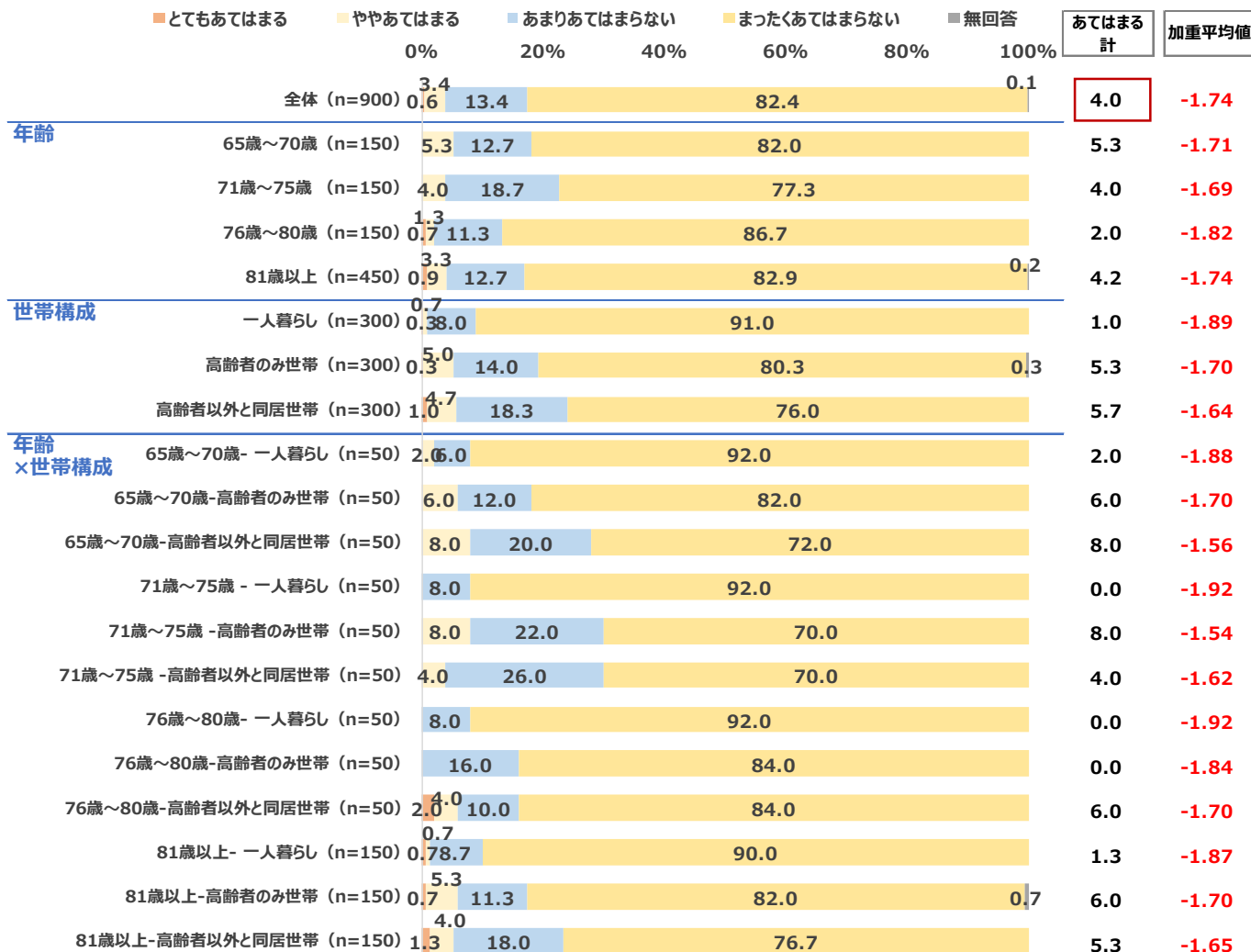
Point

- あてはまる 計は全体の4.0%とごく僅か。

居室内の生活用品等の量及び散乱の有無や、衣類及び寝具等の状況について、それぞれあてはまるものをお選びください。

(○はひとつ)

問35. 洗濯物を乾かす際に表面が高温になるような暖房器具を使用している



【加重平均値算出のための階級値設定】

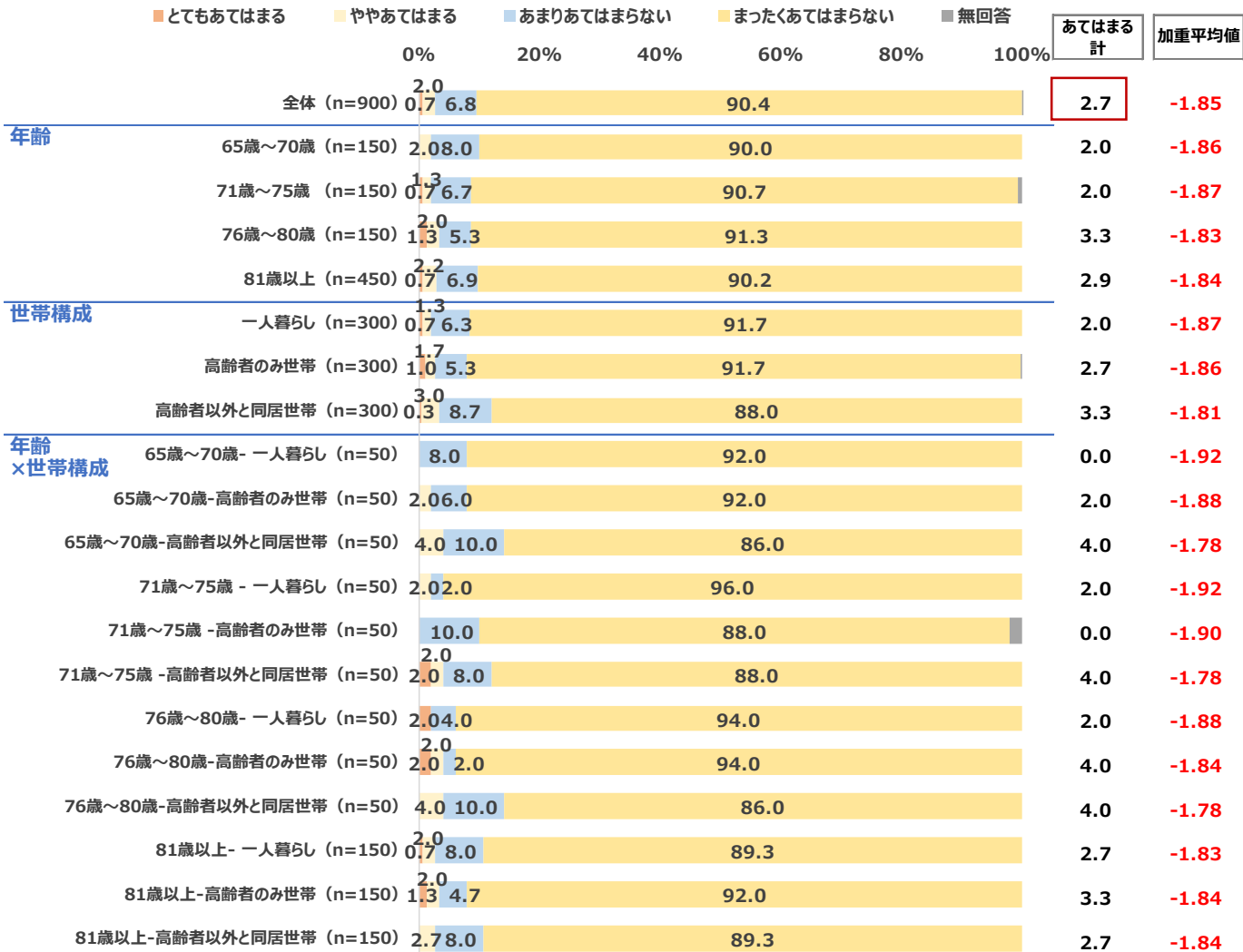
- とてもあてはまる : 2
- ややあてはまる : 1
- あまりあてはまらない : -1
- まったくあてはまらない : -2

生活用品、衣類及び寝具等の状況_就寝時にストーブを使用している

Point

- あてはまる 計は全体の2.7%とごく僅か。

居室内の生活用品等の量及び散乱の有無や、衣類及び寝具等の状況について、それぞれあてはまるものをお選びください。
 (〇はひとつ)
 問36.就寝時にストーブを使用している



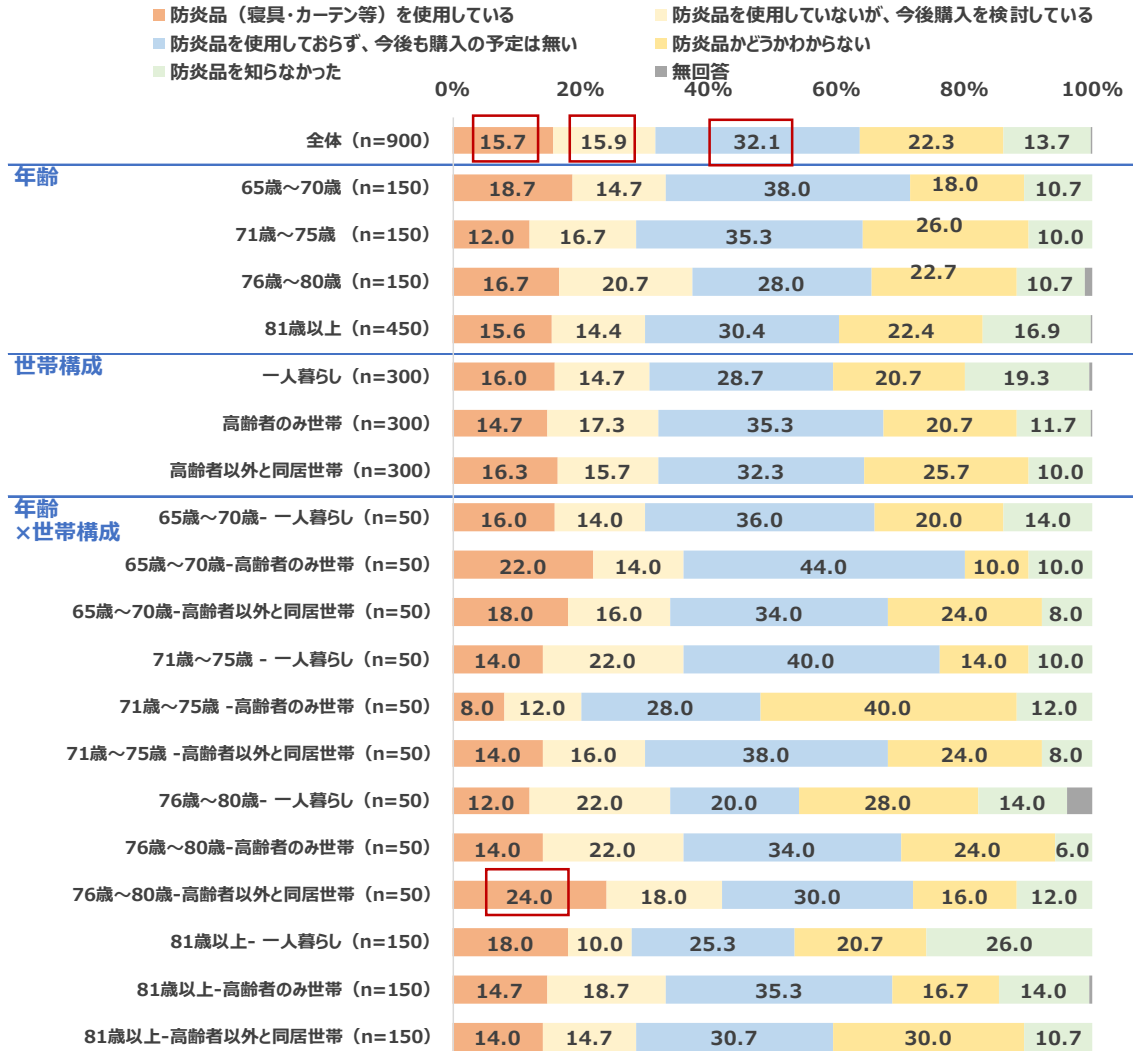
【加重平均値算出のための階級値設定】
 とてもあてはまる : 2
 ややあてはまる : 1
 あまりあてはまらない : -1
 まったくあてはまらない : -2

防災品の使用状況

Point

- 「防災品を使用しておらず、今後も購入の予定は無い」が全体の約1/3。「防災品（寝具・カーテン等）を使用している」と「防災品を使用していないが、今後購入を検討している」がともに15%程度。
- 「防災品（寝具・カーテン等）を使用している」は「76歳～80歳-高齢者以外と同居世帯」で最も高い。

問37.あなたは防災品を使用していますか。(〇はひとつ)
 ※防災品・・・防災性能を有する物品及び製品で以下のラベルなどが付されているもの

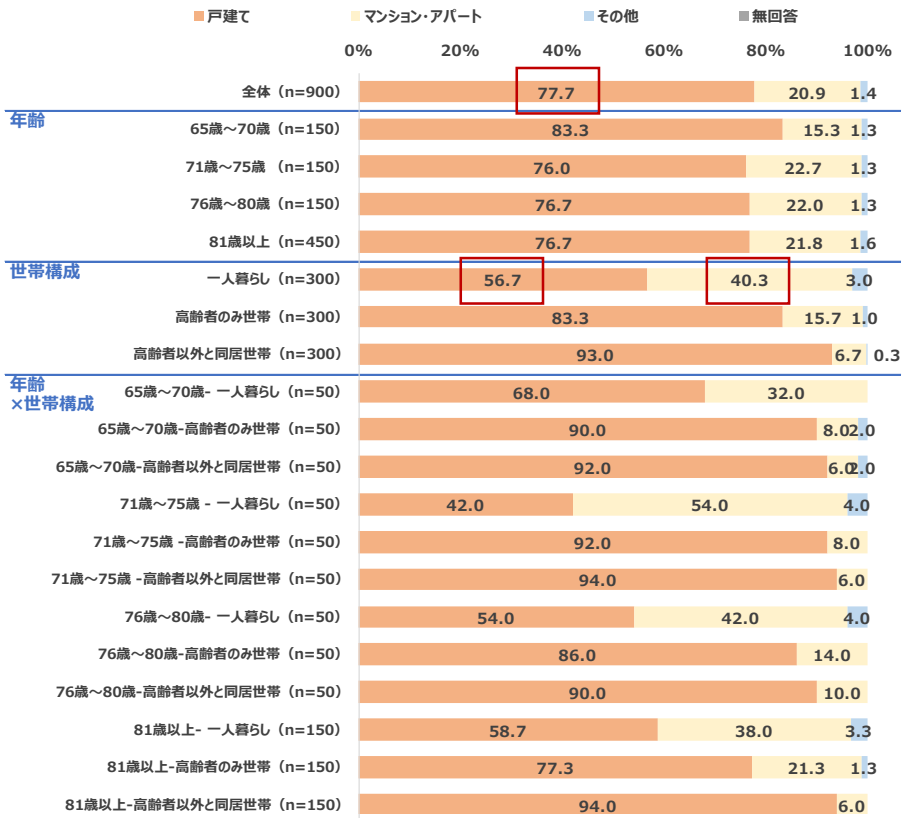


住居の状況・居住階

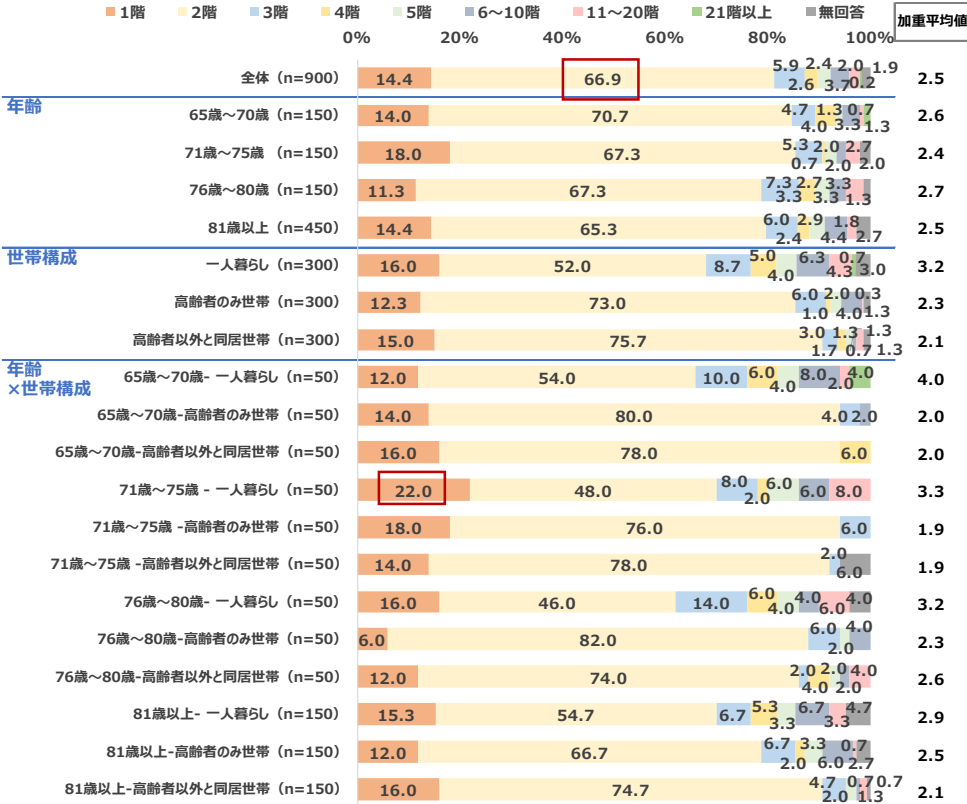
Point

- 住居の形態は「戸建て」が全体の77.7%だが、一人暮らし世帯では56.7%と少なく、「マンション・アパート」が4割超。
- 居住階は「2階」が最多回答で、「71歳～75歳 - 一人暮らし」では「1階」が2割を超える。

問38.あなたのお住まいは以下のどれにあてはまりますか。(〇はひとつ)



問39.お住まいの居住階について、戸建ての場合は建築階数を、マンション・アパートの場合は居住している階数を記載してください。(数字を記入)



住居の所有形態・築年数

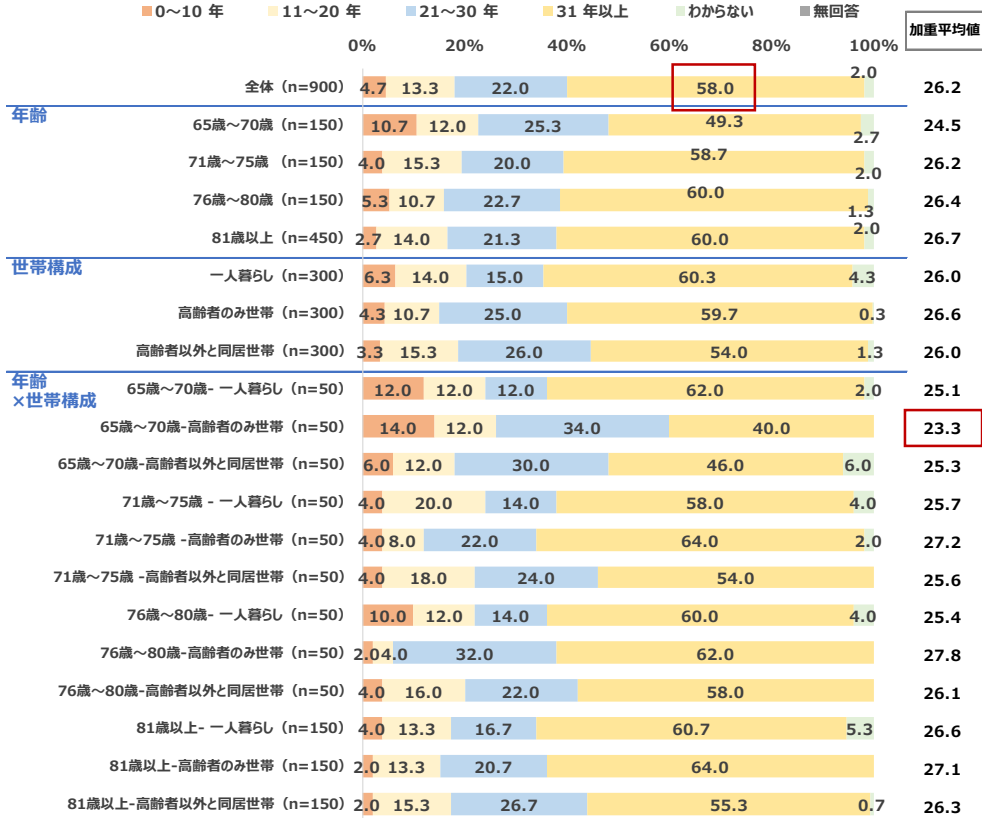
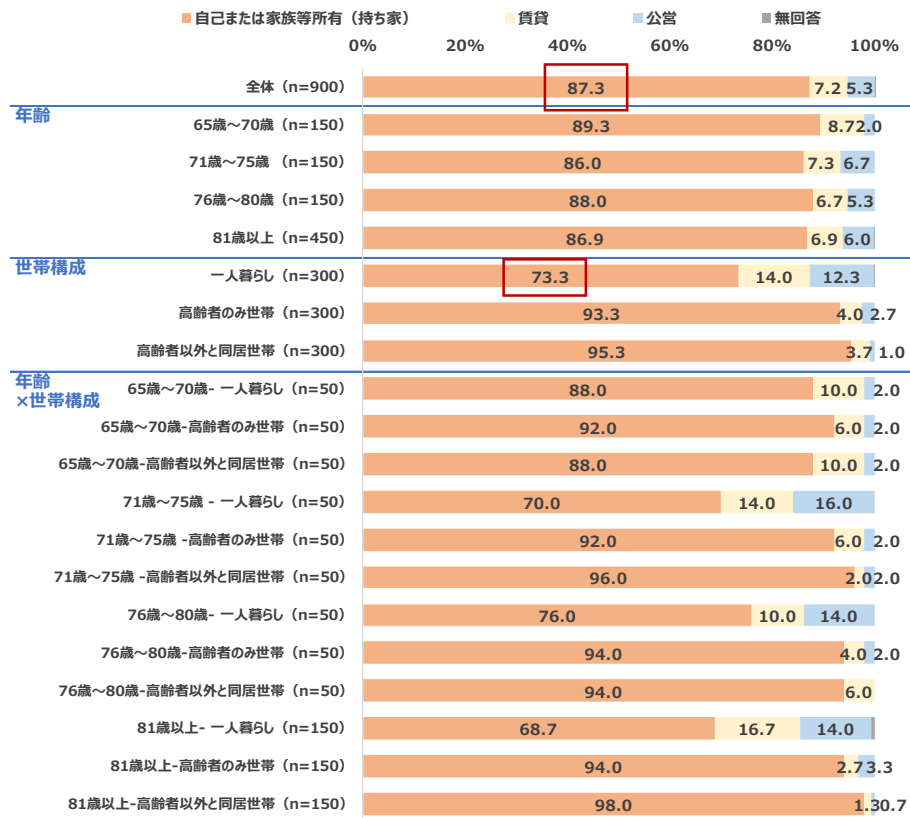
Point

- 住居の所有形態は「自己または家族等所有（持ち家）」が全体の87.3%だが、一人暮らし世帯では73.3%と全体と比較して14ポイント程少ない。
- 築年数は「31年以上」が最多回答で全体の約6割。65歳～70歳-高齢者のみ世帯では31年以上が4割、平均築年数が23.3年と、他の層と比較してやや築年数の浅い住居に居住しているといえる。

【加重平均値算出のための階級値設定】
 0～10年 : 5
 11～20年 : 15.5
 21～30年 : 24.5
 31年以上 : 31
 わからない : -

問40.あなたのお住まいの所有形態は以下のどれにあてはまりますか。(〇はひとつ)

問42.あなたのお住まいの築年数をお答えください。(〇はひとつ)

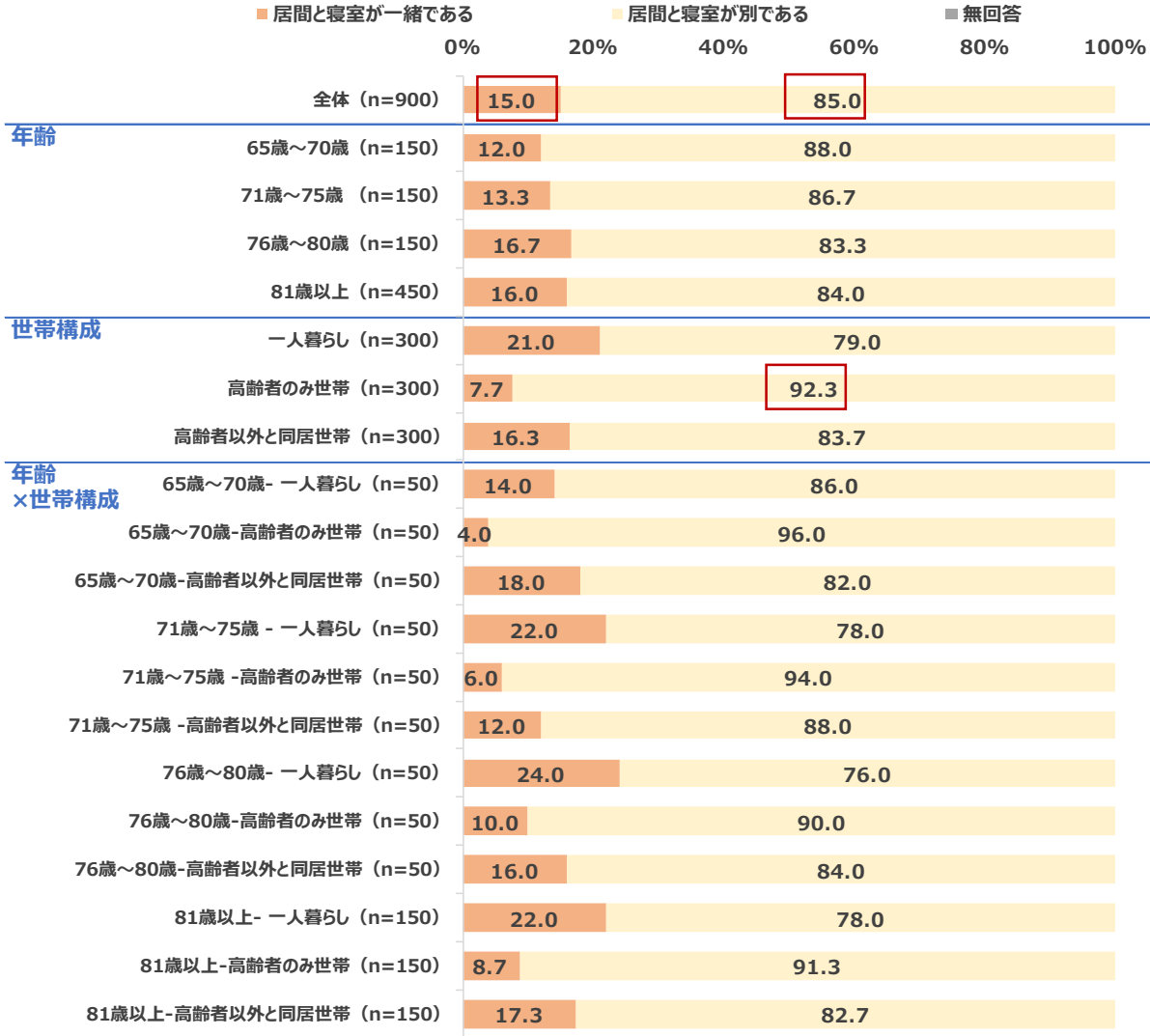


主な生活場所の状況

Point

- 「居間と寝室が別である」と回答したのが全体の85%。
- 高齢者のみ世帯では「居間と寝室が別である」が9割を超えている。

問41.あなたが主に生活している場所は、以下のどちらですか。(〇はひとつ)

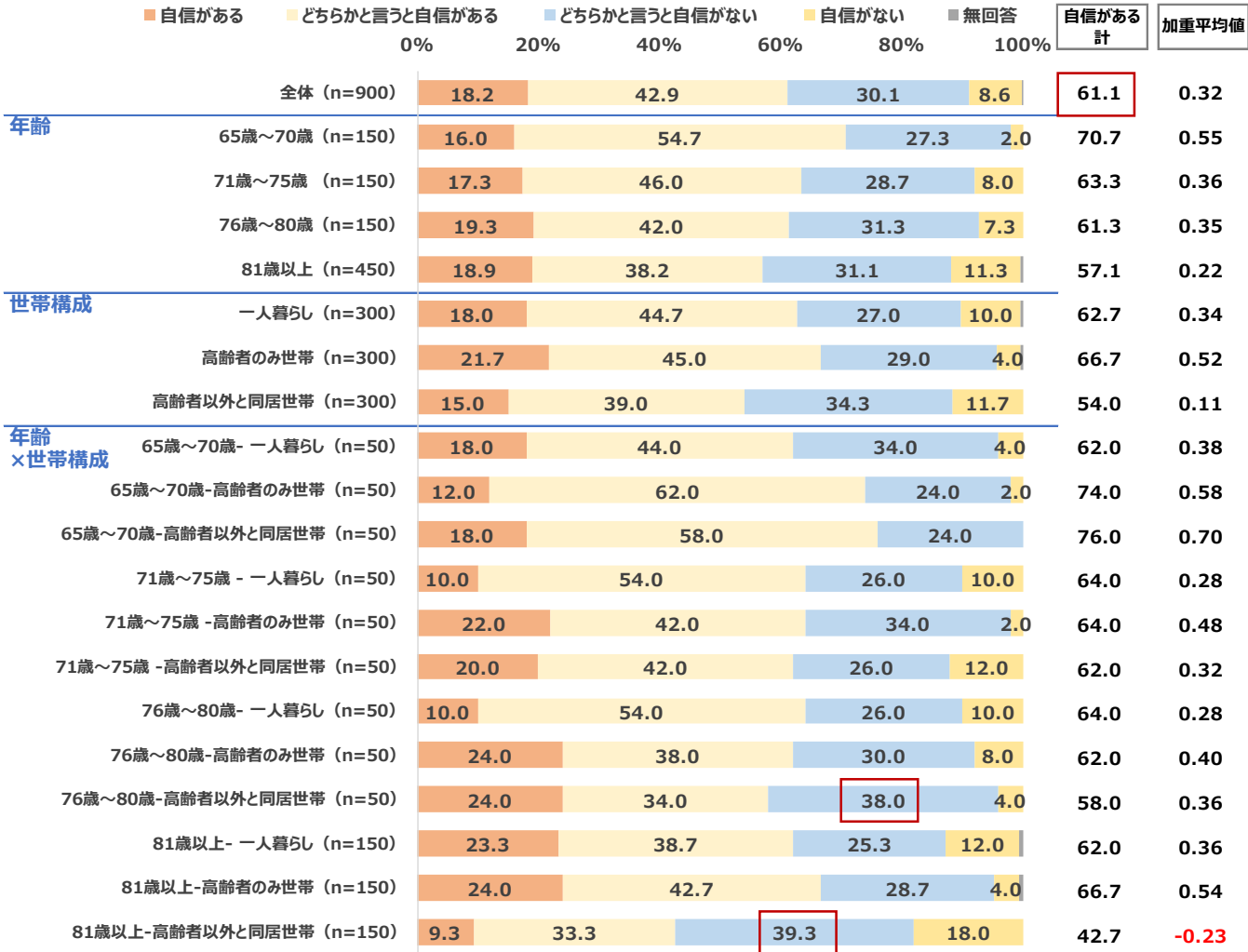


自宅で火災が発生した際に安全に避難を行う自信

Point

- 自信がある 計が61.1%と全体では自信がある方がない方より多い。
- 76歳～80歳-高齢者以外と同居世帯と81歳以上-高齢者以外と同居世帯では「どちらかと言うと自信がない」が最多回答となった。

問43.もしご自宅で火災が発生したとして、あなたは安全に避難を行う自信がありますか。(〇はひとつ)



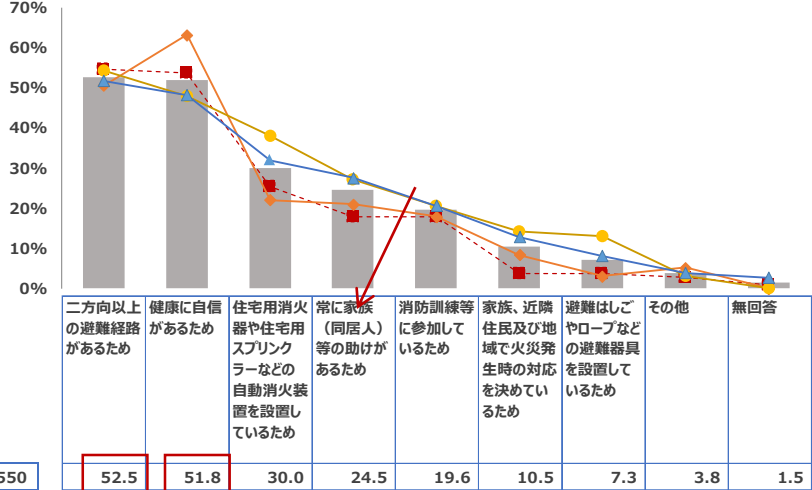
【加重平均値算出のための階級値設定】
 自信がある : 2
 どちらかと言うと自信がある : 1
 どちらかと言うと自信がない : -1
 自信がない : -2

「自信がある」と回答した理由

Point

- 「二方向以上の避難経路があるため」と「健康に自信があるため」がともに約半数。
- 71歳～75歳では「健康に自信があるため」は63.2%と全体より10ポイント以上高く、高齢者以外と同居世帯では「常に家族等の助けがあるため」が全体より25ポイント以上高い。

問44.先ほどの質問で、自宅で火災が発生した際に、安全に避難を行う「自信がある」「どちらかと言うと自信がある」とご回答頂きましたが、そのように思うのはなぜですか。(あてはまるものすべて○)



全体			52.5	51.8	30.0	24.5	19.6	10.5	7.3	3.8	1.5
年齢	65歳～70歳	106	54.7	53.8	25.5	17.9	17.9	3.8	3.8	2.8	0.9
	71歳～75歳	95	50.5	63.2	22.1	21.1	17.9	8.4	3.2	5.3	0.0
	76歳～80歳	92	54.3	47.8	38.0	27.2	20.7	14.1	13.0	3.3	0.0
	81歳以上	257	51.8	48.2	31.9	27.6	20.6	12.8	8.2	3.9	2.7
世帯構成	一人暮らし	188	49.5	45.2	30.9	0.0	20.2	12.8	10.1	6.4	1.6
	高齢者のみ世帯	200	57.0	57.0	33.5	26.5	22.5	11.0	7.5	2.5	1.5
	高齢者以外と同居世帯	162	50.6	53.1	24.7	50.6	15.4	7.4	3.7	2.5	1.2
年齢×世帯構成	65歳～70歳-一人暮らし	31	54.8	58.1	19.4	0.0	16.1	3.2	3.2	3.2	0.0
	65歳～70歳-高齢者のみ世帯	37	67.6	43.2	35.1	29.7	21.6	2.7	5.4	2.7	0.0
	65歳～70歳-高齢者以外と同居世帯	38	42.1	60.5	21.1	21.1	15.8	5.3	2.6	2.6	2.6
	71歳～75歳-一人暮らし	32	62.5	56.3	31.3	0.0	21.9	6.3	9.4	6.3	0.0
	71歳～75歳-高齢者のみ世帯	32	40.6	75.0	18.8	28.1	15.6	12.5	0.0	3.1	0.0
	71歳～75歳-高齢者以外と同居世帯	31	48.4	58.1	16.1	35.5	16.1	6.5	0.0	6.5	0.0
	76歳～80歳-一人暮らし	32	56.3	34.4	40.6	0.0	28.1	18.8	18.8	9.4	0.0
	76歳～80歳-高齢者のみ世帯	31	54.8	64.5	32.3	12.9	22.6	19.4	16.1	0.0	0.0
	76歳～80歳-高齢者以外と同居世帯	29	51.7	44.8	41.4	72.4	10.3	3.4	3.4	0.0	0.0
	81歳以上-一人暮らし	93	40.9	40.9	31.2	0.0	18.3	16.1	9.7	6.5	3.2
	81歳以上-高齢者のみ世帯	100	59.0	54.0	38.0	29.0	25.0	11.0	8.0	3.0	3.0
81歳以上-高齢者以外と同居世帯	64	56.3	50.0	23.4	65.6	17.2	10.9	6.3	1.6	1.6	

※全体結果で降順ソート
 ※n=30未満は参考値として記載

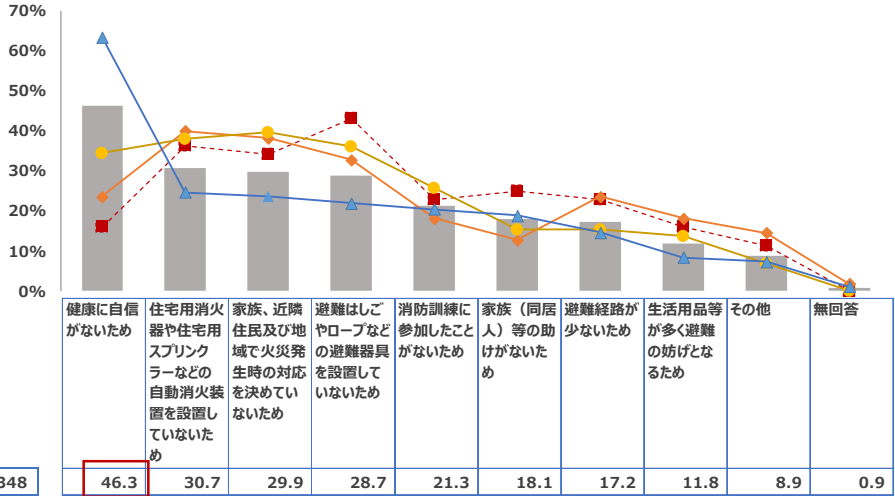
■ : 全体傾向よりも10ポイント以上高い ■ : 全体傾向よりも5ポイント以上高い ■ : 全体傾向よりも10ポイント以上低い

「自信がない」と回答した理由

Point

- 「健康に自信がないため」が46.3%で最多回答。
- 81歳以上は「健康に自信がないため」が63.4%、高齢者のみ世帯では「火災発生時の対応を決めていないため」が40.4%とそれぞれ全体より10ポイント以上高い。

問45.先ほどの質問で、自宅で火災が発生した際に、安全に避難を行う「どちらかと言うと自信がない」「自信がない」とご回答頂きましたが、そのように思うのはなぜですか。(あてはまるものすべて〇)



理由		全体	65歳～70歳	71歳～75歳	76歳～80歳	81歳以上
健康に自信がないため	46.3	15.9	23.6	34.5	63.4	44.1
住宅用消火器や住宅用スプリンクラーなどの自動消火装置を設置していないため	30.7	36.4	40.0	37.9	24.6	26.1
家族、近隣住民及び地域で火災発生時の対応を決めていないため	29.9	34.1	38.2	39.7	23.6	27.0
避難はしごやロープなどの避難器具を設置していないため	28.7	43.2	32.7	36.2	22.0	26.1
消防訓練に参加したことがないため	21.3	22.7	18.2	25.9	20.4	20.7
家族(同居人)等の助けがないため	18.1	25.0	12.7	15.5	18.8	45.0
避難経路が少ないため	17.2	22.7	23.6	15.5	14.7	12.6
生活用品等が多く避難の妨げとなるため	11.8	15.9	18.2	13.8	8.4	7.2
その他	8.9	11.4	14.5	6.9	7.3	14.4
無回答	0.9	0.0	1.8	0.0	1.0	0.0

世帯構成	人数	健康に自信がないため	住宅用消火器や住宅用スプリンクラーなどの自動消火装置を設置していないため	家族、近隣住民及び地域で火災発生時の対応を決めていないため	避難はしごやロープなどの避難器具を設置していないため	消防訓練に参加したことがないため	家族(同居人)等の助けがないため	避難経路が少ないため	生活用品等が多く避難の妨げとなるため	その他	無回答
一人暮らし	111	44.1	26.1	27.0	26.1	20.7	45.0	12.6	7.2	14.4	0.0
高齢者のみ世帯	99	34.3	39.4	40.4	38.4	21.2	8.1	26.3	9.1	6.1	2.0
高齢者以外と同居世帯	138	56.5	28.3	24.6	23.9	21.7	3.6	14.5	17.4	6.5	0.7

年齢×世帯構成	人数	健康に自信がないため	住宅用消火器や住宅用スプリンクラーなどの自動消火装置を設置していないため	家族、近隣住民及び地域で火災発生時の対応を決めていないため	避難はしごやロープなどの避難器具を設置していないため	消防訓練に参加したことがないため	家族(同居人)等の助けがないため	避難経路が少ないため	生活用品等が多く避難の妨げとなるため	その他	無回答
65歳～70歳-一人暮らし	19	26.3	26.3	26.3	36.8	21.1	52.6	21.1	10.5	21.1	0.0
65歳～70歳-高齢者のみ世帯	13	7.7	53.8	53.8	69.2	15.4	7.7	23.1	0.0	0.0	0.0
65歳～70歳-高齢者以外と同居世帯	12	8.3	33.3	25.0	25.0	33.3	0.0	25.0	41.7	8.3	0.0
71歳～75歳-一人暮らし	18	11.1	33.3	38.9	22.2	16.7	38.9	16.7	16.7	22.2	0.0
71歳～75歳-高齢者のみ世帯	18	16.7	50.0	50.0	44.4	22.2	0.0	27.8	22.2	11.1	5.6
71歳～75歳-高齢者以外と同居世帯	19	42.1	36.8	26.3	31.6	15.8	0.0	26.3	15.8	10.5	0.0
76歳～80歳-一人暮らし	18	50.0	27.8	33.3	27.8	22.2	50.0	16.7	5.6	11.1	0.0
76歳～80歳-高齢者のみ世帯	19	31.6	36.8	47.4	31.6	31.6	0.0	15.8	10.5	0.0	0.0
76歳～80歳-高齢者以外と同居世帯	21	23.8	47.6	38.1	47.6	23.8	0.0	14.3	23.8	9.5	0.0
81歳以上-一人暮らし	56	58.9	23.2	21.4	23.2	21.4	42.9	7.1	3.6	10.7	0.0
81歳以上-高齢者のみ世帯	49	49.0	32.7	30.6	30.6	18.4	14.3	30.6	6.1	8.2	2.0
81歳以上-高齢者以外と同居世帯	86	74.4	20.9	20.9	16.3	20.9	5.8	10.5	12.8	4.7	1.2

※全体結果で降順ソート
 ※n=30未満は参考値として記載




■ : 全体傾向よりも10ポイント以上高い ■ : 全体傾向よりも5ポイント以上高い ■ : 全体傾向よりも10ポイント以上低い

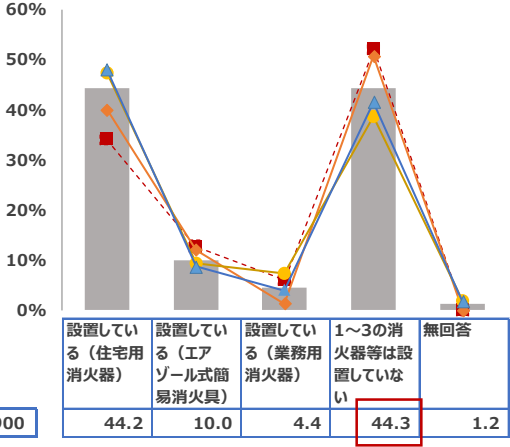
自宅に設置している消火器等

Point

- 消火器等は設置していないと回答したのは全体の44.3%。
- 65歳～70歳-高齢者以外と同居世帯では消火器等は設置していないが56.0%と全体より10ポイント以上高い。

問46.ご自宅に以下のような消火器等はありますか。以下のイラストをご覧ください、設置しているものをお選びください。(あてはまるものすべて○)

<p>1.住宅用消火器</p>  <p>絵で表示 適応火災の種別が</p>	<p>2.業務用消火器</p>  <p>A B Cで表示 適応火災が、</p>	<p>3.エアゾール式簡易消火具</p> <p>※スプレー缶タイプの消火具、写真は一例</p> 
---	---	--



		全体	900	設置している(住宅用消火器)	設置している(エアゾール式簡易消火具)	設置している(業務用消火器)	1~3の消火器等は設置していない	無回答
年齢	全体	44.2	10.0	4.4	44.3	1.2		
	65歳~70歳	34.0	12.7	6.0	52.0	0.0		
	71歳~75歳	40.0	12.0	1.3	50.7	0.0		
	76歳~80歳	47.3	9.3	7.3	38.7	2.0		
	81歳以上	48.0	8.7	4.0	41.6	1.8		
世帯構成	一人暮らし	40.3	7.7	5.0	48.7	1.7		
	高齢者のみ世帯	50.0	10.0	4.3	38.7	1.3		
	高齢者以外と同居世帯	42.3	12.3	4.0	45.7	0.7		
年齢×世帯構成	65歳~70歳-一人暮らし	34.0	6.0	10.0	52.0	0.0		
	65歳~70歳-高齢者のみ世帯	40.0	16.0	4.0	48.0	0.0		
	65歳~70歳-高齢者以外と同居世帯	28.0	16.0	4.0	56.0	0.0		
	71歳~75歳-一人暮らし	42.0	8.0	0.0	54.0	0.0		
	71歳~75歳-高齢者のみ世帯	38.0	16.0	0.0	48.0	0.0		
	71歳~75歳-高齢者以外と同居世帯	40.0	12.0	4.0	50.0	0.0		
	76歳~80歳-一人暮らし	42.0	12.0	4.0	44.0	4.0		
	76歳~80歳-高齢者のみ世帯	58.0	2.0	6.0	38.0	0.0		
	76歳~80歳-高齢者以外と同居世帯	42.0	14.0	12.0	34.0	2.0		
	81歳以上-一人暮らし	41.3	6.7	5.3	47.3	2.0		
	81歳以上-高齢者のみ世帯	54.7	8.7	5.3	32.7	2.7		
	81歳以上-高齢者以外と同居世帯	48.0	10.7	1.3	44.7	0.7		

※全体結果で降順ソート

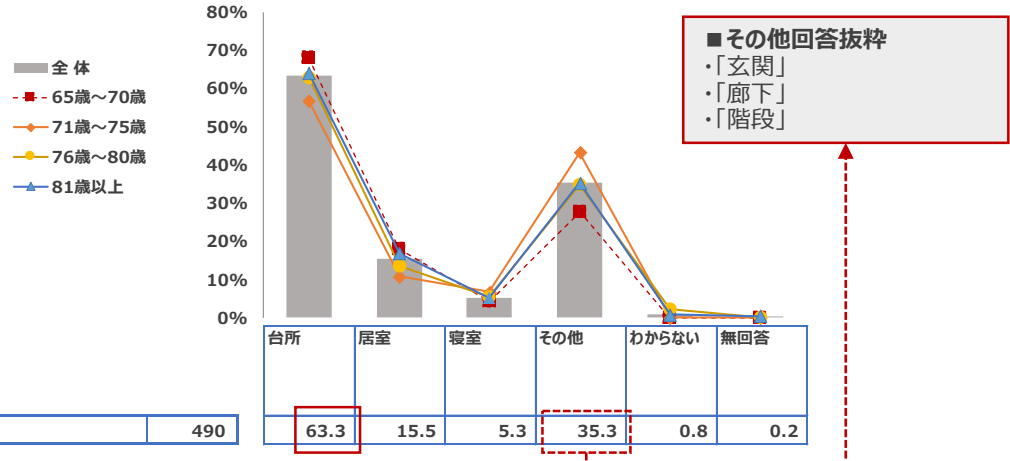
 : 全体傾向よりも10ポイント以上高い
 : 全体傾向よりも5ポイント以上高い
 : 全体傾向よりも10ポイント以上低い

消火器具の設置場所

Point

- 「台所」と回答したのは全体の63.3%。
- 「その他」の回答には「玄関」、「廊下」、「階段」などが多かった。

問47.消火器具をどこに設置していますか。(あてはまるものすべて○)



全体		490	63.3	15.5	5.3	35.3	0.8	0.2
年齢	65歳～70歳	72	68.1	18.1	4.2	27.8	0.0	0.0
	71歳～75歳	74	56.8	10.8	6.8	43.2	0.0	0.0
	76歳～80歳	89	62.9	13.5	5.6	34.8	2.2	0.0
	81歳以上	255	63.9	16.9	5.1	35.3	0.8	0.4
世帯構成	一人暮らし	149	50.3	12.1	4.7	45.0	1.3	0.0
	高齢者のみ世帯	180	70.0	18.9	6.1	30.6	0.0	0.6
	高齢者以外と同居世帯	161	67.7	14.9	5.0	31.7	1.2	0.0
年齢×世帯構成	65歳～70歳-一人暮らし	24	54.2	12.5	0.0	37.5	0.0	0.0
	65歳～70歳-高齢者のみ世帯	26	80.8	19.2	11.5	23.1	0.0	0.0
	65歳～70歳-高齢者以外と同居世帯	22	68.2	22.7	0.0	22.7	0.0	0.0
	71歳～75歳-一人暮らし	23	47.8	0.0	4.3	69.6	0.0	0.0
	71歳～75歳-高齢者のみ世帯	26	57.7	19.2	7.7	26.9	0.0	0.0
	71歳～75歳-高齢者以外と同居世帯	25	64.0	12.0	8.0	36.0	0.0	0.0
	76歳～80歳-一人暮らし	26	53.8	15.4	3.8	38.5	0.0	0.0
	76歳～80歳-高齢者のみ世帯	31	64.5	12.9	6.5	38.7	0.0	0.0
	76歳～80歳-高齢者以外と同居世帯	32	68.8	12.5	6.3	28.1	6.3	0.0
	81歳以上-一人暮らし	76	48.7	14.5	6.6	42.1	2.6	0.0
	81歳以上-高齢者のみ世帯	97	72.2	20.6	4.1	30.9	0.0	1.0
	81歳以上-高齢者以外と同居世帯	82	68.3	14.6	4.9	34.1	0.0	0.0

※全体結果で降順ソート
 ※n=30未満は参考値として記載

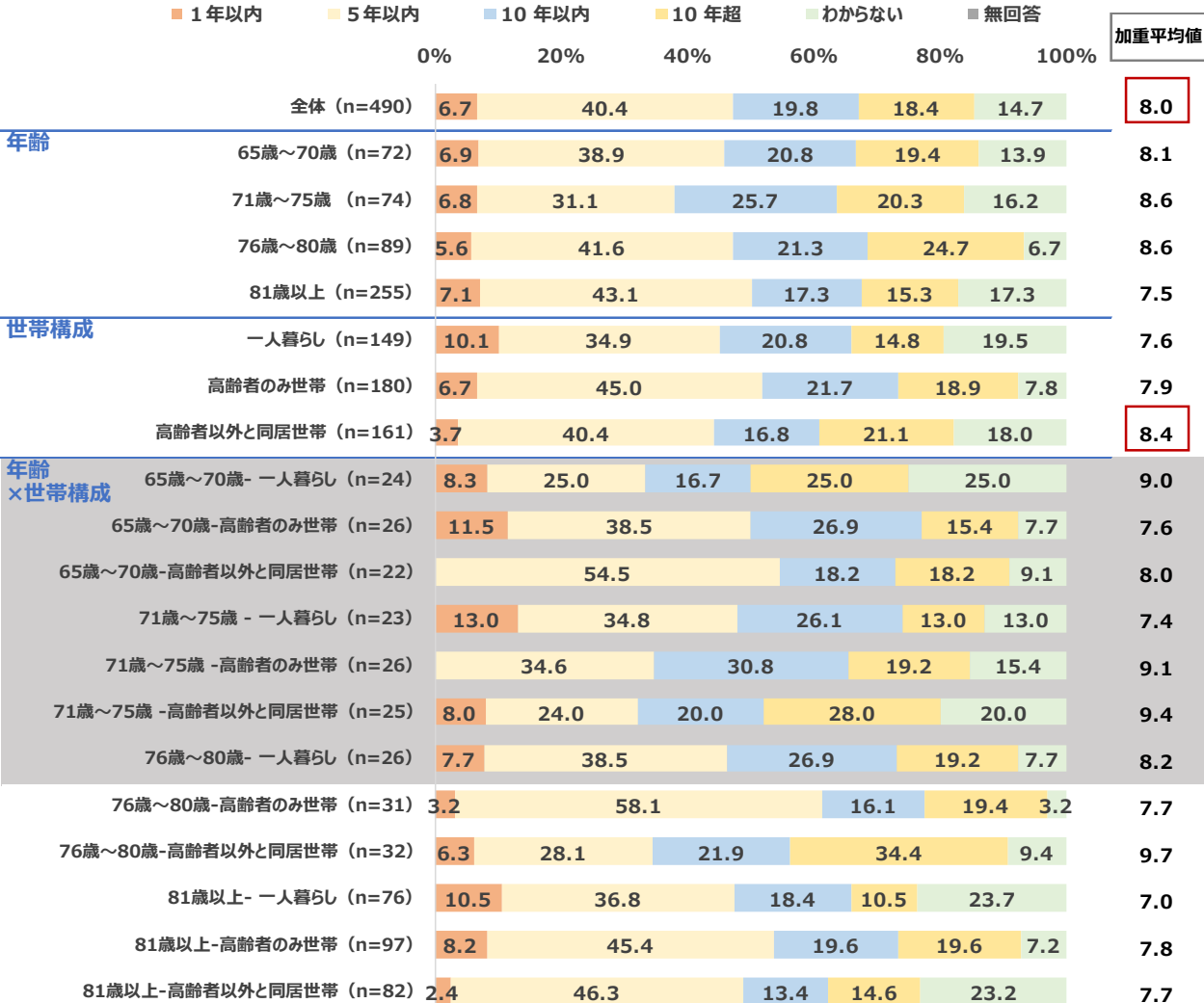
■ : 全体傾向よりも10ポイント以上高い
 ■ : 全体傾向よりも5ポイント以上高い
 ■ : 全体傾向よりも10ポイント以上低い

自宅で最も古い消火器具の設置後の経過年数

Point

- 経過年数の平均は全体では8.0年。
- 高齢者以外と同居世帯は、経過年数が8.4年と長い。

問48.あなたの自宅にある最も古い消火器具は設置してからどれくらい経っていますか。(〇はひとつ)



【加重平均値算出のための階級値設定】
 1年以内 : 1.0
 5年以内 : 5.0
 10年以内 : 10.0
 10年超 : 15.0
 わからない : -

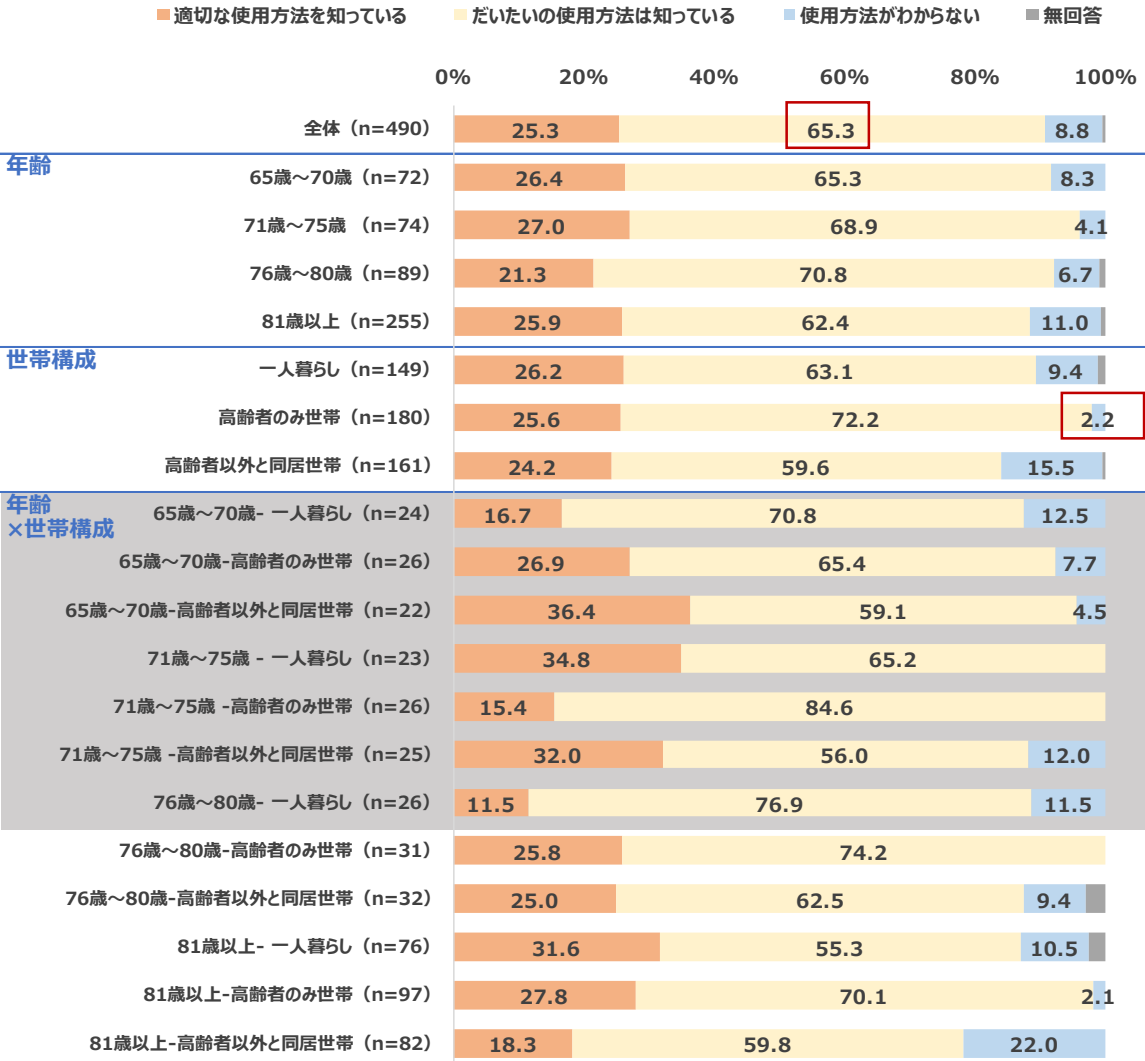
※n=30未満は参考値として記載

消火器具の使用方法の認知

Point

- 「だいたいの使用方法は知っている」が全体の6割超。「適切な使用方法を知っている」は全体の約1/4。
- 高齢者のみ世帯では「使用方法がわからない」と回答したのはわずか2.2%であった。

問49.消火器具の使用方法是ご存知ですか。(〇はひとつ)



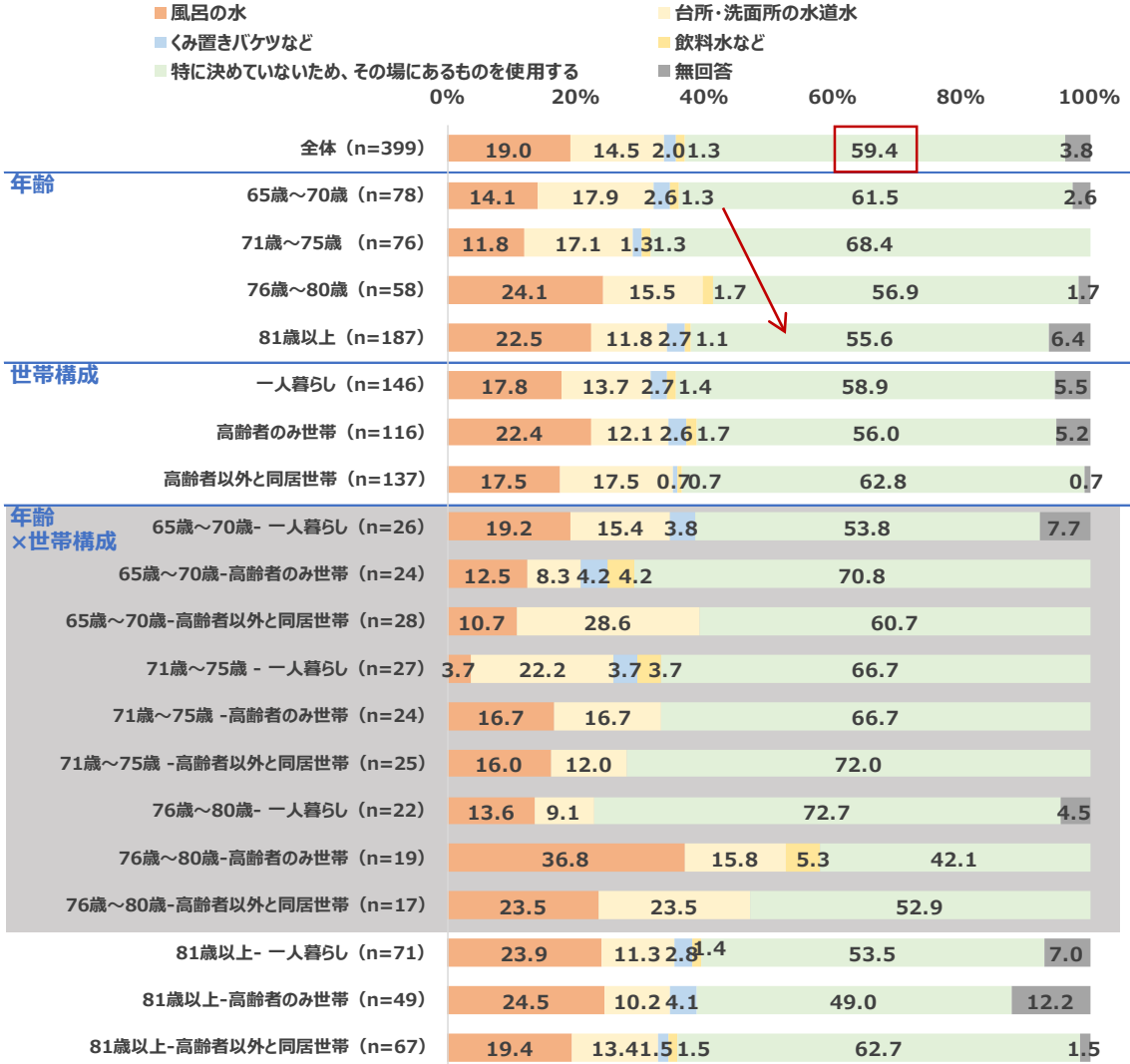
※n=30未満は参考値として記載

自宅で火災が起きた際の初期消火の方法

Point

- 「特に決めていないため、その場にあるものを使用する」が全体の6割。
- 年齢が上がるにつれて「特に決めていないため、その場にあるものを使用する」は減少する傾向が見られる。

問50.ご自宅で火災が起きた際、初期消火の方法は決めていますか。決めている場合は、初期消火の方法をお選びください。(〇はひとつ)



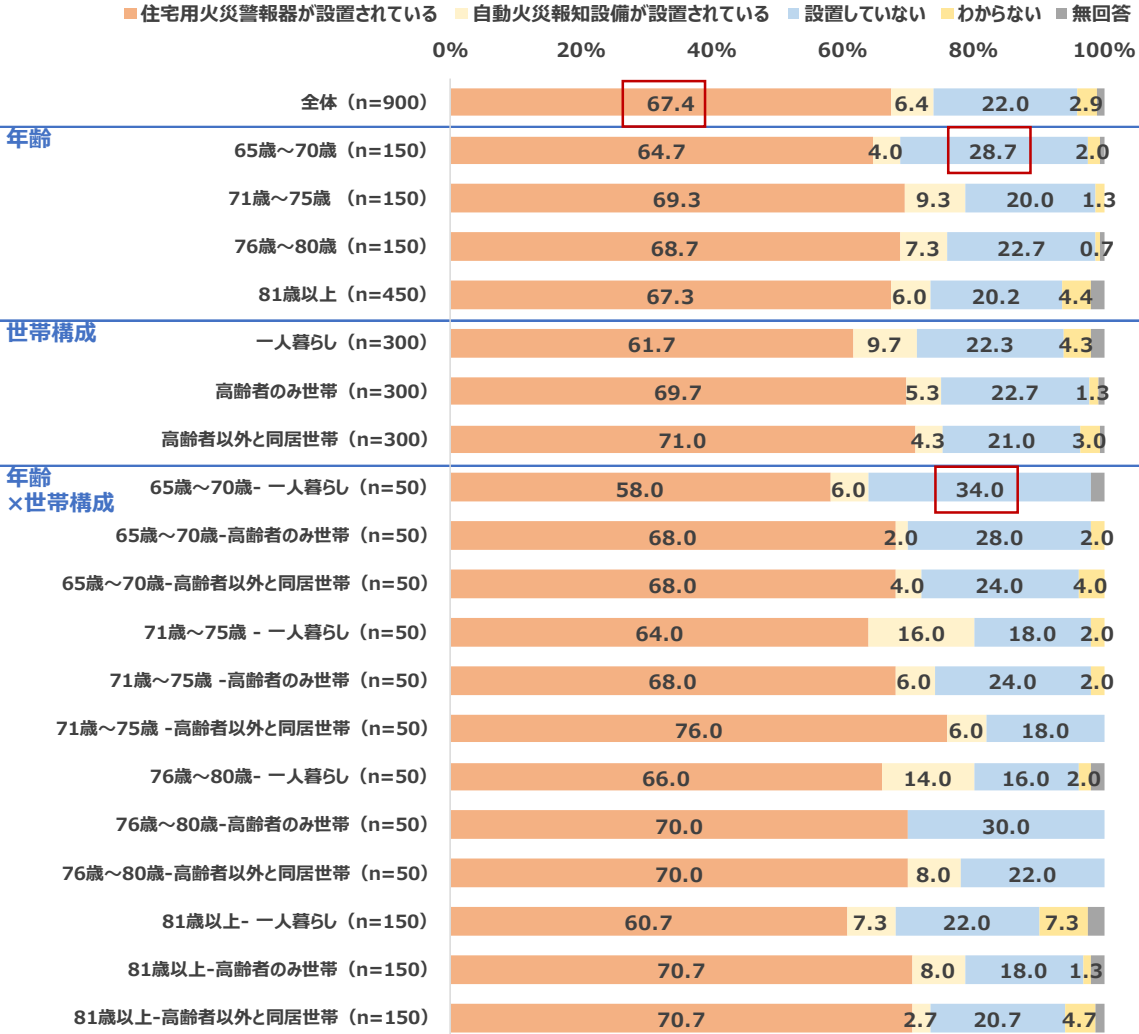
※n=30未満は参考値として記載

住宅用火災警報器設置状況

Point

- 「住宅用火災警報器が設置されている」と回答したのが全体の約7割。
- 65歳～70歳では火災警報機も自動火災報知設備も設置していない割合が高く、65歳～70歳- 一人暮らしでは34%にのぼる。

問51.ご自宅に住宅用火災警報器はありますか。以下の写真・説明文をご覧ください、お答えください。(○はひとつ)

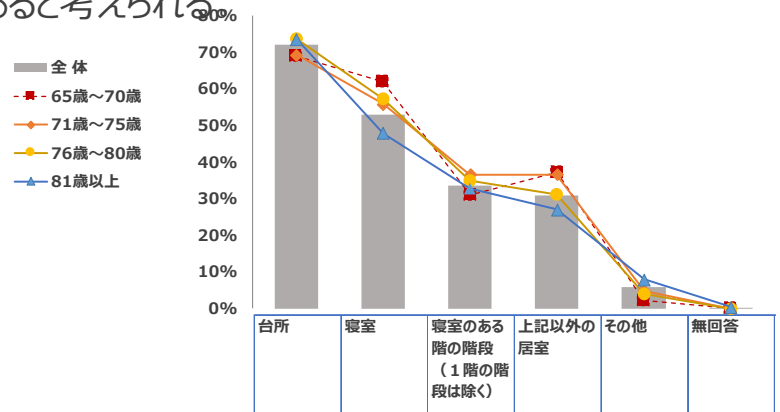


住宅用火災警報器の設置場所

Point

- 台所が72.2%で最多回答。以下、寝室（53.0%）、寝室のある階の階段（1階の階段は除く）（33.4%）がつづく。
- 一人暮らし世帯では「寝室のある階の階段」の割合が全体より10ポイント以上低い、これは一人暮らし世帯のマンション・アパートへの居住率の高さによるものと考えられる。

問52.住宅用火災警報器はどこに設置されていますか。（あてはまるものすべて○）



全体		607	72.2	53.0	33.4	31.0	5.8	0.2
年齢	65歳～70歳	97	69.1	61.9	30.9	37.1	2.1	0.0
	71歳～75歳	104	69.2	55.8	36.5	36.5	4.8	0.0
	76歳～80歳	103	73.8	57.3	35.0	31.1	3.9	0.0
	81歳以上	303	73.6	47.9	32.7	27.1	7.9	0.3
世帯構成	一人暮らし	185	69.7	53.0	19.5	34.6	7.6	0.5
	高齢者のみ世帯	209	77.0	51.2	38.3	28.2	3.3	0.0
	高齢者以外と同居世帯	213	69.5	54.9	40.8	30.5	6.6	0.0
年齢×世帯構成	65歳～70歳-一人暮らし	29	65.5	58.6	24.1	31.0	0.0	0.0
	65歳～70歳-高齢者のみ世帯	34	76.5	58.8	44.1	41.2	2.9	0.0
	65歳～70歳-高齢者以外と同居世帯	34	64.7	67.6	23.5	38.2	2.9	0.0
	71歳～75歳-一人暮らし	32	78.1	62.5	15.6	46.9	6.3	0.0
	71歳～75歳-高齢者のみ世帯	34	58.8	50.0	47.1	26.5	0.0	0.0
	71歳～75歳-高齢者以外と同居世帯	38	71.1	55.3	44.7	36.8	7.9	0.0
	76歳～80歳-一人暮らし	33	69.7	51.5	30.3	33.3	6.1	0.0
	76歳～80歳-高齢者のみ世帯	35	82.9	57.1	37.1	20.0	5.7	0.0
	76歳～80歳-高齢者以外と同居世帯	35	68.6	62.9	37.1	40.0	0.0	0.0
	81歳以上-一人暮らし	91	68.1	48.4	15.4	31.9	11.0	1.1
	81歳以上-高齢者のみ世帯	106	81.1	47.2	34.0	27.4	3.8	0.0
	81歳以上-高齢者以外と同居世帯	106	70.8	48.1	46.2	22.6	9.4	0.0

※全体結果で降順ソート
 ※n=30未満は参考値として記載

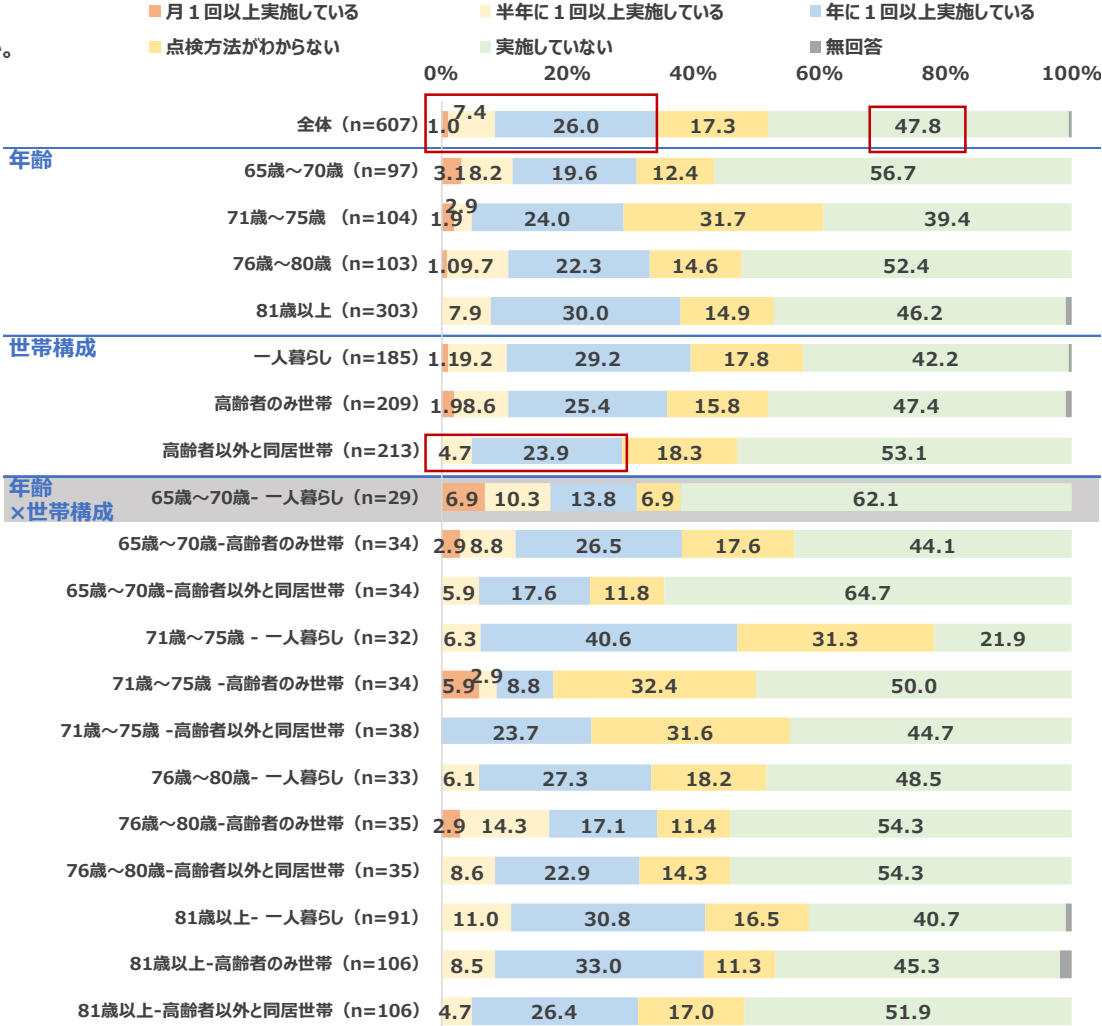
：全体傾向よりも10ポイント以上高い ：全体傾向よりも5ポイント以上高い ：全体傾向よりも10ポイント以上低い

住宅用火災警報器の点検頻度

Point

- 全体の5割弱は火災警報器の点検を実施していない。
- 頻度を問わず点検を実施している割合は全体の1/3程度だが、高齢者以外と同居世帯は点検を実施している割合が少ない。

問53.住宅用火災警報器の点検はどれくらいの頻度で実施していますか。
(〇はひとつ)



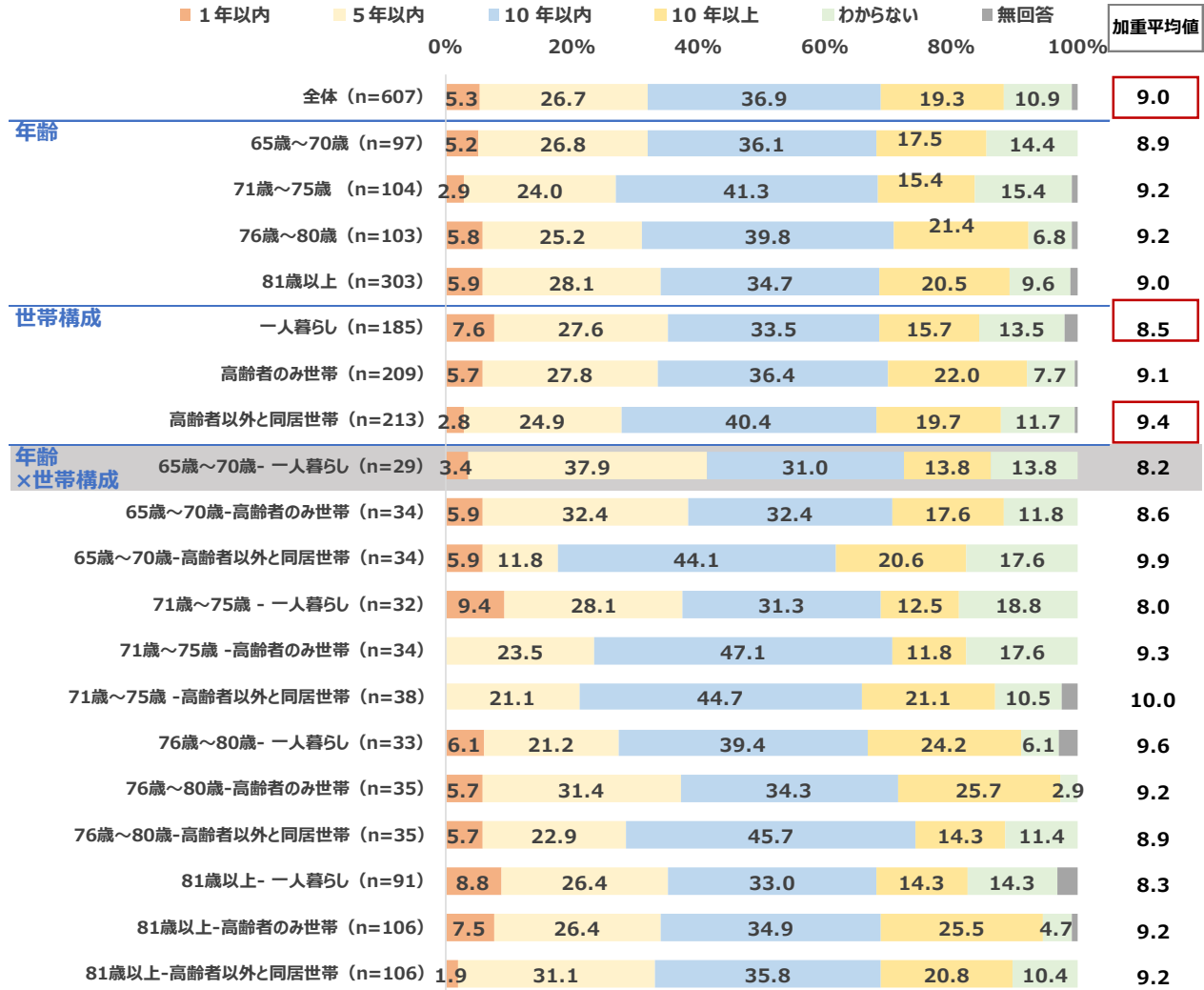
※n=30未満は参考値として記載

住宅用火災警報器設置からの経過年数

Point

- 住宅用火災警報器設置からの年数は、全体では平均9.0年。
- 世帯構成別で見ると、一人暮らし世帯は平均年数が8.5年と短く、高齢者以外と同居世帯は9.4年と長い。

問54.ご自宅の住宅用火災警報器について、設置してからどれくらい経っていますか。(〇はひとつ)



【加重平均値算出のための階級値設定】
 1年以内 : 1.0
 5年以内 : 5.0
 10年以内 : 10.0
 10年以上 : 15.0
 わからない : -

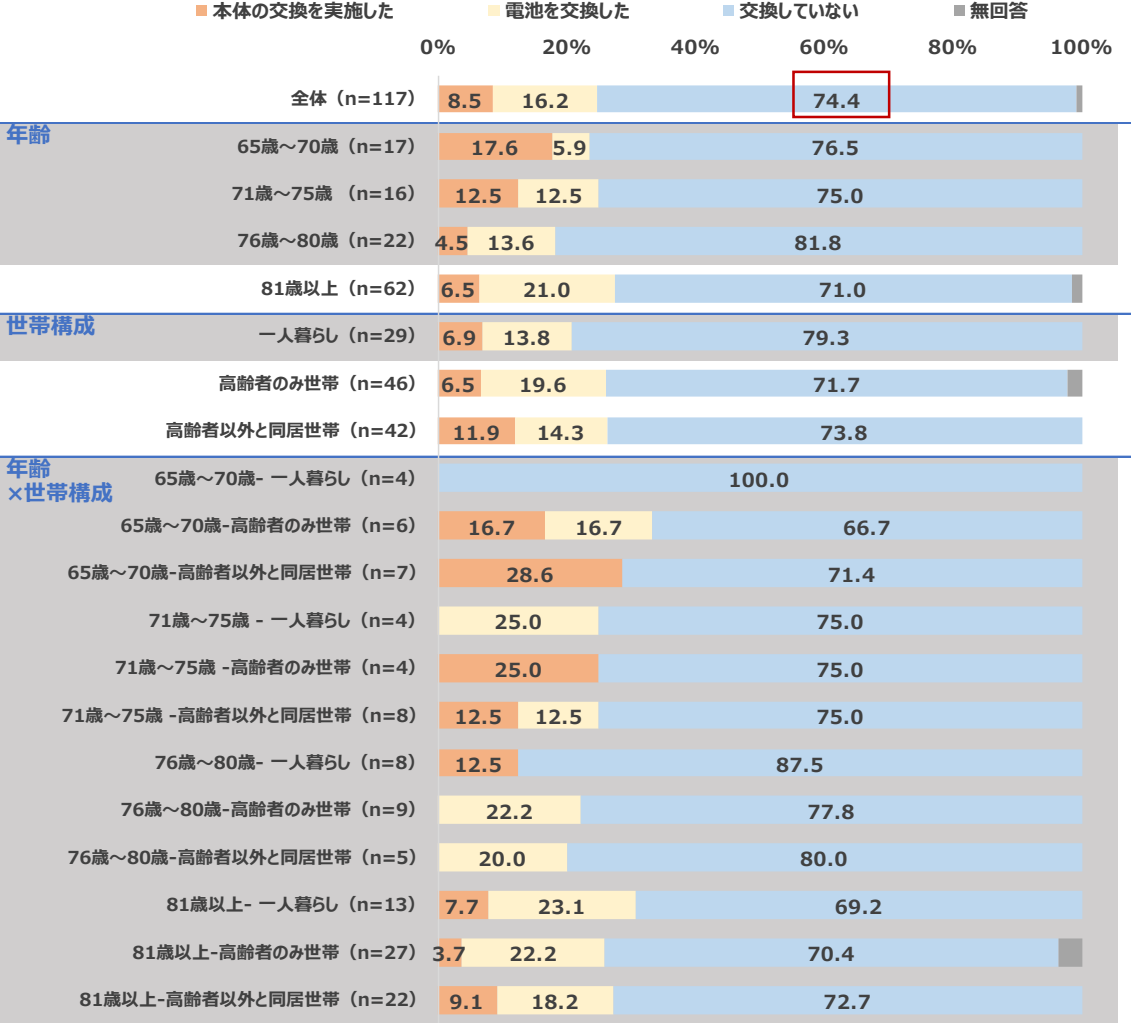
※n=30未満は参考値として記載

住宅用火災警報器の交換状況

Point

- 交換していない方が全体の74.4%と多数派であった。

問55.住宅用火災警報器の交換は実施していますか。(〇はひとつ)



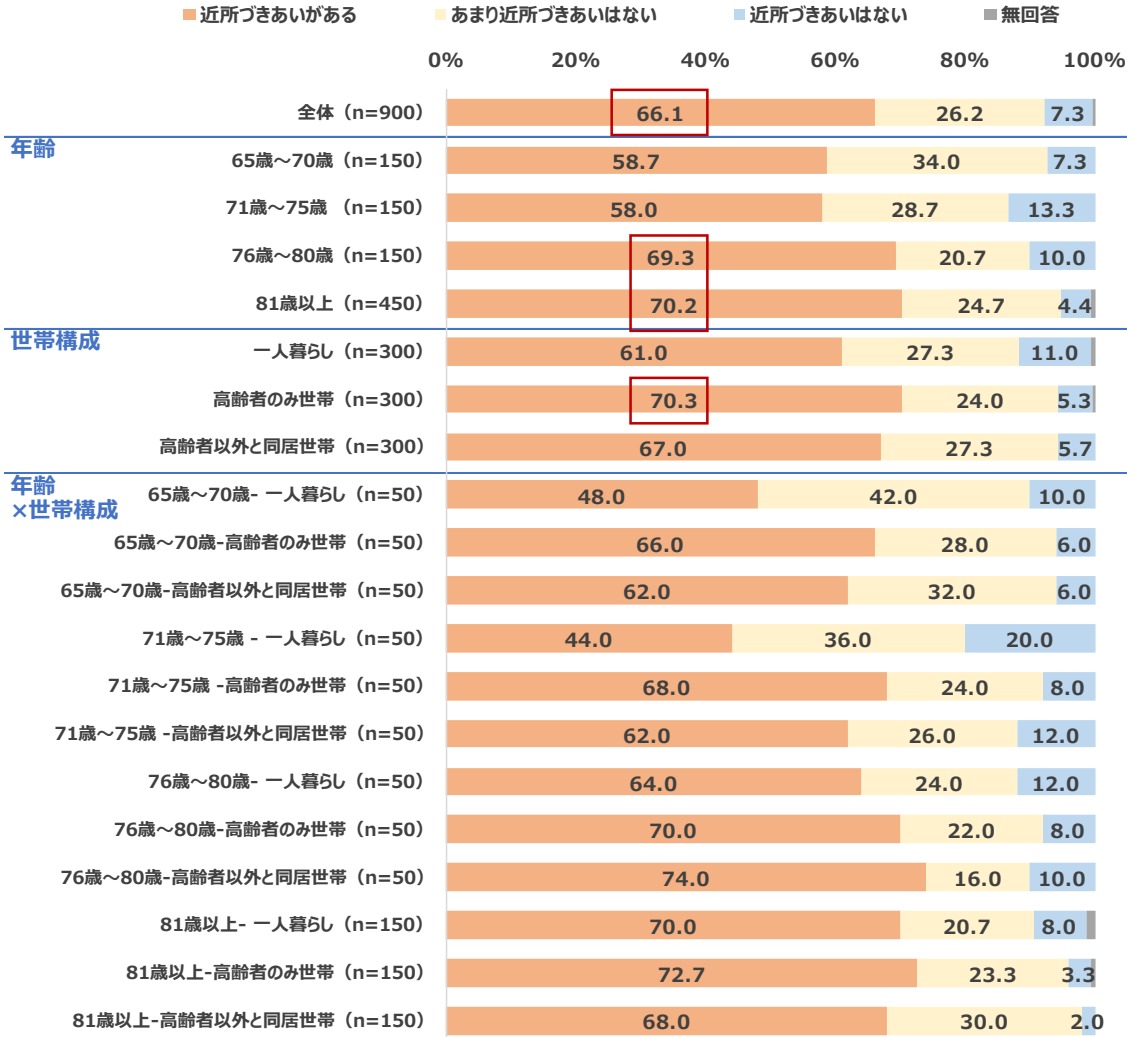
※n=30未満は参考値として記載

災害時に協力できるような日常的な近所づきあい

Point

- 「近所づきあいがある」が全体の66.1%と半数以上。
- 年齢別で見ると76歳以上、世帯別で見ると高齢者のみ世帯で近所づきあいがある割合が高かった。

問56. 災害時に協力できるような日常的な近所づきあいはありますか。(〇はひとつ)

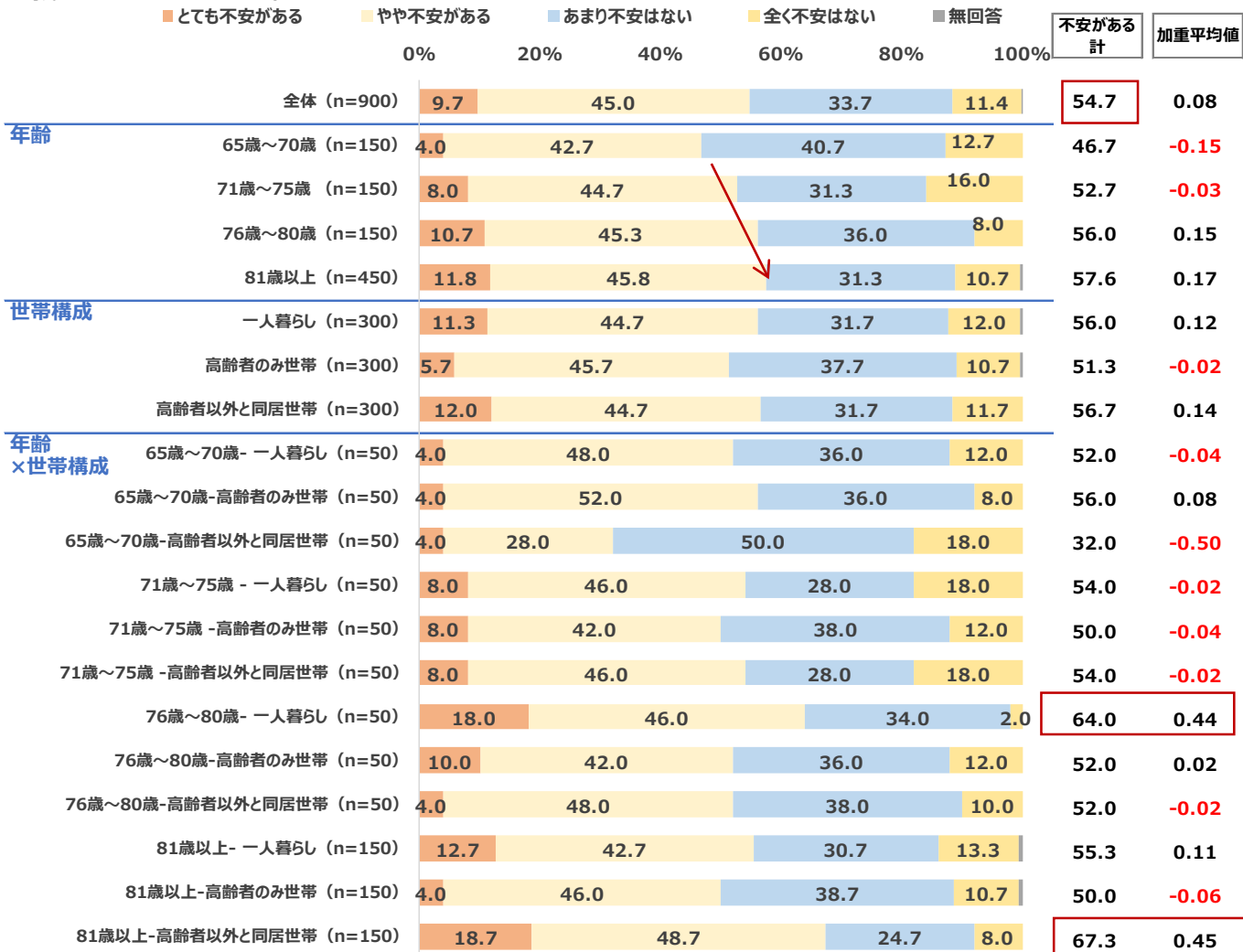


住宅火災から身を守る上での不安

Point

- 不安がある 計が54.7%で、全体で見ると不安がある方がやや多かった。
- 年齢が上がるにつれ、不安がある 計は増加する。
- 不安がある 計、加重平均値ともに最も高い（不安を感じている）のは81歳以上-高齢者以外と同居世帯、次に高いのは76歳～80歳-一人暮らし世帯であった。

問57.住宅火災から身を守る上で不安を感じていますか。
(〇はひとつ)



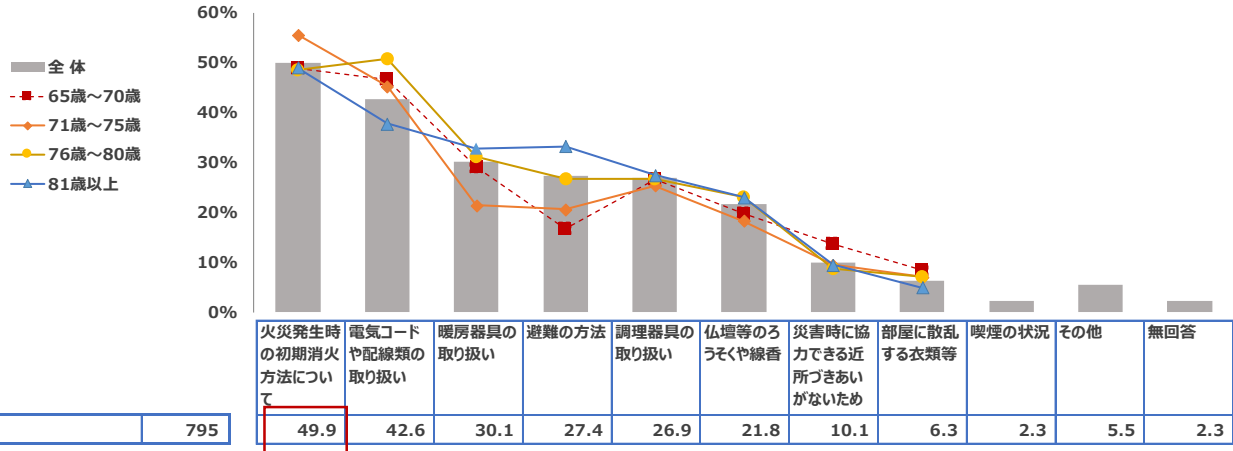
【加重平均値算出のための階級値設定】
 とて不安がある : 2
 やや不安がある : 1
 あまり不安はない : -1
 全く不安はない : -2

住宅火災から身を守る上で不安な事項

Point

- 住宅火災から身を守る上で不安な事項は、「火災発生時の初期消火方法について」が49.9%で最多回答。
- 「71歳～75歳 -高齢者のみ世帯」では「火災発生時の初期消火方法について」が79.5%と、特に高かった。

問58.住宅火災から身を守る上で不安な事項を以下から選びください。(あてはまるものすべて○)



世帯構成		全体	65歳～70歳	71歳～75歳	76歳～80歳	81歳以上
一人暮らし		263	42.2	36.5	24.0	30.0
高齢者のみ世帯		267	56.9	46.8	33.3	22.5
高齢者以外と同居世帯		265	50.6	44.5	32.8	29.8

年齢×世帯構成		全体	65歳～70歳	71歳～75歳	76歳～80歳	81歳以上
65歳～70歳-一人暮らし		44	47.7	50.0	25.0	20.5
65歳～70歳-高齢者のみ世帯		46	47.8	47.8	32.6	15.2
65歳～70歳-高齢者以外と同居世帯		41	51.2	41.5	29.3	14.6
71歳～75歳-一人暮らし		41	48.8	29.3	14.6	22.0
71歳～75歳-高齢者のみ世帯		44	79.5	52.3	18.2	22.7
71歳～75歳-高齢者以外と同居世帯		41	36.6	53.7	31.7	17.1
76歳～80歳-一人暮らし		49	42.9	51.0	30.6	24.5
76歳～80歳-高齢者のみ世帯		44	59.1	52.3	38.6	29.5
76歳～80歳-高齢者以外と同居世帯		45	44.4	48.9	24.4	26.7
81歳以上-一人暮らし		129	38.0	28.7	24.0	38.0
81歳以上-高齢者のみ世帯		133	51.9	42.9	36.8	22.6
81歳以上-高齢者以外と同居世帯		138	56.5	41.3	37.0	39.1

※全体結果で降順ソート

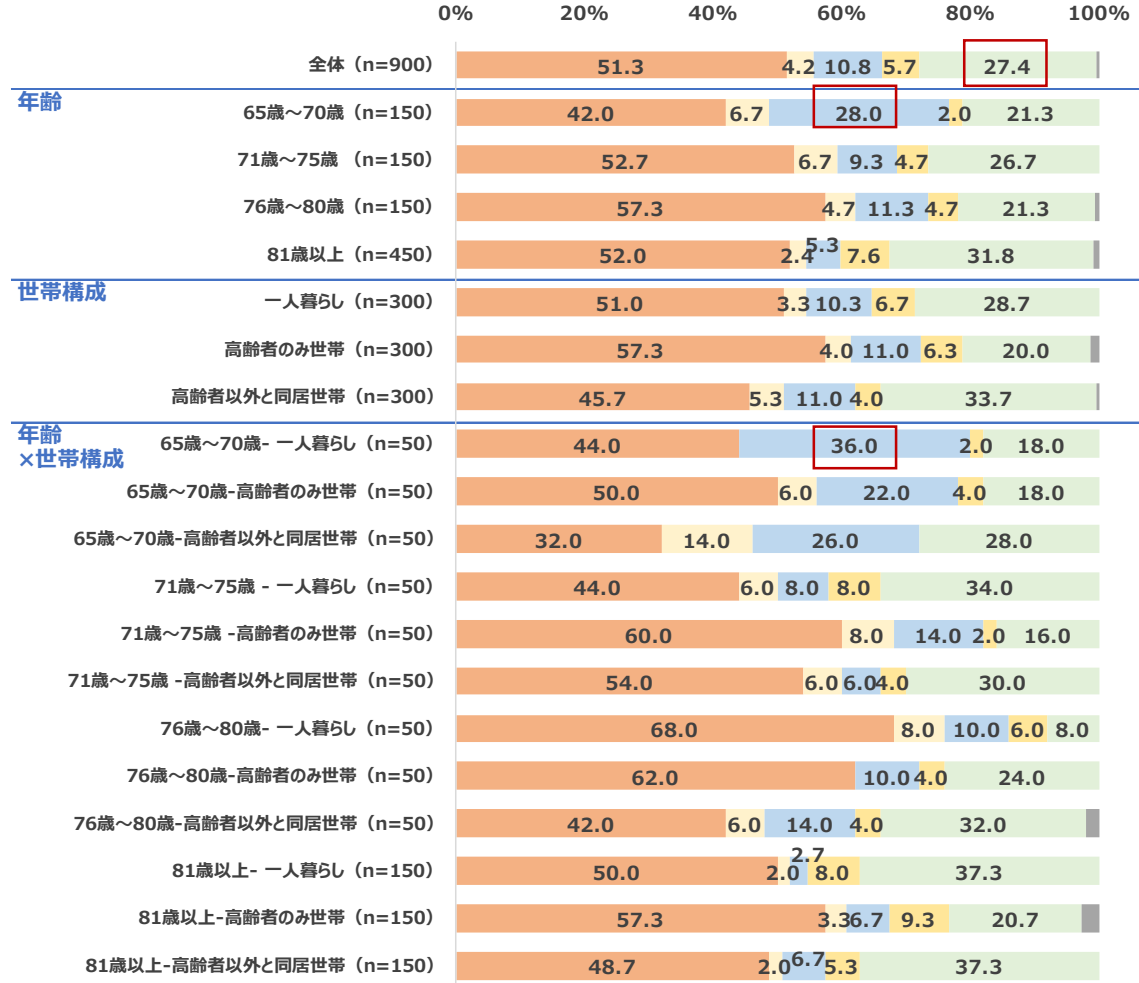
: 全体傾向よりも10ポイント以上高い
 : 全体傾向よりも5ポイント以上高い
 : 全体傾向よりも10ポイント以上低い

防火のアドバイスや診断を受けたい方法

Point

- 「自宅で実際に具体的な場所を見てもらいアドバイスを受けたい」が最も多く約半数。反面、27.4%の方が受けたくないと回答。
- 「ソフトウェア等を活用して自らチェックしたい」は65歳～70歳に高く、特に65歳～70歳- 一人暮らし世帯で高い。

問59.もしあなたが防火についてのアドバイスや危険箇所の診断などを受けるとしたら、どのような方法で受けたいですか。(〇はひとつ)

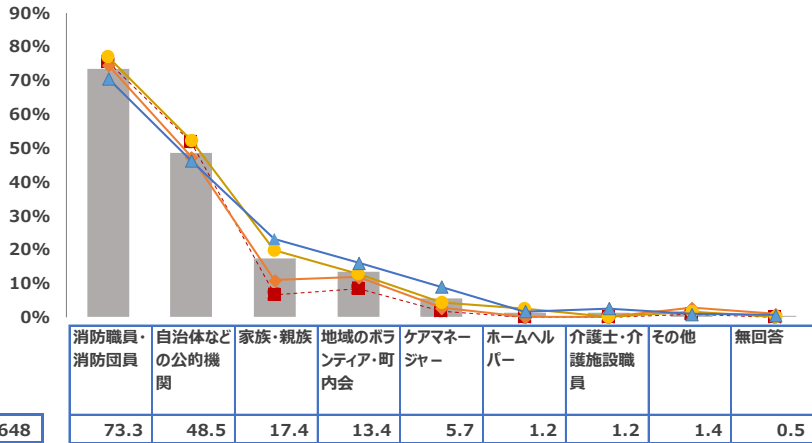


防災のアドバイスや診断を受けたい人

Point

- 消防職員・消防団員が73.3%で最多回答。自治体などの公的機関（48.5%）とともに、公的機関・専門的な知識を持った機関からアドバイスが求められていることがわかる。
- 65歳～70歳では家族・親族が6.8%と低いが、反対に81歳以上では23.1%と高い。

問60.上記のようなアドバイスや診断は、誰から受けたいと思いますか。(あてはまるものすべて○)



全体	648
----	-----

年齢	65歳～70歳	118
	71歳～75歳	110
	76歳～80歳	117
	81歳以上	303

世帯構成	一人暮らし	214
	高齢者のみ世帯	236
	高齢者以外と同居世帯	198

年齢×世帯構成	65歳～70歳-一人暮らし	41
	65歳～70歳-高齢者のみ世帯	41
	65歳～70歳-高齢者以外と同居世帯	36
	71歳～75歳-一人暮らし	33
	71歳～75歳-高齢者のみ世帯	42
	71歳～75歳-高齢者以外と同居世帯	35
	76歳～80歳-一人暮らし	46
	76歳～80歳-高齢者のみ世帯	38
	76歳～80歳-高齢者以外と同居世帯	33
	81歳以上-一人暮らし	94
	81歳以上-高齢者のみ世帯	115
	81歳以上-高齢者以外と同居世帯	94

75.4	51.7	6.8	8.5	1.7	0.0	0.0	0.8	0.0
74.5	47.3	10.9	11.8	2.7	0.0	0.0	2.7	0.9
76.9	52.1	19.7	12.8	4.3	2.6	0.0	1.7	0.0
70.6	46.2	23.1	16.2	8.9	1.7	2.6	1.0	0.7
71.0	48.6	12.6	16.4	7.0	1.9	1.4	2.8	0.5
80.9	49.6	14.8	13.1	3.8	0.8	0.8	0.4	0.4
66.7	47.0	25.8	10.6	6.6	1.0	1.5	1.0	0.5
70.7	56.1	2.4	9.8	2.4	0.0	0.0	2.4	0.0
82.9	36.6	12.2	7.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
72.2	63.9	5.6	8.3	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0
75.8	45.5	9.1	18.2	0.0	0.0	0.0	6.1	0.0
76.2	54.8	9.5	14.3	4.8	0.0	0.0	0.0	2.4
71.4	40.0	14.3	2.9	2.9	0.0	0.0	2.9	0.0
69.6	54.3	15.2	17.4	8.7	4.3	0.0	2.2	0.0
86.8	57.9	10.5	13.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
75.8	42.4	36.4	6.1	3.0	3.0	0.0	3.0	0.0
70.2	43.6	17.0	18.1	10.6	2.1	3.2	2.1	1.1
80.0	49.6	19.1	14.8	6.1	1.7	1.7	0.9	0.0
59.6	44.7	34.0	16.0	10.6	1.1	3.2	0.0	1.1

※全体結果で降順ソート

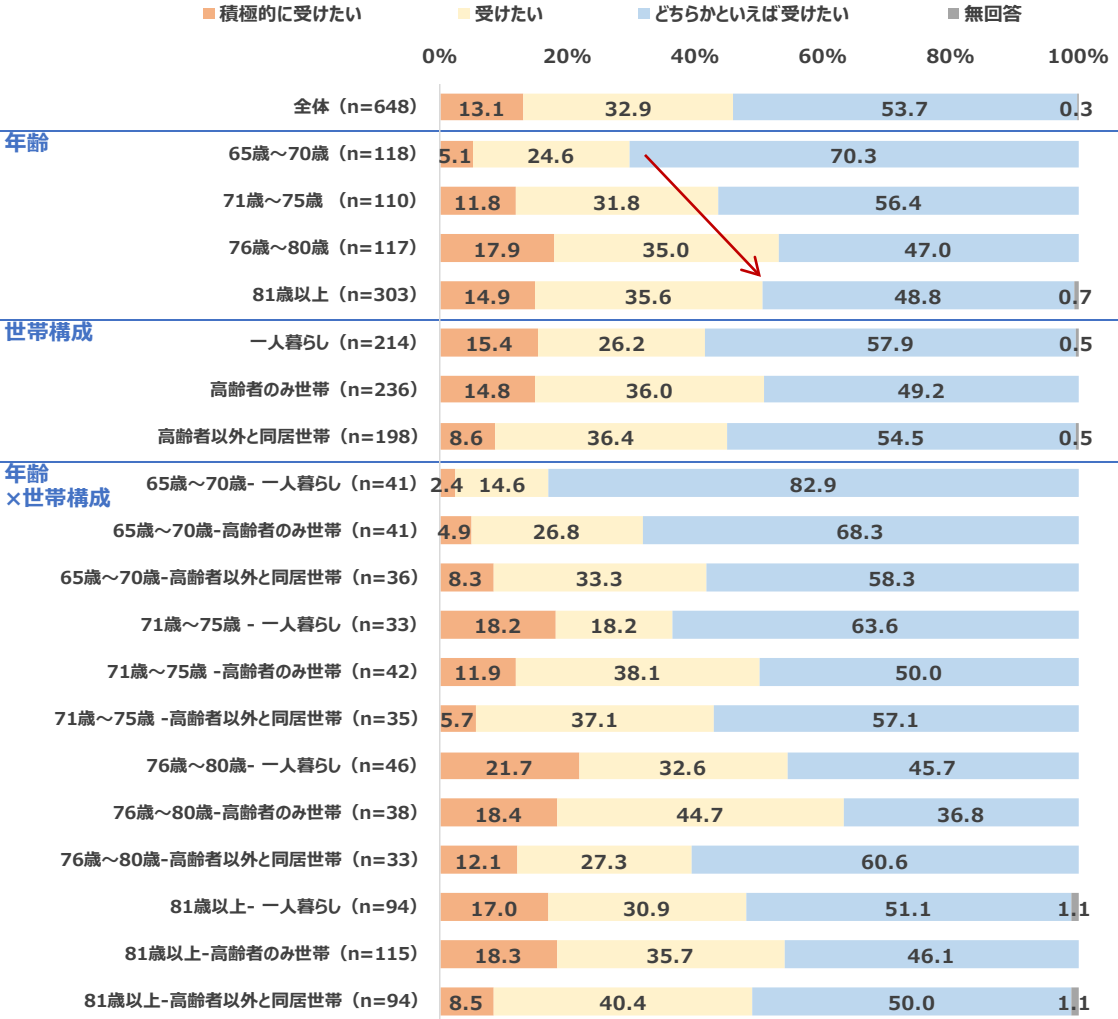
■ : 全体傾向よりも10ポイント以上高い ■ : 全体傾向よりも5ポイント以上高い ■ : 全体傾向よりも10ポイント以上低い

防災のアドバイスや診断の受診意向

Point

- どちらかといえば受けたいが53.7%。以下 受けたい（32.9%）、積極的に受けたい（13.1%）の順。
- 年齢が上がるにつれ、「どちらかといえば受けたい」が減少し、診断受診意向が上昇する傾向が見てとれる。

問61.上記のようなアドバイスや診断をどのくらい受けたいと思いますか。(〇はひとつ)

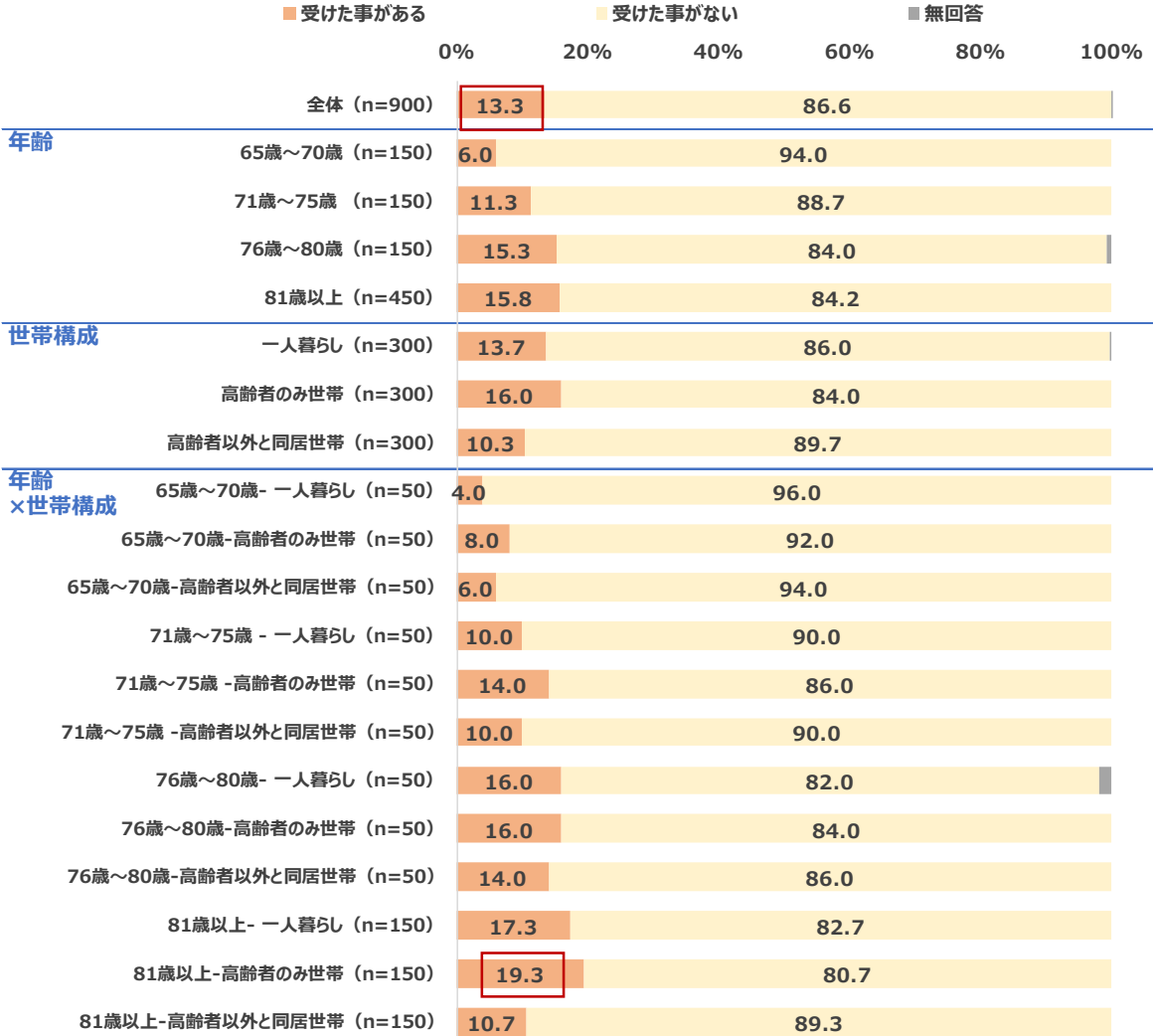


住宅防火診断を受けた経験

Point

- 受けた事がある方は全体の13.3%。
- 81歳以上-高齢者のみ世帯が受けた事がある割合ではもっとも高い。

問62.あなたは消防機関が行う住宅防火診断を受けたことがありますか。(〇はひとつ)

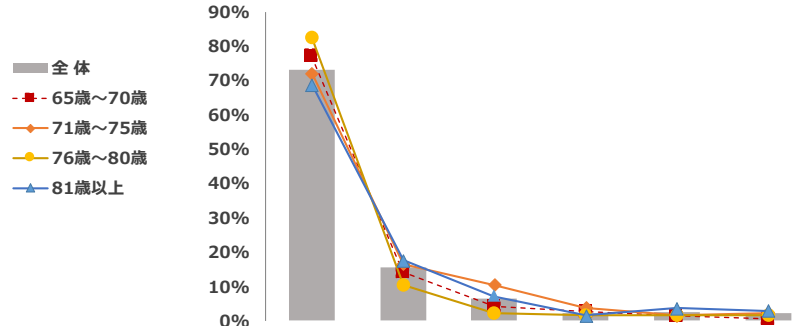


消防機関が行う住宅防火診断を受けた事がない理由

Point

- 受けた事がない理由としては、「実施しているの知らなかった」が全体の73.2%と大半を占めている。
- 中でも、65歳～70歳- 一人暮らし世帯では83.3%と特に高い。

問63.先ほどの質問で、消防機関が行う住宅防火診断を受けた事がないとお答えいただきましたが、受けた事がない理由はなぜですか。(あてはまるものすべて○)



		全体	779	実施しているの知らなかった	いつ行っているかわからない	外部の者を入れたくない	時間帯が合わない	その他	無回答
年齢	全体	779	73.2	15.7	6.4	2.2	2.6	2.2	
	65歳～70歳	141	77.3	14.2	4.3	2.8	1.4	0.7	
	71歳～75歳	133	72.2	16.5	10.5	3.8	1.5	2.3	
	76歳～80歳	126	82.5	10.3	2.4	1.6	1.6	1.6	
	81歳以上	379	68.9	17.7	7.1	1.6	3.7	2.9	
世帯構成	一人暮らし	258	69.4	15.9	7.0	3.9	5.0	2.3	
	高齢者のみ世帯	252	77.0	15.9	4.0	1.2	1.6	1.6	
	高齢者以外と同居世帯	269	73.2	15.2	8.2	1.5	1.1	2.6	
年齢×世帯構成	65歳～70歳- 一人暮らし	48	83.3	12.5	2.1	2.1	2.1	0.0	
	65歳～70歳-高齢者のみ世帯	46	71.7	19.6	4.3	2.2	2.2	0.0	
	65歳～70歳-高齢者以外と同居世帯	47	76.6	10.6	6.4	4.3	0.0	2.1	
	71歳～75歳 - 一人暮らし	45	66.7	15.6	20.0	6.7	4.4	2.2	
	71歳～75歳 -高齢者のみ世帯	43	83.7	14.0	0.0	2.3	0.0	0.0	
	71歳～75歳 -高齢者以外と同居世帯	45	66.7	20.0	11.1	2.2	0.0	4.4	
	76歳～80歳- 一人暮らし	41	75.6	9.8	2.4	4.9	4.9	2.4	
	76歳～80歳-高齢者のみ世帯	42	88.1	11.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	76歳～80歳-高齢者以外と同居世帯	43	83.7	9.3	4.7	0.0	0.0	2.3	
	81歳以上- 一人暮らし	124	62.9	19.4	5.6	3.2	6.5	3.2	
	81歳以上-高齢者のみ世帯	121	72.7	16.5	6.6	0.8	2.5	3.3	
	81歳以上-高齢者以外と同居世帯	134	70.9	17.2	9.0	0.7	2.2	2.2	

※全体結果で降順ソート

83.3 : 全体傾向よりも10ポイント以上高い
 20.0 : 全体傾向よりも5ポイント以上高い
 62.9 : 全体傾向よりも10ポイント以上低い

住宅火災予防について消防機関や自治体に求めること

Point

- 記載内容を以下に抜粋した。
- 定期的な見回りや点検、火災対策への広報といった要望が挙がった。

問64.その他、具体的に住宅火災予防について消防機関や自治体に求めることがあればご自由にご記入ください。（自由記載）

年齢	世帯構成	記載内容
65歳～70歳	一人暮らし	古い規格の製品などを適合品に交換する際の公的支援。
65歳～70歳	高齢者のみ世帯	エアゾール式簡易消火具を各家庭に置ける補助してほしい
65歳～70歳	高齢者以外と同居世帯	w e bで、疑似体験できるような、動画を作成してほしい。
65歳～70歳	高齢者以外と同居世帯	消火器の使用方法を、火災警報器設置確認の時に指導してほしい。
65歳～70歳	高齢者以外と同居世帯	古い時代に思われますが、“火の用心”の見回りが復活してほしい。
71歳～75歳	一人暮らし	地震により火災が発生した時の避難路、方法等。
71歳～75歳	高齢者のみ世帯	パンフレットを何枚でもいいから渡して下さい
71歳～75歳	高齢者のみ世帯	交番の方が定期的に巡回し、ポストに巡回報告書を入れてくれます。 自治体や消防署の方も巡回していただいて、広報活動注意を喚起していただきたいと希望しています。
71歳～75歳	高齢者のみ世帯	消防機関等で消火器や火災報知器の使用期限切れの対処方法や交換時期を指導してくれる機会があると嬉しいです。
71歳～75歳	高齢者のみ世帯	公民館等での講習
71歳～75歳	高齢者以外と同居世帯	1人暮らしや年寄りの家に声かけなどをしてほしい。
76歳～80歳	一人暮らし	具体的に個人住宅でどのような時は、どのようにとか？一般的に気をつけておくことなど。電気、ガスの普段の気をつけ方？
76歳～80歳	高齢者のみ世帯	家庭にあるもので簡単に消火できる方法を冊子等で教えてほしい。
76歳～80歳	高齢者のみ世帯	火災については、なんとなく安全だと思っていますが、コンセントや、タコ足配線などの安全性について、市報などで、ひんぱんに掲載してほしい。
76歳～80歳	高齢者以外と同居世帯	具体的に築〇年になったらこんな所を、電化製品は〇年位経たら、又2階から逃げる方法とか、避難ロープ購入等アドバイスがあったら嬉しいですな。 (パンフレット・チラシ・市報等で)
76歳～80歳	高齢者以外と同居世帯	器具の点検を無料でやってほしい。
81歳以上	一人暮らし	消防署職員が2名、約束の日時にやって来た事があるが、コンセントもない、トイレや、クローゼットの扉まで明けて、視察され驚いた。 余りプライバシーを、犯されたくはない。
81歳以上	高齢者のみ世帯	ガスの点検が年一回必ずあるように、5年～10年に一度でも公共機関で点検、指導をしていただけたらと思う
81歳以上	高齢者のみ世帯	高齢者の居住する、世帯には、定期的訪問して、対応してほしい。
81歳以上	高齢者のみ世帯	消防機関や自治体が住宅防火診断について積極的にPRしてほしい。
81歳以上	高齢者のみ世帯	戸別訪問を実施していただきたい。地域別日時予定表とか事前申込制でお願いしたい。
81歳以上	高齢者のみ世帯	消防機関や自治体は、もっと積極的に住宅火災予防について活動してほしいし、私たち高齢者にも、その活動振りをPRしてほしい。
81歳以上	高齢者以外と同居世帯	外宣車はゆっくりしたスピードで行なってほしい（大事な部分が通過後に多い）各個所に駐車した状況で宣伝してほしい。
81歳以上	高齢者以外と同居世帯	年寄でも分かる日本語で報告して頂きたい。（カタカナを使って、分かりにくい表現を行う人が多い）

まとめ

まとめ－火災のリスクがある事項について

		全体	年齢別	世帯構成別
調理用の加熱器具	使用状況	<ul style="list-style-type: none"> 毎日使用者が9割超 燃料はガスが約7割、電気が約3割 平均使用年数は8.8年 ガスこんろ使用者のうち安全装置がついている割合は8割超 	<ul style="list-style-type: none"> 76～80歳は調理用加熱器具の平均使用年数が全体より0.5年長く、10年以上使用率も3.5ポイント程度高い 	<ul style="list-style-type: none"> 一人暮らし世帯は、ガスこんろの使用率が5ポイント以上高く、かつ安全装置がついていない割合が全体より5ポイント以上高い 高齢者以外と同居世帯は、電気の使用率が全体より5ポイント以上高い 高齢者のみ世帯は、安全装置のついたガスこんろの使用率が全体より5ポイント以上高い
	危険を感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> 「危険を感じたことがある」割合は約16% 「火元から離れて油等を加熱しすぎた」が10.9%と最多 	<ul style="list-style-type: none"> 年齢が上がるにつれ「危険を感じたことはない」の割合が上昇する 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者以外と同居世帯は「危険を感じたことがある」割合が全体より5ポイント以上高い
暖房器具	使用状況	<ul style="list-style-type: none"> 毎日使用者が75.2% 燃料は石油が47.4%、電気が37.1% 最も使用している暖房器具の平均使用年数は8.9年 	<ul style="list-style-type: none"> 65歳～70歳は石油の割合が全体より3.4ポイント程度高い 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者以外と同居世帯は石油の使用率が全体より10ポイント以上高い 一人暮らし世帯は、石油の割合が全体より約15ポイント少なく、半数以上が電気燃料の暖房器具を使用
	危険を感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> 「危険を感じたことがある」割合は約9% 「消し忘れて外出した」が6.8%で最多 	<ul style="list-style-type: none"> 65歳～70歳は「消し忘れて外出した」割合が約5ポイント高い 	<ul style="list-style-type: none"> 世帯構成別では大きな差異はみられなかった
喫煙	使用状況	<ul style="list-style-type: none"> 本人もしくは同居家族が喫煙者の割合は全体の1割程度 喫煙場所はその他を除くと「居間」が最多 	<ul style="list-style-type: none"> 年齢が上がるごとに喫煙率（本人もしくは同居家族）は減少 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者以外と同居世帯が最も喫煙率（本人もしくは同居家族）が高い
	危険を感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> 「危険を感じたことがある」割合は約23% 「消したつもりが完全に消火していなかった」と「絨毯等に火種が落下した」がそれぞれ10%程度 	<ul style="list-style-type: none"> ※サンプル数僅少のため記載なし 	<ul style="list-style-type: none"> ※サンプル数僅少のため記載なし
灯明	使用状況	<ul style="list-style-type: none"> 灯明を定期的（毎日～週1日）に使用している方は全体の約半数 	<ul style="list-style-type: none"> 年齢が高いほど、灯明の平均使用日数、定期的な使用率とも高くなる傾向 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者のみ世帯は灯明を使っていない割合が全体より5ポイント以上高く、毎日使用者も5ポイント以上少ない
	危険を感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> 「危険を感じたことがある」割合は約10% 具体的な危険については、「ろうそくや線香が倒れた」が最も多く約10% 	<ul style="list-style-type: none"> 71歳～75歳は「危険を感じたことがない」が93.5%と全体より5ポイント以上高い 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者以外と同居世帯は具体的な危険として、「ろうそくや線香が倒れた」が全体より約5ポイント高い
コンセント	<ul style="list-style-type: none"> 「清掃していない」が全体の約半数 コンセントの危険な使用状況としては、「たこ足配線となっている箇所がある」が全体の半数と最も多い 	<ul style="list-style-type: none"> 65～75歳は「使用しないときはコンセントから抜いている」の割合が低いが、76歳以上は高い 	<ul style="list-style-type: none"> 一人暮らし世帯は清掃をしている割合が全体と比べて5ポイント近く高い 	
電化製品	<ul style="list-style-type: none"> 電化製品を故障するまで使用している割合は全体の約80% 	<ul style="list-style-type: none"> 「細かな操作が難しくなった」「操作方法を忘れる事がよくある」「電源の消し忘れが多くなった」は年齢が上がるにつれ増加していき、特に76～80歳で大きく増加する 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者以外と同居世帯は、電化製品を故障するまで使用している割合が全体より5ポイント以上高い 	
居住の環境	<ul style="list-style-type: none"> 「生活用品が多い」が全体の61.3%と多い 	<ul style="list-style-type: none"> 「生活用品が多い」は年齢が上がるにつれ、あてはまる方が減少していく 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者以外と同居世帯は「生活用品が多い」「洗濯物や衣類が収納されていない」ともに全体より7ポイント以上高い 	

- 様々な火災のリスクに対しては、**全体的に「危険を感じたことがない」が多い**。火災の危険を感じた割合は、喫煙、調理用の加熱器具、灯明、暖房器具の順で多く、最も多い喫煙でも23%（本人もしくは同居家族が喫煙者ベース）であり、**火災に直結するような火の不始末はあまり経験していないといえる**。
- 年齢別に特徴的な火災リスクをみると、**前期高齢者は暖房器具、喫煙、コンセントの清掃、生活用品の多さ、後期高齢者は灯明、身体の衰えによる電化製品の操作ミスや消し忘れが高く、危険性が高いといえる**。
- 世帯構成別でみると、**一人暮らし世帯は、調理用の加熱器具（安全装置のついていないガスこんろを使用している割合が高い）、高齢者以外と同居世帯は、喫煙、電化製品の長期使用、生活用品の多さが主なリスクといえる**。高齢者のみ世帯は、顕著なリスク項目はみられなかった。

まとめ－火災予防・防火について

	全体	年齢別	世帯構成別
防災品	・「防災品を使用しておらず、今後も購入の予定は無い」が全体の約1/3	・76歳～80歳が防災品現使用・今後使用意向ともに最も高い	・世帯別では大きな差異は見られなかった
住まいの状況	・住居の形態は「戸建て」が全体の77.7% ・築年数は「31年以上」が最も多く全体の約6割 ・生活場所の状況として「居間と寝室が別」が85%	・年齢が上がるにつれ、「居間と寝室が一緒」の割合が高くなる傾向がある	・一人暮らし世帯では「戸建て」は全体より20ポイント程度少なく「マンション・アパート」居住者が4割超 ・高齢者のみ世帯では「居間と寝室が別」が全体より7ポイント程度高い
火災発生時避難を行う自信	・自信がある 計が61.1%と自信がある方が多い。 ・自信がある理由としては「二方向以上の避難経路があるため」と「健康に自信があるため」がともに約半数 ・自信がない理由としては「健康に自信がないため」が46.3%で最多	・年齢が上がるにつれ、自信がある 計は減少していく ・自信がある理由として、71歳～75歳では「健康に自信があるため」が63.2%と全体より10ポイント以上高い ・自信がない理由として、81歳以上は「健康に自信がないため」が63.4%と全体より10ポイント以上高い	・高齢者以外と同居世帯が最も自信がある 計が少なく、全体より7ポイント程度少ない ・自信がある理由として、高齢者以外と同居世帯では「常に家族等の助けがあるため」が全体より25ポイント以上高い ・自信がない理由として、高齢者のみ世帯では「火災発生時の対応を決めていないため」が40.4%と全体より10ポイント以上高い
消火器具	・（例示したような）消火器具を設置している方は5割強 ・消火器具の使用方法について、わからない方は8.8%と少ない ・自宅で最も古い消火器具の平均経過年数は8.0年	・65歳～75歳は消火器具を設置していない割合が半数以上にのぼる	・高齢者のみ世帯は、半数が住宅用消火器具を設置している
警報器・報知設備	・約7割は住宅用火災警報器を設置しており、設置場所は台所が72.2%で最も多い ・住宅用火災警報器設置からの年数は、全体では平均9.0年	・65歳～70歳は住宅用火災警報機も自動火災報知設備のどちらも設置していない方が28.7%と全体より5ポイント以上高い	・一人暮らし世帯は住宅用火災警報器を設置している割合が61.7%と全体より5ポイント以上少ない ・一人暮らし世帯は火災警報器設置からの平均年数が8.5年と平均より0.5年短く、高齢者以外と同居世帯は9.4年と0.4年長い
防火意識	・災害時に協力できるような日常的な近所づきあいについて、「近所づきあいがある」が66.1% ・住宅火災から身を守る上での不安については、不安がある 計が54.7% ・住宅火災から身を守る上で不安な事項は、「火災発生時の初期消火方法について」が49.9%で最も多い	・76歳以上は近所づきあいがある割合が高い ・年齢が上がるにつれ、不安がある 計は増加していく	・高齢者のみ世帯は、近所づきあいがある割合が全体より4ポイント程度高い
防火対策	・住宅防火診断を受けた事がある方は13.3% ・住宅防火診断を受けた事がない理由は、「実施しているのを知らなかった」が73.2%と大半を占める ・防災のアドバイスを受けたい相手は消防職員・団員が73.3%で最多	・年齢が上がるにつれ、住宅防火診断を受けた事がある割合は増加する ・防災のアドバイスを受けたい相手は、65歳～70歳では家族・親族が6.8%と全体より10ポイント以上低いが、反対に81歳以上では23.1%と全体より5ポイント以上高い	・防災のアドバイスを受けたい相手は、高齢者のみ世帯では消防職員・団員が全体より5ポイント以上高いが、高齢者以外と同居世帯は家族・親族が全体より5ポイント以上高い

- ・ **消火器具**については5割強が設置しており、**火災警報器**については約7割が設置している。前期高齢者については、消火器・警報器・火災報知設備の設置率が低い。
- ・ 火災発生時避難を行う自信については**6割以上**があると回答。自信がある/ないともに、理由としては**自身の健康状態によるものが大きい**。年齢が上がり健康への自信がなくなるにつれ、自信がある割合は減少していく。
- ・ **住宅防火診断**については、**受けた事がある割合は13.3%に留まったが、アドバイスを受けたい意向は低くないことから、受けた事がない理由は認知度の低さによるものであることが考えられる。**